開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001002
開設科目名	理科実験指導法II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	千々和　一豊			区分	

授業の概要

中等理科教育-生物分野および地学分野の内容に沿って、観察・実習・実験をまじえながら、同分野の指導法を講義する。

授業の一般目標

中等理科教育-生物分野および地学分野の内容について、背景となる理論、指導目標などを理解し、実践的な教授・指導法を修得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1.中等理科の目標を説明できる。

2.中等理科教育-生物分野と地学分野の学習内容とねらいを正しく説明できる。

3.学習内容である各自然現象の背景を正しく説明できる。

4.理科学習教材の正しい使い方・利用の仕方を説明できる。

思考・判断の観点：1.学習内容の相互関連性を把握し、指摘できる。

2.学習教材の有効的な利用法を創造できる。

関心・意欲の観点：1.学習教材の重要性を理解し、より良い教材の開発に関心と意欲をもてる。

2.「自然を愛する心情を育む」ための教育を常に意識できる。

態度の観点：1.意欲を持って講義に参加できる。

2.自然観察を積極的に取り入れることができる。

技能・表現の観点：1.学習教材・教具の正しい使い方が行える。

2.自然観察の指導法を身につける。

3.自然物（試料、標本）の正しい取扱い方が行える。

成績評価方法(総合)

従業時に行う実習レポート、宿題として課す課題レポート、出席態度等を総合的に判断して評価する。

教科書

参考書

中校学習指導要領解説理科編／文部科学省：大日本図書, 2008

小学校学習指導要領解説理科編／文部科学省：大日本図書, 2008

メッセージ

平成20年9月発行の中校学習指導要領解説理科編（文部科学省）と平成20年8月発行の小学校学習指導要領解説理科編（文部科学省）を事前に購入し、初日の講義に持参すること。

連絡先

chijiwa@yamaguchi-u.ac.jp　千々和　研究室：教育学部4階

saiki@yamaguchi-u.ac.jp　　佐伯　研究室：教育学部3階

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001032
開設科目名	中等公民教育論Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	外山　英昭			区分	

授業の概要

地球環境問題を取り上げ、公民教育の課題を、生徒の世界認識・現代認識とかかわらせて探る。

授業の一般目標

1. 地球環境問題について意見を持ち、討論することができる。
2. 独自な立場から、地球環境問題を取り上げ、日本および世界の環境問題に関する社会科・公民教育の課題を提案できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：地球環境問題について意見を持ち、討論することができる。

思考・判断の観点：独自な立場から、地球環境問題を取り上げ、高校公民科・中学校社会科公民分野の授業を想定してレポートを作成する。

技能・表現の観点：レポートを的確に発表する。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度＝20～40%

受講者の発表（プレゼンテーション）や授業内での制作作業（作品）＝40～60%

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社
会科教育,

オフィスアワー

木 56

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001033
開設科目名	情報科教育法Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	小川　勤			区分	

授業の概要

情報科教育法Ⅱは、将来、高等学校教科「情報」免許を取得したい人が、各課題の選択・検討及び教材化の観点や工夫、問題解決技法などの学習を通して、教科「情報」の学習指導計画・学習指導案を立案できる能力を身につけてもらうための授業です。情報科教育法Ⅰの概論学習を受けて、情報科教育法Ⅱでは授業実践例の分析や問題把握、模擬授業の実施を通して、情報教育の実践的な指導力を養うことをねらいとします。

授業の一般目標

教科「情報」の学習内容に対して、学習指導計画がたてられ、学習指導案を作成することができるようになること。また、学習目標を達成するための学習教材を開発することできること。さらに、ﾏｲｸﾛ・ﾃｰﾁﾝｸﾞ（模擬授業：以下MT）の実践を通して教授法の基礎と改善を図る。

授業の到達目標

知識・理解の観点：教科「情報」の学習指導案を立案するための概念・知識を身につける

思考・判断の観点：教科「情報」の学習指導計画・指導案を立案するために思考力・判断力を身
につける

関心・意欲の観点：教科「情報」の学習内容・指導方法について関心を持ち、意欲を持って取り
組むことができる

態度の観点：授業に対して積極的な態度でのぞむことができる

技能・表現の観点：ﾏｲｸﾛ・ﾃｰﾁﾝｸﾞ（模擬授業）の実践を通して教授に必要な諸技能や表現力を身につける

成績評価方法(総合)

マイクロ・ティーチング（模擬授業：以下MT）のための指導案の作成、MT実施、MTの自己評価・相互評価の結果を中心に成績評価を行なう。
定期テストは実施しない。
欠格事項として、授業は3回まで欠席可。4回以上欠席した者は単位を認定しない。したがって、全体の4／5（12回）以上の出席を受講生に求めます。

教科書

参考書

メッセージ

基本的に、受講生が主体的に作業・発表しなければならない授業です。授業内では、個人やグループ単位で作業をして、発表(授業実施含む)を行ってもらいます。また、授業の連絡や資料の提供は、研究室ＨＰ内の授業関連のサイトの利用を考えています。
毎回の授業の終了時に、コメントシートを提出してもらいます。

連絡先

連絡先：ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp（E-mail）
研究室ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ogawa-t/

オフィスアワー

金曜日 13:00～15:00 共通教育事務棟　3階　小川研究室

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001042
開設科目名	音楽科教育法Ⅳ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	高橋　雅子			区分	

授業の概要

音楽科教育の理論を広く学び、教育実習に向けての実践力を養う。

授業の一般目標

音楽科教育の基礎理論を広く学び、教育実習に向けて実践力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：音楽科教育の領域や分野について理解する。

思考・判断の観点：授業をどのように組み立てるか、子どもの発達段階や授業の目標に合わせて考える。

関心・意欲の観点：実践力を高めるために、意欲的に講義・演習に取り組む。

態度の観点：遅刻・欠席厳禁。

技能・表現の観点：技能を磨いてその場に応じた適切な表現を行い、実技指導における総合的な技能を高める。

成績評価方法(総合)

出席、授業態度、レポート、模擬授業と資料

教科書

参考書

メッセージ

自分を良く知り、知識・技能共に磨きましょう。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001044
開設科目名	教育調査法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	田中　理絵			区分	

授業の概要

基礎的な教育調査研究法の習得を目的として、調査研究の社会的意義、調査方法、分析手法を中心に講義・演習を実施する。まず、(教育)調査法の基礎理論－観察法・質問紙法・面接法・実験法などの意義と技法－について学習する。それを踏まえ、さまざまな調査法に基づく論文を講読する。その後、実際の調査データをもとに分析を行い、調査の企画・計画から発表までの工程を理解する。

授業の一般目標

(1)適切な問題関心に対し、適切な調査方法を選択できるようになる。

(2)適切な調査手順を一人で企図・実施できるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 多様な調査方法について、その長所・短所を含めてそれぞれ理解できる。

思考・判断の観点：1. 問題関心に適した調査方法を選択できる。

関心・意欲の観点：1. 疑問に感じたことを実際に自分で調査しようと企図できる。

態度の観点：1. 自主的かつ倫理的に調査を実施できる。

成績評価方法(総合)

(1)平素の受講態度、(2)調査結果の分析報告レポートで総合的に評価。

教科書

創造の方法学／高根正昭：講談社現代新書, 1979

教育調査法／松原治郎：有斐閣双書, 1985

参考書

メッセージ

人間教育研究法Ｉの既修者が望ましい。

連絡先

教育社会学研究室、ta-na@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 10:20-12:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001059
開設科目名	保健体育科教育学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	海野　勇三			区分	

授業の概要

戦後体育実践史について，各時期の典型的実践を集団的に検討することを通じて，その展開と特徴を理解する。また，今日の教育改革の動向の中で保健体育科がどのように変えられようとしているのか，学校体育全体（体育授業ー体育行事ー部活）のあるべき姿について，グループ研究ー報告・討論ーグループ研究ーレポート作成という展開のもとに理解を深める。これらを通じて「よい体育の授業とは」の問いに関する自分なりのイメージを膨らませていく。

授業の一般目標

よい体育の授業とは何か？をテーマに学習を深めていく。体育の授業が、時々の政治・経済・社会状況の影響を受けながら展開され、変遷してきたことを理解するとともに、学校体育の領域と作用についてそれぞれの区別と関連を理解する。

グループによる研究の進め方・レポートのまとめ方・発表の仕方を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：戦後の体育実践の展開過程に関し、その特徴を説明することができる。また学校体育の領域と作用について、その区別と関連を説明できる。

思考・判断の観点：個人またはグループで、課題意識に沿った資料収集と考察を行い、結果を論理的に述べることができる。

態度の観点：グループでの共同作業において、積極的に自己の分担テーマに取り組むと共に、討論や交流会の場で、疑問点や自己の意見を率直に表明できる。

技能・表現の観点：テーマに沿ったレポートや発表をわかりやすく、まとめて報告することができる。

成績評価方法(総合)

定期試験をはじめ、授業内レポート・授業外レポートを中心に、出席状況、授業への主体的な参加度等をもとにして総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

後半はグループ研究を中心にすすめます．そこでは何より自分史を振り返り，受講生同士で交流し合うことを大切にしていきたいと思っています．

連絡先

yunno@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001076
開設科目名	教科教育法音楽			単位	2 単位
対象学生	教科(数, 理, 保, 技), 幼, 障, 国理			学年	～
担当教員	高橋　雅子			区分	

授業の概要

本授業では、小学校における音楽科の実践に必要な内容と方法について体系的に講ずる。

短時間ではあるが、全員が音楽の模擬授業を行い、人の前に立って指導することを経験する。

授業の一般目標

小学校における音楽科の実践に必要な理論と実践力を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:学習指導要領(音楽編) から、音楽の領域(表現及び鑑賞) の内容について理解する。

思考・判断の観点:自ら模擬授業を構成し、実践することにより、授業を受ける側の反応を見ながら臨機応変に対応することを経験する。

関心・意欲の観点:資料の準備や授業の流れを構築するなど、意欲的に模擬授業を行う。

態度の観点:遅刻・私語禁止。

技能・表現の観点:模擬授業において、分かりやすく的確に指示・説明ができる。

正しい音程で歌唱したり、リコーダーを演奏したりできる。

成績評価方法(総合)

レポート、模擬授業, 授業への取り組み、出

教科書

小学校音楽科教育法:教育芸術社, 2008

参考書

メッセージ

音楽に意欲的に取り組む学校は、非常に落ち着いている。教員になったとき、自信を持って子どもとともに音楽を楽しめるように願っています。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001077
開設科目名	社会科教育学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	外山　英昭			区分	

授業の概要

生徒が主体的に学ぶ社会科授業実践に触れたのちに、生徒が関心を持つ題材を取り上げながら、中学生向けの読み物冊子を作り上げ、それを活用した授業案をまとめる

授業の一般目標

1. すぐれた実践に触れ、生徒が主体的に学ぶ社会科授業のポイントを学ぶことができる。
2. 中学生が興味を持つテーマで、メッセージ性のある読み物冊子を創ることができる。
3. 冊子に対応した授業案をまとめることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:すぐれた実践に触れ、生徒が主体的に学ぶ社会科授業のポイントを学ぶことができる。

思考・判断の観点:中学生が興味を持つテーマで、メッセージ性のある読み物冊子を創ることができる。

冊子に対応した授業案をまとめることができる。

技能・表現の観点:冊子をまとめ、簡明に紹介することができる。

成績評価方法(総合)

メッセージあふれる中学生向けの読みもの冊子をつくることができたか。

冊子に対応する授業案も作成できたか。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育,

オフィスアワー

木 56

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001078
開設科目名	実践英語科教育学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	高橋　俊章			区分	

授業の概要

英語の授業の構成（指導課程）や教材研究の方法について学習する。授業案の作成についても扱う予定である（実地指導講師担当）。模擬授業を実際に体験することにより、指導方法についても一定の知識と技能を得ることを目標とする。 また、この授業を通し、教育実習の研究課題を得ることもねらいとしている。

授業の一般目標

英語の授業の構成（指導過程）を理解すること。教材研究の方法を習得すること。授業案の作成ができるようになること。模擬授業を通して指導方法についての一定の知識と技能を得ること。教育実習の研究課題を得ること。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

発表、レポート、テストの成績によって評価する（★発表は授業への参加度の項目に含めて評価する）。

教科書

参考書

『英語科教育法の構築と展開』／青木昭六（編著）：現在教育社，2002

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001082
開設科目名	国語科教育法Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

新学習指導要領の特徴･課題について学んだ後、明治期以降の中等教育における国語科教育の歴史を概観し、今日の国語科教育が抱える諸問題を、教育制度･教科書史･教育理論等から検討していく。

授業の一般目標

国語科教育の諸問題を、史的観点を加えて多角的に考察･判断する幅広い視点を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点:学習指導要領や国語科教育の歴史について、あらましを説明することができる。

思考･判断の観点:現代の国語科教育が抱える問題の所在を指摘し、史的認識に裏付けられた広い視点から問題解決にあたることができる。

関心･意欲の観点:国語科教育の諸問題に高い関心をもち、課題の改善について意欲手金に考察をめぐらすことができる。

態度の観点:国語科の諸問題について、積極的に検討･改善を図ろうと努めることが出来る。

技能･表現の観点:問題点を的確に指摘し、自分の見解を明快に表現することができる。

成績評価方法(総合)

毎回、提出する小レポートの状況、及び、学期末レポートにより評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001084
開設科目名	教科教育法音楽			単位	2 単位
対象学生	教科(国, 社, 音, 美, 家, 英), 実践			学年	～
担当教員	高橋　雅子			区分	

授業の概要

本授業では、小学校における音楽科の実践に必要な内容と方法について体系的に講ずる。

短時間ではあるが、全員が音楽の模擬授業を行い、人の前に立って指導することを経験する。

授業の一般目標

小学校における音楽科の実践に必要な理論と実践力を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:学習指導要領(音楽編) から、音楽の領域(表現及び鑑賞) の内容について理解する。

思考・判断の観点:自ら模擬授業を構成し、実践することにより、授業を受ける側の反応を見ながら臨機応変に対応することを経験する。

関心・意欲の観点:資料の準備や授業の流れを構築するなど、意欲的に模擬授業を行う。

態度の観点:遅刻・私語禁止。

技能・表現の観点:模擬授業において、分かりやすく的確に指示・説明ができる。

正しい音程で歌唱したり、リコーダーを演奏したりできる。

成績評価方法(総合)

レポート、模擬授業、授業への取り組み、出

教科書

小学校音楽科教育法:教育芸術社, 2008

参考書

メッセージ

音楽に意欲的に取り組む学校は、非常に落ち着いている。教員になったとき、自信を持って子どもとともに音楽を楽しめるように願っています。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001085
開設科目名	保健体育科教育学III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	海野　勇三			区分	

授業の概要

この授業では，保健体育科教育学ⅠおよびⅡの学習成果をもとに，「授業づくりー模擬授業ー授業批評会」というプロセスを連続的に展開していく．この過程を通じて，各自のもつ「よい体育の授業」のイメージを実践の形に具体化するとともに，授業を観察･分析する方法を習得する．

授業の一般目標

体育授業を分析し、解釈するための方法について理解を深めるとともに、自らの描く「よい体育授業」のイメージにふさわしい授業観察の視点と方法を作成する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:授業を観察する際の視点を挙げ、それらの方法について説明することができる。

思考･判断の観点:自らの描く「よい体育授業」の条件を、独自の授業分析方法に具体化できる。

関心･意欲の観点:授業分析･授業評価に関心を持って取り組み、集団的検討の場で積極的に意見を表明することができる。

態度の観点:授業の分析批評に際して、批判的･主体的に考えることができる。

技能･表現の観点:授業分析の結果をもとに、整合性のある授業の解釈ができ、またわかりやすく報告することができる。

成績評価方法(総合)

授業内レポートおよび課題レポートの完成度、授業への参加度等をもとに総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

この授業では，実践の事実をもとに相互批評することを基本としています．自分の実施した模擬授業に対し他者から批評を受け，また，他者の授業実践を批評することを通じて，授業の観察眼と実践的力量を獲得していくことを期待します．

連絡先

yunno@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001089
開設科目名	社会科教育学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉川　幸男			区分	

授業の概要

学校教育において「社会科」はなぜ必要なのか。「社会科」でこそ可能な学習とは何か。このような社会科の本質論にかかわる課題をいくつか取り上げ、各自が「新学習指導要領」をもとに年間指導計画を作成することを通して検討する。この検討を通して受講者個々人が日本の社会科60年の歩みを批判的に継承した自分なりの「社会科」指導観を創造できるようにしたい。

授業の一般目標

1. 社会科という教科の成り立ちに関して説明できる。
2. 社会科に関するカリキュラム的な発想を身に付ける。

授業の到達目標

知識・理解の観点:以下の概念を理解している

・総合社会科　分化社会科

・認識形成　態度形成

思考・判断の観点:学習指導要領等の資料に対し、カリキュラム的な観点から論評することができる

関心・意欲の観点:様々な異なるカリキュラム計画に対して、それらを考察する着眼点をもつことができる。

態度の観点:毎回の授業に出席し、自らの疑問や意見を述べることができる。

技能・表現の観点:カリキュラム的な観点から社会科指導計画等を構想し、発表することができる。

成績評価方法(総合)

簡単な期末試験、授業時の小レポート、最終レポート、授業参加度により、総合的に評価する。

教科書

参考書

社会科重要用語 300 の基礎知識／森分孝治、片上宗二:明治図書出版

社会科教育学ハンドブック ： 新しい視座への基礎知識／社会認識教育学会:明治図書出版

メッセージ

一部、小グループによる演習を取り入れることがあります。グループ活動に協力してください。

連絡先

E-Mail: yoshcowr@yamaguchi-u.ac.jp

この授業の WEB サイト(ID、パスワード要) http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yoshcowr/po-login/sse/

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001096
開設科目名	教科教育法国語			単位	2 単位
対象学生	教科(国～理), 幼, 障, 国理			学年	～
担当教員	岸本　憲一良			区分	

授業の概要

小学校の国語教科書にある教材を取り上げ、教材研究、学習指導の在り方について考察する。

授業の一般目標

国語科教育の目標、内容について理解するとともに、授業を行う際に留意すべき点について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:国語科教育の目標、授業を行う際に留意すべき事柄等について説明することができる。

思考・判断の観点:学習材の研究、授業の進め方について、的確に意見を述べることができる。

関心・意欲の観点:国語科教育についての関心を高め、意欲的に学習指導の構築に向けて取り組むことができる。

態度の観点:様々な視点から国語科教育について考察を加えることができる。

技能・表現の観点:自分の見解を口頭や文章で適切に表現することができる。

成績評価方法(総合)

以下の点を総合的に判断して評価する。

(1) 学期末試験

(2) 毎時の課題シート

(3) 学習指導案

(4) 出席状況

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001097
開設科目名	教科教育法国語			単位	2 単位
対象学生	教科(音～英), 実践			学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

小学校国語科学習指導の在り方について、先行の実践報告や研究論文を参照しつつ検討を加える。

授業の一般目標

国語科教育　小学校国語

授業の到達目標

知識・理解の観点:国語科教育の内容・目標についてあらましを説明できる。

思考・判断の観点:国語科の今日的課題について多角的に検討し、自分の見解をまとめることができる。

関心・意欲の観点:国語科教育に関して高い関心をもち、学習指導の改善に意欲的に取り組むことができる。

態度の観点:多角的な視点から国語科教育の問題点を捉え、考察を加えることができる。

技能・表現の観点:自分の見解を口頭や文章で的確に表現することができる。

成績評価方法(総合)

毎回、提出してもらう小レポートの状況や期末のレポートにより、評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001105
開設科目名	初等科家庭			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	友定　啓子			区分	

授業の概要

小学校で、家庭科を指導するために必要な 4 分野（食物･被服･住居･家族）の基礎知識を学習する。

授業の一般目標

小学校現場で、家庭科を担当するために必要な専門的知識を獲得する

授業の到達目標

知識･理解の観点：家庭科教育の各領域における基本的な知識を獲得する

思考･判断の観点：各領域の専門的事項を教育に活用することについての判断ができる

関心･意欲の観点：専門的内容の理解に基づいて、家庭科教育に対する関心と意欲を高める

成績評価方法(総合)

原則として、各分野ごとのレポートを中心に評価する。4 分野の総合計点で判定する。

教科書

参考書

メッセージ

4 教官全員の授業を受け、評価を受けること。

各週の講義の順番は変更されることがあります。

連絡先

友定啓子

オフィスアワー

水 12:00-12:50

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001114
開設科目名	教科教育法生活			単位	2 単位
対象学生	教科(国～理), 幼, 障, 国理			学年	～
担当教員	千々和　一豊			区分	

授業の概要

生活科の理念、目標、内容、授業実践について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。

授業の一般目標

(1)生活科の理念、目標、内容、方法、課題について理解する。

(2)生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について理解する。

(3)生活が自然や社会とどのような関わりをもっているのかを理解する。

(4)生活科の授業計画や具体的な指導方法についてのノウハウを学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1. 生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。

2. 生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について説明できる。

思考・判断の観点: 1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。

関心・意欲の観点: 1. 生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。

態度の観点: 1. 日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。

技能・表現の観点: 1. 日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。

成績評価方法(総合)

各担当教官ごとに評価を行い、それを総合計して 100 点満点に換算し、最終的な評価とする。

教科書

参考書

メッセージ

授業への出席を重視するので、休まないように出席すること。

連絡先

chijiwa@yamaguchi-u.ac.jp　千々和　研究室:教育学部 4 階

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001115
開設科目名	教科教育法生活			単位	2 単位
対象学生	教科(音～英), 実践			学年	～
担当教員	千々和　一豊			区分	

授業の概要

生活科の理念、目標、内容、授業実践について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。

授業の一般目標

(1) 生活科の理念、目標、内容、方法、課題について理解する。

(2) 生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性について理解する。

(3) 生活が自然や社会とどのような繋がりをもっているのかを理解する。

(4) 生活科の授業計画や具体的な指導方法についてのノウハウを学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1. 生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。

2. 生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性ついて説明できる。

思考・判断の観点: 1. 授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。

関心・意欲の観点: 1. 生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。

態度の観点: 1. 日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。

技能・表現の観点: 1. 日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。

成績評価方法(総合)

各担当教官ごとに評価を行い、それを総合計して 100 点満点に換算し、最終の評価とする。

教科書

参考書

メッセージ

授業への出席を重視するので、休まないように出席すること。

連絡先

chijiwa@yamaguchi-u.ac.jp　千々和　研究室:教育学部 4 階

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001128
開設科目名	英語科教育学III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	猫田　和明			区分	

授業の概要

本授業では、英語教育学概論、英語科教育学Ⅰ、Ⅱなどの履修をベースに、教師論、学習者論、4 技能の指導法、教材論などについて扱う。

授業の一般目標

英文の専門書を読むことを通して、英語学習指導についての知識を深めるとともに、教育実習での経験などを踏まえながら幅広い省察の視点を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：英語学習指導のあり方とその留意点について説明できる。

思考・判断の観点：様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について考え、自分の意見を述べることができる。

関心・意欲の観点：様々な活動の工夫や英語教師が直面する問題への対応の仕方について関心を高める。

態度の観点：他者との率直な意見交換と省察を通して、理解を深めようとする。

技能・表現の観点：英文で書かれた専門書の内容を正しく理解し、わかりやすく相手に伝えることができる。

成績評価方法(総合)

プレゼンテーションの内容、授業内レポート、ディスカッション・演習への取り組み、期末レポートなどを総合的に評価する。

教科書

How to teach English (New edition)／Jeremy Harmer：Longman, 2007

参考書

メッセージ

この授業では英語教育に関する専門書を英語で読む機会を提供します。英語力を高めながら英語教育の知識と実践力を高めていきましょう。

連絡先

nekoda@yamaguchi-u.ac.jp 933-5417 研究室（教育 A354）

オフィスアワー

特に設けていません。時間が空いていればいつでも相談にのります。まずはメールください。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001135
開設科目名	国語科教育法III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岸本　憲一良			区分	

授業の概要

国語科の領域「書くこと」の指導を中心に、その歴史的変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身に付ける。

授業の一般目標

「書くこと」の指導における歴史的変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:「書くこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点等について説明することができる。

思考・判断の観点:「書くこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容について的確に意見を述べることができる。

関心・意欲の観点:意欲的に「書くこと」の授業を構想することができる。

態度の観点:グループ協議等に積極的に参加することができる。

技能・表現の観点:開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

成績評価方法(総合)

以下の点を総合的に判断して評価する。

(1) 学期末試験

(2) 毎時の課題シート

(3) 学習指導案

(4) 出席状況

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001136
開設科目名	家庭科教育学III			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	西　敦子			区分	

授業の概要

新しい生活様式･文化･環境の創造に向けて、中学校および高等学校の模擬授業を実践する。その授業実践を通して、学生同士の相互評価を行う。その後、授業の問題･課題を発見･整理し、中･高等学校家庭科のよりよい授業づくりを目指す。

授業の一般目標

中･高等学校の家庭科の目標や内容について理解する。その後、新しい生活様式･文化･環境の創造に向けて、中学校および高等学校の指導案作成および模擬授業を実践し、相互に評価しながら授業の問題･課題を発見し、より良い授業づくりを目指す。

授業の到達目標

知識･理解の観点:中･高校家庭科の授業目標と学習内容の関連性が理解出来ているか。

思考･判断の観点:模擬授業について、問題･課題を発見し、より良い授業に対する提言が出来たか。

関心･意欲の観点:模擬授業に関心･意欲を持って取り組んでいたか。

態度の観点:授業態度が真面目であったか。

技能･表現の観点:分かりやすい指導案および模擬授業であったか。

成績評価方法(総合)

指導案、模擬授業、授業参加度を勘案して行う。

教科書

中学校家庭科教科書「新編　新しい技術･家庭　家庭分野」:東京書籍

参考書

教育実践力をつける家庭科教育法／多々納道子･福田公子編著:大学教育出版, 2008

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設学期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001151
開設科目名	音楽科教育法Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	高橋　雅子			区分	

授業の概要

音楽科教育の基礎理論を学び、教育実習に向けての実践力を養う。

授業の一般目標

音楽科教育の基礎理論を理解し、教育実習に向けて実践力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：学習指導要領の変遷や、学習指導案の書き方について理解する。

思考・判断の観点：授業をどのように組み立てるか、子どもの発達段階や授業の目標に合わせて考える。

関心・意欲の観点：実践力を高めるために、意欲的に講義・演習に取り組む。

態度の観点：遅刻・欠席厳禁。

技能・表現の観点：模擬授業における発問・指示に加え、実技指導における総合的な技能を高める。

成績評価方法(総合)

出席、授業態度、レポート、模擬授業と資料

教科書

参考書

メッセージ

教育実習に向けて、自分を良く知り、知識・技能共に磨きましょう。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001152
開設科目名	技術科教育法Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿濱　茂樹			区分	

授業の概要

中学校技術･家庭科の技術分野の教育課程についての理解を深めるとともに，教材開発などの基本的事項について講義する。

授業の一般目標

技術科教育の目的や意義についての理解を深め，技術科教師としての指導理念や心構えの確立
と教科についての基礎的知識の習得を目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:技術科教育の教育課程の目的と意義が説明が出来る。また，技術科の教材開発に必要な事項を説明できる。
思考･判断の観点:技術科教育の教育課程に対して自分の考えを述べることが出来る。
関心･意欲の観点:技術科教育の教育課程に関心をもち，技術科の教材開発に意欲をもつ。
技能･表現の観点:技術科の学習内容を理解し，教材開発に必要な技術を身につける。

成績評価方法(総合)

課題に対するレポートを課す。最後に期末レポートを課す。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書

中学校学習指導要領解説　技術･家庭編

参考書

技術科教育総論／日本産業技術教育学会:日本産業技術教育学会，2005

メッセージ

資料を随時配付する

連絡先

研究室

オフィスアワー

随時受け付け(研究室)

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001157
開設科目名	理科指導法総論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

理科教育の変遷、教授学習論とその考え方、具体的な授業分析、評価法、理科の授業づくりなど、理科教師として必要な基礎的な知識、技能、考え方などについて講義する。

授業の一般目標

理科教師としての基礎基本を作る。

授業の到達目標

知識･理解の観点:理科教育に関わる様々な考え方や知識･技能の概要を理解する

思考･判断の観点:理科授業を論理的に分析したり、考察することができる。

関心･意欲の観点:理科教育の諸問題に興味と関心をもつ。

態度の観点:積極的に理科教育に関わる態度を身につける。

技能･表現の観点:子どもの立場に立って理科の授業を構想でき、それを指導案に表現できる。

成績評価方法(総合)

試験による評価に加えて、提出した指導案によって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

教育学部 218

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001169
開設科目名	技術科教育法III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿濱　茂樹			区分	

授業の概要

中学校技術･家庭科の技術分野の学習指導方法について理解を深めるとともに，学習指導の実際について講義する。

授業の一般目標

技術科教育の学習指導についての理解を深め，技術科教師としての指導技術の確立と指導計画についての基礎的知識の習得を目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:技術科教育に関する学習指導について説明が出来る

思考･判断の観点:技術科教育に関する学習指導について自分なりの考えを述べることが出来る

関心･意欲の観点:技術科教育の学習指導に対する関心を高め，学習指導に意欲を持つことが出来る

成績評価方法(総合)

課題に対するレポートを課す。最後に期末レポートを課す。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書

中学校学習指導要領解説　技術･家庭編

技術科教育総論／日本産業技術教育学会:日本産業技術教育学会，2005

参考書

メッセージ

資料を随時配付する

連絡先

研究室

オフィスアワー

随時受け付け（研究室）

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001186
開設科目名	教科教育法算数			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	関口　靖広			区分	

授業の概要

小学校算数の学習指導に関わる基本的な事柄について解説する。

授業の一般目標

小学校算数の学習指導に関わる基本的な事柄について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 小学校算数の学習指導に関わる基本的な事柄の理解している.

思考・判断の観点: 小学校算数の学習指導に関わる問題について基本的な判断ができる.

成績評価方法(総合)

学期末の筆記試験

教科書

新編算数科教育研究／算数科教育学研究会編:学芸図書, 2006

参考書

小学校学習指導要領解説　算数編／文部科学省:東洋館, 2008

メッセージ

算数科に関する授業はこれだけなので, 集中して勉強してください.

連絡先

連絡は, ysekigch の後に, @yamaguchi-u.ac.jp をつけてメールでお願いします

オフィスアワー

火曜日 11:00-12:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001193
開設科目名	小学校歌唱伴奏法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	成川　ひとみ			区分	

授業の概要

教員採用試験の実技課題を中心に、歌唱教材の伴奏と学生それぞれの力量に応じたピアノ曲の実技指導を行う。

授業の一般目標

ほぼ進度が同じか、もしくは採用試験の課題が同じ学生を1グループ4～5名に分け、各進度に合わせて教材選択を行い、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、弾き歌いとピアノ演奏技能を習得する。

授業の到達目標

思考・判断の観点:小学校歌唱教材の歌詞をよく理解し、伴奏を弾きながら歌うことができる。
関心・意欲の観点:毎週出された課題を実行できる。
技能・表現の観点:教材を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

成績評価方法(総合)

実技試験により形成評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nr1103@yamaguchi-u.ac.jp　Tel. 083-933-5364

オフィスアワー

火～金曜日昼休み

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001194
開設科目名	小学校歌唱伴奏法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

教員採用試験の実技課題を目標に、ピアノの基礎技能と簡易伴奏法及び弾き歌いを演習する。

授業の一般目標

個々の受講生が目指す自治体の、教員採用試験の実技課題に取り組む。

授業の到達目標

知識・理解の観点:歌唱教材の旋律とコードの関係が理解できる。

技能・表現の観点:歌唱教材が求める表現を可能にするだけの技能を身につける。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

jun_n@yamaguchi-u.ac.jp　研究室(内線5363)

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001198
開設科目名	美術科教育学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　貴富			区分	

授業の概要

「教科教育法図画工作」を基礎として、美術教育学をより深く学んでいく。
中等教育段階の学習者の特性（発達段階等）を考慮しながら、美術教育を構想・実践する上での理念的基礎を学ぶ。

授業の一般目標

中等教育における美術教育の理念、目的、対象、内容、方法、制度、等について理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点：中等教育における美術教育の理念、目的、対象、内容、方法、制度、等について理解する。
思考・判断の観点：美術教育の歴史や理念を、今日的な課題として受け止め、具体的な美術教育像と関連させることができる。
関心・意欲の観点：美術教育実践の表層に拘泥することなく、その背後に存在する歴史や理念に関心を持ち、意欲的に授業や課題に臨む。

成績評価方法(総合)

4回欠席した時点で受講資格と受験資格を失う。

教科書

美術科教育の基礎知識／宮脇理監修：建帛社，2001

参考書

メッセージ

連絡先

電話：083－933－5372
E－Mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp
メールは便利ですが、用件にはメールで済むものと済まないものがあることを踏まえて利用しましょう。

オフィスアワー

オフィスアワーという概念や制度がナンセンスだと思います。少なくとも日本の大学の実態には合っていません。
電話やメールでアポを取って来てくれるのが確実ですが、いつ研究室のドアをノックしてくれても構いません。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001199
開設科目名	英語科教育学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	高橋　俊章			区分	

授業の概要

実践英語科教育法と並行履修することにより、(また、模擬授業を体験することにより) 英語の教師としての留意点や教授法について学ぶ。 具体的には、発問、フィードバック、教授法、4技能の指導、教具や教育メディアの利用技術、指導要領、などについて学ぶ。

授業の一般目標

発問やフィードバックについての知識を持つ。教授法に関する知識を持つ。4技能の指導に関する基本的な知識と技能を持つ。教具や教育メディアの利用技術についての知識と技能を持つ。指導要領に関する知識を持つ。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業中の演習への参加及び発表と、期末試験の成績により総合的に評価する。出席は欠格条件とする。

教科書

参考書

メッセージ

教育実習で欠席する場合を含め、欠席届を必ず事前に提出すること。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001213
開設科目名	保健体育科教育学IV			単位	2 単位
対象学生	4年生			学年	～
担当教員	海野　勇三			区分	

授業の概要

体育科教育研究に関わる特殊テーマを設定し、先行研究を検討したり、調査を実施するなどして、テーマに関わる理解を深め、交流する。

授業の一般目標

グループ、または個人の設定したテーマについて、必要な調査･文献研究を行い、その結果をレポートにまとめることを通して、テーマについての理解を深める。

授業の到達目標

知識･理解の観点:グループまたは個人の設定したテーマについて、その学習成果をもとにわかりやすく説明できる。

思考･判断の観点:関連する先行研究をもとにして、多角的（因果関係や水平的･垂直的分析）に考察することができる。

態度の観点:さまざまな問題について、批判的、主体的に思考し取り組むことができる。

技能･表現の観点:自ら設定したテーマに沿って学習してきた成果を、わかりやすい発表資料にまとめて、報告することができる。

成績評価方法(総合)

テーマ設定ー自主（グループ）研究ーゼミ報告、さらに最終レポートの完成度により総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

教科教育学の最終仕上げとして、実践的な課題に対して真正面から向き合って、学習と成果の交流を深めてください。

連絡先

yunno@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001214
開設科目名	家庭科教育学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	入江　和夫			区分	

授業の概要

中学校家庭科の学習指導要領を衣食住の技能的項目と家族関係の項目に分け、どのように変遷してきたかの講義を行うとともに、教育実習を想定し、全員が模擬授業を行うことで、板書、発問、教材提示などの基本的な技能を身につけることを目的とする。

授業の一般目標

中学校･高等学校家庭科の歴史的変遷を通して基本的な理念を理解するとともに模擬授業を通して板書や発問の仕方や指示など授業の基本的な技能を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:中学校家庭科の技能的内容、家族関係的内容の変遷から、今回の学習指導要領改定のねらいを理解できる。

思考･判断の観点:模擬授業を通して、本時の目標をどのようなに効果的に生徒（学生）に学習させることができるか判断できる。

関心･意欲の観点:模擬授業を行うための指導案作成の過程を通して家庭科の題材の関心や意欲を高めることができる。

態度の観点:模擬授業を行うにあたり、主体的かつ創造的に実践できる。

技能･表現の観点:模擬授業で自分の指導案を表現できる。

成績評価方法(総合)

中･高等学校の学習指導要領の変遷に関して、小テストを行う。模擬授業ごとに何をどうすればもっとよい授業になるかの観点で web に書く、とともに一人の生徒（学生）を選んでコメントを書き、ノートにまとめ、提出する。なお出席が70％未満の場合、単位を与えない。

教科書

新しい技術家庭　家庭分野／佐藤文子：東京書籍, 2008

中学校学習指導要領解説　技術家庭編／文部科学省：教育図書, 2008

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

水曜日

開設学期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001226
開設科目名	初等科数学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	関口　靖広			区分	

授業の概要

学校数学の範囲で扱える数学的問題をトピックとして取り上げ，その解決活動を通して数学的見方･考え方，数学の面白さ，数学の価値等について考察する.

授業の一般目標

初等的な数学的問題について，数学的見方･考え方，数学の面白さ，数学の価値を理解することができる.

授業の到達目標

知識･理解の観点: 初等数学の基本的な知識をもっている

思考･判断の観点: 初等的な数学について，数学的見方･考え方，数学の面白さ，数学の価値を考察できる.

技能･表現の観点: 初等的な数学について，数学的見方･考え方，数学の面白さ，数学の価値を説明できる.

成績評価方法(総合)

レポートと学期末テスト

教科書

参考書

メッセージ

毎回，算数に関する問題に取り組んで，それについて話し合うことが中心となります。

連絡先

連絡は，ysekigch の後に，@yamaguchi-u.ac.jp をつけてメールでお願いします.

オフィスアワー

火曜日 11:00-12:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001234
開設科目名	社会科教育学III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	外山　英昭			区分	

授業の概要

社会科教育の当面する課題を押さえ、これからの社会科教育のあり方を実践的に検討する。

特に、児童･生徒の興味･関心に即した、一人一人の社会認識を育てる社会科授業づくりについて深める。

授業の一般目標

(1)小･中学校の社会科の実践を「子どもの学び」の視点から分析する。

(2)子どもの学ぶ力を育てることを中心に、社会科の学力とは何か検討し、これからの社会科の授業づくりを深める。

授業の到達目標

知識･理解の観点:社会認識とは何か、社会認識が深まるとはどういうことかを明らかにする。

思考･判断の観点:社会科のめざす学力とは何かを明らかにする。

関心･意欲の観点:児童･生徒が主体的に学ぶ社会が授業を構想する。

技能･表現の観点:新しい社会科教育のあり方について自分なりの意見を持ち、それをまとめ、発表することができる。

成績評価方法(総合)

子ども主体の学びが成立している社会科実践を選ぶことができるか。

その実践がどの点で優れているか分析できるか。

これからの社会科教育のあり方について自分なり意見を持つことができるか。

教科書

参考書

メッセージ

新しい社会科をどう創るかについて熱い議論をしたい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001235
開設科目名	数学科教育法III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	関口　靖広			区分	

授業の概要

中等教育数学科の学習指導の方法や指導計画の構成を考え，マイクロティーチングを通して，学習指導を立案･実践･評価するための基本的な能力を養う

授業の一般目標

中等教育数学科の学習指導を立案･実践･評価するための基本的な能力を身につける.

授業の到達目標

知識･理解の観点:中等教育数学科の学習指導の方法や指導計画の構成を理解する.

思考･判断の観点:中等教育数学科の学習指導を立案･実践･評価できる.

関心･意欲の観点:中等教育数学科の学習指導の立案･実践･評価に積極的に取り組むことができる.

技能･表現の観点:中等教育数学科の学習指導の立案･実践･評価を的確に実行できる.

成績評価方法(総合)

レポート 2 回，およびマイクロティーチングの参加で評価する.

教科書

参考書

メッセージ

学習指導案を作成して，模擬授業で教師役と生徒役を演じることが求められます。授業への積極的参加を求めます。

連絡先

オフィスアワー

火曜日 11:00-12:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001236
開設科目名	美術科教育学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　貴富			区分	

授業の概要

「教科教育法図画工作」と「美術科教育学Ⅰ」で学んだことを生かして授業実践力を高める。

前期教育実習を考慮して、より実践的な内容を多く盛り込む。

鑑賞指導の実践力は、美術科以外の教科にも通ずる基本的な内容と技術を含んでいるので、前期実習前に鑑賞指導を集中的に学ぶ。

実習後の1、2回を「実習報告会」に充て、反省的報告と協議を行う。

実習後に「表現」領域および「表現」と「鑑賞」絡めた授業を構想し教材研究を行い、後期実習に備える。

授業の一般目標

鑑賞指導能力向上の3Stepsを体験することによって、鑑賞指導の実践力を高める。

教育実習を真摯に振り返り、反省的実践家としての美術教師の基本像を体得する。

表現領域の教材研究を行い、授業実践力を高める。

授業の到達目標

知識・理解の観点：鑑賞指導能力向上のための3Stepsの各段階におけるポイントを理解し、実践に生かす。

心象表現、機能適応表現、いわゆる現代美術（コンテンポラリー・アート）の教材化のポイントを理解する。

思考・判断の観点：具体的な授業像を想像し、生徒の反応を予想し、効果的な指導や教材・教具、必要な手立てなどを考えることが出来る。

関心・意欲の観点：各領域・分野の内容に興味・関心を持ち、意欲的に教材開発や授業構想を行う。

態度の観点：反省的実践家としての美術教師であろうとする姿勢・態度。

技能・表現の観点：模擬授業において、より実践的な指導を行える。

教材・教具をより効果的に、より美的に作成することが出来る。

成績評価方法(総合)

4回欠席した時点で受講資格と受験資格を失う。

教科書

美術科教育の基礎知識／宮脇理監修：建帛社，2001

参考書

メッセージ

連絡先

電話：083－933－5372

E－Mail：takatomi@yamaguchi-u.ac.jp

メールは便利ですが、用件にはメールで済むものと済まないものがあることを踏まえて利用しましょう。

オフィスアワー

オフィスアワーという概念や制度がナンセンスだと思います。少なくとも日本の大学の実態には合っていません。

電話やメールでアポを取って来てくれるのが確実ですが、いつ研究室のドアをノックしてくれても構いません。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001249
開設科目名	初等科生活			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	池上　敏			区分	

授業の概要

生活科授業を行って行くのに必要な様々な能力を、体験によって身につけること。

野外活動、飼育、栽培、教材作成、表現活動などを行います。

授業の一般目標

生活科授業に必要な諸能力の育成と獲得。

授業の到達目標

知識・理解の観点：生活科という教科の概念の理解。

思考・判断の観点：授業運営に必要な思考力、様々な局面における判断力の育成。

関心・意欲の観点：授業内容への積極的な関心、授業への意欲的態度の育成。

態度の観点：積極的な受講態度の保持。

技能・表現の観点：言語、描画、動作などによる様々な表現技能の練磨、及び表現活動への積極的な参加。

成績評価方法(総合)

活動への参加状況、受講態度、提出物などにより総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

初等科生活は、体験型授業の典型的なものです。受講生各自の興味・関心、及び健康上の特性等によって受講するクラスを適宜選択してもらいますが、受講するクラスによっては講義・活動内容により、使用する設備や教室によって制限がありますので、最終決定は教員が行います。この調整は最初の授業の時に行います。

連絡先

各クラスの担当教員の研究室。非常勤講師担当のクラスは授業運営担当教員（09年度は池上教員、音楽棟109研究室）まで。

オフィスアワー

各教員のオフィスアワーを参照してください。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001265
開設科目名	教科教育法理科			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	武田　賢治			区分	

授業の概要

小学校理科に関わる科学的事象の中からいくつかのテーマを取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。

授業の一般目標

講義主体の「初等科理科」と組み合わせて履修することにより、理科教育に関する幅広い知識と指導力の修得を目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:小学校理科で扱う化学的事象および物理的事象について理解することができる。

身近な現象を小学校で扱う化学的事象および物理的事象と関係づけることができる。

思考・判断の観点:与えられた小学校教材に関する課題に対して仮説を立てて、化学概念および物理概念を用いて、照明することができる。

与えられた課題に積極的に関わり、得られた回答を報告することができる。

関心・意欲の観点:課題内容や実験に積極的に取り組み、そのことを通して身近な自然現象に興味関心をもつようになる。

態度の観点:与えられた課題に対してグループ内で協力しながら取り組むことができる。

得られた結果に対して班内あるいは小グループないで討論し化学的あるいは物理的概念と系統づけることができる。

技能・表現の観点:与えられた課題に対する原理や概念を調べ、結論に結びつけることができる。

学習した内容や結論を要領よくレポートにまとめることができる。

実施される実験の操作が要領よくできる。

その他の観点:物理分野・化学分野によって異なる。

生物分野・地学分野によって異なる。

成績評価方法(総合)

物理分野:各テーマごとのレポートまたは試験により行う（下の観点別評価参照）。

化学分野・生物分野・地学分野:レポート100％の評価割合で、評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001299
開設科目名	中等地理歴史教育論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉川　幸男			区分	

授業の概要

中等地理･歴史教育の実践的諸問題に関して、主に演習形式による検討を通して考察を深める。具体的なカリキュラム構想や授業実践の分析を通して、地理･歴史授業を教科の教授学的視点から論じる力を身につけることをめざす。

授業の一般目標

1. 地理歴史教育実践に対し、カリキュラム的な視点、認識形成的な視点からの分析･考察ができる。
2. 地理歴史教育実践の諸問題に対し、自らの提案･立論ができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 下記の授業計画「全体」に示した項目について、その意義や論点を踏まえて説明することができる。

思考･判断の観点: 地理歴史教育、社会科教育に関するさまざまな「理論」や指導計画、授業実践に対し、カリキュラム的観点や授業構成論的観点から考察し、分析することができる。

関心･意欲の観点: 地理歴史教育、社会科教育に関する自らの研究課題をあげることができる。

態度の観点: 毎回の授業に出席し、自ら積極的に意見を述べることができる。

技能･表現の観点: 演習用の資料を、議論可能な形態で作成し、発表することができる。

成績評価方法(総合)

発表資料と議論の内容、及び授業への参加度によって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

本授業は演習であり、積極的な発表と発言が求められます。

連絡先

E-Mail: yoshcowr@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設学期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001309
開設科目名	初等科体育			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	上地　広昭			区分	

授業の概要

受講生は，2 グループに分かれて，器械体操とタグラグビーの 2 種目を 6 コマづつ受講する。

授業の一般目標

受講生に，タグラグビーのルール･戦術を理解させることはもちろん，自身が教職の現場に出た際に，いかに体育授業を効率的に進めればよいかについてまで考えさせる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

タグラグビーでは，基本的には出席を重視する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001315
開設科目名	初等科理科			単位	2 単位
対象学生	池田･村上クラス			学年	～
担当教員	池田　幸夫, 村上　清文			区分	

授業の概要

受講者全体を第一分野と第二分野の2グループに分ける。この授業は、第一分野のグループを対象に、前半に物理分野に、後半に化学分野について基礎的な知識について学ぶ。

授業の一般目標

1. ㈜前半㈜ 物理に関する基礎的な知識を修得し、小学校理科授業の指導に必要な力をつける。
2. ㈜後半㈜ 化学に関する基礎的な知識を修得し、小学校理科授業の指導に必要な力をつける。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 小学校理科の「物質とエネルギー」領域の基礎的な事項について、科学的に説明できる。

思考･判断の観点: 小学校理科の「物質とエネルギー」領域の基礎的な問題を科学的に考察できる。

関心･意欲の観点: 小学校理科の「物質とエネルギー」領域の内容について、関心をもつ。

態度の観点: 積極的かつ主体的に授業に参加する。

技能･表現の観点: 小学校理科の「物質とエネルギー」領域の内容に関して、実験や観察結果を文章や図によって表現できる。

成績評価方法(総合)

前半の物理は試験で評価し、後半の化学はレポートで評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001329
開設科目名	初等科生活			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池上　敏			区分	

授業の概要

生活科授業を行って行くのに必要な様々な能力を、体験によって身につけること。

野外活動、飼育、栽培、教材作成、表現活動などを行います。

授業の一般目標

生活科授業に必要な諸能力の育成と獲得。

授業の到達目標

知識・理解の観点:生活科という教科の概念の理解。

思考・判断の観点:授業運営に必要な思考力、様々な局面における判断力の育成。

関心・意欲の観点:授業内容への積極的な関心、授業への意欲的態度の育成。

態度の観点:積極的な受講態度の保持。

技能・表現の観点:言語、描画、動作などによる様々な表現技能の練磨、及び表現活動への積極的な参加。

成績評価方法(総合)

活動への参加状況、受講態度、提出物などにより総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

初等科生活は、体験型授業の典型的なものです。受講生各自の興味・関心、及び健康上の特性等によって受講するクラスを適宜選択してもらいますが、受講するクラスによっては講義・活動内容により、使用する設備や教室によって制限がありますので、最終決定は教員が行います。この調整は最初の授業の時に行います。

連絡先

各クラスの担当教員の研究室。非常勤講師担当のクラスは授業運営担当教員（09年度は池上教員、音楽棟109研究室）まで。

オフィスアワー

各教員のオフィスアワーを参照してください。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001334
開設科目名	初等科図画工作			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　隆眞			区分	

授業の概要

小学校図画工作の基礎となる実技と理論を学習する。

授業の一般目標

基礎的造形表現が出来る。鑑賞の方法を理解する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

作品と政策態度、理解度で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001370
開設科目名	数学科教育法Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩田　耕司			区分	

授業の概要

中等教育数学科の基本的事項について概説します。授業では，主に中学校数学科の各領域における具体的な学習内容を採り挙げ，実際の教科書やその背景にある理論についての理解を深めます。また，適宜グループ活動を採り入れ，グループごとに議論したり，意見を発表したりしてもらいます。その際には，教科書の分析や学習指導案の構想，板書計画など，グループ活動のテーマを適宜提示します。

授業の一般目標

中等教育数学科の学習内容についての理解を深めるとともに，授業を構想･展開するための背景となる理論を学習し，授業を構想･展開するための素養を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点:中学校学習指導要領数学編の概要を理解し，学習内容の系統性･関連性を理解し，説明することができる。
数学科の授業を構想･展開するための背景となる理論を理解し，説明することができる。
思考･判断の観点:数学科の授業を，他者と協同して構想し，指導案としてまとめることができる。

成績評価方法(総合)

「課題レポート（授業内･外で合計 3 回）」（7 割），「受講者の授業への参加･発表」（3 割）の合計点を 100 点満点に換算し，90 点以上を「秀」，80 点以上 90 点未満を「優」，70 点以上 80 点未満を「良」，60 点以上 70 点未満を「可」，60 点未満を「不可」とします。なお，出席が 10 回に満たないものには単位を与えることはできません。

教科書

中学校学習指導要領解説　数学編／文部科学省:教育出版，2008
新編　新しい数学 1／杉山吉茂･俣野博ほか:東京書籍，2006
新編　新しい数学 2／杉山吉茂･俣野博ほか:東京書籍，2006
新編　新しい数学 3／杉山吉茂･俣野博ほか:東京書籍，2006

参考書

新版 数学教育の理論と実際（中学校･高校）／数学教育学研究会:聖文社，2001

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001729
開設科目名	教科教育法理科			単位	2 単位
対象学生	化学			学年	～
担当教員	武田　賢治			区分	

授業の概要

小学校理科に関わる科学的事象の中からいくつかのテーマを取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。

授業の一般目標

講義主体の「初等科理科」と組み合わせて履修することにより、理科教育に関する幅広い知識と指導力の修得を目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:小学校理科で扱う化学的事象および物理的事象について理解することができる。

身近な現象を小学校で扱う化学的事象および物理的事象と関係づけることができる。

思考・判断の観点:与えられた小学校教材に関する課題に対して仮説を立てて、化学概念および物理概念を用いて、照明することができる。

与えられた課題に積極的に関わり、得られた回答を報告することができる。

関心・意欲の観点:課題内容や実験に積極的に取り組み、そのことを通して身近な自然現象に興味関心をもつようになる。

態度の観点:与えられた課題に対してグループ内で協力しながら取り組むことができる。

得られた結果に対して班内あるいは小グループないで討論し化学的あるいは物理的概念と系統づけることができる。

技能・表現の観点:与えられた課題に対する原理や概念を調べ、結論に結びつけることができる。

学習した内容や結論を要領よくレポートにまとめることができる。

実施される実験の操作が要領よくできる。

その他の観点:物理分野・化学分野によって異なる。

生物分野・地学分野によって異なる。

成績評価方法(総合)

化学分野:レポート100%の評価割合で、評価する(下の観点別評価を参照)。

物理分野:各テーマごとのレポートまたは試験により行う。

生物分野・地学分野:レポート100%の評価割合で、評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001730
開設科目名	教科教育法理科			単位	2 単位
対象学生	生物			学年	～
担当教員	武田　賢治			区分	

授業の概要

小学校理科に関わる科学的事象の中からいくつかのテーマを取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。

授業の一般目標

講義主体の「初等科理科」と組み合わせて履修することにより、理科教育に関する幅広い知識と指導力の修得を目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:小学校理科で扱う生物学的事象および地学的事象について理解することができる。

身近な現象を小学校で扱う生物学的事象および地学的事象と関係づけることができる。

思考・判断の観点:与えられた小学校教材に関する課題に対して仮説を立てて、生物学概念および地学概念を用いて、照明することができる。

与えられた課題に積極的に関わり、得られた回答を報告することができる。

関心・意欲の観点:課題内容や実験に積極的に取り組み、そのことを通して身近な自然現象に興味関心をもつようになる。

態度の観点:与えられた課題に対してグループ内で協力しながら取り組むことができる。

得られた結果に対して班内あるいは小グループないで討論し化学的あるいは物理的概念と系統づけることができる。

技能・表現の観点:与えられた課題に対する原理や概念を調べ、結論に結びつけることができる。

学習した内容や結論を要領よくレポートにまとめることができる。

実施される実験の操作が要領よくできる。

その他の観点:物理分野・化学分野によって異なる。

生物分野・地学分野によって異なる。

成績評価方法(総合)

生物分野:レポート100%の評価割合で、評価する(下の観点別評価を参照)。

物理分野:各テーマごとのレポートまたは試験により行う。

化学分野・地学分野:レポート100%の評価割合で、評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001731
開設科目名	教科教育法理科			単位	2単位
対象学生	地学			学年	～
担当教員	武田　賢治			区分	

授業の概要

小学校理科に関わる科学的事象の中からいくつかのテーマを取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。

授業の一般目標

講義主体の「初等科理科」と組み合わせて履修することにより、理科教育に関する幅広い知識と指導力の修得を目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:小学校理科で扱う地学的事象および生物学的事象について理解することができる。

身近な現象を小学校で扱う地学的事象および生物学的事象と関係づけることができる。

思考・判断の観点:与えられた小学校教材に関する課題に対して仮説を立てて、地学概念および生物概念を用いて、照明することができる。

与えられた課題に積極的に関わり、得られた回答を報告することができる。

関心・意欲の観点:課題内容や実験に積極的に取り組み、そのことを通して身近な自然現象に興味関心をもつようになる。

態度の観点:与えられた課題に対してグループ内で協力しながら取り組むことができる。

得られた結果に対して班内あるいは小グループないで討論し化学的あるいは物理的概念と系統づけることができる。

技能・表現の観点:与えられた課題に対する原理や概念を調べ、結論に結びつけることができる。

学習した内容や結論を要領よくレポートにまとめることができる。

実施される実験の操作が要領よくできる。

その他の観点:物理分野・化学分野によって異なる。

生物分野・地学分野によって異なる。

成績評価方法(総合)

地学分野:レポート100%の評価割合で、評価する(下の観点別評価を参照)。

物理分野:各テーマごとのレポートまたは試験により行う。

化学分野・生物分野:レポート100%の評価割合で、評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001735
開設科目名	初等科理科			単位	2 単位
対象学生	千々和･佐伯クラス			学年	～
担当教員	千々和　一豊, 佐伯　英人			区分	

授業の概要

小学校の理科教育に関する内容について、前半は地学分野、後半は生物分野について講義を中心に、観察･実習をまじえながら学習する。

授業の一般目標

小学校理科における生物および地学分野に関する、学習指導要領及び学習内容を把握するとともに、学習内容の背景にある科学的基礎知識やその指導のあり方を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点:小学校理科の目標を理解する。

教育内容とその理論的な背景について理解することができる。

思考･判断の観点:目標や教育内容をもとに教材の活用方法を考えたり、授業の展開を考えたりすることができる。

関心･意欲の観点:小学校理科に興味をもち、教員としての力量を高めようとする。

態度の観点:意欲的に講義に参加し、主体的に学習することができる。

技能･表現の観点:学んだことをもとに指導案を作成するなど教育実践の場で活用することができるようになる。

成績評価方法(総合)

前半･後半ごとに、出席、小課題、レポートまたは試験により評価し、最終的にはそれらを総合して評価する。前半と後半それぞれで基準点を上回る必要がある。

教科書

小学校学習指導要領解説理科編／文部科学省:大日本図書, 2008

中校学習指導要領解説理科編／文部科学省:大日本図書, 2008

参考書

メッセージ

連絡先

千々和一豊(理科教育選修) chijiwa@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001950
開設科目名	教職概論			単位	2 単位
対象学生	〔人･経･理･工･農〕			学年	～
担当教員	滝沢　潤			区分	

授業の概要

教員免許状の取得を希望する者に対して，教師をとりまく状況，教職の意義，魅力，教員の役割，職務内容，組織としての学校，教職観の変遷等について講義する。

授業の一般目標

⑴ 教師をとりまく状況，教職の意義，魅力について理解し，教員の役割，職務内容等についての基礎的な知識を習得する。

⑵ 自己の教師としての適性を考えさせるとともに，教職への意欲や一体感の形成を促す。

授業の到達目標

知識･理解の観点:教師をとりまく状況，教職の意義，魅力について理解する。教員の役割，職務内容を説明できる。

思考･判断の観点:教師をとりまく状況，教職の役割等について検討することができる。

関心･意欲の観点:教職について関心をもち，その意義と役割を主体的に考えることができる。様々な観点から自己の教師としての適正を考えることができる。

態度の観点:教師を巡る諸問題について，論理的，協調的な議論ができる。

成績評価方法(総合)

⑴ 授業の中で小テストを行う。

⑵ 期末試験の論述問題をあらかじめ提示し，解答案を作成させる。

⑶ 試験期間に期末試験を行う。

教科書

参考書

メッセージ

欠席回数が授業実施数の３分の１以上に及んだ場合には単位は認められない.

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001951
開設科目名	教育原論			単位	2 単位
対象学生	〔人・経〕			学年	～
担当教員	竹本　英代			区分	

授業の概要

授業は、第1部の子ども観・教育観の変遷、第二部の生涯学習社会、第三部の教育の目的・内容・制度の変遷、第四部の教師論から構成される。教育の歴史的な展開を理解しながら、現代の子ども観、教育観などを学び、教育とは何か、教師とは如何にあるべきかについて考えていく。

授業の一般目標

現代における子どもの特質を理解させ、幼児・児童・生徒を指導する教師の役割の今日的意味を考えることを通して、学校教育の目的を認識させるとともに、教職への見通しをさらに具体化させる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:教育学に関する基礎的な知識を習得する。

思考・判断の観点:論理的な小レポートが書ける。

態度の観点:講義にはすべて出席する。

成績評価方法(総合)

出席点、授業態度、小レポート、最終テストにより総合的に評価する。

教科書

参考書

教育原理／柴田義松:学文社, 2003

人間と教育を考える／田井康雄:学術図書出版社, 2003

教育の原理Ⅰ／堀尾輝久編:東京大学出版会, 1998

教育文化論／宮澤康人:放送大学教育振興会, 2003

人間形成の基礎と展開／田原迫龍磨編:コレール社, 2006

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

講義の後。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001952
開設科目名	教育原論			単位	2 単位
対象学生	〔理･工･農〕			学年	～
担当教員	福田　修			区分	

授業の概要

教育を成り立たせる原則について考え，教育の理念･目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる.

授業の一般目標

教育の理念，目標，思想，歴史についての基礎的な理解を得る.

授業の到達目標

知識･理解の観点:教育の理念，目標，思想，歴史について説明できる.

思考･判断の観点:授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる.

態度の観点:教育について系統的に考えようとすることができる.

成績評価方法(総合)

定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する.

教科書

参考書

メッセージ

授業には無断欠席および遅刻をしないこと．遅刻は認めない．授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は，試験の受験資格を失う.

ノートは板書事項以外のことも積極的にとること.

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001953
開設科目名	教育心理学			単位	2 単位
対象学生	〔人文, 経済〕			学年	～
担当教員	田崎　權一			区分	

授業の概要

教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目的を倫理学に、教育の方法を心理学に求める」としている。受講者が、将来、教育現場で、教育実践の効率化に活かせるような心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指定された受講者（担当者）は、その時間のテーマについて、ノートを完成させ、考察した内容の「ノートレポート」を１週間後に提出することになる。提出されたノートレポートは１週間後に返却する。

授業の一般目標

⑴ 受講者が、教職を目指すものとして、教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。⑵ 身近な問題として理解するだけでなく、専門の立場から具体的に考えることや対応へと志向する契機となることを目指す。

⑶ 教育や心理学関連の分野での文章表現を体験する。

授業の到達目標

知識・理解の観点： ⑴ 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。

思考・判断の観点： ⑴ 生徒の立場を理解した上で、教師の立場から適切な判断や支援ができる。

関心・意欲の観点： ⑴ 問題意識を高めることができる。

態度の観点： ⑴ 日常生活の中で主体的に考えることができる。

技能・表現の観点： ⑴ 身近な問題に気づき、文章表現ができる。

成績評価方法(総合)

⑴ 所定以上の出席回数（欠格条件）、⑵ ノートレポート（20%）、⑶ 定期試験（80%）、を資料として評価する。

教科書

心理学からみた教育の世界／藤土　圭三（監修）：北大路書房

参考書

心理学辞典／中島義明ほか（編集）：有斐閣, 1999

メッセージ

連絡先

tasaki@frontier-u.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001954
開設科目名	教育心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	田崎　權一			区分	

授業の概要

教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目的を倫理学に、教育の方法を心理学に求める」としている。受講者が、将来、教育現場で、教育実践の効率化に活かせるような心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指定された受講者（担当者）は、その時間のテーマについて、ノートを完成させ、考察した内容の「ノートレポート」を１週間後に提出することになる。提出されたノートレポートは１週間後に返却する。

授業の一般目標

⑴ 受講者が、教職を目指すものとして、教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。⑵ 身近な問題として理解するだけでなく、専門の立場から具体的に考えることや対応へと志向する契機となることを目指す。

⑶ また、教育や心理学関連の分野での文章表現を体験する。

授業の到達目標

知識・理解の観点： ⑴ 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。

思考・判断の観点： ⑴ 生徒の立場を理解した上で、教師の立場から適切な判断や支援ができる。

関心・意欲の観点： ⑴ 問題意識を高めることができる。

態度の観点： ⑴ 日常生活の中で主体的に考えることができる。

技能・表現の観点： ⑴ 身近な問題に気づき、文章表現ができる。

成績評価方法(総合)

⑴ 所定以上の出席回数（欠格条件）、⑵ ノートレポート（20%）、⑶ 定期試験（80%）、を資料として評価する。

教科書

心理学からみた教育の世界／藤土圭三（監修）：北大路書房

参考書

心理学辞典／中嶋義明ほか（編集）：有斐閣, 1999

メッセージ

連絡先

tasaki@frontier-u.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001956
開設科目名	教育法規			単位	2 単位
対象学生	〔人･経･工〕			学年	～
担当教員	吉田　香奈			区分	

授業の概要

教育法規を初めて学ぶ学生を対象に、日本の教育制度を規定する法令･規則について解説する。

授業の一般目標

教育に関する基本的な法規を理解し、授業で取り上げた教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業の到達目標

知識･理解の観点:教育に関する基本的な制度と法規を説明できる

思考･判断の観点:教育に関する制度と法規をめぐる諸問題について理解し，自分の考えを述べることができる

成績評価方法(総合)

最終回に期末試験を行う

教科書

新しい時代の教育制度と経営／岡本徹･佐々木司編著:ミネルヴァ書房，2009

参考書

メッセージ

連絡先

大学教育センター吉田（共通教育棟3階）、Email: ykana@yamaguchi-u.ac.jp、

オフィスアワー

火曜日 10:30-12:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001957
開設科目名	教育法規			単位	2 単位
対象学生	(理・農)			学年	～
担当教員	小川　勤			区分	

授業の概要

教育法規を初めて学ぶ学生を対象に、日本の教育制度を規定する法令・規則について解説する。生涯学習の概念について概説した後, 学校教育の制度, 教育を受ける権利の保障, 教育課程の編成, 児童生徒の在学管理と懲戒, 教育職員の職務, 教育行政, 社会教育に関する法規について説明する。

授業の一般目標

教育に関する基本的な法規を理解し、教育の諸問題について法的な観点から説明できる

授業の到達目標

知識・理解の観点:教育に関する基本的な法規を理解する

思考・判断の観点:教育の諸問題について法的な観点から説明できる

関心・意欲の観点:身近な教育活動と教育法規との関連について、興味関心を持っている。

成績評価方法(総合)

定期試験は中間試験(第 9 週) と期末試験(第 16 週) の 2 回実施する。

欠格事項: 全授業の4／5以上の出席を受講生に求める。したがって欠席は3回まで。4回以上欠席した場合には単位を認定しない。

教科書

教育法規の要点 第 6 版／福本みちよ:酒井書店, 2008

参考書

メッセージ

・教科書を必ず購入すること。

・毎回授業終了後に、授業に対する感想や質問を授業評価シート(ＥＳシート) に記入してもらう。

連絡先

Email: ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp

研究室ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ogawa-t/

オフィスアワー

小川研究室(共通教育事務棟3階)

毎週金曜日 14:00-16:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001960
開設科目名	教育メディア論(教育課程, 情報機器及び教材を含			単位	2 単位
対象学生	〔工〕			学年	～
担当教員	鷹岡　亮			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001961
開設科目名	中国語科教育法Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	〔人〕			学年	～
担当教員	更科　慎一			区分	

授業の概要

中国語を教えるに当たって必要となる中国語学の知識を講義するとともに、日本における中国語教育の歴史と現状について概観していくかたわら、各種の教材についても紹介する。

授業の一般目標

中国語学の基本的知識を身につけ、中国語の教材を効果的に使いこなすとともに、中国語をめぐる日中関係の歴史と現状について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:発音、文法、基礎語彙、正書法、規範など、中国語を教える上でぜひ必要な中国語学の知識について理解する。
教科書、辞書、参考書など、各種教材の特性について理解する。
思考・判断の観点:中国語の特徴、特に日本語との違いを踏まえ、日本語の母語話者の特性に合った中国語教育の実践を開拓していくことができる。
関心・意欲の観点:中国語教育法について主体的に学び、調べる意欲を持つ。
態度の観点:日本における中国語教育の歴史を踏まえ、中国語を学ぶことの意義について、自身の考えを持つ。

成績評価方法(総合)

各回の授業では、テーマと関連した課題を実際に解いたり、その回でいちばん関心を持った内容について小レポートを書いたりしてもらう。また、学期末には自身の関心を持ったテーマについてレポートを提出してもらう。

教科書

中国語の教え方・学び方―中国語科教育法概説―／輿水優:冨山房インターナショナル, 2005

参考書

メッセージ

教えることは学ぶことと一体です。私とともに、中国語そのものの研鑽に励んでください。

連絡先

研究室:人文学部研究棟5階516室　電話:083-933-5250

オフィスアワー

月曜日 12:50-16:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001962
開設科目名	情報科教育法II			単位	2 単位
対象学生	〔工〕			学年	～
担当教員	横田　学			区分	

授業の概要

教科「情報」の各課題の選択・検討及び教材化の観点や工夫、問題解決法などの学習を通して、学習指導計画・学習指導案を立案できる能力を身につける。また、授業実践例の分析や問題把握、マイクロティーチング、模擬授業の実施を通して実践的な指導力を養う。

授業の一般目標

(1)教科「情報」の学習指導計画・学習指導案が立案できる。

(2)模擬授業の実施を通して、情報教育の実践的な指導力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1.教科「情報」の特徴・内容を説明できる。

2.自分および他人の模擬授業を観点に基づき、評価できる。

思考・判断の観点:1.教科「情報」のねらいと学習指導計画の関係について自分の意見を論理的に述べることができる。

関心・意欲の観点:1.教科「情報」に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。

態度の観点:1.社会における情報に関する諸問題と学習指導の関係について主体的に考えることができる。

2.他人の意見を尊重し、協調的、建設的な討議が行える。

技能・表現の観点:1.模擬授業の内容を改善するために、効果的な指導方法を選択することができる。

成績評価方法(総合)

演習、マイクロティーチング、模擬授業の結果について、問題点、改善された点、反省等のレポートの提出を適宜求める。特に模擬授業の評価については、担当教官の評価だけでなく、授業者の自己評価、他の受講者の相互評価を総合して行う。

教科書

情報教育の理論と実践／林徳治:実教出版, 2002

参考書

メッセージ

基本的に、皆さんが主体的に作業・発表しなければならない授業です。授業内では、個人やグループ単位で作業をして、発表(授業実施含む)を行ってもらいます。

受講に際しては、各自ノートパソコンを持参してください。なお、授業の連絡等は、下記の授業HPに掲示します。

http://www.yokota-inet.jp/yama/

連絡先

yama@yokota-inet.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001963
開設科目名	道徳教育			単位	2単位
対象学生	〔人〕			学年	～
担当教員	西村　正登			区分	

授業の概要

学習指導要領を基にして、道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、道徳授業の方法を、「モラルジレンマ」「構造化方式」「価値の明確化」「エンカウンター方式」「ロールプレイング」「内観法」の6つの観点から追究し、指導案と授業の実際例を参考にしながら指導案の書き方を学び、道徳授業の展開の仕方について考察する。

授業の一般目標

1. 学習指導要領を基にして、道徳教育と「道徳の時間」の目的と目標について学び、考察で　きる。
2. 学習指導要領を基にして、道徳教育の4つの内容について学び、考察できる。
3. 道徳授業の方法を、「モラルジレンマ」「構造化方式」「価値の明確化」「エンカウンタ　ー方式」「ロールプレイング」「内観法」の6つの観点から追究し、指導案とと授業の実際　例を参考にしながら指導案の書き方を学び、道徳授業の展開の仕方について考察できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1. 道徳教育の目的について説明できる。
2. 「道徳の時間」の目標について説明できる。
3. 道徳教育の4つの内容について説明できる。
4. 道徳授業の方法を6つの観点から説明できる。

思考・判断の観点: 1. 道徳教育の目的である「道徳性」の概念について考察できる。
2. 道徳教育の目的と「道徳の時間」の目標の相違について考察できる。
3. 道徳教育の4つの内容を学年段階別に具体的に考察できる。
4. 道徳授業の方法の理論的背景を6つの観点別に考察できる。

関心・意欲の観点: 1. 道徳教育の必要性に対して関心や意欲を高めることができる。
2. 道徳教育の理論に対して関心や意欲を高めることができる。
3. 道徳授業の方法に対して関心や意欲を高めることができる。
4. 新しい道徳授業の方法を開拓していこうとする関心や意欲を高めることができる。

態度の観点: 1. 道徳教育の理論を実際の道徳授業に活用する態度を養うことができる。
2. 新しい道徳授業の方法を開拓していこうとする態度を養うことができる。

技能・表現の観点: 1. 道徳教育の理論を教育実習で活用することができる。
2. 道徳授業の方法を教育実習で活用することができる。

成績評価方法(総合)

筆記試験に授業への出席状況を加味して評価する。

教科書

現代道徳教育の構想／西村正登:風間書房, 2008

参考書

メッセージ

教育実習が6月に挟まれますので、道徳教育の理論や道徳授業の方法を教育実習で活用できる
よう、授業で目的意識を持って学習して下さい。

連絡先

教育学部・教育哲学研究室
内線:5450
メールアドレス:masaton@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日　12時～12時50分

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001967
開設科目名	生徒指導概論			単位	2 単位
対象学生	〔人･経･理･工･農〕			学年	～
担当教員	黒田　耕司			区分	

授業の概要

今日、「学級経営」や「生徒指導」に関する学校教育のあり方が厳しく問われている。この授業では、学校教育の全領域における「生徒指導」の原則と指導方法を検討し、現代の学校教育における「生徒指導」のあり方を探求する。

授業の一般目標

1. 「生徒指導」および「指導」の概念を問いなおす。
2. 学びを通して、コミュニケーションの実践的能力を培う。
3. 子どもとともに拓く「生徒指導」とは何かを考えていく。

授業の到達目標

知識･理解の観点:「生徒指導」の基本理念･基本概念･基本方略を理解すること。

思考･判断の観点:「生徒指導」について思考･判断し、自らの言葉で発言･論述できること。

関心･意欲の観点:授業中に提示される様々な課題に積極的な関心と意欲をもつこと。

態度の観点:主体的に考え、発表すべく行動表現すること。

技能･表現の観点:発言や記述や討論に参加できること。

その他の観点:（正当な理由なく）欠席や遅刻や早退をしないこと。また、私語や居眠りをしないこと。

成績評価方法(総合)

(1)講義中に小論課題の問題を課す。

(2)最後に試験を実施する。

なお、出席が所定の回数に満たない者には単位は与えない。

教科書

参考書

メッセージ

授業に「出席」することと「参加」することとは異なる。ただ授業に「出席」しているというのではなく、積極的な身体的応答と意志をもって授業に「参加」し、共同的に学んでいくことを強く期待している。

連絡先

授業の前後に相談を受け付ける。

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001968
開設科目名	教育相談･進路指導			単位	2 単位
対象学生	〔理･農〕			学年	～
担当教員	田崎　權一			区分	

授業の概要

教科指導の前に、生徒との信頼関係の構築が大切である。教育相談と進路指導の知識や具体的な方法を説明する。また、いくつかの事例（ケース）を紹介し、指導者の立場からどう対応すればよいのかを受講者自らも考える機会とする。

授業の一般目標

⑴ 教職を目指すものとしてのカウンセリング･マインドを身につける必要性、そのための具体的方法の理解を深めることを目指す。

⑵ 進路指導を身近な問題として把握し、その具体的な活動内容･項目を概観する。

⑶ 具体的な方法を考え、適切な判断や対応ができるような態度を身につけることを目指す。

授業の到達目標

知識･理解の観点： ⑴ 教育相談･進路指導の基礎知識を説明できる。

思考･判断の観点： ⑴ 進路に関する情報と生徒の立場を把握できる。

関心･意欲の観点： ⑴ 問題意識を高めることができる。

態度の観点： ⑴ 生徒を共感的に理解しながら、生徒を目的として対応できる。

技能･表現の観点： ⑴ 簡単な受理面接ができる。

成績評価方法(総合)

⑴ 所定以上の出席状況（欠格条件）、⑵ 授業内レポート（10%）、⑶ 授業外レポート（10%）、⑷ 定期試験（80%）。これらを資料として評価する。

教科書

心理学からみた教育の世界／藤土圭三（監修）：北大路書房

参考書

メッセージ

連絡先

tasaki@frontier-u.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001969
開設科目名	教育相談･進路指導			単位	2 単位
対象学生	〔工〕			学年	～
担当教員	深野　清香			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001976
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	〔工〕			学年	～
担当教員	三池　秀敏			区分	

授業の概要

インターネット上における情報収集および発信に関して，これまでの講義で得た知識･技能を基にして具体的なシステムを構築してみる.

授業の一般目標

インターネット上における情報収集方法の仕組みを理解する.

インターネット上における情報発信方法の仕組みを理解する.

Web ページの作成方法を理解する.

インターネット上の情報送受信に関する法規を正しく理解する.

授業の到達目標

知識･理解の観点:インターネット上の情報送受信の仕組みを理解する

検索エンジンの基礎理論を理解する

著作権および関連する諸権利を正しく理解する

Web ページが自分で作成できる

思考･判断の観点: Web ページ作成の際に利用可能な情報か否かを判別できる

目的にあった Web ページを構築できる

関心･意欲の観点:インターネット上での情報発信と受信への関心･意欲を涵養する

態度の観点:演習科目であることから、90%以上の授業参加を基本とし、60%未満の出席状況では単位取得資格が無い。

技能･表現の観点:見栄えの良い Web ページを作成できる

その他の観点:チーム内で担当を決め，計画にあわせて協力して作業ができる

成績評価方法(総合)

2回のプレゼンテーションの成績，および作成した Web ページの出来栄えによって評価する

教科書

参考書

メッセージ

「情報」教育職員免許に関する科目. 教職免許取得予定者のみ受講可能

連絡先

多田村克己　tadamura@yamaguchi-u.ac.jp，大学内線

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021001977
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	〔農〕			学年	～
担当教員	藤間　充			区分	

授業の概要

農業に関する基礎的な知識など、これまでに学んできたことを、生徒に伝えるという教員に必要な技術を修得するために、座学、実習を組み合わせて行う。

授業の一般目標

農業の基礎的知識･技術の再確認をするとともに、プレゼンテーション技術、コミュニケーションスキルの向上を目指す。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 農業に基礎について理解する。

思考･判断の観点: 自らの知識を他者に伝える方法を考える。

関心･意欲の観点: 農業を取り巻く、自然現象、社会現象に興味を持つ

態度の観点: 積極的に議論に参加し、意見を述べる

技能･表現の観点: プレゼンテーション技術を身につける

成績評価方法(総合)

出席、プレゼンテーション内容と聴衆からの評価、ディスカッション中の発言、レポートなどを総合して判断する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005018
開設科目名	国際理解教育論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	石井　由理			区分	

授業の概要

国際理解教育を実践するにあたり、必要とされる国際的な課題に関する基礎的な知識や理論を学ぶとともに、それをわかりやすく人に教える方法について検討する。

授業の一般目標

国際理解教育とは何かを理解する。

国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる

国際理解教育を学校で行う際の計画をたてる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:国際理解教育の理念と歴史を理解する。

地球的な課題について理解し、自分の意見がもてる。

思考・判断の観点:学校で実践する際にどのような内容にすればよいかを考え、判断できる。

批判的に考えることができる。

関心・意欲の観点:学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。

複雑な国際問題を理解しようとする。

態度の観点:授業中に行われる討論や活動に主体的に参加できる。

技能・表現の観点:自分の考えた授業について、わかりやすく記述し、発表することができる。

成績評価方法(総合)

3 分の 2 以上出席の受講生に対し、授業中に発表する各自の授業の指導案とそれをまとめたレポートによる総合評価

教科書

参考書

不都合な真実／アル・ゴア：ランダムハウス, 2007

地球市民教育の進め方／ヒックス／スタイナー：明石書店, 1997

現代アフリカの紛争／武内進一：アジア経済研究所, 2000

メッセージ

連絡先

教育学部200－1研究室

オフィスアワー

初回授業時に指示。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005039
開設科目名	教育法規			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐々木　司			区分	

授業の概要

教員採用試験受験予定者、教育問題に関心のある者、教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけわかりやすく解説する。講義形式の授業であるが、適宜、意見などを求める。

授業の一般目標

主要な教育法規に関する基礎的知識を獲得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:日本国憲法、教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法、地方公務員法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律など、とりわけ教職に就く者にとって大切な教育関係法規の主要な条文を判別できる。そこに述べられていることの意味を正しく理解できる。

思考・判断の観点:教育関係法規を法体系のなかで構造的に捉えることができる。

関心・意欲の観点:指定テキストの事前通読を行い、授業後は授業内容を復習できる。

態度の観点:予め、テキスト中の該当箇所を読んでから授業に参加する。授業中は、集中力を持続して聴講する。

技能・表現の観点:法規定されている事柄の意味を、的確に解説することができる。

成績評価方法(総合)

期末試験の成績に基づいて成績評価を行う。

教科書

新しい時代の教育制度と経営／岡本徹・佐々木司:ミネルヴァ書房, 2009

参考書

メッセージ

第1回目の授業で、本授業のことを詳しく説明する。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005068
開設科目名	教育相談･進路指導			単位	2 単位
対象学生	教員養成, 人間, 心理			学年	～
担当教員	大石　英史			区分	

授業の概要

学校における教育相談及び進路指導のあり方について、いくつかのテーマを掲げながら、具体的かつ実践的に考えていきます。

授業の一般目標

これからの教師に求められている課題を理解するとともに、教育相談及び進路指導を行う際の実践的知識を身につけることが目標です。

授業の到達目標

知識･理解の観点:学校教育相談及び進路指導に関する基礎知識を獲得する。

思考･判断の観点:知識を実践の中で活用できる力を身につける。

関心･意欲の観点:教育相談活動への高い関心と意欲をもつ。

態度の観点:児童生徒にかかわっていく際に、常に自分の経験を基盤に内省していく態度を確立する。

技能･表現の観点:課されたレポートにおいて、自分の意見を自分の言葉で表現できる。

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

教育相談　基礎の基礎／島崎政男･学事出版, 2001

生きる力を育む生徒指導／宮下一博･河野荘子編著:北樹出版, 2005

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005069
開設科目名	生徒指導概論			単位	2 単位
対象学生	非養成			学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

生徒指導の意義、目的を理解し、教師と子ども理解の基本となる感受性の問題を考察する

授業の一般目標

生徒指導の意義、目的を理解し、生徒指導における感受性の育み方に関する自身の意見を記述できるようになる

授業の到達目標

知識・理解の観点:生徒指導の意義、目的を理解する

思考・判断の観点:他者理解における感受性の育み方を具体的事例の中で捉えられるようになる

関心・意欲の観点:感受性について自身の問題にひきつけて考え、表現できるようになる

成績評価方法(総合)

(1)授業中にミニレポートを課す。(2)中間試験を行う。(3)期末に筆記試験を実施する。

教科書

『感受性を育む――現象学的教育学への誘い』　／中田基昭:東京大学出版会, 2008

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005088
開設科目名	教育心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	田邊　敏明			区分	

授業の概要

学校での教育活動において、まず子どもをどのようにとらえていけばよいか概観する。次に児童･生徒の発達の原理と教授学習の方法、さらに個性の理解と方法、加えて障害児童生徒の心理、最後に教育における評価のあり方について学んでいく。

授業の一般目標

現代の教育が遭遇しているさまざまな問題に対して、教育心理学的な観点から、その解決に役立つ知識を与え、さらに教科指導だけでなく、生徒指導的な面からも教師としての資質を身につけることを目的とする。特に学力低下問題に対して教育心理学からどのような対策があるかを考えてみたい。さらに不登校、いじめといった問題に対し、社会の問題をふまえた上で、全人格を発展させる観点から追求していく。

授業の到達目標

知識･理解の観点:特に子どもの記憶と理解がどのように行われているかについて、認知心理学からの知見を理解することが求められる。

思考･判断の観点:学習の指導法にいろいろな方法があることに気づく。また個々の子どもに適するような指導法を自らが考えていけるような判断力を身につける。

関心･意欲の観点:教育心理学の指導法や心理療法の中で、どの指導法、あるいはどのような心理療法を採用するか、またどのようなタイプの子どもにはどのような指導法が適し、またどのような心のケアーが適しているかなどの問題に答えられるような関心･意欲が求められる。

態度の観点:教師になると仮定して、どのような指導法を用いて授業をするかがイメージできるような態度が求められる。

成績評価方法(総合)

定期試験を重視するが、途中で実施する小テストおよび課題、ならびに出席も評価に入れて、総合的に評価する。

教科書

心理学から見た教育の世界／藤土圭三(監修)：北大路書房, 1994

参考書

教室でどう教えるかどう学ぶか　ー認知心理学からの教育方法論／吉田 甫･栗山和広：北大路書房, 1992

メッセージ

期末試験が重視されるが、レポート課題を数回出すので、その提出も忘れないこと

連絡先

ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日 18:00～19:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005141
開設科目名	生徒指導概論			単位	2 単位
対象学生	教員養成			学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

生徒指導の意義、目的を理解し、教師と子ども理解の基本となる感受性の問題を考察する

授業の一般目標

生徒指導の意義、目的を理解し、生徒指導における感受性の育み方に関する自身の意見を記述できるようになる

授業の到達目標

知識・理解の観点：生徒指導の意義、目的を理解する

思考・判断の観点：他者理解における感受性の育み方を具体的事例の中で捉えられるようになる

関心・意欲の観点：感受性について自身の問題にひきつけて考え、表現できるようになる

成績評価方法(総合)

(1)授業中にミニレポートを課す。(2)中間試験を行う。(3)期末に筆記試験を実施する。

教科書

『感受性を育む――現象学的教育学への誘い』　／中田基昭：東京大学出版会，2008

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005150
開設科目名	道徳教育			単位	2単位
対象学生	非養成			学年	～
担当教員	西村　正登			区分	

授業の概要

授業の概要を入力してください。この項目は必ず入力してください。共通教育ではシラバスのこの部分とテキストの部分を印刷し、新入生に配布し履修選択の手助けとします。したがって、共通教育の授業の場合にはここには新入生でもよく分かるような平易な授業案内を記載してください。

授業の一般目標

1. 学習指導要領を基にして、道徳教育と「道徳の時間」の目的と目標について学び、考察で　きる。
2. 学習指導要領を基にして、道徳教育の4つの内容について学び、考察できる。
3. 道徳授業の方法を、「モラルジレンマ」「構造化方式」「価値の明確化」「エンカウンタ　ー方式」「ロールプレイング」「内観法」の6つの観点から追究し、指導案とと授業の実際　例を参考にしながら指導案の書き方を学び、道徳授業の展開の仕方について考察できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1. 道徳教育の目的について説明できる。
2. 「道徳の時間」の目標について説明できる。
3. 道徳教育の4つの内容について説明できる。
4. 道徳授業の方法を6つの観点から説明できる。

思考・判断の観点: 1. 道徳教育の目的である「道徳性」の概念について考察できる。
2. 道徳教育の目的と「道徳の時間」の目標の相違について考察できる。
3. 道徳教育の4つの内容を学年段階別に具体的に考察できる。
4. 道徳授業の方法の理論的背景を6つの観点別に考察できる。

関心・意欲の観点: 1. 道徳教育の必要性に対して関心や意欲を高めることができる。
2. 道徳教育の理論に対して関心や意欲を高めることができる。
3. 道徳授業の方法に対して関心や意欲を高めることができる。
4. 新しい道徳授業の方法を開拓していこうとする関心や意欲を高めることができる。

態度の観点: 1. 道徳教育の理論を実際の道徳授業に活用する態度を養うことができる。
2. 新しい道徳授業の方法を開拓していこうとする態度を養うことができる

技能・表現の観点: 1. 道徳教育の理論を教育実習で活用することができる。
2. 道徳授業の方法を教育実習で活用することができる。

成績評価方法(総合)

筆記試験に授業への出席状況を加味して評価する。

教科書

現代道徳教育の構想／西村正登:風間書房, 2008

参考書

メッセージ

教育実習が6月に挟まれますので、道徳教育の理論や道徳授業の方法を教育実習で活用できる
よう、授業で目的意識を持って学習して下さい。

連絡先

教育学部・教育哲学研究室
内線:5450
メールアドレス:masaton@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日　12時～12時50分

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005187
開設科目名	教育社会学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	田中　理絵			区分	

授業の概要

本講義では、準拠集団における子どもの社会的発達（＝社会化）について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎を習得することを目的とする。家族集団・仲間集団・学校集団における子どもの社会化機能と現代的問題について講義を行う。

授業の一般目標

(1)社会化理論の基礎的理解。

(2)準拠集団における子どもの社会的発達に関する知見の深化。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 社会化概念について説明できる。

2. 子どもの発達に対する準拠集団の実態・課題について説明できる。

思考・判断の観点：1. 講義中で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。

関心・意欲の観点：1. 現代社会における「子ども・教育」問題を指摘できる。

2. その出現・解決のメカニズムについて自分なりに解決しようとする意志を示す。

態度の観点：1. 子どもの社会性の発達に関して主体的に考える。

成績評価方法(総合)

(1)授業中にミニレポートを課す。(2)授業外でレポートを課す。(3)期末に筆記試験を実施する。

教科書

子どもの発達と現代社会：教育社会学講義／住田正樹・高島秀樹：北樹出版, 2002

参考書

メッセージ

教科書のデータを多用しますので 2 週目以降は必ず用意しておくこと。

連絡先

教育社会学研究室、ta-na@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 10:20-12:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005207
開設科目名	教育心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　廣			区分	

授業の概要

学校、家庭、社会におけるさまざまな教育的営みを心理学的にとらえていったり、そうした類のデータを概観するとき、どのようなことに注意しなければならないのかについて論考する。

授業の一般目標

教育にかかわる諸現象を心理学的な視点で捉え、必要に応じて教育データを収集したりする際の留意事項や基礎的知識を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

基本は定期試験であるが、授業内でのミニレポートなどにより、関心意欲も評価する。

教科書

心理学からみた教育の世界／藤土圭三 (監修) ：京都：北大路書房, 1994

参考書

メッセージ

講義時配付資料とテキストを援用しながらの講話中心の講義である。自分なりの工夫された講義ノートを作成し、それをテストに活用されたい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005211
開設科目名	教職概論			単位	2 単位
対象学生	教員養成			学年	～
担当教員	村上　清文			区分	

授業の概要

教員免許状取得希望者に対して、教職の意義、魅力や教職や学校教育等に関する基礎的知識、技能等について説明する。

授業の一般目標

1）教職の意義、魅力や使命感を理解し、教職への情熱や志向性をもつことができる。

2）今後の学習や諸活動に取り組む積極的な構えをもち、教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

3）教職や学校教育等についての基礎的知識、技能が分かり、教員としての見方考え方や指導方法等について理解することができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：教職や学校教育等に関する基礎的知識、技能等の習得

思考・判断の観点：教職の意義や使命感に基づいた教員としての思考、判断の習得

関心・意欲の観点：教職への関心、意欲の向上と積極的な構えの習得

成績評価方法(総合)

課題レポート、出席を総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

教職に対する意欲や知識を育む授業です。積極的かつ真摯に臨んでください。授業には欠席、遅刻等が無いようにしてください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005212
開設科目名	教育メディア論（教育課程，情報機器及び教材を含			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	鷹岡　亮			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005229
開設科目名	教職概論			単位	2 単位
対象学生	非養成			学年	～
担当教員	村上　清文			区分	

授業の概要

教員免許状取得希望者に対して、教職の意義、魅力や教職や学校教育等に関する基礎的知識、技能等について説明する。

授業の一般目標

1）教職の意義、魅力や使命感を理解し、教職への情熱や志向性をもつことができる。

2）今後の学習や諸活動に取り組む積極的な構えをもち、教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。

3）教職や学校教育等についての基礎的知識、技能が分かり、教員としての見方考え方や指導方法等について理解することができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：教職や学校教育等に関する基礎的知識、技能等の習得

思考・判断の観点：教職の意義や使命感に基づいた教員としての思考、判断の習得

関心・意欲の観点：教職への関心、意欲の向上と積極的な構えの習得

成績評価方法(総合)

課題レポート、出席を総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

教職に対する意欲や知識を育む授業です。積極的かつ真摯に臨んでください。授業には欠席、遅刻等が無いようにしてください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005243
開設科目名	教育方法学（教育課程，情報機器及び教材を含む。			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

教育方法、特に他者理解の問題、教育課程、情報機器及び教材に関し、基礎的な考え方を学ぶ

授業の一般目標

教育方法、特に他者理解の問題、教育課程、情報機器及び教材に関し、基礎的な考え方を学び理論的に記述できるようになる

授業の到達目標

知識・理解の観点：教育方法の基礎的な考えを理解する

思考・判断の観点：教育方法に関し独自の観点から問題を捉える

関心・意欲の観点：

教育方法に関し自分自身にひきつけて考える

成績評価方法(総合)

期末テスト

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005262
開設科目名	教育原論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　修			区分	

授業の概要

教育を成り立たせる原則について考え，教育の理念･目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる.

授業の一般目標

教育の理念，目標，思想，歴史についての基礎的な理解を得る.

授業の到達目標

知識･理解の観点:教育の理念，目標，思想，歴史について説明できる.

思考･判断の観点:授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる.

態度の観点:教育について系統的に考えようとすることができる.

成績評価方法(総合)

定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する.

教科書

参考書

メッセージ

授業には無断欠席および遅刻をしないこと．遅刻は認めない．授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は，試験の受験資格を失う.

ノートは板書事項以外のことも積極的にとること.

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005285
開設科目名	教育原論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　修			区分	

授業の概要

教育を成り立たせる原則について考え，教育の理念･目標とそれを支える思想の歴史的展開について講じる.

授業の一般目標

教育の理念，目標，思想，歴史についての基礎的な理解を得る.

授業の到達目標

知識･理解の観点:教育の理念，目標，思想，歴史について説明できる.

思考･判断の観点:授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる.

態度の観点:教育について系統的に考えようとすることができる.

成績評価方法(総合)

定期試験期間内に行われる筆記試験の点数に出席点を若干加えて評価する.

教科書

参考書

メッセージ

授業には無断欠席および遅刻をしないこと．遅刻は認めない．授業実施回数の3分の1以上欠席した場合は，試験の受験資格を失う.

ノートは板書事項以外のことも積極的にとること.

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005298
開設科目名	教育相談･進路指導			単位	2 単位
対象学生	表情, 数理, スポ, 生健, 国文, 文芸			学年	～
担当教員	田邊　敏明			区分	

授業の概要

現在の学校は、不登校、いじめ、校内暴力など、さまざまな問題に直面している。その学校に生きる子どもたちに教師やスクールカウンセラーがいかに寄り添えば、彼らの心が育っていくかについて提言し、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。

授業の一般目標

学校にうまく適応できなかったり、進路選択に迷っている子どもたちに対し、教師としてあるいはスクールカウンセラーとして、どのようにサポートしていけばよいだろうか。学生自身の指針が描けるような講義にしたい。さらにそれぞれの子どもは、もっている問題も、置かれている状況も違うので、個々のケースに対応しうるような教育相談のセンスを養いたい。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 子どものもつ問題には、いろいろな見方ができることを学ぶ。特に個性の伸張と社会の成員としての資質の向上という相矛盾する課題を、いかに克服していくかが鍵となる。そのためには、子どもを「支え」かつ「引き上げる」のせめぎ合いの葛藤の中で、解決策を、教師自らが苦しみながら生みしていくことが大切である。さらに基本的な心理療法の知識についても修得したい。

思考･判断の観点: 個々のケースにおいて、どのようなサポートの仕方があるかが判断できるような力を養いたい。

関心･意欲の観点: 評論家的に子どもを評価するのではなく、個々のケースに沿った見方ができるようになりたい。

態度の観点: 今までの見方をあえて変えてみるような勇気を求めたい。

成績評価方法(総合)

基本的には期末試験を重視するが、授業の途中で行う小テストや課題提出および出席も加えて総合的に評価する。

教科書

参考書

教室で生かすカウンセリングマインド　―教師の立場でできるカウンセリングとは／桑原知子:日本評論社, 1999

生徒指導の知と心／山下一夫:日本評論社, 1999

メッセージ

授業内容を理解しているかをチェックする小テスト、レポート課題を数回実施します。

期末試験と同様に準備を怠らないこと。

連絡先

E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日 18:00～19:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021005313
開設科目名	道徳教育			単位	2単位
対象学生	教員養成			学年	～
担当教員	西村　正登			区分	

授業の概要

授業の概要を入力してください。この項目は必ず入力してください。共通教育ではシラバスのこの部分とテキストの部分を印刷し、新入生に配布し履修選択の手助けとします。したがって、共通教育の授業の場合にはここには新入生でもよく分かるような平易な授業案内を記載してください。

授業の一般目標

1. 学習指導要領を基にして、道徳教育と「道徳の時間」の目的と目標について学び、考察で　きる。
2. 学習指導要領を基にして、道徳教育の4つの内容について学び、考察できる。
3. 道徳授業の方法を、「モラルジレンマ」「構造化方式」「価値の明確化」「エンカウンタ　ー方式」「ロールプレイング」「内観法」の6つの観点から追究し、指導案とと授業の実際　例を参考にしながら指導案の書き方を学び、道徳授業の展開の仕方について考察できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1. 道徳教育の目的について説明できる。
2. 「道徳の時間」の目標について説明できる。
3. 道徳教育の4つの内容について説明できる。
4. 道徳授業の方法を6つの観点から説明できる。

思考・判断の観点: 1. 道徳教育の目的である「道徳性」の概念について考察できる。
2. 道徳教育の目的と「道徳の時間」の目標の相違について考察できる。
3. 道徳教育の4つの内容を学年段階別に具体的に考察できる。
4. 道徳授業の方法の理論的背景を6つの観点別に考察できる。

関心・意欲の観点: 1. 道徳教育の必要性に対して関心や意欲を高めることができる。
2. 道徳教育の理論に対して関心や意欲を高めることができる。
3. 道徳授業の方法に対して関心や意欲を高めることができる。
4. 新しい道徳授業の方法を開拓していこうとする関心や意欲を高めることができる。

態度の観点: 1. 道徳教育の理論を実際の道徳授業に活用する態度を養うことができる。
2. 新しい道徳授業の方法を開拓していこうとする態度を養うことができる

技能・表現の観点: 1. 道徳教育の理論を教育実習で活用することができる。
2. 道徳授業の方法を教育実習で活用することができる。

成績評価方法(総合)

筆記試験に授業への出席状況を加味して評価する。

教科書

現代道徳教育の構想／西村正登:風間書房, 2008

参考書

メッセージ

教育実習が6月に挟まれますので、道徳教育の理論や道徳授業の方法を教育実習で活用できる
よう、授業で目的意識を持って学習して下さい。

連絡先

教育学部・教育哲学研究室
内線:5450
メールアドレス:masaton@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日　12時～12時50分

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011019
開設科目名	国文学講読Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

万葉集の歌で季節、恋、旅行など現代の我々でも身近に接するものを対象とした歌を取り上げ、鑑賞する。

授業の一般目標

古典文学の対象となるものが我々にも身近な所にあり、それらを当時の人はどのようにとらえていたのかを探り、同時に個々の歌をの意味を各自で考えられるようにする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:万葉集の時代について、だいたいのイメージがつかめるようにする。

思考・判断の観点:万葉集の人たちが何を思い、どのように活きたかを考える。

関心・意欲の観点:現代と異なる点や変化していない点などを比較して、古典に対して親しみを持つようにする。

成績評価方法(総合)

毎回、授業狩猟字に質問、意見、感想などを電子掲示板に記入してもらう。

そのことにより、出欠をとる。

教科書

参考書

メッセージ

メディア基盤センターの PC を使用するので、ID、パスワードを忘れないこと。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011215
開設科目名	国文学講読III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	村上　林造			区分	

授業の概要

作品論等の研究論文を読み、検討、理解することで、文学研究の実際に触れ、作品の分析、把握についてのイメージを豊かにし、自ら作品を分析する力を養う。

授業の一般目標

作品分析についてのイメージを深め、自ら作品を分析する力を養う。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

学期中のレポートと期末レポートを総合的に判断して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011247
開設科目名	国語特論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	中野 伸彦			学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

日本語についての様々な問題を、発表及びそれに対する討議という形で考えていく。国語特演Ⅰ･Ⅱを受けて、よりテーマを絞っていきながら考察を行う。

授業の一般目標

討議の場を通して、日本語をめぐる問題について自ら考えていくことが出来る。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。

思考･判断の観点: 日本語をめぐる様々な問題について、自ら考察を発展させることができる。

関心･意欲の観点: 日本語をめぐる様々な問題に興味を持つことができる。

成績評価方法(総合)

授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス:n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp

研究室:教育学部4階

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011300
開設科目名	国語特演Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	岸本 憲一良			学年	～
担当教員	岸本　憲一良			区分	

授業の概要

授業の形式は概ね演習形式で、あるテーマを基に受講生の一人が発表し、そのことについて受講生全員で討議するという形をとることが多い。

授業の一般目標

国語科教育に関する内容について研究を進める。

授業の到達目標

知識・理解の観点：研究分野に関する内容を理解することができる。

思考・判断の観点：諸氏の論にあたり、考察を加えることができる。

関心・意欲の観点：研究分野に関する文献研究、調査研究等にあたることができる。

態度の観点：積極的に授業に参加し、発表することができる。

技能・表現の観点：自己の考察をレポート等にまとめ、発表することができる。

成績評価方法(総合)

発表内容、討議の際の態度等で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011301
開設科目名	国語特演Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	村上 林造			学年	～
担当教員	村上　林造			区分	

授業の概要

作品研究を演習形式で行う。受講生はレポート発表を行い、全員で作品について討議する。

授業の一般目標

作品分析の基礎を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：作品分析の基礎知識を身につける。

思考・判断の観点：作品分析に必要な思考力を身につけている。

関心・意欲の観点：作品分析に意欲的に取り組むことができる。

態度の観点：作品分析に真面目かつ熱心に取り組むことができる。

技能・表現の観点：作品分析において必要な表現力を身につけている。

成績評価方法(総合)

授業でのレポート発表と演習への参加態度によって、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011302
開設科目名	国語特演Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	中野 伸彦			学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

日本語についての様々な問題を、発表及びそれに対する討議という形で考えていく。

授業の一般目標

討議の場を通しながら、日本語をめぐる問題について自ら考えていくことができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。

思考・判断の観点：日本語をめぐる様々な問題について、自ら考察を発展させることができる。

関心・意欲の観点：日本語についての様々な問題に興味を持つことができる。

成績評価方法(総合)

授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部4階

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011303
開設科目名	国語特演Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	藤原 マリ子			学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

国語科教育の諸問題について検討する。授業は演習形式で行う。発表担当者が行った発表内容をもとに、全員で自由に討議を加えて問題への理解を深めてゆく。

授業の一般目標

⑴ 国語科教育の諸問題についての認識を深める。

⑵ 調査･資料収集の方法や問題解決の方法、レポートのまとめ方等の、研究の基本的な技能を修得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:国語科教育の諸問題について理解し、説明することができる

思考･判断の観点:課題の問題点について、広い視野から論理的に考察することができる。

関心･意欲の観点:国語科教育の課題について関心を拡げ、高い問題意識を持つことができる。

態度の観点:積極的に調査･研究活動に当たることができる。

技能･表現の観点:自己の見解や調査結果を、口頭や文章で適切に表現することができる。

成績評価方法(総合)

各自が担当する演習発表の内容および授業への参加状況に基づき、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011304
開設科目名	国語特演Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	吉村 誠			学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

卒論にかかわる各自のテーマを個別に指導する。

授業の一般目標

卒業論文を書けるようにする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:対象とする古典文学作品の基本的な読みが出来るようにする

思考・判断の観点:論の組み立てが出来るようにする。

成績評価方法(総合)

平常の発表

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011305
開設科目名	国語特演Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	南部 英彦			学年	～
担当教員	南部　英彦			区分	

授業の概要

漢文学の授業。授業の形式は概ね演習形式。受講生が自分でテーマを定め、発表
し、それを受講生全員で討議する。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、そのテーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方･発表の仕方を習得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 自分の調査する事柄について、しかるべき知識と理解を得ることができるか。

思考･判断の観点: しかるべき根拠に基づきながら、穏当に思考し、適切に判断することができるか。

態度の観点: 調査の姿勢、発表の態度が誠実であるか。

又、他の発表者に対して、真摯な態度で意見を述べることができるか。

成績評価方法(総合)

基本的には、発表内容をもとにして、テーマ設定における主体性の有無、資料調査の綿密さ、資料読解の適切さ等の観点から総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011321
開設科目名	国語特論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	南部 英彦			学年	～
担当教員	南部　英彦			区分	

授業の概要

各自の設定したテーマに応じて、調査･発表の仕方及び論文作成の方法について指導を行う。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方･発表の仕方を習得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 自分の関心事項について、必要最低限の知識･理解を得ることができる。

思考･判断の観点: しかるべき根拠に基づいて、穏当に思考し判断することができる。

態度の観点: 発表において真摯な態度であるか。受講時に、真摯な態度で意見を述べることができるか。

成績評価方法(総合)

テーマ設定が適否、又、資料調査･資料読解の出来不出来、取り組みの姿勢を総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011322
開設科目名	国語特論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	岸本 憲一良			学年	～
担当教員	岸本　憲一良			区分	

授業の概要

国語科教育の内容に関して、自己の研究テーマに沿って研究を進める。

授業の一般目標

自己の研究テーマに沿って、文献研究、調査研究等にあたり、考察を加えることができる。

授業の到達目標

思考・判断の観点:諸氏の論をそのまま受け入れるのではなく、自分なりの考察を加えることができる。

成績評価方法(総合)

発表、レポート、討議への参加態度等により、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011323
開設科目名	国語特論Ⅰ			単位	2単位
対象学生	藤原 マリ子			学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

各自の研究テーマについてゼミ形式により発表･自由討議を行い、研究の深化を図る。

授業の一般目標

1･各自の卒業論文のテーマへの理解を深める。

2･調査方法や課題解決の方法、論文の書き方、発表の仕方などの、研究の基本的技能を修得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:各自の課題について、先行研究の概要を説明できる。

思考･判断の観点:課題について、多角的観点から深く考えることができる。

関心･意欲の観点:問題意識をもって主体的に課題に取り組む事ができる。

態度の観点:課題に積極的関心をもって意欲的に取り組むことができる。

技能･表現の観点:自己の見解を口頭や文章で適切に表現する事ができる。

成績評価方法(総合)

発表内容･授業への参加状況により評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011324
開設科目名	国語特論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	吉村 誠			学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

卒業論文の指導。

授業の一般目標

卒業論文を書けるようにする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

演習の発表

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021011325
開設科目名	国語特論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	村上 林造			学年	～
担当教員	村上　林造			区分	

授業の概要

作品研究を演習形式で行う。受講生はレポート発表を行い、全員で作品について討議する。

授業の一般目標

作品分析の基礎を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：作品分析の基礎知識を身につける。

思考・判断の観点：作品分析に必要な思考力を身につけている。

関心・意欲の観点：作品分析に意欲的に取り組むことができる。

態度の観点：作品分析に真面目かつ熱心に取り組むことができる。

技能・表現の観点：作品分析において必要な表現力を身につけている。

成績評価方法(総合)

授業でのレポート発表と演習への参加態度によって、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015013
開設科目名	漢文学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	南部　英彦			区分	

授業の概要

中国の文学･思想･歴史のいずれかの領域に関する漢文資料を取り上げ、担当制により読み進める。

授業の一般目標

漢文資料の読解力の向上をめざす。併せて、レジメを作成しそれを発表･討議することを通して、漢文資料を精読するための方法を得ることを目的とする。従って、受講生全員が事前に予習してくることが肝要である。

授業の到達目標

知識･理解の観点:資料読解に必要な情報を知識として得、それを十分に理解し活用しているか。

思考･判断の観点:資料読解において、自分なりの十分な思考と判断が展開できているか。

態度の観点:十分な調査を行って上で、読解の作業を行っているか。

成績評価方法(総合)

基本的には、担当時の発表の内容･態度及び受講時の討議の姿勢を勘案して平常点とする。

期末レポートを課す場合がある。

教科書

参考書

メッセージ

漢和辞典を一冊用意し、漢文読解にあたり、これを適切･自在に活用して欲しい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015034
開設科目名	国語学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

現代日本語の文法について概説する。学校文法とは異なる枠組みである記述文法の観点から，私達が普段使っていることばの文法的側面を観察していく。

授業の一般目標

(1)現代日本語文法の基本的な事項を理解できる。

(2)様々な現象の法則性を一般化できる。

(3)日本語の文法現象を主体的に考察できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 現代日本語文法の基本的な事項を説明できる。

思考･判断の観点: 1. 様々な現象からパターンを抽出し，法則性を定式化できる。

関心･意欲の観点: 1. 文法現象に関心を持ち，主体的に考えることができる。

成績評価方法(総合)

(1)毎回授業の終わりにミニッツペーパーを課す。

(2)学期末にレポートを課す。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

学校文法との違いを絶えず意識して欲しい。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015045
開設科目名	国語学概論(音声言語及び文章表現を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

国語学（日本語学・言語学）の基礎的な項目（音声・文字・形態・文法・方言など）を解説する。

授業の一般目標

(1)国語学の基本的な事項を理解できる。

(2)国語学の方法論を習得し，それを新たなデータに適用できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 国語学の基本的な項目を理解し，説明できる。

思考・判断の観点：1. 国語学の方法論を新たなデータに適用できる。

2. 主体的な分析によって，法則性を導き出し，一般化できる。

関心・意欲の観点：1. 普段使っていることばに関心を持ち，主体的に考えることができる。

成績評価方法(総合)

(1)毎回授業の最後に小レポートを課す。

(2)学期末試験を行う。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

常に自分のことばを意識しつつ，学んで欲しい。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015050
開設科目名	書道Ⅰ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	小倉　菊太郎			区分	

授業の概要

楷書の用筆、基本点画、結体を学習する。字配り、大きさに気をつけて、楷書2～6字を一紙に構成する。

授業の一般目標

正しく整った楷書が美しく書けること。楷書の技術を高め、指導力を身につける。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

実技作品採点(相対評価)

学習態度

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015117
開設科目名	国文学概論(国文学史を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

古事記神話を読む。

授業の一般目標

古事記神話の内容を理解する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

レポートと出席による

教科書

参考書

メッセージ

Web で教材提示を行う。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015158
開設科目名	漢文学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	南部　英彦			区分	

授業の概要

一定のテーマを設定した上で、主として中国の文学、思想、歴史のいずれかに関わる漢文を紹介し、概説していく。

授業の一般目標

漢文に現れた、物の考え方、感じ方や価値観などについて、教養と関心とを深めるとともに、それを自分なりに理解できるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：概説した事柄について、的確な知識・理解を得る。

思考・判断の観点：文章の展開に即しながら、その内容を論理的に考えることができる。

態度の観点：講義の趣旨に即しながら、真摯に考え、疑問が生じた場合には、それを自分の言葉で質問できるか。

成績評価方法(総合)

基本的には、期末レポートの成績による。 場合により、授業中の平常点を勘案する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015191
開設科目名	国文学基礎講読			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	村上　林造			区分	

授業の概要

文学の基本的な意義と機能について説明した後、近代日本文学における主な文学思潮について概説し、その大まかな全体像を理解できるようにする。具体的な作品に即して理解するため、小説を読んでレポートを提出することを要求する。

授業の一般目標

芸術表現の一般的性質を理解し、その上に立って小説分析の実例に触れる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

作品レポート、最終レポートを総合的に判断して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015195
開設科目名	国語学特講II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

日本語の歴史的変化にかかわる特定のテーマを取り上げて掘り下げていく。本年度は、いくつかの慣用句・ことわざを取りあげて、その意味の変化等について述べる。

授業の一般目標

日本語の歴史的変化にかかわる特定のテーマについて、理解・思考を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点：日本語の歴史的変化に関わる特定のテーマについて、深く理解できる。

思考・判断の観点：得た知識を基に、日本語の歴史的変化について自ら、考えていくことができる。

関心・意欲の観点：日本語の歴史的変化について興味を持つことがでできる。

成績評価方法(総合)

期末のレポートによって評価する。(授業で取り上げたテーマについて、各自で調査した結果をレポートにまとめる。レポートの課題は、授業中指示する。)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp
研究室：教育学部4階

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015237
開設科目名	国文学講読II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

芭蕉の門人・去来が筆録した『去来抄』を読む。『去来抄』は、単なる俳論の域に留まらず、文学論・芸術論としても普遍性を獲得している優れた評論作品である。芭蕉と門人との人間味あふれる交流の機微を追体験しつつ、江戸時代に出版された版本（写真版）も用いて、基本的な古典文学研究の技法を学んでいく。

授業の一般目標

1・古典文学研究の基礎技法を習得する。

2・芭蕉の俳諧観を通して、日本の伝統的な文学観を知る。

3・評論としての特色や論理構造を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：芭蕉の俳諧観や芸術観について、あらましを説明することができる。

思考・判断の観点：テキストを読み、考察を加え、自己の見解を持つことができる。

関心・意欲の観点：日本の古典文学への関心を高め、生涯にわたって古典に親しむ意欲を持つ。

態度の観点：生涯にわたって古典に親しむ態度を身につける。

技能・表現の観点：作品についての考察を、口頭や文書で的確に表現することができる。

成績評価方法(総合)

毎回、提出してもらう小レポートの状況と期末のレポートの状況により評価する。

教科書

去来抄／山下一海：おうふう，平成11

参考書

メッセージ

連絡先

mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021015290
開設科目名	国文学特講			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　恒徳			区分	

授業の概要

600 年余りにわたって、現代に至るまで受け継がれて来た中性演劇のひとつ「狂言」をとりあげる。出来る限り、具体的に作品を解説することに主眼を置き、その上で、時代による変化に注意し、狂言の現代的意義についても考えてゆく。

授業の一般目標

1）狂言台本に触れることによって、中世的言語表現に親しむ。

2）狂言の魅力を知り、舞台表現一般への関心を深める。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

期末テストによって評価するが、時間がとれれば小テストをいちど行いたい。

教科書

参考書

岩波講座「能・狂言」（全8巻）：岩波書店, 1988

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021014
開設科目名	法律学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松原　幸恵			区分	

授業の概要

法学の基本的文献の講読、判例研究を行う。

授業の一般目標

現代社会におけるさまざまな問題について法学的に考察する力を身につける。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

担当した報告内容の出来及び授業への参加状況によって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021060
開設科目名	地域人文地理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	荒木　一視			区分	

授業の概要

地誌学及び地理学（主として人文地理学）を概説する。その際，特になぜ学校で地理学が教えられているのか，また，将来諸君が地理の授業を通して子供達に何を伝えたいのかを考えてもらいたい。

授業の一般目標

人文地理学及び地誌に関する一般的知識と，それらの地理学史を背景とした理解を身につけること

授業の到達目標

知識・理解の観点：人文地理学及び地誌に関する一般的知識と，それらの地理学史を背景とした理解を身につけること。

思考・判断の観点：授業時間後半の質疑討論を通じて，地理を学校で教える際の問題点についての考察を深める。

関心・意欲の観点：地理教育に対する一般的関心を高める。

成績評価方法(総合)

授業時の討論への参加と定期試験を原則とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021070
開設科目名	社会科基礎演習B			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

現代社会の諸問題を多角的に検討する。自らテーマを選び、文献等を読み、発表･討議する。

授業の一般目標

現代社会の具体的な問題を研究する場合の、デスクワーク的側面の技量を養う。自ら研究問題を選択し、レポートを作成し、発表･検討する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:文献選択の方法や講読の仕方を理解できる。

思考･判断の観点:社会の諸問題を考察する際の視角を吟味できる。

関心･意欲の観点:現代社会の諸問題に関心を持つ。

態度の観点:積極的に討議に参加できる。

技能･表現の観点:レポートを作成し、発表することができる。

成績評価方法(総合)

テーマ選択から研究発表･討議、レポート作成提出に至る全過程を総合評価する。欠席･遅刻の多い者は評価対象としない。

教科書

参考書

メッセージ

遅刻者の入室を禁ずることがある。

連絡先

オフィスアワー

開設学期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021074
開設科目名	社会科特別研究ＡⅡ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

社会科特別研究 AI,BI に引き続き卒業研究に向けて，個別的な指導を行う。

授業の一般目標

履修者の興味や関心に基づいて，個別の研究課題に取り組み，講義時間中の発表や討論，作業などをへて，以下の能力や知識を身につけることを目指す。(1) 関心領域に対する先行研究の成果を吸収し，理論的な基礎を構築するとともに方法論などを吸収する。(2) 自らの問題意識を深めるとともに，それを明確にし，研究対象を設定する。(3) 研究対象に関する理論的実証的アプローチにとりくむ。

授業の到達目標

知識・理解の観点：先行研究の成果を吸収する。

思考・判断の観点：研究対象に対して，客観的にまた，批判的にとらえられる視点を醸成する。

関心・意欲の観点：自らの問題意識にたいして，積極的であること。

態度の観点：自身の研究に対して真摯に取り組むとともに，クラスメイトの研究に対しても充分な関心と配慮をもとめる。

技能・表現の観点：プレゼンテーションの技術，発表資料，ハンドアウト，パワーポイントなどの作成術を体得する。

成績評価方法(総合)

演習形式での評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

社会科教育の学生の卒論指導を前提とした授業である。履修にあたってはそれぞれの演習科目および社会科特別研究 AI,BI を受講していることが前提となる。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021137
開設科目名	地理学実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	貞方　昇			区分	

授業の概要

地理学における調査方法を学ぶ。

授業の一般目標

地理学の調査方法を具体的に学ぶことを通して、自ら調査を実施し、整理、分析の上、論文を作成できる力を養うことを目的とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

自ら準備した資料に基づき、演習において適切/的確なプレゼンテーションができるかどうかを総合的に判断し、評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

火曜日 11:50～12:50

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021153
開設科目名	地理学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	貞方　昇			区分	

授業の概要

おもに地理学関連文献の内容紹介とそれらの批判的検討･考察を行う。

授業の一般目標

地理学関係論文の読解力を高める一連の作業を通して、自ら考察し、問題点を抽出して、論文批判ができるようになることを目指す。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

演習への取り組みを総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

火曜日 11:50～12:50

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021185
開設科目名	社会科特別研究BⅡ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

社会科特別研究AI,BIに引き続き卒業研究に向けて，個別的な指導を行う。

授業の一般目標

履修者の興味や関心に基づいて，個別の研究課題に取り組み，講義時間中の発表や討論，作業などをへて，以下の能力や知識を身につけることを目指す。(1)関心領域に対する先行研究の成果を吸収し，理論的な基礎を構築するとともに方法論などを吸収する。(2)自らの問題意識を深めるとともに，それを明確にし，研究対象を設定する。(3)研究対象に関する理論的実証的アプローチに着手する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：先行研究の成果を吸収する。

思考・判断の観点：研究対象に対して，客観的にまた，批判的にとらえられる視点を醸成する。

関心・意欲の観点：自らの問題意識にたいして，積極的であること。

態度の観点：自身の研究に対して真摯に取り組むとともに，クラスメイトの研究に対しても充分な関心と配慮をもとめる。

技能・表現の観点：プレゼンテーションの技術，発表資料，ハンドアウト，パワーポイントなどの作成術を体得する。

成績評価方法(総合)

演習形式での評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

社会科教育の学生の卒論指導を前提とした授業である。履修にあたってはそれぞれの演習科目および社会科特別研究 AI,BI を受講していることが前提となる。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021216
開設科目名	日本史演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森下　徹			区分	

授業の概要

日本史学に関する文献を読み、報告、討論する。

授業の一般目標

日本史学の文献を読み、報告、討論すること。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

報告内容および討論での発言。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021250
開設科目名	社会学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	辰己　佳寿子			区分	

授業の概要

現代社会の主要なテーマに関する文献精読を通じて、社会学的視点を学ぶ。指定した文献について分担者はレジュメを用意し、ゼミ内での発表を行なう。最後に、自分のテーマに関する考えをまとめて発表する。

授業の一般目標

社会学の主要な概念、議論などについて学び、それらを応用して現代社会に見られる様々な事象を読みとく力を養う。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業内の発表および議論への参加度等により評価を行う。

教科書

参考書

読書と社会科学／内田義彦：岩波書店, 1985

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021275
開設科目名	自然地理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	貞方　昇			区分	

授業の概要

日本列島の自然環境を特に地形学的な立場から、地球的な視野の中で考え、さらに人間の生活の舞台としての意義を考える。

授業の一般目標

日本列島の自然環境基盤としての地形特徴をその成り立ちを含めて理解することにより、他の世界諸地域の地形環境をも類推できる応用力を養う。それとともに、そこに居住する人々の生活文化の特徴とどのような関係性をもつかを考えることができるようになることを目指す。

授業の到達目標

知識・理解の観点:第四紀、とくにその後半期における日本列島の地形的な発達を系統的に理解することをめざす。

思考・判断の観点:日本列島の地形発達を理解することにより、地球上の諸地域の地形特徴や発達を類推できる応用力を持てるようにする。

関心・意欲の観点:自分の身の回りの景観を、日本列島や地球的な規模のダイナミズムと関係づけることに関心や意欲をもてるようにする。また、今日の自然景観形成と人間生活との関わりについて考えることに関心、意欲をもてるようにする。

態度の観点:授業内容への積極的な発言・議論ができるようにする。

技能・表現の観点:地図を作業し、また画像データを加工して、それらを利用して自分が説明したい内容を表現し、レポートを書くことができるようにする。

成績評価方法(総合)

基本的な知識と理解をもとに、それらをどの程度応用して自然環境解釈に適用できるかを評価する。

教科書

風景のなかの自然地理／杉谷隆, 平井幸弘, 松本淳編著:古今書院, 1993

参考書

日本の地形１総説／米倉伸之他編:東京大学出版会, 2001

日本の地形６中国・四国／太田陽子他編:東京大学出版会, 2004

発達史地形学／貝塚爽平:東京大学出版会, 1998

日本の山地形成論／藤田和夫:蒼樹書房, 1983

メッセージ

日本列島を自然科学的な解釈により理解すると同時に、人間生活の舞台としての意義を考える。社会科教育の中で自然環境をどうとらえたらよいのか考えて欲しい。

連絡先

sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

083-933-5325

オフィスアワー

火曜日 11:50～12:50

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021021330
開設科目名	外国史演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

諸文献の講読･批評、諸テーマに関する意見交換を通して、歴史教育という営みの意味やあり様を考察する。文献･テーマの具体的レベルでは、世界史･国際関係史分野を重視したい。

授業の一般目標

歴史学習における基礎的な教材研究能力･教授能力の獲得をめざす。

授業の到達目標

知識･理解の観点:諸文献の内容（あるいは授業内容）を理解できる

思考･判断の観点:諸文献の内容を批評することができる

関心･意欲の観点:諸課題について自らの見解を積極的に述べ、また討議することができる

技能･表現の観点:プリント（レジュメ）を作成し、適切に報告できる。

成績評価方法(総合)

課題への取組み姿勢と報告内容、質疑応答時の姿勢で評価する。3回欠席･遅刻すると成績評価の対象とならない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021025020
開設科目名	外国史Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

キリスト教の浸透を経験したヨーロッパ社会とそうでない日本社会に、人間関係のあり方のレベルでどのような差異が形成されてきたのか、それが現在の我々の考え方・行動をどう特徴づけているのかを歴史学的に考察する。

授業の一般目標

宗教社会史的分析を通して、欧米におけるキリスト教信仰の歴史的社会的意味を理解する。
日欧比較史的分析を通して、「他人事、他所事の外国史」からの脱却と、我々をとりまく環境を相対的客観的に見る視点の獲得をめざす。

授業の到達目標

知識・理解の観点：講義内容のおおよそを再現することができる。
思考・判断の観点：史料や概念等を適切に使用することができる。
関心・意欲の観点：推論や仮説構築、概念の吟味等に意欲的に取り組むことができる。

成績評価方法(総合)

期末レポート（基本的に講義内容の再現を求める）と、授業内での小テスト・小レポート（6回程度）で評価する。3回欠席すると、期末レポートの提出資格を失う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021025123
開設科目名	哲学倫理学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	奥津　聖			区分	

授業の概要

この講義では、視覚的な思索という側面からの哲学入門を行います。「哲学」という言葉は、ギリシャ語の「知を愛すること（philo と sophia）」から作られたラテン語（philosophia）の、明治時代の津和野の先哲、西周による苦心の翻訳語です。現在のように細分化、専門化された難しい哲学ではなく、源初に立ち返って、《美しい》哲学とは何かを、できるだけ抽象的にではなく視覚的・具体的に考えて行こうと思います。時代的には古代から近世までの人間の思索や創造が考察の対象となりますが、私たちが今まさに生きている現代との関わりを無視してはこのような考察そのものも無意味になるでしょう。

一方通行の講義にしたくありませんので、出席者の主体的で積極的な参加をお願いいたします

授業の一般目標

1.哲学がどのようなものかを理解する。

2.人間の行為の所産としての文化や芸術に関心を持つ

授業の到達目標

知識・理解の観点:1.哲学とは何かを説明できる。

2.文化や芸術とは何であるかを説明できる

思考・判断の観点:授業で学んだことを自分で取り纏め、批判的に解説することができる。

関心・意欲の観点:文化や芸術に関する関心を高め、問題意識を広げることができる。

態度の観点:大学生活を通して文化や芸術教育の在り方を自主的に反省することができる。

技能・表現の観点:自分で、研究領域の資料の収集ができる。

その他の観点:この講義では、視覚的な思索という側面からの哲学入門を行います。「哲学」という言葉は、ギリシャ語の「知を愛すること（philo と sophia）」から作られたラテン語（philosophia）の、明治時代の津和野の先哲、西周による苦心の翻訳語です。現在のように細分化、専門化された難しい哲学ではなく、源初に立ち返って、《美しい》哲学とは何かを、できるだけ抽象的にではなく視覚的・具体的に考えて行こうと思います。時代的には古代から近世までの人間の思索や創造が考察の対象となりますが、私たちが今まさに生きている現代との関わりを無視してはこのような考察そのものも無意味になるでしょう。

一方通行の講義にしたくありませんので、出席者の主体的で積極的な参加をお願いいたします。

成績評価方法(総合)

最後のレポートで評価する。

教科書

参考書

メッセージ

主体的で積極的な授業参加を期待します。

連絡先

okutsu@c-able.ne.jp

オフィスアワー

講義後、火曜の 17:40 以降。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021025142
開設科目名	経済概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

日々起きている社会現象を見ると、個人あるいは社会全体にとって望ましいとは言えない状況がある。経済学は、社会現象の要因を分析し、どのように望ましい方向に進むべきかを考えるうえで、重要な学問である。本授業では、経済学の基本的な考え方を習得するとともに、社会現象を分析し、どのように望ましい社会を作っていくかを考えていく。

授業の一般目標

経済学の基本的な考え方を習得したうえで、日々の社会生活で起きている事象について、個人や社会にとって望ましい方向に動いているのか、それができないのはなぜかについて経済学的な視点から思考する力を習得することを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：個人の消費、企業の生産、社会的余剰、市場の失敗について説明ができる。

思考・判断の観点：社会で起きている様々な事象について、経済学的な視点で分析できる。

関心・意欲の観点：地域または世界で起きている様々な社会問題に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

期末試験、授業中の演習問題により採点を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021025159
開設科目名	日本史Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森下　徹			区分	

授業の概要

日本史を通史的に概観する。(古代から中世まで)

授業の一般目標

日本史の通史的理解をする。(古代から中世まで)

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

中間･期末テストおよび小テストの合算

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021025172
開設科目名	社会学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

家族と結婚の多様性と普遍性に焦点をあてて、人間社会を考える。また、異文化理解に対する基本的な考え方を学ぶ。具体的には、アフリカ、ヨーロッパ、近現代の日本における家族、親子関係、結婚、性などを取り上げる。

授業の一般目標

社会は人間どうしが様々な関係を持って形成されているが、その多様性と普遍性を理解する。また、異文化理解において、文化相対主義という考え方の重要性を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:家族、親族、結婚といった人間社会の基本を理解する。また、文化相対主義と自文化中心主義の違いを知る。

思考・判断の観点:自文化中心主義ではなく文化相対主義に基づいて異文化を判断できるようになる。

関心・意欲の観点:異文化に関心を持つ。

態度の観点:異文化、特にアフリカなどの人たちの文化に対して偏見を持たずに接することができるようになる。

成績評価方法(総合)

期末レポートと授業中もしくは授業後に毎回課す小レポート、出席に基づいて評価する。特別な事情がないにもかかわらず、5 回以上欠席した学生は失格とする。

教科書

参考書

フランス家族事情／浅野素女:岩波書店, 1995

アフリカ女性の民族誌／和田正平編:明石書店, 1996

ヒトの自然誌／田中二郎・掛谷誠編:平凡社, 1991

性の人類学／高畑由起夫編:世界思想社, 1994

結婚の社会学―未婚化・晩婚化は続くのか／山田昌弘:丸善, 1996

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp　研究室　教育学部 2 階 266 号室

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021025208
開設科目名	日本国憲法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松原　幸恵			区分	

授業の概要

今日の日本における憲法問題を、個別･具体的なテーマに即して考察する。

授業の一般目標

現代社会のさまざまな問題を憲法との関連において理解する力を身につける。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

試験を主体に、授業内外の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021031338
開設科目名	代数学III			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	笠井　伸一			区分	

授業の概要

代数学の基本理論として、初等整数論の入門を行う。

授業の一般目標

代数学の基本理論として初等整数論を学習し、
代数的な考え方の基礎を修得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:代数的な考え方を理解し、内容を正しく論理的に理解できる。
定理の証明をフォローできる。
思考・判断の観点:計算問題をアルゴリズムにしたがって計算できる。
質問の際は、理解できている部分と理解できない部分を明確に判断できる。
関心・意欲の観点:授業の予習・復習を毎週したうえで、授業に意欲的に参加する。
宿題に出された問題を毎週解いてくる(解けなくても考えてくる。)。
わからないこと、疑問点は授業中やオフィスアワーの時間に積極的に質問する。
態度の観点:授業に集中し、演習問題を自ら意欲的に解き、授業中に積極的に解答を発表する。
(解答の正誤は問わない。)
他の学生の解答の際には、意見・アドバイス等により積極的に授業に参加する。
技能・表現の観点:演習問題の解答・宿題の解答を論理的に、他の受講生が理解できるように説明できる。
誤答の際には、誤りを理解し、アドバイスに従って修正できる。

成績評価方法(総合)

関心・意欲の観点、態度の観点等により、
授業態度や授業への参加度、
問題の解答及びその内容を評価する。
更に、期末試験の結果をもとにして、
総合的に評価する。
欠席状況は欠格条件として評価に用いる。

教科書

参考書

メッセージ

積極的に授業に参加する人を高く評価します。
演習問題を解き、授業中に解答するようにして下さい。
自分で考えて解答することが大事で、答えが間違っていても、評価します。
据わって居るだけの人は評価されません。
積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。
わからないことがある人は、オフィスアワーに質問に来てください。

連絡先

オフィスアワー

水曜日の13時から18時頃まで(会議の時間は除く)。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021031339
開設科目名	幾何学III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	渡邉　正			区分	

授業の概要

幾何学分野のうち，特に位相幾何学と代数学との融合した分野を講義し，それの応用を考察する。

授業の一般目標

今までは，解析学，代数学，幾何学などを分野別に学習してきたが，現代数学はこれらの分野は各々独立しているものではなく，現実には相互依存しているものであることを理解することが目標である。

授業の到達目標

知識・理解の観点：新しい概念を理解し，習得すること。

思考・判断の観点：今までの概念と新しい概念との関係を考え，そのﾒﾘｯﾄを理解すること。

関心・意欲の観点：代数学と幾何学との融合に興味を持つこと。

態度の観点：現代数学の方法論を理解すること。

技能・表現の観点：現代数学での融合的技能を習得すること。

成績評価方法(総合)

成績評価はテスト，レポート，授業態度などを総合的に評価しておこなう。

教科書

参考書

メッセージ

だれでも初めは素人です，頑張れば，玄人になれます。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021035051
開設科目名	計算機概論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

ノートパソコンを用いて文書作成、表計算および BASIC 言語によるプログラミングを学ぶ。

授業の一般目標

次の 3 項目をこの授業の目標とする。(1)数式やグラフを含んだ文書を作成できるようになること、(2)表計算を用いて成績処理などの計算を行うことができるようになること、(3)簡単な計算機アルゴリズムを理解し、BASIC 言語を用いてプログラムを作成できるようになること

授業の到達目標

知識・理解の観点:表計算ソフトの利用法:特に関数を用いた計算方法の知識を身に付けること。BASIC 言語の基礎的な命令・制御文を理解するとともに、簡単な計算機アルゴリズムを理解すること。

思考・判断の観点:表計算ソフトや BASIC 言語において、計算方法を考えることが出来るようになること。さらに、BASIC 言語を用いてプログラムが作れるようになること。

関心・意欲の観点:コンピュータの活用法に興味を持って取り組むことができること。

技能・表現の観点:文書作成ソフトを用いて、グラフや数式を含んだ文書を作成できるようになること。さらに、表計算ソフトや BASIC 言語を用いて、簡単な計算及びプログラムの作成を行うことができること。

成績評価方法(総合)

定期試験とレポートによる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021035124
開設科目名	集合論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北本　卓也			区分	

授業の概要

現代数学での基本概念である集合論･離散数学について講義し、これにより、論理的思考、抽象化について指導する。

授業の一般目標

数学の理論上重要な論理についての基礎を習得し、現代数学の基礎概念である集合と関係･関数についての基本事項を学習する。主に、小テスト･授業の形式で概念の定着を行う。

授業の到達目標

知識･理解の観点:論理や集合についての基本的事項、写像、(同値) 関係などの概念を正しく理解している。

思考･判断の観点:論理や抽象的な概念を理解することができる。

関心･意欲の観点:日常生活の中の身近なものを通じて、集合や写像の概念を説明することができる。

技能･表現の観点:演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

成績評価方法(総合)

授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書

すぐわかる代数／石村園子:東京出版, 1999

参考書

メッセージ

再試験は行いませんので、しっかり試験準備してください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021035160
開設科目名	幾何学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	渡邉　正			区分	

授業の概要

幾何学体系の原点から、現代数学の根本的原理である、公理的論証を学習する。

授業の一般目標

ユークリッド幾何学を中心とする初等幾何学を公理的に論証することができるようになり、それにより論証能力を身に付ける。また、複素数や線形代数学を用いて、ユークリッド幾何における変換の概念や対称性について論じることができるようになり、幾何学の問題解決へ応用することができるようになる。
これらにより、初等･中等教育における算数･数学の幾何の内容を習熟する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:幾何学的命題を公理系を用いて論理的に論証することができる。
思考･判断の観点:幾何学的命題の証明の論理構造を説明することができる。
関心･意欲の観点:平行線の公理の重要性を認識している。
技能･表現の観点:論証能力を習得する。

成績評価方法(総合)

レポートと試験及び授業態度などを総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

古典的名著を堪能すること。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021035255
開設科目名	代数学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	飯寄　信保			区分	

授業の概要

線形代数学の基礎（行列の積・和、行列の基本変形、行列式）について学習する。そののち、応用として多元一次連立方程式の理論について解説する。

授業の一般目標

行列の基本的な計算ができるようになる。また、連立一次方程式を行列の理論を用いてとくことができるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：行列の基本操作を理解し、実行できるようになる。

関心・意欲の観点：授業中に出た問題・疑問等を積極的に取り組むことができる。

態度の観点：自ら進んで課題解決ができるようになる。

成績評価方法(総合)

成績評価は、期末試験、小テスト、出席、演習時の発表の評価により総合的に判断する。（但し、出席は欠格の判定資料として用いる。）

教科書

教養の線形代数／村上　正康　他：培風館, 1977

参考書

メッセージ

連絡先

飯寄（教育 286 室）

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021035276
開設科目名	解析学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐藤　好久			区分	

授業の概要

小学校や中学校の算数･数学でも関数は重要な学習内容であり、解析学では主に関数の性質を調べる。数学の教員として必要な知識を習得するために、解析学の基礎について講義する。主に、解析学の土台である実数の連続性、1 変数関数の連続性と微分･積分について解説する。これにより、関数の基本的な理論背景の理解とともに、微分･積分の計算の修得をはかる。

授業の一般目標

実数の連続性の概念を理解し、数列や一変数関数の極限を説明することができる。一変数関数の微分･積分の概念を理解し、基本的性質に基づいた計算が正確にできる。1変数関数の微分･積分を応用して、関数の性質を調べたり、数値解析をすることができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:簡単なイプシロン･デルタ論法を論じることができる。基本的性質に基づいた数列の極限の計算ができる。連続性や微分可能性を説明することができる。微分法の基本的性質に基づいた微分の計算ができる。テーラーの定理やロピタルの定理を理解し説明することができる。積分の概念を理解し、計算･応用することが出来る。数値解析へ応用することができる。

思考･判断の観点:基本的性質を正しく使うことができる。基本的な定理を正しく使うことができる。

関心･意欲の観点:日常生活の中で微分法･積分法を応用する分野に関心を持つ。

技能･表現の観点:極限の計算や一変数関数の微分･積分の計算が正確にできる。

成績評価方法(総合)

小テストの成績、中間試験の成績、授業外のレポート、および、定期試験の成績により総合的に評価する。

教科書

基礎微分積分学／江口正晃、久保泉　他共著:学術図書出版、2008

参考書

メッセージ

中間試験の実施時期については、授業の中で通知する。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021035340
開設科目名	計算機数学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北本　卓也			区分	

授業の概要

数式処理システムを実際に用いながら、数学の問題を解く.

授業の一般目標

数式処理システムを用いて、問題が解けるようになる.

授業の到達目標

知識・理解の観点:数式処理システムの使い方を学び、それを用いて数学の問題を解く。

技能・表現の観点:数式処理システムを使えるようになる。

成績評価方法(総合)

成績評価は出席、試験、課題を元に総合的に行う。

教科書

参考書

はやわかり Mathematica／榊原進:共立出版, 2000

メッセージ

再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021035360
開設科目名	確率･統計学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

数理統計学についての基本的内容を概説する

授業の一般目標

数理統計学についての基本的知識を理解し、統計学の応用が出来ることを目指す。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021041035
開設科目名	物理化学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	村上　清文			区分	

授業の概要

本講義では、熱力学の法則をはじめとした化学熱力学の基本緒概念とその化学における応用について講義する。エネルギー、エントロピー、自由エネルギー、化学平衡などの概念の導入とその種々の化学現象理解への適用について述べる。

授業の一般目標

講義を通じて、化学熱力学の諸概念を学び、これらが、いかに多くの現象を統一的に理解可能にするかを理解する。さらに、地球規模の環境を深くとらえ考察する上での重要性を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：化学熱力学の諸概念をに付いての基礎的知識を理解し、説明できる。

思考・判断の観点：化学熱力学の諸概念を問題に応用することができる。

関心・意欲の観点：化学熱力学の法則等が日常の生活に密接に関わっていることに、関心をもつ。

成績評価方法(総合)

出席、小課題、試験により評価する。

教科書

『基礎化学熱力学』,,『基礎化学熱力学』,E.B.Smith,化学同人,1992 年／E.B.Smith：化学同人, 1992 年

参考書

メッセージ

1年次開講の『化学概論』を受講していることが望ましい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021041046
開設科目名	無機化学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	和泉　研二			区分	

授業の概要

原子･分子の電子軌道を理解し、錯体、溶液、結晶の構造や特性を原子･分子レベルから学習すると共に、結晶のでき方について学ぶ。

授業の一般目標

原子･分子の特性や反応を電子レベルで説明できるようになる。

溶液の構造、溶液内の化学反応を原子･分子レベルで理解し、化学的に説明できるようになる。

結晶の構造を理解し、結晶の形や成長の仕方を原子･分子レベルで説明できるようになる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:原子軌道、分子軌道を理解し、説明できる。

典型的な化学反応を電子軌道から説明できる。

溶液についての巨視的な現象を、原子･分子レベルを理解し説明できる。

結晶の構造を理解し、説明できる。

結晶の成長の仕方を原子･分子レベルで理解し、説明できる。

思考･判断の観点:実験条件と理論のおよぶ範囲とを適切に判断できる。

関心･意欲の観点:原子･分子レベルの現象を電子構造から考えることができる。

溶液や結晶に関する巨視的な諸現象を、原子･分子レベルと関連づけて考えることができる。

技能･表現の観点:専門用語を適切に使用し、分かりやすく適確に表現できる。

成績評価方法(総合)

専門用語が適確に理解できているかどうかを基礎として、現象の背景や原因を電子構造や原子･分子レベルで理解し説明できるかを中心に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

専門用語は理化学事典、化学大事典等の専門の辞書や専門の教科書を何冊かあたって、自分の頭で理解を深め、自分のことばで説明できるまで調べること。

連絡先

教育学部内教員研究室

オフィスアワー

木曜日午後

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021041061
開設科目名	生物学実験（コンピュータ活用を含む。）			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部　弘和			区分	

授業の概要

海産動物、原生動物、高等な動植物の機能や構造に関する基礎的な観察や実験をする。

授業の一般目標

学校教育において理科生物分野で取り扱われている内容を中心に実験･観察の方法、教材として生物の知識等を理解する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

実験実習のレポート、受講への取り組み態度、出席状況などに基づき、総合的に判断する。

教科書

参考書

メッセージ

２００９年度前期には生物実習室の改修が予定されています。改修に伴い6月以降は実習室が使えない予定です。従って、実習の内容や、順番を変更する場合がありますが、変更がある場合はその都度知らせる予定です。

連絡先

E-mail　habe@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021041086
開設科目名	固体地球科学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	武田　賢治			区分	

授業の概要

地震、火山活動、大地の変動は固体地球の内部エネルギーのあらわれである。本講では、この“変動する固体地球”の内部構造、物質科学、表層で生起している諸現象（地震、火山活動）とそのメカニズムなどについて解説する。

授業の一般目標

中学校理科地学分野のうち、とくに「地震」と「火山活動と火成岩」に関わる基礎的事項の理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1.地震に関わる基礎用語や発生メカニズムについて説明できる。

2.火山活動の性質とそれが起こる仕組みについて説明できる。

3.地球構成物質の階層性、それぞれの特徴につい説明できる。

思考・判断の観点：地質現象の見方やその探求方法を理解する。

関心・意欲の観点：身近に存在する鉱物や岩石について関心をもち、自ら調べてみようとする意欲をもつ。

地震や火山に関心をもち、地震や火山噴火による被害から身を守る法を考える。

成績評価方法(総合)

宿題・授業外レポート15%、期末試験85%の評価割合で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

takeda@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

特に指定なし

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021041094
開設科目名	気象と宇宙			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

将来、中学校および高校の理科教師として、気象と天体分野の授業を担当するため必要な基礎的知識を講義する。簡単な演習や実験を交えて、分かりやすい授業にする。

授業の一般目標

中学校理科における天体と気象領域の内容を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:天体と気象現象に関する基礎的知識や概念を理解する

思考・判断の観点:天体と気象に関する科学概念を使って、身近な現象を理解できる。

関心・意欲の観点:天体や気象に関する自然現象に興味と関心をもつ。

態度の観点:積極的に授業に参加する。

技能・表現の観点:与えられた課題を理解して、文章や図を使って表現できる。

成績評価方法(総合)

定期テストの得点に重点を置いて、数回のレポートの評価を組み合わせて評価する。出席点はない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

教育学部218

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021041118
開設科目名	地学実験(コンピュータ活用を含む。)			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	武田　賢治			区分	

授業の概要

地質、気象および天文に関する基礎的実験、およびコンピュータを活用した実験を行う。

授業の一般目標

地質、気象および天文に関する基礎的実験、およびコンピュータを活用した実験をとおして、地学分野全般にわたる基礎学力を見に付けるとともに、実験計画の立て方やレポートの書き方を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:地質、気象および天文に関する基礎的事項について、説明できるようになる。

思考・判断の観点:空間、時間に関わる地学に特有なものの見方を身に付ける。同時に、実験計画の立て方や適切なレポートの書き方を修得する。

関心・意欲の観点:身近な自然現象(地質、気象、天文)に関心をもち、積極的に学ぶ意欲をもつようになる。

技能・表現の観点:実験器具や実験・観測機器等の適切な使用法を身に付ける。

実験データを、コンピュータを用いて解析したり、図表に表したりする能力を身に付ける。

成績評価方法(総合)

レポート、授業態度・授業への参加度により総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021041217
開設科目名	細胞と生命			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部　弘和			区分	

授業の概要

細胞の増殖、生殖、細胞の分化などに関する基礎的現象や理論を、細胞レベルで指導する。

授業の一般目標

細胞の増殖、生殖、細胞の分化などに関する基礎的事項や理論を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

定期試験(中間および期末試験)、小テスト、レポート、出席などをもとに総合的に評価する。

教科書

図説生物　総合版:東京書籍, 2004

参考書

メッセージ

「図説生物　総合版」毎回の授業に必ず持参すること

連絡先

E-mail　habe@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021041231
開設科目名	現代物理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

相対論、量子論を主体に、20 世紀以降発展した現代物理学の基礎について学ぶ。
それらが発展した歴史的背景についても学ぶ。それらと現代科学技術のかかわりについて
学ぶ。

授業の一般目標

感覚的理解が困難な相対論や量子論が生まれた背景と、それが正しく自然を記述していることを理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: ニュートン力学と相対論や量子論的力学の違いを理解する。

その他の観点: 非日常的側面が強い現代の物理法則が現代科学技術の基礎をとなっていることを理解する。

成績評価方法(総合)

期末試験、小テスト、レポート、授業態度・授業への参加度により総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021045021
開設科目名	物理学概論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	糸長　雅弘			区分	

授業の概要

電磁気学分野を学ぶ。電磁気では，電荷や電流から作り出される空間の性質の変化（場）という非常に抽象的なものを取り扱うため，具体的なイメージを浮かべることが難しい。しかし，我々は日常の生活において電磁気のよる恩恵を受け，多くの現象を経験している。例えば，衣類を擦ったときや絨毯の上を歩いたときに，静電気が起こる。また，目で見える光の本質も，電磁波という電磁気現象の一つである。

授業の一般目標

自然現象を通して，電磁気や光の基本的な法則を理解する。また，それらの基本的な法則が数学的に簡潔な形式で記述されることを学び，そのような記述が自然の理解に有効であることを認識する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：電磁気の基本法則を説明できる。

思考・判断の観点：自然現象にどのような物理法則が関わっているか判断できる。

関心・意欲の観点：理科の中の物理教育に意欲的に取り組むことができる。

態度の観点：知識のない問題にも粘り強く取り組むことがきる。

技能・表現の観点：物事を論理的に説明することができる。

成績評価方法(総合)

出席率 80%未満を欠格条件とし，宿題と期末試験を総合的に評価する。

教科書

参考書

物理科学のコンセプト 4　電気・磁気と光／P. G. Hewitt 他：共立出版，1997

メッセージ

講義の前半では，数式に頼らずに電磁気を解説するので，コンセプトをしっかりと学んで欲しい。後半は，より高度な電磁気を学ぶための導入に充てる。できるだけ，「物理学概論 I」を履修しておくこと。

連絡先

E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室

オフィスアワー

電気，磁気，電磁波，光，場，力，エネルギー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021045200
開設科目名	環境と生物			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北沢　千里			区分	

授業の概要

私たちを取り巻く身近な環境を題材に、環境と生物の関係について学習する。

授業の一般目標

生物学の立場から環境問題について考え、生態学の基礎知識を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：生物の様々な環境に対する適応法について学び、生態学の基礎知識を習得する。

思考・判断の観点：身近な生物現象のしくみについて考察できる。

関心・意欲の観点：生物と環境との関わりについて、環境問題等近年のトピックスについて考察することが出来る。

成績評価方法(総合)

レポート、出席、期末試験を総合的に評価し、判断する。

教科書

参考書

生態学入門／日本生態学会編：東京化学同人, 2004

トマトはなぜ赤い　生態学入門／三島次郎：東洋館出版社, 2003

生態学キーノート／Mackenzie, Ball & Virdee：シュプリンガー・フェアラーク東京, 2006

メッセージ

連絡先

E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日　13：00-14：30

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021045317
開設科目名	物理学概論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

物理学の基本ともいえる力学分野を学ぶ。

授業の一般目標

簡単な力学現象（放物運動、円運動、振り子、単振動など）が運動方程式で取り扱えるようにする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：速度、力、エネルギーなど日常的に使われている言葉を物理学ではどのように定義するか学ぶ。運動方程式を理解する。

思考・判断の観点：数式を使って自然を記述する方法があることを理解する。

成績評価方法(総合)

毎回の小テストと期末テスト及びレポートによって判断する。小テストは出席も兼ねる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051001
開設科目名	管･弦楽器Ⅳ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

音階、基本的奏法、腹式呼吸法、運指法に習熟し、楽曲の分析･演奏解釈、表現法について学ぶ。

授業の一般目標

楽曲を分析･解釈し、音楽的な表現法を研究することができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:楽曲の分析、演奏解釈を理解する。

技能･表現の観点:管･弦楽器IIIで習得した調に加えて、ニ長調、変ロ長調の音階ができる。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051003
開設科目名	管･弦楽器III			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

音階、基本的奏法、腹式呼吸法、運指法を習熟し、アーティキュレーション、フレージングについて学ぶ。

授業の一般目標

音階練習によって、正確な運指法を習得できる。アーティキュレーションに留意して、平易な楽曲を演奏することができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:アーティキュレーション、フレージングを理解する。

技能･表現の観点:ハ長調、ヘ長調、ト長調の音階ができる。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051009
開設科目名	管楽器III			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

音階、基本的奏法、腹式呼吸、運指法に習熟し、アーティキュレーション、フレーメングについて学ぶ。

授業の一般目標

音階の練習によって、正確な運指法を習得できる。

アーティキュレーションに留意して、平易な楽曲を演奏することができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点: アーティキュレーション、フレージングを理解する。

技能・表現の観点: ハ長調、ヘ長調、ト長調の音階が吹ける。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

管楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051011
開設科目名	管楽器Ⅰ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

管楽器の構造と音をつくり出す原理を理解し、管楽器の基本的な奏法について学ぶ。

実音と記譜の違う移調楽器を理解する。

授業の一般目標

安定したアンブシュアを習得できる。

管楽器の歴史、構造を理解し、楽器の組み立て方、取り扱い方を習得できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:移調楽器を理解する。

技能・表現の観点:ロングトーン、楽器を持たない腹式呼吸を習得する。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本　:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051012
開設科目名	管･弦楽器Ⅳ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

音階、基本的奏法、腹式呼吸法、運指法に習熟し、楽曲の分析･演奏解釈、表現法について学ぶ。

授業の一般目標

楽曲を分析･解釈し、音楽的な表現法を研究することができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:楽曲の分析、演奏解釈を理解する。

技能･表現の観点:管･弦楽器IIIで習得した調に加えて、ニ長調、変ロ長調の音階ができる。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051015
開設科目名	管･弦楽器III			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

音階、基本的奏法、腹式呼吸法、運指法を習熟し、アーティキュレーション、フレージングについて学ぶ。

授業の一般目標

音階練習によって、正確な運指法を習得できる。アーティキュレーションに留意して、平易な楽曲を演奏することができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:アーティキュレーション、フレージングを理解する。

技能･表現の観点:ハ長調、ヘ長調、ト長調の音階ができる。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051027
開設科目名	管楽器III			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

音階、基本的奏法、腹式呼吸、運指法に習熟し、アーティキュレーション、フレーメングについて学ぶ。

授業の一般目標

音階の練習によって、正確な運指法を習得できる。

アーティキュレーションに留意して、平易な楽曲を演奏することができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:アーティキュレーション、フレージングを理解する。

技能・表現の観点:ハ長調、ヘ長調、ト長調の音階が吹ける。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

管楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051030
開設科目名	管楽器Ⅰ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

管楽器の構造と音をつくり出す原理を理解し、管楽器の基本的な奏法について学ぶ。

実音と記譜の違う移調楽器を理解する。

授業の一般目標

安定したアンブシュアを習得できる。

管楽器の歴史、構造を理解し、楽器の組み立て方、取り扱い方を習得できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:移調楽器を理解する。

技能・表現の観点:ロングトーン、楽器を持たない腹式呼吸を習得する。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本　:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051161
開設科目名	独唱III			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　満理子			区分	

授業の概要

独唱Ⅰ、Ⅱで学んだことをさらに向上、定着させる。自然で無理のない声で歌うことができる。また、母音の響きを統一できるよう目指す。

授業の一般目標

自然で無理のない発声で歌うことができる。

母音の響きが統一されている。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

毎回の授業への取り組みと、実技試験を併せ総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051165
開設科目名	ピアノⅠ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

本授業はピアノの基礎的な技能を習得させるために、練習曲や古典派のピアノ作品を教材として個別の実技指導を行う

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な基礎技能を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。

関心・意欲の観点:毎週出された技術トレーニングの課題を実行できる。

技能・表現の観点:作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる

成績評価方法(総合)

?公開による実技試験を行う。　出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

jun_n@yamaguchi-u.ac.jp 学内内線5363

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051166
開設科目名	ピアノⅠ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	成川　ひとみ			区分	

授業の概要

ピアノの基礎的な技能の習得の為に、練習曲、J.S.バッハの作品に代表されるバロック期のポリフォニックな作品、及び古典派のピアノ作品を教材として用いて、個別の実技指導を行う。

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な基礎技能を習得する。

授業の到達目標

思考・判断の観点:楽器の操作に留まらず、楽曲を分析する事ができる。
関心・意欲の観点:毎週の、技術トレーニングの課題を実行できる。
技能・表現の観点:作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

成績評価方法(総合)

1.公開による実技試験を行う。
2.出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nr1103@yamaguchi-u.ac.jp　Tel. 083-933-5364

オフィスアワー

火～金曜日昼休み

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051173
開設科目名	合奏Ⅰ(和楽器を含む。)			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	斎藤　完			区分	

授業の概要

小･中学校の音楽科教育で取り上げられる和楽器の、基本的な演奏技術を習得するとともに音楽にふれ、将来生徒にこれらの楽器や演奏技術を教えたり、これらの楽器の音楽に興味･関心をもたせるための指導法を研究する。

授業の一般目標

箏、尺八の基本的な奏法の習得と、日本伝統音楽における楽譜の読解力を身につける。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

尺八と箏の実技試験

教科書

参考書

メッセージ

シラバスはあくまでも目安であり、状況に応じて変更する可能性がある。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051248
開設科目名	独唱V			単位	1単位
対象学生	4年生用			学年	～
担当教員	林　満理子			区分	

授業の概要

独唱Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで学んだことをさらに向上、定着させる。内容を理解し音楽的な表現につなげる。

授業の一般目標

無理のない発声で歌うことができる。

内容に合った表現ができる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

毎回の授業への取り組みと、実技試験を併せ総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051254
開設科目名	独唱V			単位	1単位
対象学生	3年生用			学年	～
担当教員	林　満理子			区分	

授業の概要

独唱Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳで学んだことをさらに向上、定着させる。時代に合った様式を理解し、表現する。

授業の一般目標

無理のない発声で歌うことができる。

時代に合った表現ができる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

毎回の授業への取り組みと、実技試験を併せ総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051267
開設科目名	作･編曲法III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池上　敏			区分	

授業の概要

音楽における形式概念から始めて、様々な音楽形式の様態とその形式を必要とした音楽的な思想、精神について考察します。

授業の一般目標

様々な音楽形式がなぜ存在するのか、なぜ音楽には形式が必要なのか、を理解し、様々な音楽形式を楽譜上から判断できるような能力を獲得すること。

授業の到達目標

知識･理解の観点:様々な音楽形式についての知識の獲得と理解。

思考･判断の観点:音楽形式を判断するための思考過程の獲得。

関心･意欲の観点:様々な時代の様々な音楽形式への関心と学習意欲。

態度の観点:音楽形式を究明しようとする態度の獲得。

技能･表現の観点:様々な音楽形式を適切に表現できる能力の獲得、形式を的確に伝達できる表現力の獲得。

成績評価方法(総合)

学期末に行うペーパー･テストを主とし、受講態度、関心･意欲などを総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

耳で聞いて、音楽の形式が浮かんでくる能力が獲得できることが理想であるが、これは相当に難しい。楽譜という視覚情報を手掛かりに、分析的に形式を探り出してくるくらいの段階までは勉強せねばいけません。

連絡先

音楽棟109研究室

オフィスアワー

新年度に時間割が確定してから通知します。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051277
開設科目名	ピアノIII			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

ピアノⅡに引き続き、練習曲とバッハ、加えて近代･現代までの作品を教材として個別の実技指導を行う。

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標

思考･判断の観点:楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。

関心･意欲の観点:毎週出された課題を実行できる。

技能･表現の観点:作品が求める表現を汲み取り、中断することなく演奏できる。

成績評価方法(総合)

1）公開による実技試験を行う。　(2）出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

jun_n@amaguchi-u.ac.jp　学内内線5363

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051278
開設科目名	ピアノIII			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	成川　ひとみ			区分	

授業の概要

ロマン派から近代･現代までの、幅広い作品に取り組む。

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれの授業計画に従って課題に取り組み、作品に適したピアノ演奏表現を習得する。

授業の到達目標

思考･判断の観点:楽器の操作に留まらず、楽曲を分析し、楽曲の表現を研究することができる

関心･意欲の観点:毎日の技術トレーニングを実行し、楽曲の表現を自ら工夫することができる。

技能･表現の観点:作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

成績評価方法(総合)

1.公開による実技試験を行う。

2.出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nr1103@yamaguchi-u.ac.jp　Tel.083-933-5364

オフィスアワー

火～金曜日昼休み

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051318
開設科目名	独唱Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　満理子			区分	

授業の概要

発声･呼吸･姿勢など歌うための基本を学ぶ。歌うことに慣れ、自分の声を知り、それぞれの課題を明確にする。教材はイタリア古典歌曲集1を使用する。

授業の一般目標

それぞれの課題に対処しながら、イタリア古典歌曲を歌うことができる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

毎回の授業への取り組み方と、実技試験を併せ総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051326
開設科目名	ピアノⅣ			単位	1単位
対象学生	4年生			学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

ピアノⅠ～Ⅲの学習を踏まえ、更にピアノ技能を伸ばしていくための実技指導である。また、この期は教員採用試験と卒業試験に向けての準備を進める。

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標

思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。

関心・意欲の観点：毎週出された課題を実行できる。

技能・表現の観点：作品が求める表現を汲み取り、中断することなく演奏できる。

成績評価方法(総合)

個人の課題への取り組み態度で評価

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

jun_n@amaguchi-u.ac.jp　学内内線5363

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051327
開設科目名	ピアノⅣ			単位	1単位
対象学生	4年生			学年	～
担当教員	成川　ひとみ			区分	

授業の概要

これまでのピアノ関連の授業で習得した技能の更なる展開を目指す。また、教員採用試験及び卒業研究への準備として、公開の場での演奏にふさわしい曲に取り組む。

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれの授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技術を習得する。

授業の到達目標

思考・判断の観点:楽器の操作に留まらず、楽曲を分析し、楽曲に適した表現を研究することができる。
関心・意欲の観点:毎日の基礎技術トレーニングを実行し、表現の工夫をすることができる。
技能・表現の観点:作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

成績評価方法(総合)

1.目的達成のための意識と努力。
2.出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nr1103@yamaguchi-u.ac.jp　Tel. 083-933-5364

オフィスアワー

火～金曜日昼休み

開設学期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051331
開設科目名	ピアノⅣ			単位	1単位
対象学生	3年生			学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

ピアノⅠ～Ⅲの学習を踏まえ、更にピアノ技能を伸ばしていくための実技指導である。

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標

思考・判断の観点:楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる

関心・意欲の観点:毎週出された課題を実行できる。

技能・表現の観点:作品が求める表現を汲み取り、中断することなく演奏できる。

成績評価方法(総合)

実技試験による評価

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

jun_n@amaguchi-u.ac.jp　学内内線5363

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051332
開設科目名	ピアノⅣ			単位	1単位
対象学生	3年生			学年	～
担当教員	成川　ひとみ			区分	

授業の概要

これまでのピアノ関連の授業で習得した技能の更なる展開を目指す。

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれの授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技術を習得する。

授業の到達目標

思考・判断の観点：楽器の操作に留まらず、楽曲を分析し、楽曲に適した表現を研究することができる。

関心・意欲の観点：毎日の基礎技術トレーニングを実行し、表現の工夫をすることができる。

技能・表現の観点：作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

成績評価方法(総合)

1.目的達成のための意識と努力。

2.出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nr1103@yamaguchi-u.ac.jp　Tel. 083-933-5364

オフィスアワー

火～金曜日昼休み

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021051345
開設科目名	指揮法実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　啓明			区分	

授業の概要

音楽教育における合唱や合奏の指揮は、児童･生徒に演奏表現を指導する上で重要な技術である。指揮の意味と役割について考え、指揮の基本図形と運動について知った後、デュナーミクなどの基本的な表現技術、アウフタクトなどの指揮技術、編成に応じた指揮技術、と指揮の基本的な技術を学ぶ。授業はやさしい唱歌や器楽曲を教材に用いながら進める。

授業の一般目標

アンサンブルにおいて指揮者が果す役割を理解し，その基本的な技術である各種の打法による2拍子，3拍子，4拍子，6拍子の基本図形を習得する。さらにフェルマータの振り方，アゴーギクやデュナーミクの表現の仕方を様々な楽曲を実際に指揮することを通して学びながら，プローベ･テクニックと曲の分析や解釈についても考察する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:1. アンサンブルにおける指揮者の役割と必要な知識，能力について説明できる。

思考･判断の観点:1. 分析や解釈をとおして個々の楽曲のテンポ･性格を判断し，それに相応しい指揮の技術を選択できる。

関心･意欲の観点:1. 分析や解釈をとおして個々の楽曲のテンポ･性格を判断し，それに相応しい指揮の技術を選択できる

態度の観点:1. 様々な音楽上の表現にふさわしい身体表現，言語表現のありかたについて工夫できる。

技能･表現の観点:1. 他の受講生の指揮に応じてピアノ演奏や合唱に積極的に参加できる。

その他の観点:1. 正確な打法，図形で指揮をすることができる。フェルマータをわかりやすく指揮することができる。またデュナーミク，アゴーギクの変化を的確に表現することができる。

2. その他アンサンブル指導に適切な姿勢，視線の使い方ができる。

成績評価方法(総合)

授業は受講生全員を合唱団やアンサンブルにみたてて，1人づつ前に立って指揮をするという形ですすめる。一回ごとの指揮を評価するとともに，授業全体の最後に指揮の実技テストを行う。

教科書

参考書

メッセージ

教材には様々な唱歌や歌曲を用いるので，予め暗譜で歌えるようにしておくこと。また課題によってはピアノで演奏することも要求される。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021055079
開設科目名	音楽史Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	斎藤　完			区分	

授業の概要

1945 年から 70 年代にかけての日本の音楽文化を、社会／政治／経済などの背景を踏まえつつ概観する。授業は受講生の発表によってすすめられる。

授業の一般目標

音楽を自律的な芸術事象としてではなく、さまざまな背景により立ち上がる文化的動態の一形態として理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：終戦から 1970 年代にかけての日本の音楽文化とその背景を理解する。

思考・判断の観点：音楽がどのように社会／経済／政治と関わっているかを考察する。

関心・意欲の観点：授業にはすべて出席する。

態度の観点：他者の発表を意欲的に聞き、インターネット上に開設される掲示板に積極的に参加する。

成績評価方法(総合)

知識よりも、考え方（思考・判断）の習得を重視し、毎授業での発表とインターネット上に開設する掲示板への書き込みなどにより、成績評価をおこなう。
なお受講生の発表によって授業が進むので、原則として欠席は認めない。

教科書

参考書

メッセージ

第1回目の授業には必ず参加すること。欠席した場合は原則として受講を認めない。やむを得ない事情により欠席した場合には、下記連絡先にてアポイントメントを取ったうえで、来室すること。

連絡先

mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

上記連絡先でアポイントメントをとったうえで、来室してください。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021055090
開設科目名	音楽史Ⅰ(日本の伝統音楽・諸民族音楽を含む。)			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	斎藤　完			区分	

授業の概要

授業の内容等については、授業の第1回めに説明する。

授業の一般目標

音楽とその歴史を概観することによって、「音楽＝芸術」の自明性を批判的に考察できるようになることを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:西洋音楽史の構築のされ方と、西洋音楽史が描く大まかな流れを把握する。

思考・判断の観点:「音楽＝芸術」という捉え方の自明性を批判的に考察し、「音楽とは何か」という根本的な問に立ち返りつつ、自らの音楽観の再構築(受動的に音楽を捉える態度から能動的な態度へ)を求める。

成績評価方法(総合)

知識よりも、考え方(思考・判断)の習得を重視し、毎授業での小レポートと期末レポートでそれを評価する。

なお出席も重視し、3回以上欠席した場合(公欠を除く)は原則として欠格とする。なお、遅刻は3回で、欠席1回とみなす。

教科書

参考書

メッセージ

第1回目の授業には必ず参加すること。欠席した場合は原則として受講を認めない。やむを得ず欠席した場合は、下記連絡先にてアポイントメントをとったうえ、来室すること。

連絡先

mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

上記連絡先でアポイントメントをとったうえで、来室してください。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021055125
開設科目名	音楽通論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池上　敏			区分	

授業の概要

「楽典」と呼ばれる領域を様々な観点から講義します。リズム、旋律、和声、対位法、音楽形式などを主内容とします。

授業の一般目標

西洋音楽をやって行く上においては不可欠な能力である「五線記譜法」についての様々な知識、知見を涵養し、読譜能力、音階の仕組み、リズム、音階、和声、などに関する概念を獲得することを目標とします。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 五線記譜法の基本的な知識とその仕組みの理解。

思考・判断の観点: 音楽における様々な事象に対する判断力、思考力の育成。

関心・意欲の観点: 音楽に対する強い関心と、様々な音楽に積極的に接していこう、という意欲の持続。

態度の観点: 音楽を大切にしよう、という態度の保持、育成。

技能・表現の観点: 音楽的な様々な技能の育成、表現の練磨。

成績評価方法(総合)

学期末に行うテストを中心に評価。五線記譜法、及び初歩の作曲理論の理解度を見る。

教科書

音楽の基礎／芥川也寸志:岩波書店, 1971

参考書

メッセージ

音楽は感性のみによって、と捉えられ易いが、実は極めて精緻な論理体系をもっている。その理解なくして音楽をやっていくことは不可能、ということを認識すること。

連絡先

音楽棟109研究室

オフィスアワー

新年度に時間割が決定後に通知します。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061004
開設科目名	絵画Ⅳ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　貴富			区分	

授業の概要

(1)平面に於ける造形を対象とし、絵画の具象性や抽象性について考察する。

(2)木版画制作

授業の一般目標

(1) ポロック以降の現代美術に属する絵画の多様性を理解し、絵画の具象性や抽象性について考察する。

(2) 木版画の行程を理解して、表現力に富んだ木版画を制作できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点: (1) ポロック以降の現代美術に属する絵画の多様性を理解し、絵画の具象性や抽象性について考察する。

(2) 木版画の類型と技法を理解する。

思考・判断の観点: (1) 抽象美術および、現代美術における絵画表現に関する課題に対応した表現を模索し、その表現に適した技法を選択することができる。

(2) 伝統的な版表現と今日的な表現および学校教育における意義を関連付けて捉えることができる。

関心・意欲の観点: (1) 抽象美術や現代美術に関心を持ち、意欲的に表現することができる。

(2) 版表現に関心を持ち、意欲的に表現することができる。

態度の観点: 授業に遅刻をしない。

積極的かつ主体的な受講・制作。

期日までに提出物を提出する。

他者の表現を尊重する。

技能・表現の観点: (1) 抽象美術および、現代美術における絵画表現に関する課題に対応した表現を模索し、その表現に適した技法を選択することができる。

(2) 版の特性を生かした表現ができる。

成績評価方法(総合)

①受講者の制作作品

②授業態度

★作品を提出しても、欠席回数が多い場合には単位を認定しない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061036
開設科目名	彫刻II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	上原　一明			区分	

授業の概要

石彫による彫刻表現の学習。鑿と石頭を用い、基本的な石彫方法を実践する。カーヴィングの概念や制作方法を学ぶ。

授業の一般目標

彫刻表現として世界的に用いられている「石」という素材の魅力を、石彫作品の制作を通して体感する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:石に関する知識と、石彫表現についての理解を深める。

思考・判断の観点:石彫制作を通して、創作的思考能力を高める。

関心・意欲の観点:石彫を体験することにより、石彫作品に対する関心が高まる。

態度の観点:共同作業における制作態度の重要性を学ぶ。

技能・表現の観点:石彫制作用の道具や機械の操作方法を学ぶ。

その他の観点:石彫芸術に触れる。

成績評価方法(総合)

出席状況や授業態度、作品制作状況と提出作品で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

石彫の魅力を感じてください。

連絡先

上原研究室

オフィスアワー

水曜日　12:00～14:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061083
開設科目名	デザインⅠ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　隆眞			区分	

授業の概要

美術教育におけるデザインの基礎について学習する。平面構成、基礎造形を含み、造形方法としてデザインの基礎について講義と作品制作を行う。

授業の一般目標

平面のデザインの基礎について学習する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: デザイン、構成に関する基礎的知識を説明出来る。例示:色の3属性、バウハウス、コントラストなど。

思考・判断の観点: デザイン、構成の作品の説明が出来る。

関心・意欲の観点: デザインの作品の討論で意見をいうことが出来る。

態度の観点: 批評会で意見を言ったり、他者の意見を聞いたり出来る。

技能・表現の観点: デザイン、構成の美しい作品が表現出来る。

成績評価方法(総合)

作品の完成度と授業態度による。

教科書

参考書

メッセージ

デザイン、構成の作品をパンルにアクリルカラー等で行います。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061091
開設科目名	デザインⅡ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	河野　令二			区分	

授業の概要

造形のための基礎的な表現活動を通して、デザインについて考えるための学習をします。

授業の一般目標

・かたちへの豊かな発想を持ち、計画的に立体の造形ができる。

・造形の要素を理解し、的確に制作に応用し、豊かな表現ができる。

・デザインについて、持続的に考えるための基礎的な知識を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：デザインについて、持続的に考えるための基礎的な知識を理解する。

思考・判断の観点：形態について運動、空間を含めた造形のための要素を理解する。

関心・意欲の観点：課題意識を持ち制作する。

態度の観点：客観的に制作過程を確かめ、着実に表現することができる。

技能・表現の観点：豊かな発想を持ち、造形の要素を理解し、的確に制作、表現ができる。

成績評価方法(総合)

デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出す作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み(出席等を含む）を見ます。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061113
開設科目名	工芸AIII			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	河野　令二			区分	

授業の概要

木による椅子のデザインと制作を行う。

授業の一般目標

・椅子の歴史、社会性について考える。

・椅子をさまざまな要素からデザイン、制作ができる。、

授業の到達目標

知識・理解の観点：椅子の社会性、機能性について理解する。

思考・判断の観点：椅子の形態を、その所在、機能性から理解しデザインをする。

関心・意欲の観点：椅子のデザインを生活や社会的な関心から形態として構想し、創造的な作品へと高める。

態度の観点：客観的に制作過程を確かめ、計画的に制作する。

技能・表現の観点：豊かな発想を持ち、創造的に制作する。

成績評価方法(総合)

デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出する作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み(出欠を含む) を見ます。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061154
開設科目名	工芸BⅡ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉賀　將夫			区分	

授業の概要

陶芸の基礎的知識･技術を習得し、陶芸作品を制作する。

授業の一般目標

陶芸制作の基礎的知識を習得するため、製作過程を実習し自分で陶芸作品を制作できるようにする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061167
開設科目名	平面造形基礎			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　良寿			区分	

授業の概要

平面に於ける造形を対象として美術一般の基礎的な表現を学習する。石膏像の面取りから始め、形と明暗の初歩をまず体得し、個人の進度に応じて頭部、胸部、立像へと進む。

授業の一般目標

美術一般の基礎的な表現を学習し、各自のデッサン力の向上を目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:各自のデッサン力を把握し、絵画史上に残る巨匠たちのデッサンの特徴を説明できる。

思考・判断の観点:各自のデッサン力を把握し、絵画史におけるデッサンの特徴を論理に、また、わかりやすく説明できる。

関心・意欲の観点:様々な問題について主体的に考え、好奇心をもって実技を行うことができる。

態度の観点:様々な問題について主体的に考え、実技を行うことができる。

技能・表現の観点:デッサンにおけるそれぞれの表現の仕方を理解し、それに見合う技術を身につける。

成績評価方法(総合)

デッサンの実技過程、および、デッサンの完成度により、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp

083-933-5366

090-9003-6944

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061174
開設科目名	絵画Ⅱ(映像メディア表現を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　良寿			区分	

授業の概要

映像メディアが絵画表現に与えた影響に注目し、様々な素材を使った表現にとりくむ。(コラージュや、写真による表現を含む。)

授業の一般目標

映像メディアが絵画表現に与えた影響に注目し、絵画以外のメディアと絵画との関係を理解し、様々な素材を使って表現する。(コラージュや、写真による表現を含む。)

授業の到達目標

知識・理解の観点:映像メディアが絵画表現に与えた美術史上の概要を理解する。

思考・判断の観点:絵画とメディア表現の関係について考察することができる。特にメディアの絵画への影響について幾つかの事例をあげて説明できる。

関心・意欲の観点:生活の中におけるメディア表現に意識的になり、絵画とメディア表現の関係について考察することができる。

技能・表現の観点:

態度の観点:あたえられた課題における問題点を抽出し、課題解決のために独自の視点で制作を進めることができる。

技能・表現の観点:コンピューターや、機械を通した映像などの表現と、手技による表現の接点を模索する。

成績評価方法(総合)

(1)出席による評価。 (2) 授業態度。 (3)授業での作品制作。(1)~(3)による総合評価。実験的な制作態度、作品制作過程、作品展示などの実技の内容に重点をおく。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp
083-933-5366
090-9003-6944

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061196
開設科目名	絵画Ⅴ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　良寿			区分	

授業の概要

近、現代の美術の動向の概要を解説する。個々の制作における興味に響く現代の美術作家を研究し、ゼミ形式で発表する。制作においては、ゼミでの発表を個別にそれぞれの表現のなかに取り込み、具体的な作品に仕上げる。

授業の一般目標

近、現代の美術の動向の概要を説明できる。それぞれの制作における興味に響く現代の美術作家を研究し、ゼミ形式で発表する。制作においては、ゼミでの発表を個別にそれぞれの表現のなかに取り込み、具体的な作品に仕上げることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:近、現代の美術の動向の概要を説明できる。

思考・判断の観点:美術作品の優劣について自己の評価基準を他人に説明できる。

関心・意欲の観点:近、現代の美術の動向の概要を理解し，関連する美術展などを積極的に鑑賞する。

態度の観点:自発的に芸術作品に触れる機会をもち、作品制作も持続的に続ける事ができる。

技能・表現の観点:分自身の得意とする素材選択、技法の確立とともに、同じ形式や、技法に終止するだけではなく、新しい技法や、素材を自分自身の感性で見つけることができる。

成績評価方法(総合)

宿題・授業外レポート、授業態度・授業への参加度、受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品、出席などによる総合評価

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp

083-933-5366（中野）

090-9003-6944

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061269
開設科目名	工芸A Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	河野　令二			区分	

授業の概要

木とガラスによるもののデザインと制作を行う。

授業の一般目標

・寄木の技法を理解し、木の可能性を考え、器のデザイン、制作をする。

・ガラスの技法であるサンドブラストを理解し、ガラスのもののデザイン、制作をする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:・材料の特性、木の技法技法を理解し制作ができる。

思考・判断の観点:・ものの機能性やその所在を考えデザイン制作ができる。

関心・意欲の観点:・課題を持って望み、興味を持ってデザイン、制作ができる。

態度の観点:・客観的に制作過程を見つめ、材料の可能性を確かめながら計画的に制作ができる。

技能・表現の観点:・技法を理解し、豊かな発想を持ち、創造的に制作ができる。

成績評価方法(総合)

デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出する作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み(出欠を含む) を見ます。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061291
開設科目名	デザインⅣ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　隆眞			区分	

授業の概要

デザインの問題解決方法による調査と制作を行う。

授業の一般目標

現実の問題を採り上げて、その解決策のために問題解決学習を行い、デザインの作品の制作、調査を行う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：デザインと社会の関係で問題解決学習による調査内容が説明出来る。

思考・判断の観点：デザインの適切さが判断出来る。

関心・意欲の観点：現実社会での問題を見付ける意欲がある。

態度の観点：現実の問題を調査するための熱意と行動力がある。

技能・表現の観点：デザインしたことを表現する技能がある。

成績評価方法(総合)

調査内容、制作による評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021061312
開設科目名	彫刻III			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	上原　一明			区分	

授業の概要

レリーフと動物彫刻を制作する。レリーフはテラコッタ用石膏型を作る。動物彫刻は、石膏取りする。

授業の一般目標

テラコッタ・レリーフと、動物彫刻の制作により、彫刻制作の幅を広げる。目的応じた石膏取りの技法を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:テラコッタ・レリーフや、動物彫刻制作の知識を高める。

関心・意欲の観点:彫刻制作について関心を高める。

態度の観点:共同作業中における制作態度の重要性を認識する。

技能・表現の観点:テラコッタ用石膏取りや、複雑な形状の石膏取りの技法を習得する。

成績評価方法(総合)

出席状況や授業態度、作品制作状況と提出作品で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

彫刻制作を楽しんでください。

連絡先

上原研究室

オフィスアワー

水曜日　12:00～14:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021065022
開設科目名	美術史Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	菊屋　吉生			区分	

授業の概要

西洋絵画史に関してとくにルネッサンス以降、19世紀近代絵画の成立までを歴史的流れに重点をおいて概説する。

授業の一般目標

(1)西洋絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。

(2)各時代の西洋絵画の新しい流れが生まれるその社会的、文化的背景に関心を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:ルネッサンス以降、19世紀までの西洋絵画史の概観を説明できる。

思考・判断の観点:各時代に生まれる芸術作品の歴史上の位置づけ、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。

関心・意欲の観点:西洋絵画の歴史を知ることによって、社会、文化をふくめた諸外国に対する国際理解への関心を喚起する。

態度の観点:西洋の美術の流れに関心をいだき、積極的にそうした作品にふれようという態度を養成する。

技能・表現の観点:西洋絵画史を語るうえで、常に具体的な作品や作家を思い浮かべながら説明できる。

成績評価方法(総合)

試験の成績は重視します。授業のノート、教科書をよく勉強してください。試験前勉強の仕方については、授業の一番最後に説明いたします。むろん、出席や受講態度も評価には加えますので、注意してください。

教科書

カラー版　西洋美術史／高階秀爾:美術出版社, 1990

参考書

メッセージ

授業では、なるべく多くの美術作品をヴィジュアルに見せるつもりですが、受講生もなるべく日ごろから展覧会など、自分から積極的に見るように努めてください。スライドや画像だけでは絶対に生の作品の迫力は伝えることはできません。

連絡先

kikuya@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021065119
開設科目名	彫刻Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	上原　一明			区分	

授業の概要

彫刻に関する基礎的な塑造を学習する。粘土を用いた原型の制作後、石膏取りを行う。テラコッタの制作。

授業の一般目標

モデリングとしての塑造の概念を把握し、彫刻表現の可能性を学習する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:彫刻の基礎的な制作方法や創作概念を理解する。

思考・判断の観点:量感

態度の観点:共同作業における制作態度の重要性を学ぶ。

技能・表現の観点:粘土の扱い方や、石膏取りの技法を学ぶ。

成績評価方法(総合)

出席状況や授業態度、作品制作状況と提出作品で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

上原研究室

オフィスアワー

水曜日　12:00～14:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021065286
開設科目名	美術理論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	菊屋　吉生			区分	

授業の概要

とくに西洋における過去の美や芸術の理論を概観し、美術史学の成立までを概説することによって、作品を観ること、創ること、まねることを考察する。

授業の一般目標

(1)美や芸術の思想の歴史的流れを理解する。

(2)それぞれの時代における美や芸術の考え方の基本やその形成のされ方を把握する。

(3)現代における美や芸術の考え方を理解する上での基礎づくりをめざす。

授業の到達目標

知識・理解の観点:過去の美や芸術に関する思想のアウトラインを説明できる。

思考・判断の観点:美や芸術という概念について、考察し、それらに対する自らの認識を形成していく。

関心・意欲の観点:美や芸術に対する基本的な考え方に関心をもつ。

態度の観点:美や芸術表現へ接した際に、さらに深い洞察をなそうとする態度の養成。

技能・表現の観点:美や芸術を理解するうえで、論理的に自分の考えを展開できる。

成績評価方法(総合)

授業の最後に実作品の実地研修をし、これまでの授業内容をふまえた上で作品分析を行なってもらう。(1200字×3枚以上) 出席については、所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

授業ではノートをしっかりとってください。それと同時に、授業内容に関連して自らが考えたり、感じたりしたこともノートに記述しておくと復習する際に役立ちます。

連絡先

kikuya@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021065355
開設科目名	美術史III			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	菊屋　吉生			区分	

授業の概要

古美術、現代美術等に関して、実際の美術作品を鑑賞、体験する実地研修。研修コースについては、毎年変更し、実施の前に掲示連絡する。

授業の一般目標

(1)実際の美術作品、展覧会等を鑑賞し、生の作品から得られるものを通して、知識、理解を深める

(2)実作品、実物を見ることによって、その周辺をふくめたそのもの自体がもつ情報の把握をめざす。

授業の到達目標

知識・理解の観点:印刷物等では、見ることのできない生の作品の迫力を通して、作品に対する知識や理解を深める。

思考・判断の観点:実地にその場を訪れることにより、その周辺、あるいは副次資料をもふくめた上で、作品の考察に役立てる。

関心・意欲の観点:実作でした味わえないものを通して、そのものに対する関心を喚起する。

態度の観点:鑑賞に対する積極的な態度を期待する。

技能・表現の観点:古美術から現代美術まで幅広く作品を鑑賞し、柔軟な鑑賞能力を身につける。

成績評価方法(総合)

実習への参加は基本であるが、実習中の積極性、集中度などを評価する。また終了後に研修内容に関するレポートを提出してもらい、評価に加える。

教科書

参考書

メッセージ

研修コースについては、毎年変更し、実施の前に掲示連絡する。

連絡先

kikuya@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021071016
開設科目名	保健体育学研究法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	海野　勇三, 友定　保博, 池田　恵子, 上地　広昭			区分	

授業の概要

この科目は、保健体育学分野における研究法の基礎･基本の理解をはかるための演習である。

〔授業内容〕

以下の4つの研究方法の入門講義を行う。

1. 文献研究法･･･担当:池田
2. 調査法････担当:上地
3. 学校保健研究法･担当:友定
4. 授業研究法･･･担当:海野

授業の一般目標

保健体育学研究領域で用いられる研究方法について理解し、専門分野の演習を行う上での基礎的方法論を習得すること。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

小テスト／授業内レポート ＝60～80%

演習 ＝20～40%

出席 ＝ 欠格条件

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021071144
開設科目名	学校保健Ⅰ(小児保健, 精神保健を含む。)			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	友定　保博			区分	

授業の概要

学校における健康管理活動の理論(小児保健・児童生徒の精神保健を含む)と方法について講義する。

授業の一般目標

子どもの心身の状態を理解する上で必要な基本的知識を習得し、健康診断・健康相談・環境保健などの学校保健活動の実際について理解すること

授業の到達目標

知識・理解の観点:学校における健康管理の活動について、その種類や方法等を理解する

思考・判断の観点:子ども理解のしかた、子どもの実態の把握にもとづいて必要な支援や働きかけを選択する

技能・表現の観点:健康診断の項目、学校環境や安全の点検の点検項目について、学級担任として必要な技術や方法を身につける

成績評価方法(総合)

定期試験75%、授業内レポート及び授業外レポート各10%、授業への参加度5%、4回欠席は試験を受けられない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

tomo-y@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021071232
開設科目名	保健体育学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	海野　勇三, 友定　保博, 池田　恵子, 上地　広昭			区分	

授業の概要

卒業研究を進めるための演習で、各自の研究課題に関わる先行研究の検討及び研究方法について理解を深めるとともに、論文作成の指導を行う。

授業の一般目標

各自が今日的研究動向を踏まえ、適切な研究課題を設定し、それに関わる先行研究について理解し、研究方法について学習する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:研究課題の現代的意義について説明できる。

先行研究について理解することができる。

思考・判断の観点:先行研究と自らの研究課題の関係について説明できる。

関心・意欲の観点:自らの研究課題について主体的に取り組むことができる。

態度の観点:問題意識を持って自らの研究課題にねばり強く取り組むことができる。

技能・表現の観点:考察した結果を文章や口答で適切に表現できる。

成績評価方法(総合)

演習への取り組み状況及びレポートによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021071361
開設科目名	野外運動論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

野外運動に関する講義と実技･実習を行う。

授業の一般目標

主に「キャンプ活動」に着目し、野外運動･野外教育の手法を理解し実践力を養う。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075006
開設科目名	生理学(運動生理学を含む。)			単位	2 単位
対象学生	※木 9･10 生理学のいずれかを選択			学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

神経および筋の生理的機能について概説するとともに、運動制御機構における神経ー筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について講義する

授業の一般目標

神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経ー筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経ー筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について理解する。

思考･判断の観点:運動制御機構における神経ー筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序を説明できる。

関心･意欲の観点:運動制御機構における神経ー筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化に関心を示し、生体の合理性などに関する意識を高める。

成績評価方法(総合)

全出席を前提として、成績は試験 70%、レポート 20%、授業態度･授業への参加度 10%の割合

教科書

新訂　運動生理学概論,／宮下、石井編:大修館書店, 1996

参考書

メッセージ

連絡先

shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075071
開設科目名	陸上競技			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	渡壁　史子			区分	

授業の概要

中学校体育科における陸上競技の走･跳･投の種目の中から1、2種目を選択し、実技能力と指導能力を高めます。さまざまな種目の中から、とくに短距離走および走り幅跳びの技術分析の仕方や感覚づくりの習得方法を中心的な学習課題とします。また、グループでの学習形態をとり、各種目において個々人の課題を設定し、その課題を達成するための一人ひとりに合った技能･技術獲得の方法を追求する力を高めます。

授業の一般目標

中学校体育科における陸上競技の走･跳の実技能力および指導能力を高めることを目的とします。走においては、短距離走を行い、安定した心地よい走りを追求し、走りを構成する力を養うことをまず第一目標とする。跳躍については走り幅跳びを行い、走り幅跳びの技術獲得までの感覚づくりの筋道を学ぶ。

また、それぞれの種目の自己の技術獲得を追及するうえで、グループでの活動を中心としていく。その活動を通して技術獲得に向けたグループ学習のあり方、有効性について考えることを第二の目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:陸上競技の短距離走、走り幅跳びにおける技能･技術習得方法の道筋について理解を深めることができる。

思考･判断の観点:運営面において、どのような方法で個人のタイムを計るのか、どのような組み合わせで、どのような場所で活動を行えばよいのかを考えることができる。

また、天候やグラウンドの状況や用具によって活動の方法、内容を考慮することができる。

技術面において、自分やグループのメンバーの感覚がどのようにすれば創りだせるかを追求することができる。

関心･意欲の観点:短距離走、走り幅跳びの技能･技術の獲得方法について、自分や人の動きを分析する方法をグループ内で検討することができる。

また、感覚をつかむまでの練習方法などについて、グループ内やグループ外の意見、さらにはさまざまな資料などを参考にすることができる。

技能･表現の観点:自己(あるいは同じグループのメンバーの)技術について、出発点からどれくらい技術が向上したかを判断することができる。

成績評価方法(総合)

出席　40%

上記の目標の観点に向けた授業への取り組み　40%

最終的な評価対象レポート　20%

教科書

参考書

メッセージ

陸上競技は個人種目ですが、自分では気付きにくいこと、人から教えられる感覚や考え方が大いに参考になることがたくさんあります。”みんな”で陸上競技を楽しめる雰囲気の中で、実技能力や指導能力を高めあっていきましょう。

連絡先

747-1232

防府市台道1346-2

山口短期大学

0835-32-0138

watakabe@yamaguchi-jc.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075143
開設科目名	スポーツ生化学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	塩田　正俊			区分	

授業の概要

運動によって生じる生体内の化学的変化とその機序について、とくに運動と関わりのあるエネルギー供給機構、酸素運搬機能、酸塩基調節能などを中心に概説する。

授業の一般目標

運動によって生じる生体内の化学的変化とその機序について理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:身体運動時の生化学的変化を説明できる。

思考･判断の観点:運動時の骨格筋、血液、尿などの生化学変化などについて推論することができる。

関心･意欲の観点:運動時の生化学変化について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。

成績評価方法(総合)

欠席＝欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠席として扱います。この授業は 2 名の教員が各 7 週ずつ担当します。2 名の教員のいずれもが可以上の評価でなければ、この授業の単位は認定されません。

教科書

参考書

わかりやすい生化学：疾病と代謝･栄養の理解のために（第 3 版）,"

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075201
開設科目名	体育心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	上地　広昭			区分	

授業の概要

体育心理学の基礎知識を教授する。

授業の一般目標

受講生に，体育の現場で活用できる心理学的基礎知識を習得させる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

基本的には期末テストの得点をそのまま成績に反映させる。ただし，欠席一回につき 10 点の減点とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075256
開設科目名	生理学(運動生理学を含む。)			単位	2 単位
対象学生	※月 1･2 生理学のいずれかを選択			学年	～
担当教員	曽根　涼子			区分	

授業の概要

運動時の呼吸循環器系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて講義する。

授業の一般目標

運動時の呼吸循環器系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:1.運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について説明できる。
2.運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について説明できる。
思考･判断の観点:1.運動の種類による呼吸循環系の反応および調節機構の違いを説明できる。
2.運動トレーニングの種類による呼吸循環系の適応の違いを説明できる。
関心･意欲の観点:1.運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について関心を持つ。
2.運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について関心を持つ。

成績評価方法(総合)

小テストは 2 週に 1 回行う。2/3 以上出席と全小テスト 50 点以上が単位認定の最低必要条件である。欠席の場合および小テストの結果が 50 点未満の場合（不受を含む）はレポート（1000 字以上）を課す。次回の授業までにレポートが提出された場合にはその小テストは 50 点として扱う。

教科書

参考書

メッセージ

人体構造機能論Ⅱを受講していること（スポーツ健康科学コース以外の学生については人体構造機能論Ⅱを受講していることが望ましい）。運動生理学実習を受講するためにはこの授業を受講（2/3 以上）しておかなければならない。

連絡先

教育学部101－1

オフィスアワー

水曜日13～15時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075270
開設科目名	フィットネス論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について学習する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても学習する。

授業の一般目標

運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について理解する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について理解する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解0する。

思考・判断の観点:トレーニングによる一部の器官の適応を他の器官と関連付けて思考することができる。

関心・意欲の観点:新聞・雑誌などの記事から種々のトレーニング方法の情報を収集することに関心がある。

成績評価方法(総合)

定期試験70%、授業外レポート20%、授業態度・授業への積極的参加度10%をもって評価する

教科書

参考書

スポーツ生理学／森谷・根本編:朝倉書店, 1995

C級コーチ教本（前期・後期）／日本体育協会:日本体育協会, 1995

新訂　運動生理学概論／宮下、石井編著:大修館書店, 1996

骨格筋に対するトレーニング効果／山田・福永編:NAP, 1997

メッセージ

連絡先

shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075279
開設科目名	体操･器械運動			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075341
開設科目名	スポーツ法学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

法の基本的目的は社会秩序を維持し、社会生活の円滑を期するとともに平均的ないし配分的正義の実現をめざすものであり、もしその構成員相互の生活利益に対立･争いがあれば平和裡に調整し解決に貢献すべきであるとされている。スポーツ関係法規も同様に考えられる。そのようなスポーツ関係法規は、内容的には、大まかにスポーツの振興、人権（保障）問題、及び事故責任と補償問題にかかわるものなどに区分できる。このようなスポーツ関係法規について、できるだけ事例に即して本講義において、その意義や役割･機能及び構造等について述べる。

授業の一般目標

スポーツ関係法規になじむことから始まって、スポーツ活動に伴って生じる様々な紛争や事故問題について、事例や判例の分析･考察を通して、自力でそれらの紛争や事故問題について取り組み、解決ないし解消でき得る力を涵養する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. スポーツ法規とは何かについて説明できる。

2. スポーツ法規の役割･機能及び構造について説明できる。

思考･判断の観点: 1. スポーツ法規の役割･機能及び構造等について実際の具体的事例に即して説明できる。

関心･意欲の観点: 1. いわゆるリーガル･マインドを涵養し、スポーツ法規に関する関心を広げ、高めることができる。

態度の観点: 1. スポーツ（活動）に関連して生ずる法的問題について客観的に考えることができる。

成績評価方法(総合)

レポート及び試験等で総合的に評価する。

教科書

導入対話によるスポーツ法学

参考書

スポーツ政策の現代的課題／諏訪紳夫:日本評論者

スポーツ六法／伊藤堯, 山田良樹編:道和書院

メッセージ

スポーツ関係者の必須知識ともいえるスポーツ関係法規を現代的トピックスに即して解説している。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075346
開設科目名	体育経営学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	片山　健二			区分	

授業の概要

現代社会における体育･スポーツの意義･役割をスポーツ経営学の視点から理解すると共に、人々の豊かなスポーツライフ構築のためのスポーツサービスを効果的･合理的に供給するための理論について学習する。スポーツサービスを企画し、運営するための知識や能力を身につけるための基礎知識を養う。

授業の一般目標

1 スポーツ経営（学）を学ぶ意味を説明できる。

2)スポーツ経営(マネジメント)の具体的な実践領域（現場）を指摘し、その経営の特徴を説明できる。

3)スポーツ経営のしくみの中で、経営資源･経営過程やスポーツサービスの位置づけやその意味を説明できる。

4)3 つのスポーツサービス（A.S、P.S、C.S）の事業特性や運営のポイントを説明することができる。

5)自他の運動生活やスポーツ生活を記述し、その評価･診断ができる。

6)スポーツ指導者の分類と役割、専門性について説明できる。

7)総合型地域スポーツクラブの理解と共に、広域スポーツセンターの機能や役割を説明できる

8)スポーツ産業領域を分類し、その特徴を説明できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:･スポーツ経営（学）を学ぶ意味、スポーツ指導者の分類と役割、専門性、スポーツサービス（A.S、P.S、C.S）の事業特性や運営のポイントを説明することができる。

･スポーツ経営のしくみの中で、経営資源･経営過程やスポーツサービスの位置づけやその意味を説明できる。

･総合型地域スポーツクラブの理解と共に、広域スポーツセンターの機能や役割を説明できる

8)スポーツ産業領域を分類し、その特徴を説明できる。

思考･判断の観点:･スポーツ経営(マネジメント)の具体的な実践領域（現場）を指摘し、その経営の特徴を説明できる。

･自他の運動生活やスポーツ生活を記述し、その評価･診断ができる。

関心･意欲の観点:･授業に積極的にかかわり、質疑に参加できる。

態度の観点:･私語なく、授業に真面目に臨み、質疑等にも積極的に参加できる。

成績評価方法(総合)

⑴ 出席状況 ⑵ レポート評価 ⑶ 意欲･態度をあわせて、総合的に評価する

教科書

体育･スポーツ経営学講義／八代勉･中村　平編:大修館書店

参考書

メッセージ

学生の積極的授業参加（質問や意見は遠慮なく）を期待します。

連絡先

東亜大学

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021075347
開設科目名	環境適応学			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	曽根　涼子			区分	

授業の概要

暑熱、高圧(潜水)などの諸環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理的メカニズムなどについて講義する。

授業の一般目標

暑熱、高圧(潜水)などの諸環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理的メカニズムなどについて理解する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

2/3以上出席が、単位認定のための最低必要条件である。

教科書

参考書

環境生理学／黒島:理工学社, 1993

メッセージ

連絡先

教育学部101－1

オフィスアワー

水曜日13～15時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021081017
開設科目名	応用電子(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

電子回路の講義で習得した知識をもとに、整流回路、トランジスタ増幅器、オペアンプによる増幅回路を実際に作成する。また、テスターやオシロスコープなどの計測器の使い方も合わせて解説する。実習に当たっては、受講者と相談の上、通常の時間割りの前後あるいはそれ以外の時間帯にも時間を設けて十分な実習時間を確保する。

授業の一般目標

電子回路で学んだ回路を実際に作成することにより、回路に関する理解を深め、あわせて電子回路製作の基礎技術を習得することを目的とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. 作成する電子回路の動作を理解する

2. 計測器に関する知識を獲得する

関心・意欲の観点:電子回路作成の意欲と面白さ体験する

技能・表現の観点:測定した結果を製作や実験内容を含めてレポートに的確にまとめる能力を養う

成績評価方法(総合)

出席については、5回以上欠席は欠格。成績はテーマごとまとめて提出するレポートにより評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021081087
開設科目名	応用機械(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森岡　弘			区分	

授業の概要

本講義では、初めに、ロボコンの歴史とその教育的効果について考察する。次に、実際にミニロボットを製作し競技を行なう。簡単なミニロボットの設計製作能力を身に付けるとともにものづくりにおける創造力をやしなう。

授業の一般目標

中学校の技術教育の代表的な教材の一つとして、ロボットの製作と製作したロボットによる競技（ロボットコンテスト、以下 ロボコン）が注目されている。

ロボコンを実際に体験することにより実践的なものづくりの学習を行い、技術科教員になるための素養を身に付けることを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：ロボットの設計製作を通して、中学校技術科教員に必要と考えられる機械工学と電気工学の基本的な知識の習得を目指す。

思考・判断の観点：どうような構造が目的に合うか思考判断できるようになることを目標とする。

関心・意欲の観点：ものづくりに関して関心を高め、みずからの手を使って製作に積極的に参加できるようになることを目標とする。

態度の観点：実習時には常に安全に注意するとともに、実習にふさわしい服装を着用することを心がける。

技能・表現の観点：簡単な機械システムの設計製作能力と機械加工技術を習得することを目標とする。

成績評価方法(総合)

成績評価は出席状況と設計計画書、製作課題の完成度が 70%、実習中の態度およびプレゼンテーションの結果を 20%,レポートを 10%として総合的に評価する。

教科書

参考書

はじめてのロボット創造設計／米田完, 坪内孝司, 大隅久共著:講談社, 2001

ここが知りたいロボット創造設計／米田完, 大隅久, 坪内孝司共著:講談社, 2005

メッセージ

実習時間確保のため、受講者と相談の上、通常の時間割り以外の時間帯にも時間を設けて実習を行う。

機械加工の実習を含むため作業のできる服を着用すること。材料費を徴収する場合がある。

連絡先

E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

木1, 2

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021081162
開設科目名	金属材料学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	澤本　章			区分	

授業の概要

私たちの生活で活用されている金属材料について、その結晶構造、製造方法、物理的性質、化学的性質、機械的性質、熱処理法、特徴、使用方法について解説する。主に、鉄系材料について概説する。

授業の一般目標

金属材料について関心をもち、その種類、性質に対して理解ができる。金属材料の効果的な使用方法について知識を得ることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1,金属材料の種類を説明できる。2.金属材料の特性と活用法を関係づける。

思考・判断の観点:1.金属材料の種類の違いを類別できる。2.金属材料の性質の違いを指摘できる。

関心・意欲の観点:1.金属材料の性質を討議できる。2.金属材料の関心度の向上に寄与できる。

態度の観点:1.金属材料の性質評価に参加できる。2.金属材料の性能分析に協調できる

技能・表現の観点:金属材料の性質を評価する知識が得られる。金属材料の材料設計法が展開できる。

その他の観点:とくになし

成績評価方法(総合)

定期試験:60%、レポート:20%、授業の態度:5%、出席:15%の割合で評価します。

教科書

参考書

メッセージ

高校の化学、物理などで学んだことも学習内容に出てきます。化学、物理を履修していない学生でも、できるだけわかりやすく解説する予定です。金属材料とはどういうものであるかを学習して、金属の世界を体験してください。また、金属加工分野の卒業研究(4 年生)で必要不可欠な知識について学習します。小学校総合的学習の時間及び中学校の金属加工分野の教材開発に必要な知識の一部が修得できます。

連絡先

〒753-8513 山口市吉田 1677-1 山口大学教育学部技術教育金属加工澤本章 TEL/FAX083-933-5395、E-mail: sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 1 コマ目、10:20～11:50

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021081218
開設科目名	金属加工演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	澤本　章			区分	

授業の概要

黄銅と鋼を用いてドライバーの製作を行い、金属の加工法、金属の熱処理法を学習する。また、アルミニウム空き缶の溶解･鋳造によりアルミニウム鋳物（キーホルダー、家紋（置物）を製作する。

ものづくり教育を推進する力を養う。

授業の一般目標

ものづくり技術教育の一環として、ドライバーの製作とアルミニウム鋳物の製作を行う。演習を通して、金属材料の種類、金属の機械加工法、金属の熱処理方法を学習する。アルミニウム空き缶を回収し、溶解･鋳造によりアルミニウム鋳物でキーホルダー、家紋（置物）を作製し、鋳造技術を学ぶ。リサイクル利用によってものを有効に利用できることを体得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:1.金属材料の加工法を説明できる。 2.金属加工とものづくりを関係づける。

思考･判断の観点:1.金属の機械加工法を類別できる。2.金属の加工技術について指摘できる。3.ものづくり教育について考える態度を養う。

関心･意欲の観点:1.金属の適切な加工法を討議できる。2.ものづくり推進教育に寄与できる。

態度の観点:1.金属の特性を知り加工作業に参加できる。2.金属材料の加工作業に協調できる。

技能･表現の観点:1.金属加工用の手工具及び工作機械が使用できる。鋳造技術を体得できる。2.アルミニウム鋳物のものづくりにより自分の作りたいものを製作･表現できる。

その他の観点:とくになし

成績評価方法(総合)

授業への出席状況(40%)、授業中の態度(10%)、製作物の出来上がり状況(20%)

、レポート(30%)をもとに評価する。

教科書

参考書

メッセージ

金属材料学、金属工作法で学習したことを、実際に、応用演習を行なって確かめます。ものづくりを行います。

連絡先

〒753-8513 山口市吉田 1677-1 山口大学教育学部技術教育金属加工澤本章 TEL/FAX083-933-5395、E-mail: sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日、10:20～11:50

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021081251
開設科目名	金属工作法(製図及び実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	澤本　章			区分	

授業の概要

技術教育の金属加工領域で習得すべき金属加工用手工具、工作機械の機能、使用法について解説する。理解を深めるために演習･実習も併用して行なう。

授業の一般目標

金属加工で使用する手工具及び代表的な工作機械の特徴と使用法について概説する。使用法を修得し、金属加工を行う技術を習得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:1.金属加工用手工具及び代表的な工作機械を説明できる。

2.金属加工用手工具及び代表的な工作機械を関係づける。

思考･判断の観点:1.金属加工用手工具及び代表的な工作機械を類別できる。

2.機械加工法を指摘できる。

関心･意欲の観点:1.機械加工法を討議できる。2,ものづくり教育の推進に寄与できる。

態度の観点:1.金属加工によるものづくりに参加できる。

2.金属加工法に慣れ、協調できる。

技能･表現の観点:1.金属加工技術を修得できる。2.金属加工により作品を自由に製作できる。

その他の観点:とくになし

成績評価方法(総合)

出席状況(10%)、授業中の態度(10%)、レポート(20%)、期末試験(60%)の成績により総合評価します。

教科書

参考書

メッセージ

金属加工演習、総合技術I、卒業研究で役に立つことを学習します。新しい発見があり、有意義な知識と体験が得られます。

連絡先

〒753-8513 山口市吉田 1677-1 山口大学教育学部技術教育金属加工澤本章 TEL/FAX083-933-5395、E-mail: sawamoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日、10:20～11:50

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021081257
開設科目名	木材加工法(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　吉永			区分	

授業の概要

木材およびその加工に関する基礎的な講義を行った後, 実習を行い実践的にこれを理解する。

実習では, 中学校の技術･家庭科での指導を想定し,手加工を中心とした基本的な加工法を身に付ける。

授業の一般目標

木材や木質材料に関する基礎的な知識を身に付ける。

木材の加工に使用する工具や機械についての, 正しい知識と実践力を身に付ける。

木製品の製作工程について実地に理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 木材および木質材料の特徴と加工方法に関する基礎的知識･理解

思考･判断の観点: 1. 目的等を勘案し, 適切な材料や加工方法を選択できる。

2. 全体および場面ごとの段取りが行える。

関心･意欲の観点: 1. 進んで木について知ろうとする。

2. 進んで, 加工方法等について知ろうとする。

態度の観点: 1. 加工方法や工程を検討し, 工夫しようとする。

2. 工具等の手入れを行おうとする。

3. 実習室の整理･整頓ならびに美化を図ろうとする。

技能･表現の観点: 1. 工具や機械が安全かつ正しく扱える。

2. 製作品が寸法どおりに製作できている。

成績評価方法(総合)

授業レポートおよび学習態度, 作品の完成度等を総合的に判断する。

教科書

木材の性質と加工／山下晃功ほか:開隆堂, 1993

参考書

メッセージ

作業着(ジャージ等, 繊維が引っかかりやすい素材は不可), 上履き(スリッパ,サンダルは不可)が必要です。

使用する工具等は, 初回の授業で説明します。材料費を徴収します。

実習時間を確保するため時間を延長して行う場合があります。

連絡先

okasun@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

研究室在室中であれば, いつでもどうぞ。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021081280
開設科目名	機械工学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	森岡　弘			区分	

授業の概要

ものづくりや身近な家庭用機械の動作原理、構造、及び適切な使用法を理解するために必要となる機械工学の基礎について学習し理解を深める。

授業の一般目標

ものづくりの基礎となる機械工学全般について学習し、技術科教員になるための教養を身に付けることを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：機械工学の中で、機械材料、材料力学、流体力学、計測工学、機械工作法の基本的な知識の習得を目指す。

思考・判断の観点：身のまわりにある機械製品を機械工学の観点から思考判断できるようになることを目標とする。

関心・意欲の観点：ものづくりに関して関心を高め、みずからの手を使って製作に積極的に参加できるようになることを目標とする。

態度の観点：実習時には常に安全に注意するとともに、実習にふさわしい服装を着用することを心がける。

技能・表現の観点：ノギス、マイクロメータ、ダイヤルゲージを使用方法を習得することを目標とする。

成績評価方法(総合)

定期試験=40%

小テスト・授業内レポート　20%

宿題・授業外レポート　10%

授業態度・授業への参加度　10%

受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品　5%

演習　5%

教科書

図解もの創りのためのやさしい機械工学／門田和雄：技術評論社，2001

参考書

ハンディブック機械／土屋喜一：オーム社，1997

機械工学概論／草間秀俊 [ほか] 共著：理工学社，1992

メッセージ

レポートの採点を通してライティングの指導を行ないます。「コミュニケーション技術」、篠田義明著、中公新書、等の参考書を利用してしっかりとしたレポートを提出して下さい。

連絡先

E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

木1，2

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021085040
開設科目名	電気回路学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

直流回路および交流回路で利用される素子の性質、オームの法則、キルヒホップの法則などを説明し電気回路の電圧や電流の計算法を解説する。また、交流回路の計算に必要な複素数や行列の計算法も必要に応じて説明する。

授業の一般目標

直流回路、交流回路の基礎理論を理解するとともに、身近な電化製品の消費電力や室内配線についての理解を深めることを目的とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. 直流回路でのオームの法則、キルヒホッフの法則を理解する

2. 交流回路計算の基礎である振幅や位相と複素数との対応を理解する

3. コイルやコンデンサを含む交流回路の複素計算を理解する

思考・判断の観点:1. 与えられた直流回路の電圧電流をオームの法則、キルヒホッフの法則を用いて計算できる

2. コイルやコンデンサを含む交流回路の電圧電流をキルヒホッフの法則を用いて計算できる

成績評価方法(総合)

試験とレポートによる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021085062
開設科目名	栽培汎論(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐藤　登			区分	

授業の概要

人間の歴史の中で主要な位置を占めてきた食べ物について、その生産の仕組みを説明する。

授業の一般目標

(1)食べ物の生産にかかわる要因を理解する。

(2)身近な食べ物を、日常生活の中から理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 主要農産物の生産について説明できる。

思考・判断の観点: 自然環境と農環境の関係を説明できる。

関心・意欲の観点: 日常の食生活について関心を持つ。

成績評価方法(総合)

1)授業中に数回行う小実験と栽培実習についてレポートを提出。

(2)個人課題でのレポート提出。

なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021085109
開設科目名	情報処理論（実習を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

ノートパソコンを用いて文書作成、表計算を学ぶ。

授業の一般目標

次の 3 項目をこの授業の目標とする。(1)数式やグラフを含んだ文書を作成できるようになること、(2)表計算を用いて成績処理などの計算を行うことができるようになること

授業の到達目標

知識・理解の観点：表計算ソフトの利用法：特に関数を用いた計算方法の知識を身に付けること。

思考・判断の観点：表計算ソフトにおいて、計算方法を考えることが出来るようになること。

関心・意欲の観点：コンピュータの活用法に興味を持って取り組むことができること。

技能・表現の観点：文書作成ソフトを用いて、グラフや数式を含んだ文書を作成できるようになること。さらに、表計算ソフトを用いて、簡単な計算及びプログラムの作成を行うことができること。

成績評価方法(総合)

定期試験とレポートによる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021085138
開設科目名	情報基礎II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

計算機を利用するための基本ソフトウェアであるオペレーティングシステム：OS について、現代の OS が備えている機能の基礎とその仕組みについて理解を深める。

授業の一般目標

現在利用されている OS の機能とその仕組みについて理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：現代の OS について理解する。

関心・意欲の観点：OS への関心が高まること。

成績評価方法(総合)

中間・期末試験と毎回の授業で課す課題を総合計して評価する。なお、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書

オペレーティングシステムの基礎／大久保英嗣：サイエンス社, 1997

参考書

オペレーティングシステムの概念／J.L.ピーターソン,A.シルバーシャッツ：培風館, 1987

メッセージ

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 13 時～15 時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021091155
開設科目名	児童文化演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	友定　啓子			区分	

授業の概要

児童文化財の中から、絵本を中心に取り上げ、絵本の読み聞かせや子どもとのかかわりを考える。

保育および学校現場で使える紙を使った教材の製作を行う。

授業の一般目標

児童文化に関する関心を深める

幼児や児童の発達に合わせた文化財の選択や製作ができることを目標とする

授業の到達目標

知識・理解の観点:児童文化に関する基本的な知識を獲得したか

思考・判断の観点:幼児にふさわしい文化財を選ぶことができるか

関心・意欲の観点:児童文化に関する関心・意欲が高まったか

技能・表現の観点:おもちゃの製作ができるか

絵本の読み聞かせができるか

成績評価方法(総合)

以下のものを中心に評価する

授業内レポート　絵本に関する分析レポート・授業での発表・討論への参加

授業外レポート　ステージ鑑賞レポート

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

友定啓子

オフィスアワー

水 12:00-12:50

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021091163
開設科目名	調理学実習Ⅰ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	五島　淑子			区分	

授業の概要

この授業では、まず調理実習を行ううえでの注意事項を学習し、ついで、基本的な食品の取り扱いと調理特性を踏まえた調理学実習を行う。基礎的調理の技術･知識の習得を目標とする。この調理学実習は、小･中学校の家庭科食物領域の指導の際に必要な内容にしている。

授業の一般目標

1) 調理実習を行ううえでの基本的な注意点を知る。

2) 基本的な食品の取り扱いと調理特性を踏まえた調理実習を行う。

3) 基礎的な調理技術･知識を習得する。

4) 小･中学校の家庭科の食物領域の指導に必要な技術･知識を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1調理実習を行ううえでの留意点を理解する。

2食品の調理特性を理解する。

思考･判断の観点: 1調理の目的に応じた食材の取り扱いができるようにする。

関心･意欲の観点: 1調理実習を通して、食品･調理への関心を高める。

態度の観点: 1実習に積極的に参加する

2グループで協力して、活動する。

技能･表現の観点: 1基礎的調理技術を身につける。

2基本的な食品の取り扱いができる。

その他の観点: 1安全に留意して実習を行う。

成績評価方法(総合)

実習レポート、最後の課題レポート、授業の参加態度を総合的に判断して評価します。

教科書

参考書

調理と理論／山崎清子･島田キミエ他:同文書院, 2003

メッセージ

実習は実費負担です。材料の購入は当番で順番に行います。

受講希望者は第1回目に必ず出席してください。1回目に班分けをします。

家政教育選修、副免許で家庭科を取得する人が優先されます（最大20名まで）。

実習の内容や順番は変更します。昼休み時間まで延長することも多いです。

授業を欠席、遅刻する場合は、授業開始前までに、必ずメールで連絡してください。

連絡先

goto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日16時10分から17時40分

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021091170
開設科目名	被服学実験			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	星野　裕之			区分	

授業の概要

被服の材料となる繊維、糸、布の基本的な性質について科学的実験を行い、実験結果の整理・解析とレポート作成を行う。

授業の一般目標

前年度までに知識として得た繊維材料について、実際に実験実習を行うことにより、各種繊維の性質を体感するとともに、その現象、原因、理由について物理現象・化学現象の現れであることを理解する。それと同時に基本的な実験レポートの書き方を身に付ける。

授業の到達目標

知識・理解の観点:各種繊維素材の性質を物理的・化学的に説明できる。

思考・判断の観点:身近なものでも、物理現象・化学現象に基づいていることを実感する。

関心・意欲の観点:身の回りに起こる現象について、「なぜ？」という疑問を抱くようにする。

技能・表現の観点:実験指導書で説明している実験器具、測定機器を扱える。

その他の観点:チームワークの方法と技術について、創意工夫をする。

成績評価方法(総合)

毎回の出席と実験への参加度（積極性）および実験レポートで評価する。レポートの提出期限は毎回翌週の実験授業開始時刻までとする。

教科書

参考書

生活のための被服材料学／日下部信幸著:家政教育社, 1998

生活のための衣服簡易実験法／日下部信幸著:家政教育社, 1996

衣服科学／山崎和彦著:朝倉書店, 1997

被服学辞典／阿部幸子ほか7名編集:朝倉書店, 1999

メッセージ

衣料素材論Ⅰを履修済みであることが必須条件。ほかに衣生活環境論あるいは衣生活科学概論のどちらかを履修済みであることも望ましい。実験スペースの関係で受講希望者が多数の場合、人数制限をすることがあるので、初回授業に必ず出席すること。

連絡先

E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp

研究室:教育学部300号室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021091306
開設科目名	住居学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山本　善積			区分	

授業の概要

住まい、地域空間における住み手の生活や空間の問題について、仮説をたてて調査し、その問題の解決策や生活の仕方、空間のあり方を考察する。

授業の一般目標

まず、生活や空間の問題意識を仮説化する。その仮説を検証するための調査方法を考える。調査結果を整理･分析し、仮設を検証する。その結果についての考察をする。こうした住居調査の手順を理解し、実践できるようにする。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 各自の演習テーマに関する既習の基本事項や問題について明できる。

思考･判断の観点: 1. 演習テーマに関する適切な調査方法を指摘できる。

2. 調査結果を類型化するなどにより分析し、仮説の検証として示すことができる。

関心･意欲の観点: 1. 他の人の調査等についても意見を述べる。

態度の観点: 1. 手順に従って進める。

成績評価方法(総合)

演習発表とレポートで評価する。

教科書

参考書

メッセージ

住空間や住生活について考える楽しさを味わってほしい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021091342
開設科目名	調理学実習Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	五島　淑子			区分	

授業の概要

調理学実習Ⅰで修得した知識･技術を応用した調理学実習を行う。食品科学で修得した知識を生かして、食品素材の調理性を中心とした調理実習および、家庭でできる加工食品を製造することを目標とする。この調理学実習は、おもに中学校、高等学校の食物の指導をする際に、役立つような内容にしている。

授業の一般目標

1) 調理学実習Ⅰで修得した知識･技術を踏まえた調理技術と知識を習得する。
2) 食品科学で修得した知識を生かして、食品素材の調理性を理解する。
3) 家庭でできる加工食品の技術･知識を習得する。
4) おもに中学校、高等学校の食物の指導に必要な技術･知識を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1食品の調理特性を理解する。
2身近な加工食品の製造原理を理解する。
思考･判断の観点: 1調理の目的に応じた食材の取り扱いができるようにする。
2身近な加工食品の製造工程がわかる。
関心･意欲の観点: 1調理実習を通じて、食品･調理･加工食品への関心を高める。
態度の観点: 1グループで協力して実習に取り組む。
2実習に積極的に参加する。
技能･表現の観点: 1基礎的な調理技術を身につける。
2食品加工技術を身につける。
その他の観点: 1安全に留意して実習を行う。

成績評価方法(総合)

実習レポート、課題レポート、実習中の態度を総合して、評価します。

教科書

参考書

メッセージ

実習費は実費負担です。
受講生は最大20名まで。家政教育選修、副免許で家庭科を取得する人を優先します。
実習の内容や順番は変更します。
調理学実習1を受講していることが望ましい。授業時間が延長することもあります。
授業希望者は第1回目に必ず出席してください。班分けをしますので、2回目からの出席は認められません。
欠席や遅刻の場合は、授業が始まる前までに、メールで連絡してください。

連絡先

goto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日16時10分から17時40分

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021095023
開設科目名	住居学（製図を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山本　善積			区分	

授業の概要

住生活の向上のために、住空間の構成や住環境の制御方法の理解を深めることを目的とする。住まいの発展や多様な住まい方を通して、現代の住まいと住生活の課題を学ぶ。あわせて、健康や安全面から住まいの環境を点検し、子どもや高齢者に配慮した住居の計画、地域環境へと理解を深めていく。

授業の一般目標

住まいの発展経過や現代の多様な住まい方から住まいと住生活の課題を理解する。次に、健康や安全の視点から住まい環境の問題を具体的に点検し、認識する。これらの知識を生かし、子どもや高齢者など家族員の特性も踏まえて住居の計画をできるようにする。さらに、住まいと地域や社会との関わりに関心を広げる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 住まいの歴史と住まい方の発展から、住まいと住まい方の基本事項を理解する。

2. 健康や安全の面から現代の課題を理解する。

思考・判断の観点：1. 住まいの健康や安全性の判断ができる。

2. 子どもや高齢者の特性から、その必要な空間条件を考えられる。

関心・意欲の観点：1. 住まいと地域環境との関係や、消費者問題・住宅政策など社会との関係にも関心を広げる。2. バリアフリーなど社会の動きを主体的につかむ。

態度の観点：1. 知識や思考力を自らの住まいと住まい方に生かし、よりよい住まい方を積極的に追求する。

技能・表現の観点：1. 子どもや高齢者を含んだ家族のニーズを理解し、それを間取りに表現できる。

成績評価方法(総合)

演習レポートと試験で評価する。欠席状況も加味する。

教科書

参考書

メッセージ

質問を歓迎します。質問をして理解を深めて下さい。

連絡先

E-mail:yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021095064
開設科目名	家庭経営学（家庭経済学を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	西　敦子			区分	

授業の概要

前半は我が国の家庭経営、消費生活の変容、家計について、後半は現代の消費者問題の背景・要因について解説する。それらを通して真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。

授業の一般目標

我が国の消費生活の特徴、社会と家計との関わり、現代の消費者問題、消費者政策等を理解する。家族の安全・安定・幸福な生活を目指し、主体的に自立した家庭経営および消費生活を営み創造していく意志決定能力を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：授業で学んだことを理解することができる。
（家庭経営、家計、消費者問題、自立した消費者など）

思考・判断の観点：現代の消費者問題について、その要因・背景を明確にすることができる。
消費者として主体的な選択・判断・意志決定ができる。

関心・意欲の観点：消費者問題や変化する社会状況に関心を持ち、与えられた課題等に意欲的に取り組む。

態度の観点：授業の態度が真面目である。

技能・表現の観点：批判的思考を備え、自らの意見をわかりやすく整理集約して説明できる。

成績評価方法(総合)

小テスト、課題、試験を勘案する。

教科書

文部科学省著作教科書　消費生活／文部科学省：教育図書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021095092
開設科目名	家族関係論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	友定　啓子			区分	

授業の概要

現代家族の理論と実態について取り上げる。家族と社会の関係、家族内部の人間関係
（夫婦関係・親子関係）およびその病理（DV・児童虐待など）について講義する。

授業の一般目標

現代家族の置かれた状況を理解し、家族関係に関する一般的な知識と自分なりの家族観
を持つ。

授業の到達目標

知識・理解の観点：現代家族の置かれた状況、課題について理解する
思考・判断の観点：家族問題についての自分なりの見解を持ち表現できる
関心・意欲の観点：家族関係に関する関心を持つ
態度の観点：出席状況

成績評価方法(総合)

授業内および課外でのレポートと最終試験を総合して判定する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

友定啓子

オフィスアワー

水12-00-12:50

開設学期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021095106
開設科目名	被服造形論（被服製作実習を含む。）			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	松尾　量子			区分	

授業の概要

被服分野の教材となる被服の立体構成を取り扱い、基本的な知識の理解と技術の習得を目的として授業を展開する。

授業の一般目標

被服製作に必要な基本的な知識と実技能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：人体と衣服の関わり、衣服造形の理論について基本的な知識を理解する。

技能・表現の観点：衣服造形の基本的技術を習得する。

成績評価方法(総合)

課題作品とレポートによって評価します。

教科書

文化ファッション大系服飾造形講座1服飾造形の基礎:文化出版局

参考書

メッセージ

実習時間を確保するため、授業を延長して（または開始時刻を早めて）行うことがあります。受講希望者は第1回目の授業に必ず出席してください。希望者多数の場合は、設備の関係で人数制限（最大24名まで）をすることがあります。その場合、家政教育専修および生活健康科学コース2年生で家庭科免許取得希望者を優先します。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021095202
開設科目名	食品栄養学実験			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

この授業では、先ず、簡単な実験器具や薬品等の取り扱い方など基本的な実験の基礎技術について学習し、ついで各栄養素を題材に、それぞれの生物学的、科学的特性を、実験を通して体得する。さらに、食品衛生的な立場から、微生物に関する実験や食品添加物の検出実験等を行う。

授業の一般目標

1. 基礎的な化学実験･生物学実験の技術を習得する。
2. 各種栄養素の化学的特性や生物学的特性を理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:各実験について、原理までしっかりと理解し、説明できる。

思考･判断の観点:各実験に使われている器具、試薬などについてその役割や意味を説明できる。

関心･意欲の観点:実験を通して栄養学的、食品学的、食品衛生学的興味関心を高める。

態度の観点:それぞれの実験に対して、技術の習得だけでなく、その原理的内容についても把握する。

また、他人に対して協調的、建設的態度がとれる。

技能･表現の観点:基礎的な化学実験、生物学実験の技術をマスターし、使用できる。

成績評価方法(総合)

毎回提出のレポートと授業への出席および授業中の態度による総合評価

教科書

参考書

メッセージ

実験の科目が少ないので、興味のある者は、積極的に履修して欲しい。特に、卒論で、実験テーマ（食物）を希望する場合は、履修しておくことが望ましい。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021095230
開設科目名	栄養学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

先ずはじめに、生命と細胞のしくみを学び、ついでタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルの五大栄養素の代謝やその生体内での機能や重要性について学ぶ。また、食物繊維などについても学ぶ。さらに、ビデオ鑑賞などを行い、現代の食生活の抱えている問題や課題について考える。この授業では、それぞれのポイントにおいて、運動生理学的観点から、運動と栄養学の関係についても言及していく。

授業の一般目標

生命と細胞の仕組みを理解し、各種栄養素の生体内での役割を認識する。また、自分の食生活を客観的にとらえ、問題点を改善していこうとする態度を身につける。運動と栄養学を関連ずけて考えることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 細胞の仕組みや生体の主な機能（例えば、消化吸収・エネルギー生成など）について説明できる。

2. 五大栄養素や食物繊維の役割を説明できる。

3. 運動と栄養の関係を説明することができる。

思考・判断の観点：個々の知識を総合して、食と健康の問題を考えられる。

運動と栄養を関連付けて考えられる。

関心・意欲の観点：自分の食生活や現代の食の問題等と比較して考える。

運動に栄養の知識を生かそうと考える。

態度の観点：自分自身の健康の事柄と結びつけて、授業より積極的に取り組むことができる。

運動のなどの活動を栄養の面からも改善しようと取り組むことができる。

成績評価方法(総合)

期末試験、レポートおよび出席で総合的に評価する。

教科書

栄養学　－食と健康－／堀口美恵子：三共出版，2008

参考書

メッセージ

文系・理系を問わずに理解ができる授業をめざしているので、生物・化学などの苦手意識を払拭して授業に望んでほしい。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021095281
開設科目名	衣料素材論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	星野　裕之			区分	

授業の概要

衣料用のさまざまな繊維について、構造、比重、吸湿性、保温性、強伸度、帯電性等の基本的な性質、特徴を解説する。

授業の一般目標

衣料用繊維を科学的な目で捉え、種々の繊維素材の基本的な性質、特徴を理解し、それらの性質が布の性質にどのように関わるかを考察しながら、ライフスタイルやＴＰＯに合わせた素材選び、着用、取扱いができるようにする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：繊維素材の性質、特徴を科学的に説明できる。

思考・判断の観点：繊維素材の性質と布地の性質との関連づけられる。

関心・意欲の観点：日頃、意識せず着用している衣料を科学の目で捉えることに関心を持つ。

態度の観点：日常生活のなかの事象を科学的な目で捉え、考えることができ、日常に応用されている物理や化学を実感することができる。

成績評価方法(総合)

学期末に行う定期試験および授業内レポートで評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

生活のための被服材料学／日下部信幸著：家政教育社, 1998

衣服科学／山崎和彦著：朝倉書店, 1997

アパレル科学／丹羽雅子編著：朝倉書店, 1997

被服学辞典／阿部幸子ほか７名編集：朝倉書店, 1999

被服材料学／中島利誠編著：光生館, 1986

メッセージ

連絡先

E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部300 号室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021095310
開設科目名	食文化論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	五島　淑子			区分	

授業の概要

本講義では、生活様式と食、主食、肉食、乳利用、食事行動について、世界の食文化および日本の食文化について講義する。また現代の食生活についても講義する。

授業の一般目標

⑴ 食文化を学ぶ意義･目的を理解する。

⑵ 主食の条件、肉食の文化、乳利用の文化について理解する。

⑶ 現代の食生活の問題点を理解する。

⑷ 食文化について関心をもち、食について主体的に考えることができるようにする。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1食文化とは何かについて説明できる。

2世界の食文化について理解する。

3日本の食文化について理解する。

3食文化の研究の意義を理解する。

思考･判断の観点: 1食文化に関する自分の意見を論理的に述べることができる。

2現代の食生活の問題点を述べることができる。

関心･意欲の観点: 1食文化に関する関心を広げる。

2食に対する問題意識を高めることがでる。

態度の観点: 1日常生活の中で、食生活、食文化の問題について主体的に考えることができる。

成績評価方法(総合)

課題レポートを中心に評価し、授業への参加度を考慮します。

教科書

新･食文化入門／森枝卓士･南直人編:弘文堂, 2004

参考書

食文化入門／石毛直道･鄭大聲編:講談社, 1995

メッセージ

ビデオ教材も使用します

連絡先

goto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021095319
開設科目名	衣生活環境論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	星野　裕之			区分	

授業の概要

生活のなかの衣料に着目し、歴史、衣服気候、繊維、染色、洗浄、管理等に関する基礎的な事項を解説する。

授業の一般目標

日常生活のなかで、普段なにげなく身に着けている衣服について、見た目のファッションではなく、科学的な目で理解・考察できるようにする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 衣料用素材の種類と特徴を説明できる。

2. 洗剤の種類と役割を説明できる。

3. 品質表示の意味を説明できる。

思考・判断の観点：1. 目的に合った衣類を選択できる。

2. 洗剤の誤った使い方を指摘できる。

関心・意欲の観点：衣生活を科学的な目で捉えることに関心を持つ。

態度の観点：授業だけのこととして終わらせるのではなく、日常生活に生かせる。

成績評価方法(総合)

授業のなかで3回程度行う小レポートの提出、および学期末の課題レポートの提出で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書

参考書

衣生活論／中島利誠編著：光生館, 1999

生活のための被服材料学／日下部信幸著：家政教育社, 1998

洗濯の科学／花王生活科学研究所編：裳華房, 1989

石けん屋さんが書いた石けんの本／三木春逸・三木晴雄：山水社, 1992

メッセージ

1年生対象の概論科目である。したがって、再履修者を除き、すでに衣料素材論を受講済みあるいは受講中の者は、遠慮してください。

連絡先

E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部300号室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021101110
開設科目名	実践英語音声学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	HIGGINS　MICHAEL　LEO			区分	

授業の概要

The purpose of the course is to expand the students' basic repertoire of vocal sounds from those of Japanese to the much wider range of English, also stressing the importance of intonation and rhythm.

授業の一般目標

The students will work on and improve their English pronunciation by working with a special textbook specifically designed for Japanese learners of English. The students will also learn rhythm and intonation patterns through working with a set of teacher-developed materials. This will help them to be able to, in turn, teach good International English pronunciation to their own students in the future.

授業の到達目標

知識・理解の観点: Students will learn the 41 sounds of International English and develop consistent intonation and rhythm patterns in their spoken English. They will demonstrate their ability to convert the sounds they hear into a new phonetic alphabet for English, and in reverse, be able to convert words written in this phonetic alphabet back into standard English.

関心・意欲の観点: Students will find that studying and developing their pronunciation can be both fun and practical and will thus improve their attitude towards and motivation for learning and using English.

技能・表現の観点: The students will improve their English pronunciation, reducing the number and severity of so-called "Katakana" English pronunciations. The students will also learn correct English rhythm and intonation patterns. Additionally, the students will learn a system of Sound Spelling (phonetic spelling) that will be useful for learning the pronunciation of new words.

成績評価方法(総合)

Full attendance is required: it is impossible to do this course by private study. The students' progress will be monitored throughout by constant listening quizzes and oral challenges. The final exam will contain an element of listening comprehension, writing in the phonetic alphabet, converting words written in the phonetic alphabet into standard English, as well as a speaking test that will be compared to an entrance level pronunciation test to measure progress.

教科書

The Sound Approach Pronunciation Workbook, 5th Revised Edition／Higgins, Higgins, Shima：IEI, Inc, 2009

参考書

メッセージ

Students should always bring their book and an English-English dictionary to class. The dictionary can be electronic or in book form.

連絡先

Professor Michael Higgins
研究1号館 #304
山口市山口県 753-8511
Tel/Fax: 81-83-933-5086
Email: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp
Web: http://www.soundapproach.net

オフィスアワー

Wednesday 4:00 to 5:30PM

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021101168
開設科目名	日英対照言語学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松谷　緑			区分	

授業の概要

この授業では、私たちにとっておそらく最も身近な言語である日本語と英語をとりあげ、「ことば」について考察しながら、積極的に探究してゆく（学問する）姿勢を養う。授業は講義形式で進めるが、学生には積極的な幅広い読書・情報収集・教員や友人と議論をすることを求める。

授業の一般目標

日本語と英語を比較しながら、両言語の実態を知る。

言語一般についての基本的な考え方を習得する。

言語使用の現象を分析し、説明する能力を身につけ、言語への理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点：言語を観察し考察する際の基本的な考え方や用語を理解する。

思考・判断の観点：言語使用の現象を客観的且つ論理的に分析することができる。

関心・意欲の観点：言語や文化に関するテーマについて広く関心を持ち、主体的に考えることができる。

態度の観点：学習のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、学習を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。

技能・表現の観点：理解した内容を適切な方法・表現でわかりやすく説明できる。

成績評価方法(総合)

授業中の課題、レポート、期末の定期試験により総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021101178
開設科目名	英米文学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

異文化を移入しようとするとき、翻訳という行為は極めて重要な役割を果たします。翻訳は、それまでその言語に存在しなかった知識や表現の可能性を拡げるからです。しかし、翻訳という行為は文化と文化を繋ぐという役目だけではなく、移入しようとする文化を歪めてしまうこともあります。翻訳によって、移入される文化がどのように変換されるのか、その変換の過程を追っていくと、逆に移入する側の文化の姿も見えてきます。この授業では、現代日本文学の英語訳とその原文を比較しながら、翻訳行為におけるアメリカ的偏向を探っていきます。

授業の一般目標

翻訳という鏡を使って、自国文化が異文化にはどう受容されるのか（どう消費されるのか）を意識しながら、その自国文化の受容のされ方から異文化の姿を探っていきます。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席(20%)と授業内での発表(40%)及び授業外レポート(40%)などにより総合的に評価します。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021101238
開設科目名	英語史Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	松谷　緑			区分	

授業の概要

英語を通時的に考察する。音韻、形態、語彙、統語法、意味のそれぞれにおいて、英語がどのようにして今日の状態に至ったのかを通覧する。

授業の一般目標

現代英語の成り立ちを理解する。言語変化の実際を観察しその仕組みを分析する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：現代英語の成り立ちの背景にある仕組みを理解する。

思考・判断の観点：言語について通時的に考察できる。

関心・意欲の観点：言語変化や英語の歴史に関する諸問題について、主体的に考えることができる。

態度の観点：学習のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、学習を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。

技能・表現の観点：言語の変化について、理解した理論や用語を用いながら、適切な表現でわかりやすく説明できる。

成績評価方法(総合)

授業中の課題、レポート、期末の定期試験により総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021101336
開設科目名	英米文学講義Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

アメリカ的価値観を最もよく体現する作品の一つである、F. Scott Fitzgerald の The Great Gatsby を丁寧に読み込み、アメリカ人が何に価値を置いてきたかを考えていきます。

授業の一般目標

文学作品を、その作品が書かれた時代の中から理解し、この作品に盛り込まれているアメリカ的価値観、例えばアメリカの夢・スポーツ精神・飲酒などを探っていきます。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席(20%)と授業内の確認テスト(30%)及び授業外レポート(50%)などにより総合的に評価します。

教科書

参考書

『グレート・ギャッビー』 村上春樹訳／フィッツジェラルド：中央公論新社, 2006

『グレート・ギャッビー』　野崎孝訳／フィッツジェラルド：新潮文庫, 2006

『華麗なるギャッビー』 大貫三郎訳／フィッツジェラルド：角川文庫, 1957

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021101356
開設科目名	英語学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	篠田　義博			区分	

授業の概要

この授業では、英語学の諸分野のうち意味論と語用論に関わる現象、とくに意味変化の現象を扱う。意味変化というと古い時代のテクストの研究と受け取られがちだが、現代英語の中にも意味変化について学ぶところは大きい。この授業では、自動詞と他動詞をとりあげ、動詞における意味変化とはどのようなパタンで、またどのような理由で起こるかを文献の講読をつうじて考えていきたい。

授業の一般目標

(1) 英語学上の諸概念について学習する。
(2) 英語学に関する文献を英語で読解することによって、英語力をも涵養することを目標としている。
(3) 英語という言語についても理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:意味論と語用論の諸概念について十分な知識と理解ができること。
思考・判断の観点:この授業で学習した事柄をもとに言語現象の分析ができること。
関心・意欲の観点:積極的に授業や課題に取り組み、英語学や英語に関心をもてること。
態度の観点:課された課題をきちんとクリアすること。
技能・表現の観点:演習におけるプレゼンテーションができ、適切なレポートを書くことができること。

成績評価方法(総合)

期末レポート，授業時に行う発表および出席状況による総合評価

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021101365
開設科目名	英米文学講義			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

アメリカ的価値観を最もよく体現する作品の一つである、F. Scott Fitzgerald の The Great Gatsby を丁寧に読み込み、アメリカ人が何に価値を置いてきたかを考えていきます。

授業の一般目標

文学作品を、その作品が書かれた時代の中から理解し、この作品に盛り込まれているアメリカ的価値観、例えばアメリカの夢・スポーツ精神・飲酒などを探っていきます。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席(20%)と授業内の確認テスト(30%)及び授業外レポート(50%)などにより総合的に評価します。

教科書

参考書

『グレート・ギャッビー』 村上春樹訳／フィッツジェラルド：中央公論新社, 2006

『グレート・ギャッビー』 野崎孝訳／フィッツジェラルド：新潮文庫, 2006

『華麗なるギャッビー』 大貫三郎訳／フィッツジェラルド：角川文庫, 1957

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021101371
開設科目名	英米の人と文学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

それぞれの時代の出来事に真摯に向き合ってきた人々の表現を「文学」と捉えておきます。この授業では、近代に生きたイギリスやアメリカの人々、特にアメリカ人の思考や感性を追っていくことにします。

授業の一般目標

ある時代に特徴的な表現から、その時代の人々の思考や感性に触れ理解することを目指します。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席(20%)と授業内の確認テスト(30%)及び授業外レポート(50%)などにより総合的に評価します。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021105120
開設科目名	比較文化学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

文化人類学における異文化理解に対する考え方を学ぶ。具体的には、アフリカ、ヨーロッパ、近現代の日本における家族、親子関係、結婚、性などを取り上げる。

授業の一般目標

異文化理解において、文化相対主義という考え方の重要性を理解し、実践することが目標である。それには、単に異文化を理解するだけではなく、異文化を通して、日本人が当たり前であると考えている自文化の慣習的行為、制度、価値観を相対化するということも含まれている。

授業の到達目標

知識・理解の観点：文化人類学の基本的概念、特に文化相対主義を理解する。

思考・判断の観点：自文化中心主義ではなく文化相対主義に基づいて異文化を判断できるようになる。

関心・意欲の観点：異文化に関心を持つ。

態度の観点：異文化、特にアフリカなどの人たちの文化に対して偏見を持たずに接することができるようになる。

成績評価方法(総合)

期末レポートと授業中もしくは授業後に毎回課す小レポート、出席に基づいて評価する。特別な事情がないにもかかわらず、5 回以上欠席した学生は失格とする。

教科書

参考書

フランス家族事情／浅野素女：岩波書店, 1995

アフリカ女性の民族誌／和田正平編：明石書店, 1996

ヒトの自然誌／田中二郎・掛谷誠編：平凡社, 1991

性の人類学／高畑由起夫編：世界思想社, 1994

結婚の社会学ー未婚化・晩婚化は続くのか／山田昌弘：丸善, 1996

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp　研究室　教育学部 2 階 266 号室

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021105175
開設科目名	英米文学概論Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡　紘一郎			区分	

授業の概要

英米文学とは何か、文学と言語の関係はどうか、文学における演劇、文学における小説等の問題を考察する。

授業の一般目標

英米文学について概観的知識を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点:文学作品と文学的特徴の関連性を理解する。

思考・判断の観点:筆者の論理の流れが理解でき、引用作品が読めるようになる。

関心・意欲の観点:テキストに引用されている作品の一部から更に全体が読めるようにする。

態度の観点:紹介されている人名や作品について、更に深く学ぶ態度を養う。

技能・表現の観点:作品、作者、文学用語等を理解し、簡潔な説明ができるようになる。

成績評価方法(総合)

出席点（三分の一以上欠席すれば受験資格を失う）、平常点、期末試験の成績で評価する。

教科書

English Literature／L.D.Lerner：Eihosha, 1995

参考書

メッセージ

予習を十分にして授業に出席すること。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021105181
開設科目名	オーラルII			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	非常勤　講師			区分	

授業の概要

As before, the native-speaker's role in these classes is to stimulate fluency and encourage communication. Moreover, he provides the link with the living language of his native country. The grammatical structures (re-) introduced and the stories and sketches of individual units provide the framework on which this is achieved. In Oral II the scope of topics is greatly widened. All the time, the students will be required to revise again and again the difficulties of English pronunciation, to rehearse known grammar, and to use the contact with the native-speaker to acquire up-to-the-minute idiom and vocabulary. As always, active student-participation in these classes is taken for granted.

This course builds on Spoken English I, without which it cannot be taken. The purpose is similar: to ensure that students have regular access to a native speaker for the purpose of practice in the spoken language.

授業の一般目標

See Spoken English I

授業の到達目標

知識・理解の観点：Through active classroom practice with a native-speaker in speaking and listening, students will develop their ability to understand and communicate in naturally spoken English.

成績評価方法(総合)

Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021105182
開設科目名	ライティングⅠ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	HIGGINS　MICHAEL　LEO			区分	

授業の概要

The purpose of this course is to develop basic writing skills in English. The students will begin with developing sentences, short paragraphs, and short essays--making sure of the proper use of articles, plurals, countability, parts of speech, making questions, passive voice vs simple present, collocation, and so on.

授業の一般目標

The students will learn how to build sentences (question or statement form), expand and connect sentences into paragraphs, and build paragraphs into coherent essays. Students will learn and practice how to take notes, make outlines, and develop outlines into essays. The students will have weekly written homework, a weekly on-line blog, and in-class writing assignments that will form the basis of their grade.

授業の到達目標

知識・理解の観点：By the end of the term, the students will be able to take notes, make outlines, and develop their outlines into short essays. The students will also make proper use of connective and signal words, and use a consistent 'voice' (i.e., passive or active) in the proper tense.

技能・表現の観点：Through practice and continuing development, the skills required for written communication in English will be strengthened and the students will gain confidence in their writing ability.

成績評価方法(総合)

Continuous assessment, weekly blogs, final report

教科書

参考書

メッセージ

Students should bring an English-English dictionary (electronic or book form) to class every week.

連絡先

Professor Michael Higgins
研究1号館 #304
山口市山口県 753-8511
Tel/Fax:　083-933-5086
Email: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

Wednesday 4:00-5:30PM

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021105184
開設科目名	オーラルII			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	非常勤　講師			区分	

授業の概要

As before, the native-speaker's role in these classes is to stimulate fluency and encourage communication. Moreover, he provides the link with the living language of his native country. The grammatical structures (re-) introduced and the stories and sketches of individual units provide the framework on which this is achieved. In Oral II the scope of topics is greatly widened. All the time, the students will be required to revise again and again the difficulties of English pronunciation, to rehearse known grammar, and to use the contact with the native-speaker to acquire up-to-the-minute idiom and vocabulary. As always, active student-participation in these classes is taken for granted.

This course builds on Spoken English I, without which it cannot be taken. The purpose is similar: to ensure that students have regular access to a native speaker for the purpose of practice in the spoken language.

授業の一般目標

See Spoken English I

授業の到達目標

知識・理解の観点：Through active classroom practice with a native-speaker in speaking and listening, students will develop their ability to understand and communicate in naturally spoken English.

成績評価方法(総合)

Attendance and class participation are of paramount importance. There will also be a shoert test at the end to help establish the grade.

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021105188
開設科目名	異文化学習論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	石井　由理			区分	

授業の概要

異文化および異文化理解に関する理論や事象についての講義を行う。適宜受講生による討議・エクササイズをとり入れ、受講生による各事項に関する理解を深める。

授業の一般目標

文化および異文化理解に買うする基礎的な事項を理解する

理解した事項を実際の社会問題と結びつけて考えることができる

自分自身を客観的に見つめることができる

授業の到達目標

知識・理解の観点:異文化理解に関する語句、概念、理論を説明できる

思考・判断の観点:学んだ概念や理論を実際の社会問題に当てはめて考え、自分の意見を述べることができる

関心・意欲の観点:学んだことを自分の日常生活に当てはめて考えることができる

態度の観点:討議、エクササイズに参加できる

技能・表現の観点:自分の意見をはっきりと理論的に伝えることができる

メディアのもつメッセージの意図を見出すことができる

成績評価方法(総合)

講義の内容についての中間試験および期末のレポートによる

教科書

参考書

多文化・多言語主義の現在／西川長夫:人文書院, 2000

異文化コミュニケーション教育／青木順子:渓水社, 1999

マルチカルチュラル・オーストラリア／関根政美:成文堂, 1996

ハリウッド100年のアラブ／村上由見子:朝日新聞社, 2007

メッセージ

連絡先

教育学部200－1研究室

オフィスアワー

初回授業時に指示。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021105209
開設科目名	言語学概論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松谷　緑			区分	

授業の概要

言語学の基礎的な諸領域（音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論・認知論など）について概説する。

授業の一般目標

言語学上の基本概念を理解する。言語を客観的に眺め、言語についての理解を深めることによって、英語教育の実践において重要な考え方の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点：言語学の基礎的な諸領域について、基本的な考え方や用語を理解する。

思考・判断の観点：言語現象を客観的且つ論理的に分析することができる。

関心・意欲の観点：言語学に関するテーマについて広く関心を持ち、主体的に考えることができる。

態度の観点：学習のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、学習を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。

技能・表現の観点：言語分析に際し、理解した理論や用語を用いながら、適切な表現でわかりやすく説明できる。

成績評価方法(総合)

授業中の課題、レポート、期末の定期試験により総合的に評価する。

教科書

An Introduction to Language 8th ed.／Victoria Fromkin, Robert Rodman, Nina Hyams

参考書

メッセージ

連絡先

mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021111005
開設科目名	教育制度演習Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐々木　司			区分	

授業の概要

各自が自分なりの教育制度改革案を、その長所と短所をふまえた上で作り上げる。

① 各自の興味関心に基づき、教育制度に関するテーマをそれぞれが1つ設定する。この場合の「教育制度」とは、教育に関連する仕組みを意味し、教育制度改革案について記述できそうなものをいう。

② そのテーマに関連する文献等の「資料」3本以上を探し、それを十分に理解して、そのエッセンス、それに対する自らの考えなどを踏まえながら、改革案をクラス全体に発表していく。ウィキペディアなどいわゆるネット上の情報は、利用してもよいが、3本にはカウントしない。

③ 発表に至る準備は、授業時間だけでは無理だと思われるので、各自それ相応の自学自習が求められる。発表準備（下記スケジュール参照）の時間、メールなどにより、担当教員もサポートする。

④ 発表準備段階でのクラスの反応などをベースに、教育制度の改革案を修正し、仕上げていく。

⑤ 発表当日、各自自分の発表を聴いてくれるゲストを招く。ゲストを交えた聴衆に対して改革案を発表する。

【獲得・向上が期待される力】

・多角的に考える力
・計画する力
・継続する力
・文献などを探索、入手する力
・資料を整理する力
・他人の意見を聞き活かす力
・発表を構想する力
・わかりやすく人に伝える力
・省察する力
・次の代（下級生）に伝える力

授業の一般目標

各自が自分なりの教育制度改革案を、その長所と短所をふまえた上で作り上げ、それを発表し、他者からの意見を踏まえて、文章化できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：自分が設定した改革案に関連する基本的な知識を理解している。また、その改革案について、これまで何が明らかにされ、何が明らかにされていないのか、課題は何かについて理解している。

思考・判断の観点：設定した改革案及び自分と他者とが行った発表について、建設的かつクリティカルな見方ができる。今後、自分にとっての課題が何であるのかを明確に認識できている。

関心・意欲の観点：設定した改革案について旺盛な関心をもち、自分から意欲的に調査研究を行っている。

態度の観点：授業への出席状況が良好であり、自他の発表において積極的な態度を示している。

技能・表現の観点：発表を行う際、分かりやすく発表するように努めている。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度 20点 ＋ 毎回のレポート 20点 ＋ 発表 40点＋ 最終レポート 20点 ＝合計100点

欠席／遅刻が4回に達した時点で単位を出さない（病欠、公欠含む）。欠席／遅刻が1～3回は、「授業態度や授業への参加度」を減じる。欠席の場合は「毎回のレポート」を書けない。

教科書

参考書

メッセージ 第1回目の授業で詳しく説明する。
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021111055
開設科目名	教育史演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　修			区分	

授業の概要

日本の教育の現実や問題点を歴史的に考察した著作物を講読する.

授業の一般目標

日本の教育問題の歴史的起源･構造についての基礎的理解を得る.

教育について歴史的に考察しようとすることができる.

授業の到達目標

知識･理解の観点: 日本の教育問題の歴史的起源･構造について説明できる.

思考･判断の観点: 授業で取り上げた問題について自分の考えを論理的に述べることができる.

関心･意欲の観点: 教育を歴史的に考察しようとすることができる.

態度の観点: ひとつの文献を継続的かつ精密に読み進むことができる.

技能･表現の観点:

技能･表現の観点: 文献の概要と問題点をわかりやすく説明･提示し, 討論が生産的に進むように進行できる.

成績評価方法(総合)

授業での発表内容, 討論, 最終的なまとめのレポートの内容を総合的に考査して評価する. 欠席回数が授業実施回数の 3 分の 1 以上に及んだ場合には単位は認められない.

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021111307
開設科目名	教育哲学演習Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　正登			区分	

授業の概要

シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育について学び、それと比較しながら今日の公教育の現状と課題について考察し、教育に対する問題意識を高める。

授業の一般目標

1. シュタイナーの教育哲学と発達段階論について理解する。
2. シュタイナー学校の教育の特色を理解する。
3. シュタイナー学校の授業方法について理解する。
4. シュタイナー学校の評価観と教育観について理解する。
5. シュタイナー学校の教育と対比しながら、今日の公教育の現状と課題について考察し、教 育に対する問題意識を高める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. シュタイナーの教育哲学や発達段階論について説明できる。
2. シュタイナー学校の教育の特色や授業方法について説明できる。
3. シュタイナー学校の評価観と教育観について説明できる。

思考・判断の観点:1. 今日の公教育の現状と課題を把握し、教育改革への視点を持つことができる。

関心・意欲の観点:1. シュタイナー教育を参考にして、教育や教育改革への関心や意欲を高めることができる。

態度の観点:1. シュタイナー教育を参考にして、教育を改善し改革しようとする態度を養うことができる。

技能・表現の観点:1. シュタイナー学校の教育や授業を教育実習で応用し、活用することができる。

成績評価方法(総合)

授業で発表するレジュメの内容とプレゼンテーションに、授業への出席状況を加味して評価する。定期試験は行わない。

教科書

シュタイナー教育を考える／子安美知子:学陽書房, 1987

参考書

メッセージ

受講生中心の演習科目ですので、発表者が司会者も兼ね、授業を進行していきます。受講生は
積極的に意見を発表し、議論しながら教育の本質について考察を深めていきましょう。

連絡先

教育学部・教育哲学研究室
内線:5450
メールアドレス:masaton@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日　12時～12時50分

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021111362
開設科目名	教育方法学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

人間の内面を取り扱う優れた文献を読み自分の言葉で表現する

授業の一般目標

認識より深い次元の人間の内面について自分なりの表現で語れるようになる

授業の到達目標

知識・理解の観点:知識の習得は目指さない。人間の内面の理解し難さについて理解を深める。

思考・判断の観点:思考によって一旦獲得された理解を乗り越える思考方法を身につける

関心・意欲の観点:広義での教育の問題、人間理解の問題について自分自身にひきつけて考える

態度の観点:他者の発表を能動的に聴く、自分の発表を積極的に創る

成績評価方法(総合)

発表

教科書

参考書

メッセージ

自分の言葉で自分の想いを表現できることが目標です。積極的な参加を求めます。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021115176
開設科目名	カウンセリング論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	恒吉　徹三			区分	

授業の概要

「カウンセリング」という言葉は，日常生活の中で，さまざまな分野で使われています。

教育現場での児童･生徒への関わりだけではなく保護者との関係においても有効な理解の視点となります。さらには，企業のメンタルヘルス領域においてもますます重要な役割を担うようになってきました。

しかし，誤解も多く，その実際については十分に理解されていません。そこで，講義では，カウンセリングの基本的な枠組みについて講義します。

授業の一般目標

カウンセリングの基礎的な概念や枠組みを理解することを目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:カウンセリングの基本的な概念や理論･技法について説明できる。

関心･意欲の観点:心の健康さや不適応について関心をもつ。

その他の観点:私語など講義の進行を妨げる行為があり 3 回注意した場合，以後の講義の受講は認めない。

成績評価方法(総合)

受験資格は，講義の 3 分の 2 以上に出席していることである。期末試験は筆記試験により

おこなう。カウンセリングに関する基礎的知識や理論，技法などカウンセリングについての基礎的な理解力を問う問題を出題する予定である。

教科書

参考書

メッセージ

心を理解するための学問です。単なる知識としてだけでなく，自らの心に浮

かんで

くるさまざまな体験や事象についても考えながら，講義に参加してくださ

い。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121007
開設科目名	人格心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	木谷　秀勝			区分	

授業の概要

今回の講義では、大きく2つの視点から「人格心理学」への理解を深めたい。第一に、人間の出産から青年期までの人格の成長に関する最新の心理学的知見を紹介しながら、人間関係の重要性について概説する。第二に、幼児期から青年期までの人格形成の不全から生じやすい心の問題について事例的に紹介する。具体的には、小児虐待、不登校、10 才の壁、反抗期、自我同一性の混乱等である。

授業の一般目標

この講義を通して、人格形成の過程で生じる人間としての「心の豊かさ」と「心の傷つきやすさ」の両面に目を向けることができるようになることを期待したい。また、自分自身のこれまでの人生の歩みを振り返り、学生自身が自分の新たな面を発見できることを期待する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:「人格心理学」がもつ人格形成に関わる基本的知識の獲得と、それを基盤とした多面的な人間理解への基本を学ぶことを目標とする。

思考・判断の観点:人間理解、特に心理学的な面からの理解として、「心」がもつ二面性から判断することの重要性を学ぶことを目標とする。

関心・意欲の観点:講義そのものから、自分自身への振り返りを積極的に行えることを目標とする。

態度の観点:講義内容に関して、自分自身の体験を積極的に表現できる機会を設ける予定なので、その機会を積極的に活用することを目標とする。

技能・表現の観点:特になし

その他の観点:特になし

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121098
開設科目名	心理学研究演習			単位	2 単位
対象学生	小杉 考司			学年	～
担当教員	小杉　考司			区分	

授業の概要

受講生自身が参考文献を検索し、それらを概括し、心理学の研究を立案、実行するもので、卒業研究のリハーサル的意味を持つものである。

授業の一般目標

受講生自らが設定した心理学的課題について研究計画を立て，データ収集，分析，報告書へのまとめ，研究発表を行う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：データから心理学的知見、意義を見いだすことができる

関心・意欲の観点：自ら問題意識をたて、研究計画をし、分析、報告に取り組む

態度の観点：自らの研究テーマに真摯に取り組む

技能・表現の観点：心理学論文のリテラシーにあったデータ分析、表現ができる

成績評価方法(総合)

研究への取り組む姿勢、研究計画、データ処理、考察等の点から総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

データ収集は空き時間に行い，その報告書を期限日までに提出し，発表を行うので開設時間帯以外での時間と労力を必要とする。

連絡先

小杉研究室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121099
開設科目名	心理学研究演習			単位	2 単位
対象学生	沖林 洋平			学年	～
担当教員	沖林 洋平 [OKIBAYASHI Yohhei]			区分	

授業の概要

受講生自身が参考文献を検索し，それらを総括し，心理学の研究を立案，実行するもので，卒業研究のリハーサル的意味を持つものである。

授業の一般目標

受講生自らが設定した心理学的課題について研究計画を立て，データ収集，分析，報告書へのまとめ，研究発表を行う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：データから心理学的知見，意義を見いだすことができる

思考・判断の観点：心理学的研究法に即した思考様式を身につける

関心・意欲の観点：自ら問題意識をたて，研究計画をし，分析，報告に取り組む

態度の観点：自らの研究テーマに真摯に取り組む

技能・表現の観点：心理学論文のリテラシーにあったデータ分析，表現ができる

成績評価方法(総合)

研究への取り組む姿勢，研究計画，データ処理，考察等の点から総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

データ収集は空き時間に行い，その報告書を期限日までに提出し，発表を行うので開設時間帯以外での時間と労力を必要とする。

連絡先

沖林研究室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121129
開設科目名	心理学特別研究			単位	2 単位
対象学生	恒吉 徹三			学年	～
担当教員	恒吉　徹三			区分	

授業の概要

心理学の領域から，自らの関心によって課題を設定し，研究計画をたて，実際にデータを収集します。これを集計し，分析して，卒業論文につなげるよう研究をまとめていきます。

授業の一般目標

心理学の基礎的な研究方法とデータ収集，および結果の分析について理解することを目標とします。

授業の到達目標

思考・判断の観点:心理学的な観点から事象をとらえることができる。
関心・意欲の観点:心理学的な観点から問題意識をもってさまざまな事象をとらえることができる。
技能・表現の観点:心理学的な研究の進め方のについて基礎的な理解ができ，心理学の研究スタイルにのとって自らの関心を記述できる。

成績評価方法(総合)

評価は，毎回のプレゼンテーションにより行います。

教科書

参考書

メッセージ

事前学習したことを，発表資料として準備してください。事後学習として，講義終了後に，さらに講義内で討論したことを踏まえて発表内容を再検討し，必要ならば新しい文献や資料の収集を行ってください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121130
開設科目名	心理学特別研究			単位	2 単位
対象学生	田邊 敏明			学年	～
担当教員	田邊　敏明			区分	

授業の概要

学生各自が、興味をもっているテーマに関連する文献を発表し、それについて討論する。そしてテーマについての幅広い知識を身につけるとともに、先行研究においてまだ明らかにされていない点を発見し、後の卒業研究へと発展させる。

授業の一般目標

興味をもったテーマについて、卒業論文につながるような知識を深め、具体的なテーマが浮かぶようになるまで考えを深めていくことを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:そのテーマについての先行研究を理解する。

思考・判断の観点:先行研究でまだ明らかにされていない点を見つけ、それを明らかにする方法を思いつく。

関心・意欲の観点:先行研究で明らかにされていない点に積極的にチャレンジできるアイデアを探す。

態度の観点:そのテーマについて日々考えを巡らせている。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度が重要な評価対象となる。授業へ参加するためには、事前に発表資料を作成しておくことが求められる。

教科書

参考書

メッセージ

困難なテーマの解明に果敢に挑む勇気を求める。

連絡先

E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372

オフィスアワー

火曜日 18:00～19:00

開設学期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121131
開設科目名	心理学特別研究			単位	2 単位
対象学生	名島 潤慈			学年	～
担当教員	名島　潤慈			区分	

授業の概要

研究発表やディスカッションを通して、卒業論文の作成に結びつくような授業を行う。

授業の一般目標

学生が自ら関心を抱けるような研究テーマについて、関連文献を調査したり、具体的な研究計画を立てたり、発表したりする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：研究テーマの内容についてよく理解している。

思考・判断の観点：研究テーマを深めていくさいに遭遇するさまざまな問題に対して論理的に思考して、対処することができる。

関心・意欲の観点：研究テーマを深めることに対して意欲的に取り組む。

態度の観点：真面目に授業に出席し、積極的に発言する。

技能・表現の観点：自分が言いたいことをきちんと表現できる。

成績評価方法(総合)

レポート、授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

これは、卒業論文の作成に向けた授業です。

連絡先

najima@yamaguchi-u.ac.jp　083-933-5465

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121132
開設科目名	心理学特別研究			単位	2 単位
対象学生	大石 英史			学年	～
担当教員	大石　英史			区分	

授業の概要

文献購読を通して、卒業論文作成に向けての構想を練るための時間です。

授業の一般目標

卒業論文のテーマを明確にし、研究計画を完成します。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121133
開設科目名	心理学特別研究			単位	2 単位
対象学生	福田 廣			学年	～
担当教員	福田　廣			区分	

授業の概要

卒論作成に向けて、基本的な論文の理解、卒論作成のための研究技法を学習者自身が探求していく。

授業の一般目標

心理学の幾つかの領域の諸問題への共通アプローチ法及び個別的なアプローチ法の特色を知り、実証的な研究のやり方について体験的理解をすすめる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

講義時間帯に以下のような観点で評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121134
開設科目名	心理学特別研究			単位	2 単位
対象学生	沖林 洋平			学年	～
担当教員	沖林 洋平 [OKIBAYASHI Yohhei]			区分	

授業の概要

各自が興味を持っているテーマに関連する文献を発表し，それについて討論する。またテーマについての知識，考え方を身につけ，後の卒業研究へと発展させる。

授業の一般目標

興味を持ったテーマについて，卒業研究につながるように知識を深めることを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：研究テーマの先行研究を知る。

思考・判断の観点：心理学的研究法に即した思考様式を身につける。

関心・意欲の観点：自ら積極的に文献等の渉猟を行う。

態度の観点：積極的に授業に参加し，討議等に参加する。

技能・表現の観点：プレゼンテーションの技術を身につける。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度が重要な評価対象となる。授業へ参加するためには，事前に発表資料を作成しておくことが求められる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

沖林研究室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121145
開設科目名	心理学統計法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	小杉　考司			区分	

授業の概要

教育や心理学研究で利用される統計処理法の基礎を学ぶ。あくまでも統計処理の利用者として、それぞれの手法の目的、考え方、結果の読みとり方や意味づけ方をまなぶ。できるだけ具体的な分析事例を材料にする。適宜簡単な課題を課す。

授業の一般目標

(1) なぜ統計法が心理学に必要なのかを理解する。

(2) どのような目的でどのような統計法を適用するかを理解する。

(3) 統計処理結果から、どのように結論を導くかを理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: (1) どのようなデータに対してどのような統計法を適用できるかを説明できる。

(2) なぜ統計処理が必要なのかを説明できる。

思考・判断の観点: 統計処理結果にもとづいて、妥当な結論を導くことができる。

成績評価方法(総合)

期間中に課した課題、及び最終レポートによって評価する

教科書

参考書

心理・教育のための統計法第二版／山内光哉：サイエンス社, 1998

社会調査士のための多変量解析法／小杉考司：北大路書房, 2007

実験計画と分散分析のはなし／大村平：日科技連, 1984

メッセージ

連絡先

小杉研究室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121149
開設科目名	心理学特別研究			単位	2 単位
対象学生	小杉 考司			学年	～
担当教員	小杉　考司			区分	

授業の概要

各自が興味をもっているテーマに関連する文献を発表し、それについて討論する。またテーマについての知識、考え方を身につけ、後の卒業研究へと発展させる。

授業の一般目標

興味をもったテーマについて、卒業論文につながるように知識を深めることを目的とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:そのテーマについての先行研究を知る。

思考・判断の観点:テーマに関して独創性あふれるアプローチができる。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度が重要な評価対象となる。授業へ参加するためには、事前に発表資料を作成しておくことが求められる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121219
開設科目名	心理学研究演習			単位	2 単位
対象学生	福田 廣			学年	～
担当教員	福田　廣			区分	

授業の概要

受講生自身が参考文献を検索し、それらを概括し、心理学の研究を立案、実行するもので、卒業研究のリハーサル的意味を持つものである。

授業の一般目標

受講生自らが設定した心理学的課題について研究計画を立て，データ収集，分析，報告書へのまとめ，研究発表を行う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：データから心理学的知見、意義を見いだすことができる

関心・意欲の観点：自ら問題を立て、研究を計画し、分析・方法に取り組む

態度の観点：自らの研究テーマに真摯に取り組む

技能・表現の観点：心理学論文のリテラシーにあったデータ分析、表現ができる

成績評価方法(総合)

研究への取り組む姿勢、研究計画、データ処理、考察等の点から総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

データ収集は空き時間に行い，その報告書を期限日までに提出し，発表を行うので解説時間帯以外での時間と労力を必要とする。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121260
開設科目名	心理アセスメント			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	名島　潤慈			区分	

授業の概要

心理アセスメントは面接と心理テストから成るが、本授業ではもっぱら心理テストを扱う。ひとくちに心理テストと言っても、知能テスト、パーソナリティテスト、発達テストなどさまざまなものがある。本授業では、主としてパーソナリティテストに焦点をあてる。

授業の一般目標

さまざまなパーソナリティテストのやり方や解釈の仕方を具体的に修得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: パーソナリティテストがどういうものかについて、よく理解できる。

思考・判断の観点: どのようなパーソナリティテストを用いたらよいのか、的確に判断できる。

関心・意欲の観点: さまざまなパーソナリティテストの修得に意欲的に取り組む。

態度の観点: 真面目に授業に出席する。

技能・表現の観点: パーソナリティテストをきちんと手際よく実施できる。

成績評価方法(総合)

レポート、授業態度、出席などから総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

本授業は、前半を名島潤慈、後半を恒吉徹三が担当する。

連絡先

najima@yamaguchi-u.ac.jp　083-933-5465

whiteowl@yamaguchi-u.ac.jp　083-933-5446

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121263
開設科目名	心理学実験			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　廣			区分	

授業の概要

心理学の研究に必要な基本概念やデータ収集技法を含む実験の実施と報告書の作成についての実習を行う。

授業の一般目標

心理学とは「どのような学問か。」について体験的に理解を深めるとともに，心理学的研究論文作成の基礎的能力の習得を目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:心理学の基礎的用語を理解する。

思考・判断の観点:データーに基づいて、適切に結論を導くことができる。

関心・意欲の観点:関連する問題について文献を調べる。

態度の観点:授業に出席する。

成績評価方法(総合)

毎回のレポートを評価する。

教科書

心理学のための実験マニュアル／利島保，生和秀敏編著:北大路書房，1993

参考書

心理学のための実験マニュアル／利島保，生和秀敏編著，1993

メッセージ

材料，器具，の都合により教育心理学コースの学生に限定。

毎週1テーマの実験実施のためのインストラクションを行うので，データ収集は空き時間で行い，その報告書は期限日までに提出することになる。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021121348
開設科目名	認知心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021211028
開設科目名	基礎デザイン			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	熊谷　武洋			区分	

授業の概要

ザインにおける基本的な知識と共に、ノート PC とペイントツールなどを用いた課題制作を中心とした演習を行う。

授業の一般目標

本講義は上手に絵やイラストを描くことではなく、表現行為の意味やコンピュータ技術との関わりについて理解を深め、ビジュアルコミュニケーションデザインの基礎となる技術の習得を目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:最低限の表現力と自主学習のための手法を修得できているか

関心・意欲の観点:ビジュアルコミュニケーションに関しての意味付けと動機について主観的に理解しているか

態度の観点:携帯メール、私語をせずに講義に集中しているか

成績評価方法(総合)

課題を中心に、理解度、受講態度とあわせて総合的に評価を行う

教科書

GIMP フォトレタッチスーパーテクニック：晋遊社, 2009

参考書

メッセージ

絵の完成度よりも、熱意や創意を重視する。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021211072
開設科目名	情報数学Ⅰ（表現情報処理コース開設）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	葛　崎偉			区分	

授業の概要

情報科学の基礎となる概念や数学的な考え方を中心に学習する。

授業の一般目標

情報科学の基礎となる集合および代数系の基礎知識を習得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

定期試験(中間試験と期末試験) = 80～100%未満

出席 = 20%未満

教科書

情報の基礎離散数学／小倉久和:近代科学社, 1999

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021211107
開設科目名	情報数学III (表現情報処理コース開設)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	永久　洋治			区分	

授業の概要

情報処理工学の基礎である微分法を学ぶ. 実数の連続性を理解し, その後積分学を視野に入れつつ, 微分学, 偏微分学とそれらの応用を学ぶ.

授業の一般目標

収束の概念, 微分の定義を理解し, 微分法が使えることと, 理工系出身者間の微分に関する話題が理解できるようにすることを目標とする.

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1. 収束と関数の連続性を理解する.

技能・表現の観点: 1. 簡単な微分ができる能力を習得する.

2. 簡単な偏微分ができる能力を習得する.

3. 簡単な問題に微分法や偏微分法が応用できる能力を習得する.

成績評価方法(総合)

定期試験, レポートおよび出席状況で評価する.

教科書

参考書

メッセージ

山口大学のネットワークで電子メールによる通信が利用できることを前提とする.

連絡先

y_nghs69@c-able.ne.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021211189
開設科目名	視覚情報処理論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	熊谷　武洋			区分	

授業の概要

画像を計算機上で扱うための理論や技術に関する基本知識を学習する。加えて、実際の応用事例や作品などを観賞する。

授業の一般目標

画像情報処理に関わる技術解説および最新の技術を映像資料を見ながら概観し、視覚情報に関する幅広い知識と理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:当該分野における基本技術や概念を自分の言葉で表現できるか

関心・意欲の観点:当該分野における表現技術に関する知識欲があるか

態度の観点:積極的に自主学習を行っているか

成績評価方法(総合)

課題を中心に、理解度、受講態度とあわせて総合的に評価を行う

教科書

CG＆映像しくみ事典 第二版:ワークスコーポレーション, 2009

参考書

メッセージ

復習を積極的に行うこと

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021211203
開設科目名	デザイン情報処理II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	熊谷　武洋			区分	

授業の概要

CG 表現の基礎技術の理解と習得のため、動画像編集アプリケーションを用いて課題の制作を中心とした演習を行う。なお本講義の課題制作は二人ないしは三人のグループ制によって行う。

授業の一般目標

本講義はコンピュータを活用して動画像技術の理解と実制作のための手法を修得することを目標としている。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

課題を中心に、理解度、受講態度とあわせて総合的に評価を行う

教科書

参考書

メッセージ

グループ制による共同作業を行うのでお互い協力し合う姿勢が大事です。成果より
もその過程を重視します。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021211363
開設科目名	音響構成デザインⅡ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	寺井　尚行			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021215041
開設科目名	電気理論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

直流回路および交流回路で利用される素子の性質、オームの法則、キルヒホップの法則などを説明し電気回路の電圧や電流の計算法を解説する。また、交流回路の計算に必要な複素数や行列の計算法も必要に応じて説明する。

授業の一般目標

直流回路、交流回路の基礎理論を理解するとともに、身近な電化製品の消費電力や室内配線についての理解を深めることを目的とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. 直流回路でのオームの法則、キルヒホッフの法則を理解する

2. 交流回路計算の基礎である振幅や位相と複素数との対応を理解する

3. コイルやコンデンサを含む交流回路の複素計算を理解する

思考・判断の観点:1. 与えられた直流回路の電圧電流をオームの法則、キルヒホッフの法則を用いて計算できる

2. コイルやコンデンサを含む交流回路の電圧電流をキルヒホッフの法則を用いて計算できる

成績評価方法(総合)

試験とレポートによる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021215056
開設科目名	データベースシステム(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中田　充			区分	

授業の概要

まずデータベースの基礎理論について学習し，その後，実際に関係型データベースを用いた演習を通してデータベース操作，情報検索の手法を習得する.

授業の一般目標

データベース管理システム（DBMS）の基礎概念を理解できるようになること.

データベース操作言語 SQL の文法を理解し，DBMS の基本操作ができるようになること.

授業の到達目標

知識・理解の観点：データベースシステムについて理解できているか？データモデルを理解しているか？SQL が理解できているか？

関心・意欲の観点：自ら新しい課題に取り組んでいるか？

態度の観点：出席しレポートを提出しているか？

成績評価方法(総合)

試験 8 割，レポート 1 割，出席（授業態度含む）1 割

教科書

データベースシステム／北川博之：昭晃堂，1996

参考書

メッセージ

●プログラミング言語 I,II，アルゴリズム論の内容を理解していることを前提に授業を進める.

●教員免許関連の法律改正に伴い，実習の時間を確保するため授業を 18 時まで行うことがあります.

●質問等がある時はメールにて事前にアポイントを取ってから研究室まで来て下さい.

連絡先

授業中に連絡します.

オフィスアワー

無し.

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021215139
開設科目名	ＯＳ概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

計算機を利用するための基本ソフトウェアであるオペレーティングシステム：OS について、現代の OS が備えている機能の基礎とその仕組みについて理解を深める。

授業の一般目標

現在利用されている OS の機能とその仕組みについて理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：現代の OS について理解する。

関心・意欲の観点：OS への関心が高まること。

成績評価方法(総合)

中間・期末試験と毎回の授業で課す課題を総合計して評価する。なお、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書

オペレーティングシステムの基礎／大久保英嗣：サイエンス社, 1997

参考書

オペレーティングシステムの概念／J.L.ピーターソン,A.シルバーシャッツ：培風館, 1987

メッセージ

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 13 時～15 時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021215227
開設科目名	電子計算機			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

電子計算機の基本原理、システム構成、中央処理装置の動作を中心に、オペレーティングシステムの役割とプログラム実行の基本原理について講義する。

授業の一般目標

現在のコンピューター内部の動作原理をハードウエアを通して理解する。また、その上で動くオペレーティングシステムやユーザーの開発したプログラムの動作についても理解を深め、プログラミング能力の向上に寄与する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. CPU の内部構造を理解する

2. CPU と主メモリの関係を理解する

3. コンピューターの基本動作、命令のフェッチ、解読、実行を理解する

4. コンピューター起動の流れを理解する

5. ハードウエアとオペレーティングシステムの関係を知る

成績評価方法(総合)

試験とレポートにより評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021215244
開設科目名	プログラミング言語Ⅱ(実習を含む。)			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中田　充			区分	

授業の概要

まず、高度な C 言語のプログラミングについて学習する。その後、グラフィックス・プログラムの基本知識を学習した後、図形、グラフなどを表示する簡単なコンピュータグラフィックスのプログラムを作成する。

授業の一般目標

●C 言語のより高度な内容を理解し，ファイル入出力，構造体などを用いたプログラムを作成できる.

●簡単なグラフィックが作成できる.

授業の到達目標

知識・理解の観点：高度な知識が身についているか？構造体，関数，描画などについて理解できている
か？

関心・意欲の観点：自ら新しい課題に取り組もうとしているか？

態度の観点：授業に出席し，高い意欲で学習しているか？

成績評価方法(総合)

出席 1 割，レポート 1 割，試験 8 割.

試験はペーパー試験と実技試験の 2 つを課す.

教科書

新訂 新 C 言語入門シニア編／林晴比古：ソフトバンクパブリッシング

参考書

メッセージ

プログラミング言語Ⅰの内容を理解していることを前提に授業を進めます.

質問がある場合は，メールにてアポイントを取ってから，研究室まで来て下さい.

連絡先

オフィスアワー

無し

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021215271
開設科目名	オペレーションズ･リサーチ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	永久　洋治			区分	

授業の概要

諸問題の合理的解決を提供する学問であるオペレーションズ･リサーチ中の，最適化手法についてを学ぶ．できるだけ多くの最適化問題の対処方法を会得して貰いたいので，アルゴリズムを中心に解説する．

授業の一般目標

本講義で解説するアルゴリズムをすべて使うことができるようになる．

授業の到達目標

知識･理解の観点:1. 黄金分割法とニュートン法を理解する．

技能･表現の観点:1. シンプレックス法を使って簡単な線形計画問題を解くことができる．

2. PERT を使って簡単なスケジューリング問題を解くことができる．

3. ダイクストラ法やワーシャル-フロイド法を使って最短経路問題を解くことができる．

4. 動的計画法を使って簡単な配分問題を解くことができる．

5. 分枝限定法を使って簡単な組み合わせ問題を解くことができる．

6. 変分法や未定乗数法を使って簡単な問題を解くことができる．

成績評価方法(総合)

定期試験，レポートおよび出席状況で評価する．

教科書

参考書

メッセージ

山口大学のネットワークで電子メールによる通信が利用できることを前提とする．

連絡先

y_nghs69@c-able.ne.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021221047
開設科目名	教育工学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	鷹岡　亮			区分	

授業の概要

教育工学は、人間の学習過程を対象にして、ネットワークやメディアなどの情報手段を用いて、授業や教育改善に貢献することを目的として、その教育設計や研究方法を提案する学問です。この授業では、「教育工学とは何か」からはじめ、教育工学の歴史、研究方法論、各分野の研究内容について学んでいきます。

授業の一般目標

教育工学に関連する知識･概念や方法論を理解し、活用することができること。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業内レポートや課題、授業態度･授業への参加度、発表、出席等を総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

授業内では，情報機器を利活用した個人やグループによる発表機会を多くつくります。また，授業の連絡等は研究室内のＨＰで連絡します。

[授業 HP]http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/~ryo/Lecture/09ET1

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021221156
開設科目名	授業設計論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	小川　勤			区分	

授業の概要

本授業は、学生の知識理解のレディネスを重要視し、授業の導入段階の授業設計を中心に、「強制連結法」の手法を用いて、受講者全員にマイクロティーチング（以下　MT）を実施してもらう予定である。また、その授業方法を受講生相互に評価を実施し、授業改善を繰り返していく手法を用いて授業を展開する。

授業の一般目標

授業は、コミュニケーションの一環であるという考え方があるが、プレゼンテーションの技法を学ぶとともに、強制連結法やPCM等の技法を用いた授業設計の手法を学ぶことを目的とする。

また、4つの観点からの授業評価を相互に実施し、学生に分かりやすい授業とはどのような授業であるのかを試行錯誤を繰り返しながら学ぶんで行く。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 強制連結法やPCMの手法を用いて授業設計ができる。

思考・判断の観点：1. 実施された授業を観点別に評価することができる。

2. 他人の評価を、自らの授業改善に活かすことができる。

関心・意欲の観点：1. 生徒のレジネスを常に意識して授業を設計することができる。

態度の観点：1. 授業設計を他の学生と協力して構築することができる。

技能・表現の観点：1. プレゼンテーションの技法を十分理解している。

2. 生徒の反応を見て、臨機応変に授業設計を変更していくことができる。

3. 必要な教材を開発することができる。

成績評価方法(総合)

マイクロティーチングのための指導案やMTの実施の様子、さらにMTの授業評価の結果などを総合して成績評価を行なう。

教科書

情報社会を生き抜くプレゼンテーション技術／林徳治：ぎょうせい，2000

参考書

メッセージ

授業はパソコンを利用する場合が多いので、教員の指示があった際には、次回の授業までにパソコンを準備すること。

本講義は、学生が主体的に取り組む必要がある。失敗を恐れずにチャレンジして欲しい。

連絡先

メールアドレス：ogawa-t@yamaguchi-u.ac.jp

研究室ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ogawa-t/

オフィスアワー

小川研究室（共通教育棟　3階）

毎週金曜日　午後2時～午後4時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021221308
開設科目名	計算機言語Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	糸長　雅弘			区分	

授業の概要

計算機言語とは，コンピュータに仕事をさせるために作業手順を指示する人工言語である。この言語で書かれた作業手順書をプログラムといい，プログラムを作ることをプログラミングという。本講義では，世界中で広く使われている計算機言語であるC言語の基礎的事項（変数，定数，型，演算，式，分岐，繰返し，配列，関数）について解説する。C言語はUNIXを記述するための言語として作られたが，現在では，事務処理や科学技術計算だけでなく，アプリケーションソフトを開発するのにも使われている。

授業の一般目標

C言語の基本（変数，定数，型，演算子，式，分岐，繰返し，配列，関数）を理解し，基本的なアルゴリズムを修得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. C言語の基本的な要素（変数，定数，型，演算子，式，配列，関数など）を説明できる。

2. C言語の基本的な構文（分岐，繰返しなど）を説明できる。

3. 簡単なアルゴリズムのプログラムを作成できる。

思考・判断の観点：1. 論理的な思考ができる。

2. エラーメッセージを判断して，バグの所在を特定できる。

関心・意欲の観点：1. 何らかの答えが必要な問題を，プログラミングで解決することに関心を持つことができる。

2. プログラミングという行為自体に，意欲を持つことができる。

態度の観点：1. 他人に頼らずに，独力で問題の解決に取り組むことができる。

2. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。

技能・表現の観点：1. プログラムの簡潔な記述ができる。

2. 読みやすいプログラムを記述できる。

成績評価方法(総合)

出席率80％未満を欠格条件とし，課題と期末試験を総合的に評価する。

教科書

新版 明解C言語 入門編／柴田 望洋：ソフトバンクパブリッシング，2004

参考書

メッセージ

計算機言語を学ぶには，英語などの外国語を学ぶのと同じで，手本となる文章（プログラム）を読み，理解し，そして，自分で書くことが重要である。計算機言語は非常に明解な構文規則（文法）をもつので，自然言語に比べると，短期間で修得できるはずである。「計算機言語演習Ⅰ」と併せて受講し，ノートパソコンを持参すること。

連絡先

E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部224号室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021221316
開設科目名	計算機言語演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	糸長　雅弘			区分	

授業の概要

授業科目「計算機言語Ⅰ」の講義内容に従って，実際にプログラムを書き，コンパイルし，実行する作業を行う。

授業の一般目標

簡単なプログラムを数多く書くことを通じて，プログラミングの基礎的な能力を身に付ける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. C 言語の基本的な要素（変数，定数，型，演算子，式，配列，関数など）を説明できる。

2. C 言語の基本的な構文（分岐，繰返しなど）を説明できる。

3. 簡単なアルゴリズムのプログラムを作成できる。

思考・判断の観点：1. 論理的な思考ができる。

2. エラーメッセージを判断して，バグの所在を特定できる。

関心・意欲の観点：1. 何らかの答えが必要な問題を，プログラミングで解決することに関心を持つことができる。

2. プログラミングという行為自体に，意欲を持つことができる。

態度の観点：1. 他人に頼らずに，独力で問題の解決に取り組むことができる。

2. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。

技能・表現の観点：1. プログラムの簡潔な記述ができる。

2. 読みやすいプログラムを記述できる。

成績評価方法(総合)

出席率 80％未満を欠格条件とし，課題と期末試験を総合的に評価する。

教科書

新版 明解 C 言語 入門編／柴田 望洋：ソフトバンクパブリッシング，2004

参考書

メッセージ

自分がいま何を書いているのかを常に意識し，とにかくプログラムを数多く書くことが重要である。そして，良い手本は，その書き方のスタイルまで，真似をすること。「計算機言語Ⅰ」と併せて受講し，ノートパソコンを持参すること。

連絡先

E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021221364
開設科目名	教育情報科学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	鷹岡　亮			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021225052
開設科目名	情報処理演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

ノートパソコンを用いて文書作成、表計算および BASIC 言語によるプログラミングを学ぶ。

授業の一般目標

次の 3 項目をこの授業の目標とする。(1)数式やグラフを含んだ文書を作成できるようになること、(2)表計算を用いて成績処理などの計算を行うことができるようになること、(3)簡単な計算機アルゴリズムを理解し、BASIC 言語を用いてプログラムを作成できるようになること

授業の到達目標

知識・理解の観点:表計算ソフトの利用法:特に関数を用いた計算方法の知識を身に付けること。BASIC 言語の基礎的な命令・制御文を理解するとともに、簡単な計算機アルゴリズムを理解すること。

思考・判断の観点:表計算ソフトや BASIC 言語において、計算方法を考えることが出来るようになること。さらに、BASIC 言語を用いてプログラムが作れるようになること。

関心・意欲の観点:コンピュータの活用法に興味を持って取り組むことができること。

技能・表現の観点:文書作成ソフトを用いて、グラフや数式を含んだ文書を作成できるようになること。さらに、表計算ソフトや BASIC 言語を用いて、簡単な計算及びプログラムの作成を行うことができること。

成績評価方法(総合)

定期試験とレポートによる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021225126
開設科目名	離散数学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	北本　卓也			区分	

授業の概要

現代数学での基本概念である集合論･離散数学について講義し、これにより、論理的思考、抽象化について指導する。

授業の一般目標

数学の理論上重要な論理についての基礎を習得し、現代数学の基礎概念である集合と関係･関数についての基本事項を学習する。主に、小テスト･授業の形式で概念の定着を行う。

授業の到達目標

知識･理解の観点:論理や集合についての基本的事項、写像、(同値) 関係などの概念を正しく理解している。

思考･判断の観点:論理や抽象的な概念を理解することができる。

関心･意欲の観点:日常生活の中の身近なものを通じて、集合や写像の概念を説明することができる。

技能･表現の観点:演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

成績評価方法(総合)

授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書

すぐわかる代数／石村園子:東京出版, 1999

参考書

メッセージ

再試験は行いませんので、しっかり試験準備してください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021225220
開設科目名	コンピュータ･アーキテクチャー			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

電子計算機の基本原理、システム構成、中央処理装置の動作を中心に、オペレーティングシステムの役割とプログラム実行の基本原理について講義する。

授業の一般目標

現在のコンピューター内部の動作原理をハードウエアを通して理解する。また、その上で動くオペレーティングシステムやユーザーの開発したプログラムの動作についても理解を深め、プログラミング能力の向上に寄与する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:1. CPU の内部構造を理解する

2. CPU と主メモリの関係を理解する

3. コンピューターの基本動作、命令のフェッチ、解読、実行を理解する

4. コンピューター起動の流れを理解する

5. ハードウエアとオペレーティングシステムの関係を知る

成績評価方法(総合)

試験とレポートにより評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021225258
開設科目名	線形代数学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	飯寄　信保			区分	

授業の概要

線形代数学の基礎（行列の積・和、行列の基本変形、行列式）について学習する。そののち、応用として多元一次連立方程式の理論について解説する。

授業の一般目標

行列の基本的な計算ができるようになる。また、連立一次方程式を行列の理論を用いてとくことができるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：行列の基本操作を理解し、実行できるようになる。

関心・意欲の観点：授業中に出た問題・疑問等を積極的に取り組むことができる。

態度の観点：自ら進んで課題解決ができるようになる。

成績評価方法(総合)

成績評価は、期末試験、小テスト、出席、演習時の発表の評価により総合的に判断する。（但し、出席は欠格の判定資料として用いる。）

教科書

教養の線形代数／村上　正康　他：培風館, 1977

参考書

メッセージ

連絡先

飯寄研究室（教育 286 室）

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021225282
開設科目名	微分積分学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐藤　好久			区分	

授業の概要

小学校や中学校の算数･数学でも関数は重要な学習内容であり、解析学では主に関数の性質を調べる。数学の教員として必要な知識を習得するために、解析学の基礎について講義する。主に、解析学の土台である実数の連続性、1 変数関数の連続性と微分･積分について解説する。これにより、関数の基本的な理論背景の理解とともに、微分･積分の計算の修得をはかる。

授業の一般目標

実数の連続性の概念を理解し、数列や一変数関数の極限を説明することができる。一変数関数の微分･積分の概念を理解し、基本的性質に基づいた計算が正確にできる。1変数関数の微分･積分を応用して、関数の性質を調べたり、数値解析をすることができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:簡単なイプシロン･デルタ論法を論じることができる。基本的性質に基づいた数列の極限の計算ができる。連続性や微分可能性を説明することができる。微分法の基本的性質に基づいた微分の計算ができる。テーラーの定理やロピタルの定理を理解し説明することができる。積分の概念を理解し、計算･応用することが出来る。数値解析へ応用することができる。

思考･判断の観点:基本的性質を正しく使うことができる。基本的な定理を正しく使うことができる。

関心･意欲の観点:日常生活の中で微分法･積分法を応用する分野に関心を持つ。

技能･表現の観点:極限の計算や一変数関数の微分･積分の計算が正確にできる。

成績評価方法(総合)

小テストの成績、中間試験の成績、授業外のレポート、および、定期試験の成績により総合的に評価する。

教科書

基礎微分積分学／江口正晃、久保泉　他共著:学術図書出版、2008

参考書

メッセージ

中間試験の実施時期については、授業の中で通知する。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021225343
開設科目名	情報数学Ⅰ（数理情報コース開設）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北本　卓也			区分	

授業の概要

数式処理システムを実際に用いながら、数学の問題を解く.

授業の一般目標

数式処理システムを用いて、問題が解けるようになる.

授業の到達目標

知識・理解の観点:数式処理システムの使い方を学び、それを用いて数学の問題を解く。

技能・表現の観点:数式処理システムを使えるようになる。

成績評価方法(総合)

成績評価は出席、試験、課題を元に総合的に行う。

教科書

参考書

はやわかり Mathematica／榊原進:共立出版, 2000

メッセージ

再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021311043
開設科目名	運動指導論（運動方法学を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	塩田　正俊			区分	

授業の概要

一般成人のみならず少年少女や高齢者も含めた対象に、健康づくりのための各種の運動を指導する際に必要な各種運動に関する基礎知識、指導の考え方、指導の具体的方法などについて解説するとともに、適宜それに関する演習や実習を行う。

授業の一般目標

一般成人のみならず少年少女や高齢者も含めた対象に、健康づくりのための各種の運動を指導する際に必要な各種運動に関する基礎知識、指導の考え方、指導の具体的方法などについて理解する。また、適宜行われる演習や実習を通じて、授業内容の理解をより深めるとともに、具体的に各種運動を指導することができる実践能力の基礎を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：健康づくりのための各種の運動を指導する際に必要な各種運動に関する特徴、指導の基本的考え方、指導の具体的方法について説明できる。

思考・判断の観点：一般成人のみならず少年少女や高齢者も含め、対象に応じた健康づくりのための各種運動内容、その方法を適切に選択できる。

関心・意欲の観点：健康づくりのための各種運動指導に関心を持つ。

技能・表現の観点：健康づくりのための各種運動を、対象に応じて具体的に指導することができる（基礎的な部分について）。

成績評価方法(総合)

宿題／授業外レポート ＝60～80％ 授業態度や授業への参加度 ＝20～40％ 出席 ＝ 欠格条件

教科書

参考書

メッセージ

履修上の注意 運動生理学、運動生化学、バイオメカニクス、健康運動処方論、体力トレーニング論を受講していることが望ましい。

連絡先

オフィスアワー

開設学期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021311057
開設科目名	健康運動処方論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	丹　信介			区分	

授業の概要

健康の維持増進のための運動処方の基本的考え方、流れ（プロセス）について概説した上で、それぞれのプロセス、すなわち医学検査、運動負荷検査、体力測定などの考え方と進め方、それらの結果を基にした具体的運動プログラム（運動の種類、強度、時間、頻度）の考え方や対象者に応じた具体的運動プログラムの考え方などについて解説する。

授業の一般目標

健康の維持増進のための運動処方の基本的考え方、流れ（プロセス）について理解し、医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にした具体的運動プログラム（運動の種類、強度、時間、頻度）作成のための基礎的な知識を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：健康の維持増進のための運動処方の基本的考え方、流れ（プロセス）について説明できる。運動処方のための医学検査、運動負荷検査、体力測定に関して説明できる。健康の維持増進のための具体的運動プログラム（運動の種類、強度、時間、頻度）作成のためのポイントを説明できる。

思考・判断の観点：医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基に、具体的運動プログラム（運動の種類、強度、時間、頻度）が適切かどうかが判断できる。

関心・意欲の観点：健康の維持増進のための運動処方に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

定期試験(中間試験と期末試験) = 80～100%未満

授業態度や授業への参加度 = 20%未満

出席 = 欠格条件

教科書

運動生理学／池上晴夫：朝倉書店, 1995

参考書

公認スポーツプログラマー専門科目テキスト／日本体育施設協会, 2005

メッセージ

連絡先

tan@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

月曜日 13:00-14:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021311100
開設科目名	バイオメカニクス実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	塩田　正俊			区分	

授業の概要

この授業では、映像･フォースプレイト･自転車エルゴメータ･トレッドミルなどを用いて身体運動や日常生活の動作を分析する方法と身体運動の効率などを実習する。

授業の一般目標

この授業では、映像･フォースプレイト･自転車エルゴメータ･トレッドミルなどを用いて身体運動や日常生活の動作を分析する方法と身体運動の効率などを理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:各機器の原理を説明し使用することができる。生体内でのエネルギー変化と自転車が行った仕事量の関係を説明できる。

思考･判断の観点:測定の結果について、適切な説明ができる。

関心･意欲の観点:研究方法の一つの手法として、関心を持つことができる。

技能･表現の観点:測定手法、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。

成績評価方法(総合)

すべての実習に参加し、レポートを提出した者を評価の対象とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021311101
開設科目名	バイオメカニクス実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	河合　洋祐			区分	

授業の概要

この授業では、映像･フォ-スプレイト･自転車エルゴメータ-･トレッドミルなどを用いて身体運動や日常の動作を分析する方法と身体運動の効率などについて、実習を通して学習する。

授業の一般目標

この授業では、映像･フォ-スプレイト･自転車エルゴメータ-･トレッドミルなどを用いて身体運動や日常の動作を分析する方法と身体運動の効率などについて、実習を通して理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:各機器の原理を説明し使用することができる。生体内でのエネルギー変化と自転車が行った仕事量の関係が説明できる。

思考･判断の観点:測定の結果について説明できる。

関心･意欲の観点:研究を進める上での１つの手法として、測定法そのものに関心を持つことができる。

技能･表現の観点:測定手法、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。

成績評価方法(総合)

すべての実習に参加し、レポートを提出した者を評価の対象とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021311314
開設科目名	社会体育実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

公的施設や民間運動施設において、運動の指導方法を実習する。

授業の一般目標

運動を通した健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導方法を実習し、専門的な知識を理解し指導技術などを習得することを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:運動を通した健康と生きがいづくりなどの課題に対応できるように、公的施設や民間運動施設において運動の指導に必要な専門知識を理解する。

思考・判断の観点:対象者にふさわしい運動内容と指導方法を思考・判断する

関心・意欲の観点:公的施設や民間運動施設において運動の指導やプログラムづくりに関心がある。

態度の観点:実習先においては良好な人間関係を持つ。

技能・表現の観点:指導対象者にふさわしい指導技術を持っている。

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

公的施設や民間運動施設への就職を熱望する学生が望ましい。

実習期間は1週間以上になることがある。

連絡先

shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021311350
開設科目名	スイミング			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	丹　信介			区分	

授業の概要

プール実習（集中3日間）を通し、4泳法や水中運動の技術を理解すると伴に、各泳力の向上を図る。さらに、指導法についても習得する。

授業の一般目標

泳力の向上を図るとともに、指導法について習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：4泳法や水中運動の技術や指導法を理解する。

関心・意欲の観点：4泳法や水中運動の技術や指導法に関心を持つ。

技能・表現の観点：4泳法ができる。

4泳法や水中運動の技術や指導法のプレゼンテーションができる。

成績評価方法(総合)

プレゼンテーション能力および指導能力25%、筆記試験結果25%、泳力テスト結果50%

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

tan@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

月曜日 13:00-14:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021311721
開設科目名	バイオメカニクス実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

本授業では、映像･フォ-スプレイト･自転車エルゴメータ-･トレッドミルなどを用いて身体運動や日常の動作を分析する方法と身体運動の効率などについて教授する。

授業の一般目標

この授業では、映像･フォ-スプレイト･自転車エルゴメータ-･トレッドミルなどを用いて身体運動や日常の動作を分析する方法と身体運動の効率などについて、実習を通して理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:各機器の原理を説明し使用することができる。生体内でのエネルギー変化と自転車が行った仕事量の関係が説明できる。

思考･判断の観点:測定の結果について説明できる。

関心･意欲の観点:研究をすすめる手法として、関心を持つことができる。

技能･表現の観点:測定手法、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。

成績評価方法(総合)

全ての実習に参加し、レポ-トを提出すること

教科書

参考書

メッセージ

バイオメカにクスを受講しておくこと

実習は長時間に及ぶことがある

連絡先

shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315008
開設科目名	運動生理学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

神経および筋の生理的機能について概説するとともに、運動制御機構における神経ー筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について講義す
る。

授業の一般目標

神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経ー筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：神経および筋の生理的機能について理解する。運動制御機構における神経ー筋の役
割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機
序について理解する。

思考・判断の観点：運動制御機構における神経ー筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神経、筋機能の変化とその生理学的機序を説明できる。

関心・意欲の観点：運動制御機構における神経ー筋の役割および運動学習やトレーニングにともなう神
経、筋機能の変化に関心を示し、生体の合理性などに関する意識を高める。

成績評価方法(総合)

教科書

新訂　運動生理学概論／,宮下、石井編著：大修館書店, 1996

参考書

メッセージ

連絡先

shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315073
開設科目名	陸上運動			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	渡壁　史子			区分	

授業の概要

中学校体育科における陸上競技の走･跳･投の種目の中から1、2種目を選択し、実技能力と指導能力を高めます。さまざまな種目の中から、とくに短距離走および走り幅跳びの技術分析の仕方や感覚づくりの習得方法を中心的な学習課題とします。また、グループでの学習形態をとり、各種目において個々人の課題を設定し、その課題を達成するための一人ひとりに合った技能･技術獲得の方法を追求する力を高めます。

授業の一般目標

中学校体育科における陸上競技の走･跳の実技能力および指導能力を高めることを目的とします。走においては、短距離走を行い、安定した心地よい走りを追求し、走りを構成する力を養うことをまず第一目標とする。跳躍については走り幅跳びを行い、走り幅跳びの技術獲得までの感覚づくりの筋道を学ぶ。

また、それぞれの種目の自己の技術獲得を追及するうえで、グループでの活動を中心としていく。その活動を通して技術獲得に向けたグループ学習のあり方、有効性について考えることを第二の目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:陸上競技の短距離走、走り幅跳びにおける技能･技術習得方法の道筋について理解を深めることができる。

思考･判断の観点:運営面において、どのような方法で個人のタイムを計るのか、どのような組み合わせで、どのような場所で活動を行えばよいのかを考えることができる。

また、天候やグラウンドの状況や用具によって活動の方法、内容を考慮することができる。

技術面において、自分やグループのメンバーの感覚がどのようにすれば創りだせるかを追求することができる。

関心･意欲の観点:短距離走、走り幅跳びの技能･技術の獲得方法について、自分や人の動きを分析する方法をグループ内で検討することができる。

また、感覚をつかむまでの練習方法などについて、グループ内やグループ外の意見、さらにはさまざまな資料などを参考にすることができる。

技能･表現の観点:自己(あるいは同じグループのメンバーの)技術について、出発点からどれくらい技術が向上したかを判断することができる。

成績評価方法(総合)

出席　40%

上記の目標の観点に向けた授業への取り組み　40%

最終的な評価対象レポート　20%

教科書

参考書

メッセージ

陸上競技は個人種目ですが、自分では気付きにくいこと、人から教えられる感覚や考え方が大いに参考になることがたくさんあります。”みんな”で陸上競技を楽しめる雰囲気の中で、実技能力や指導能力を高めあっていきましょう。

連絡先

747-1232

防府市台道1346-2

山口短期大学

0835-32-0138

watakabe@yamaguchi-jc.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315111
開設科目名	スポーツ体育情報処理演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

ノートパソコンを用いて文書作成、表計算を学ぶ。

授業の一般目標

次の 3 項目をこの授業の目標とする。(1)数式やグラフを含んだ文書を作成できるようになること、(2)表計算を用いて成績処理などの計算を行うことができるようになること

授業の到達目標

知識・理解の観点:表計算ソフトの利用法:特に関数を用いた計算方法の知識を身に付けること。

思考・判断の観点:表計算ソフトにおいて、計算方法を考えることが出来るようになること。

関心・意欲の観点:コンピュータの活用法に興味を持って取り組むことができること。

技能・表現の観点:文書作成ソフトを用いて、グラフや数式を含んだ文書を作成できるようになること。さらに、表計算ソフトを用いて、簡単な計算及びプログラムの作成を行うことができること。

成績評価方法(総合)

定期試験とレポートによる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315146
開設科目名	運動生化学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	塩田　正俊			区分	

授業の概要

運動によって生じる生体内の化学的変化とその機序について、とくに運動と関わりのあるエネルギー供給機構、酸素運搬機能、酸塩基調節能などを中心に概説する。

授業の一般目標

運動によって生じる生体内の化学的変化とその機序について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:身体運動時の生化学的変化を説明できる。

思考・判断の観点:運動時の骨格筋、血液、尿などの生化学変化などについて推論することができる。

関心・意欲の観点:運動時の生化学変化について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。

成績評価方法(総合)

欠席＝欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠席として扱います。この授業は 2 名の教員が各 7 週ずつ担当します。2 名の教員のいずれもが可以上の評価でなければ、この授業の単位は認定されません。

教科書

わかりやすい生化学：疾病と代謝・栄養の理解のために／篠原力雄，饒村護編：ヌーヴェルヒロカワ

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315204
開設科目名	スポーツ心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	上地　広昭			区分	

授業の概要

スポーツ心理学の基礎知識を教授する。

授業の一般目標

受講生に，スポーツの現場で活用できる心理学的基礎知識を習得させる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

基本的には期末テストの得点をそのまま成績に反映させる。ただし，欠席一回につき 10 点の減点とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315221
開設科目名	運動栄養学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

先ずはじめに、生命と細胞のしくみを学び、ついでタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルの五大栄養素の代謝やその生体内での機能や重要性について学ぶ。また、食物繊維などについても学ぶ。さらに、ビデオ鑑賞などを行い、現代の食生活の抱えている問題や課題について考える。この授業では、それぞれのポイントにおいて、運動生理学的観点から、運動と栄養学の関係についても言及していく。

授業の一般目標

生命と細胞の仕組みを理解し、各種栄養素の生体内での役割を認識する。また、自分の食生活を客観的にとらえ、問題点を改善していこうとする態度を身につける。運動と栄養学を関連ずけて考えることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 細胞の仕組みや生体の主な機能（例えば、消化吸収・エネルギー生成など）について説明できる。

2. 五大栄養素や食物繊維の役割を説明できる。

3. 運動と栄養の関係を説明することができる。

思考・判断の観点：個々の知識を総合して、食と健康の問題を考えられる。

運動と栄養を関連付けて考えられる。

関心・意欲の観点：自分の食生活や現代の食の問題等と比較して考える。

運動に栄養の知識を生かそうと考える。

態度の観点：自分自身の健康の事柄と結びつけて、授業より積極的に取り組むことができる。

運動のなどの活動を栄養の面からも改善しようと取り組むことができる。

成績評価方法(総合)

期末試験、レポートおよび出席で総合的に評価する。

教科書

栄養学　－食と健康－／堀口美恵子：三共出版, 2008

参考書

メッセージ

文系・理系を問わずに理解ができる授業をめざしているので、生物・化学などの苦手意識を払拭して授業に望んでほしい。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315259
開設科目名	運動生理学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	曽根　涼子			区分	

授業の概要

運動時の呼吸循環器系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて講義する。

授業の一般目標

運動時の呼吸循環器系の反応や調節機構、運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応などについて理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1.運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について説明できる。
2.運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について説明できる。
思考・判断の観点：1.運動の種類による呼吸循環系の反応および調節機構の違いを説明できる。
2.運動トレーニングの種類による呼吸循環系の適応の違いを説明できる。
関心・意欲の観点：1.運動時の呼吸循環器系の反応および調節機構について関心を持つ。
2.運動トレーニングに対する呼吸循環系の適応について関心を持つ。

成績評価方法(総合)

小テストは 2 週に 1 回行う。2/3 以上出席と全小テスト 50 点以上が単位認定の最低必要条件である。欠席の場合および小テストの結果が 50 点未満の場合（不受を含む）はレポート（1000 字以上）を課す。次回の授業までにレポートが提出された場合にはその小テストは 50 点として扱う。

教科書

参考書

メッセージ

人体構造機能論Ⅱを受講していること（スポーツ健康科学コース以外の学生については人体構造機能論Ⅱを受講していることが望ましい）。運動生理学実習を受講するためにはこの授業を受講（2/3 以上）しておかなければならない。

連絡先

教育学部101－1

オフィスアワー

水曜日13～15時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315272
開設科目名	体力トレーニング論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について学習する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても学習する。

授業の一般目標

運動生理学の基礎知識をもとに、トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について理解する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:トレーニングによる身体器官の適応変化およびトレーニングの原理・方法について
理解する。また、トレーニングの計画立案における注意すべき事項についても理解0
する。

思考・判断の観点:トレーニングによる一部の器官の適応を他の器官と関連付けて思考することができ
る。

関心・意欲の観点:新聞・雑誌などの記事から種々のトレーニング方法の情報を収集することに関心が
ある。

成績評価方法(総合)

定期試験 70%、授業外レポート 20%、授業態度・授業への積極的参加度 10%を持って評価する

教科書

参考書

スポーツ生理学／森谷・根本:浅倉書店, 1995
C級コーチ教本 (前期・後期) ,／日本体育協会:日本体育協会, 1995
新訂　運動生理学概論／宮下、石井編著:大修館書店, 1996
骨格筋に対するトレーニング効果／山田・福永編:NAP, 1997

メッセージ

連絡先

shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315283
開設科目名	体操			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315287
開設科目名	人体構造機能論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	杉浦　崇夫			区分	

授業の概要

身体を構成している部分の構造と形態（解剖学）、そして部分の働き（生理学）について、特に身体運動に関わり深い骨格と筋について概説する。

授業の一般目標

動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を骨格と筋を中心に理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 個体を構成する各レベルについて説明できる。

2. 生体の化学組成について説明できる。

3. 細胞の概観と人体にみられる組織について説明できる。

4. 骨格系と筋系についてについて説明できる。

思考・判断の観点：授業で取り上げた項目について、運動との関わり合いからの見方・考え方ができる。

関心・意欲の観点：構造的・機能的観点から人体に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

授業内小テスト、レポート、期末試験から評価する。欠席回数４回以上の場合、期末試験の受験を認めない。

教科書

人体の構造と機能／エレイン N. マリーブ：医学書院, 1999

参考書

メッセージ

学生諸君が、大学に入学して初めて履修する専門科目です。本授業科目は、本コースの履修科目の中で基礎的科目に位置付き、非常に大切な科目の一つです。

連絡先

E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設学期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315344
開設科目名	スポーツ法学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

法の基本的目的は社会秩序を維持し、社会生活の円滑を期するとともに平均的ないし配分的正義の実現をめざすものであり、もしその構成員相互の生活利益に対立･争いがあれば平和裡に調整し解決に貢献すべきであるとされている。スポーツ関係法規も同様に考えられる。そのようなスポーツ関係法規は、内容的には、大まかにスポーツの振興、人権（保障）問題、及び事故責任と補償問題にかかわるものなどに区分できる。このようなスポーツ関係法規について、できるだけ事例に即して本講義において、その意義や役割･機能及び構造等について述べる。

授業の一般目標

スポーツ関係法規になじむことから始まって、スポーツ活動に伴って生じる様々な紛争や事故問題について、事例や判例の分析･考察を通して、自力でそれらの紛争や事故問題について取り組み、解決ないし解消でき得る力を涵養する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. スポーツ法規とは何かについて説明できる。

2. スポーツ法規の役割･機能及び構造について説明できる。

思考･判断の観点: 1. スポーツ法規の役割･機能及び構造等について実際の具体的事例に即して説明できる。

関心･意欲の観点: 1. いわゆるリーガル･マインドを涵養し、スポーツ法規に関する関心を広げ、高めることができる。

態度の観点: 1. スポーツ（活動）に関連して生ずる法的問題について客観的に考えることができる。

成績評価方法(総合)

レポート及び試験等で総合的に評価する。

教科書

導入対話によるスポーツ法学

参考書

スポーツ政策の現代的課題／諏訪紳夫:日本評論者

スポーツ六法／伊藤堯, 山田良樹編:道和書院

メッセージ

スポーツ関係者の必須知識ともいえるスポーツ関係法規を現代的トピックスに即して解説している。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315349
開設科目名	環境生体適応学			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	曽根　涼子			区分	

授業の概要

暑熱、高圧(潜水)などの諸環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理的メカニズムなどについて講義する。

授業の一般目標

暑熱、高圧(潜水)などの諸環境に対して、生体に起こる反応、適応、その生理的メカニズムなどについて理解する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

2/3以上出席が、単位認定のための最低必要条件である。

教科書

参考書

環境生理学／黒島:理工学社, 1993

メッセージ

連絡先

教育学部101－1

オフィスアワー

水曜日13～15時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021315351
開設科目名	スポーツ経営学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	片山　健二			区分	

授業の概要

現代社会における体育･スポーツの意義･役割をスポーツ経営学の視点から理解すると共に、人々の豊かなスポーツライフ構築のためのスポーツサービスを効果的･合理的に供給するための理論について学習する。スポーツサービスを企画し、運営するための知識や能力を身につけるための基礎知識を養う。

授業の一般目標

1 スポーツ経営（学）を学ぶ意味を説明できる。

2)スポーツ経営(マネジメント)の具体的な実践領域（現場）を指摘し、その経営の特徴を説明できる。

3)スポーツ経営のしくみの中で、経営資源･経営過程やスポーツサービスの位置づけやその意味を説明できる。

4)3 つのスポーツサービス（A.S、P.S、C.S）の事業特性や運営のポイントを説明することができる。

5)自他の運動生活やスポーツ生活を記述し、その評価･診断ができる。

6)スポーツ指導者の分類と役割、専門性について説明できる。

7)総合型地域スポーツクラブの理解と共に、広域スポーツセンターの機能や役割を説明できる

8)スポーツ産業領域を分類し、その特徴を説明できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:･スポーツ経営（学）を学ぶ意味、スポーツ指導者の分類と役割、専門性、スポーツサービス（A.S、P.S、C.S）の事業特性や運営のポイントを説明することができる。

･スポーツ経営のしくみの中で、経営資源･経営過程やスポーツサービスの位置づけやその意味を説明できる。

･総合型地域スポーツクラブの理解と共に、広域スポーツセンターの機能や役割を説明できる

8)スポーツ産業領域を分類し、その特徴を説明できる。

思考･判断の観点:･スポーツ経営(マネジメント)の具体的な実践領域（現場）を指摘し、その経営の特徴を説明できる。

･自他の運動生活やスポーツ生活を記述し、その評価･診断ができる。

関心･意欲の観点:･授業に積極的にかかわり、質疑に参加できる。

態度の観点:･私語なく、授業に真面目に臨み、質疑等にも積極的に参加できる。

成績評価方法(総合)

⑴ 出席状況 ⑵ レポート評価 ⑶ 意欲･態度をあわせて、総合的に評価する

教科書

体育･スポーツ経営学講義／八代勉･中村　平編:大修館書店

参考書

メッセージ

学生の積極的授業参加（質問や意見は遠慮なく）を期待します。

連絡先

東亜大学

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021321102
開設科目名	生活論総合演習			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

この授業では、これまでの知識を基に衣･食に関する理化学実験、食品加工実習、さらに住生活･地域生活の問題点や工夫をさぐるための基礎的調査方法を概説する。一方、専門的な研究室ゼミ、卒業研究の選択の手助けとなるように配慮した内容としている。

授業の一般目標

理化学実験、調査･解析を通して、衣食住に関する現象･事象を科学的な視点で捉え、その原理や概念を理解･説明できるとともに、生活上の問題点を客観的に抽出し、その改善策等を自ら考えることができるようにすることを目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:生活上の現象･事象について、科学的･統計学的に理解、説明できる。

思考･判断の観点:生活上の問題点を自ら抽出し、改善、改良、向上するためにはどうすればよいかを考えることができる。

関心･意欲の観点:生活上の身の回りに起こっていることを単に受け入れるのではなく、「どうして？」という疑問を抱くようにする。

態度の観点:1.言われたからするのではなく、自ら積極的に演習･実験に参加する。

2.他人に対して協調的･建設的態度がとれる。

技能･表現の観点:1.基本的な実験器具･機器を扱える。

2.実験内容、実習内容、調査内容や自分で考察した内容をレポートとしてまとめる。

3. 簡単な社会調査ができるようになる。

成績評価方法(総合)

毎回の出席、授業中の態度･意欲（積極性）および各教員から出題されるレポート課題および実験報告書（実験レポート）により評価する。なお、レポートの提出期限は厳守すること。

教科書

参考書

メッセージ

対象:生活健康科学コースのみ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021325024
開設科目名	住居科学（製図を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山本　善積			区分	

授業の概要

住生活の向上のために、住空間の構成や住環境の制御方法の理解を深めることを目的とする。住まいの発展や多様な住まい方を通して、現代の住まいと住生活の課題を学ぶ。あわせて、健康や安全面から住まいの環境を点検し、子どもや高齢者に配慮した住居の計画、地域環境へと理解を深めていく。

授業の一般目標

住まいの発展経過や現代の多様な住まい方から住まいと住生活の課題を理解する。次に、健康や安全の視点から住まい環境の問題を具体的に点検し、認識する。これらの知識を生かし、子どもや高齢者など家族員の特性も踏まえて住居の計画をできるようにする。さらに、住まいと地域や社会との関わりに関心を広げる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 住まいの歴史と住まい方の発展から、住まいと住まい方の基本事項を理解する。

2. 健康や安全の面から現代の課題を理解する。

思考・判断の観点：1. 住まいの健康や安全性の判断ができる。

2. 子どもや高齢者の特性から、その必要な空間条件を考えられる。

関心・意欲の観点：1. 住まいと地域環境との関係や、消費者問題・住宅政策など社会との関係にも関心を広げる。2. バリアフリーなど社会の動きを主体的につかむ。

態度の観点：1. 知識や思考力を自らの住まいと住まい方に生かし、よりよい住まい方を積極的に追求する。

技能・表現の観点：1. 子どもや高齢者を含んだ家族のニーズを理解し、それを間取りに表現できる。

成績評価方法(総合)

演習レポートと試験で評価する。欠席状況も加味する。

教科書

参考書

メッセージ

質問を歓迎します。質問をして理解を深めて下さい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021325065
開設科目名	消費生活概論（家庭経済学を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	西　敦子			区分	

授業の概要

前半は我が国の家庭経営、消費生活の変容、家計について、後半は現代の消費者問題の背景・要因について解説する。それらを通して真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。

授業の一般目標

我が国の消費生活の特徴、社会と家計との関わり、現代の消費者問題、消費者政策等を理解する。家族の安全・安定・幸福な生活を目指し、主体的に自立した家庭経営および消費生活を営み創造していく意志決定能力を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：授業で学んだことを理解することができる。
（家庭経営、家計、消費者問題、自立した消費者など）
思考・判断の観点：現代の消費者問題について、その要因・背景を明確にすることができる。
消費者として主体的な選択・判断・意志決定ができる。
関心・意欲の観点：消費者問題や変化する社会状況に関心を持ち、与えられた課題等に意欲的に取り組む。
態度の観点：授業の態度が真面目である。
技能・表現の観点：批判的思考を備え、自らの意見をわかりやすく整理集約して説明できる。

成績評価方法(総合)

小テスト、課題、試験を勘案する。

教科書

文部科学省著作教科書　消費生活／文部科学省：教育図書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021325093
開設科目名	家族生活論（家族関係学を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	友定　啓子			区分	

授業の概要

現代家族の理論と実態について取り上げる。家族と社会の関係、家族内部の人間関係
（夫婦関係・親子関係）およびその病理（DV・児童虐待など）について講義する。

授業の一般目標

現代家族の置かれた状況を理解し、家族関係に関する一般的な知識と自分なりの家族観
を持つ。

授業の到達目標

知識・理解の観点：現代家族の置かれた状況、課題について理解する
思考・判断の観点：家族問題についての自分なりの見解を持ち表現できる
関心・意欲の観点：家族関係に関する関心を持つ
態度の観点：出席状況

成績評価方法(総合)

授業内および課外でのレポートと最終試験を総合して判定する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

友定啓子

オフィスアワー

水 12-00-12:50

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021325108
開設科目名	表現被服論（被服製作実習を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松尾　量子			区分	

授業の概要

被服分野の基礎となる被服の立体構成を取り扱い、基本的な知識の理解と技術の習得を目的として授業を展開する。

授業の一般目標

被服製作に必要な基本的知識と技術を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：人体と衣服の関わり、衣服造形の理論について基本的な知識を理解する。

技能・表現の観点：衣服造形の基本的技術を習得する。

成績評価方法(総合)

課題作品とレポートによって評価します。

教科書

文化ファッション大系服飾造形講座1服飾造形の基礎:文化出版局

参考書

メッセージ

被服造形論（被服製作実習を含む。）のメッセージ欄を参照してください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021325205
開設科目名	栄養科学実験			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

この授業では、先ず、簡単な実験器具や薬品等の取り扱い方など基本的な実験の基礎技術について学習し、ついで各栄養素を題材に、それぞれの生物学的、科学的特性を、実験を通して体得する。さらに、食品衛生的な立場から、微生物に関する実験や食品添加物の検出実験等を行う。

授業の一般目標

1. 基礎的な化学実験･生物学実験の技術を習得する。
2. 各種栄養素の化学的特性や生物学的特性を理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:各実験について、原理までしっかりと理解し、説明できる。

思考･判断の観点:各実験に使われている器具、試薬などについてその役割や意味を説明できる。

関心･意欲の観点:実験を通して栄養学的、食品学的、食品衛生学的興味関心を高める。

態度の観点:それぞれの実験に対して、技術の習得だけでなく、その原理的内容についても把握する。

また、他人に対して協調的、建設的態度がとれる。

技能･表現の観点:基礎的な化学実験、生物学実験の技術をマスターし、使用できる。

成績評価方法(総合)

毎回提出のレポートと授業への出席および授業中の態度による総合評価

教科書

参考書

メッセージ

実験の科目が少ないので、興味のある者は、積極的に履修して欲しい。特に、卒論で、実験テーマ（食物）を希望する場合は、履修しておくことが望ましい。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021325228
開設科目名	栄養科学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

先ずはじめに、生命と細胞のしくみを学び、ついでタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルの五大栄養素の代謝やその生体内での機能や重要性について学ぶ。また、食物繊維などについても学ぶ。さらに、ビデオ鑑賞などを行い、現代の食生活の抱えている問題や課題について考える。

授業の一般目標

生命と細胞の仕組みを理解し、各種栄養素の生体内での役割を認識する。また、自分の食生活を客観的にとらえ、問題点を改善していこうとする態度を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 細胞の仕組みや生体の主な機能（例えば、消化吸収・エネルギー生成など）について説明できる。

2. 五大栄養素や食物繊維の役割を説明できる。

思考・判断の観点：個々の知識を総合して、食と健康の問題を考えられる。

関心・意欲の観点：自分の食生活や現代の食の問題等と比較して考える。

態度の観点：自分自身の健康の事柄と結びつけて、授業より積極的に取り組むことができる。

成績評価方法(総合)

期末試験、レポートおよび出席で総合的に評価する。

教科書

栄養学　－食と健康－／堀口美恵子：三共出版，2008

参考書

メッセージ

文系・理系を問わずに理解ができる授業をめざしているので、生物・化学などの苦手意識を払拭して授業に望んでほしい。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021325288
開設科目名	人体構造機能論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	杉浦　崇夫			区分	

授業の概要

身体を構成している部分の構造と形態（解剖学）、そして部分の働き（生理学）について、特に身体運動に関わり深い骨格と筋について概説する。

授業の一般目標

動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を骨格と筋を中心に理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 個体を構成する各レベルについて説明できる。

2. 生体の化学組成について説明できる。

3. 細胞の概観と人体にみられる組織について説明できる。

4. 骨格系と筋系についてについて説明できる。

思考・判断の観点：授業で取り上げた項目について、運動との関わり合いからの見方・考え方ができる。

関心・意欲の観点：構造的・機能的観点から人体に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

授業内小テスト、レポート、期末試験から評価する。欠席回数 4 回以上の場合、期末試験の受験を認めない。

教科書

人体の構造と機能／エレイン N. マリーブ：医学書院, 1999

参考書

メッセージ

学生諸君が、大学に入学して初めて履修する専門科目です。本授業科目は、本コースの履修科目の中で基礎的科目に位置付き、非常に大切な科目の一つです。

連絡先

E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021325311
開設科目名	食生活科学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	五島　淑子			区分	

授業の概要

本講義では、生活様式と食、主食、肉食、乳利用、食事行動について、世界の食文化および日本の食文化について講義する。また現代の食生活についても講義する。

授業の一般目標

⑴ 食文化を学ぶ意義･目的を理解する。

⑵ 主食の条件、肉食の文化、乳利用の文化について理解する。

⑶ 現代の食生活の問題点を理解する。

⑷ 食文化について関心をもち、食について主体的に考えることができるようにする。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1食文化とは何かについて説明できる。

2世界の食文化について理解する。

3日本の食文化について理解する。

3食文化の研究の意義を理解する。

思考･判断の観点: 1食文化に関する自分の意見を論理的に述べることができる。

2現代の食生活の問題点を述べることができる。

関心･意欲の観点: 1食文化に関する関心を広げる。

2食に対する問題意識を高めることがでる。

態度の観点: 1日常生活の中で、食生活、食文化の問題について主体的に考えることができる。

成績評価方法(総合)

課題レポートを中心に評価し、授業への参加度を考慮します。

教科書

新･食文化入門／森枝卓士･南直人編:弘文堂, 2004

参考書

食文化入門／石毛直道･鄭大聲編:講談社, 1995

メッセージ

ビデオ教材も使用します

連絡先

goto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日 16 時 10 分から 17 時 40 分

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021325320
開設科目名	衣生活科学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	星野　裕之			区分	

授業の概要

生活のなかの衣料に着目し、歴史、衣服気候、繊維、染色、洗浄、管理等に関する基礎的な事項を解説する。

授業の一般目標

日常生活のなかで、普段なにげなく身に着けている衣服について、見た目のファッションではなく、科学的な目で理解・考察できるようにする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 衣料用素材の種類と特徴を説明できる。

2. 洗剤の種類と役割を説明できる。

3. 品質表示の意味を説明できる。

思考・判断の観点：1. 目的に合った衣類を選択できる。

2. 洗剤の誤った使い方を指摘できる。

関心・意欲の観点：衣生活を科学的な目で捉えることに関心を持つ。

態度の観点：授業だけのこととして終わらせるのではなく、日常生活に生かせる。

成績評価方法(総合)

授業のなかで3回程度行う小レポートの提出、および学期末の課題レポートの提出で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書

参考書

衣生活論／中島利誠編著：光生館, 1999

生活のための被服材料学／日下部信幸著：家政教育社, 1998

洗濯の科学／花王生活科学研究所編：裳華房, 1989

石けん屋さんが書いた石けんの本／三木春逸・三木晴雄：山水社, 1992

メッセージ

1年生対象の概論科目である。したがって、再履修者を除き、すでに衣料素材論を受講済みあるいは受講中の者は、遠慮してください。

連絡先

E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部300号室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411048
開設科目名	地理学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	MIKHOVA　DIMITRINA　JORDANOVA			区分	

授業の概要

The focus of this course is on the ways cultures and society vary and function spatially. Students describe and interpret spatial variations in culture, recognize cultural similarities and differences resulting from a complex of factors.

授業の一般目標

To learn to understand cultures around the world, how culture regions are formed, the factors of cultural diffusion and cultural integration, the ways different cultures relate to the natural environment and form specific cultural landscapes.

授業の到達目標

知識・理解の観点: To understand and compare cultures around the world.

思考・判断の観点: To learn how to explain factors that create or influence cultures. To discuss cultural differences.

関心・意欲の観点: To discuss the processes of cultural change and disappearance of cultural traits.

態度の観点: To develop an understanding and tolerance to cultural differences.

技能・表現の観点: To learn to communicate with people from other cultures and discuss problems in English. To practice public speaking and presentation skills in English.

その他の観点: To do research on a specific problem concerning Cultural Geography.

成績評価方法(総合)

Attendance: 10%

Oral presentation in English: 30%

Final test: 60%

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411080
開設科目名	東欧･ロシア地域研究			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	MIKHOVA　DIMITRINA　JORDANOVA			区分	

授業の概要

Eastern Europe: environment, history, economic and political development.

Special focus on the cultural differences. More attention is devoted to Russia as a big and influential country, with its historical and current influence in this region.

Current economic and political problems.

授業の一般目標

To learn to understand the specific of Eastern Europe and processes taking place in this part of the world. To understand East European culture.

授業の到達目標

知識･理解の観点: To understand East Europe as a specific economic and cultural region and compare it with other regions in the world.

思考･判断の観点: To learn how to explain factors that create this specific region. To learn the differences between two major political-economic systems: socialism and capitalism.

関心･意欲の観点: To discuss processes of political and economic change of societies, using the knowledge about Eastern Europe.

態度の観点: To develop an understanding to the cultural differences in this region.

技能･表現の観点: To learn to express their ideas and attitudes upon facts and problems relating to this part of the world. To practice public speaking and presentation skills in English.

その他の観点: To do research on a specific problem relating to this part of the world.

成績評価方法(総合)

Attendance: 10%

Oral presentation in English: 30%

Final test: 60%

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411103
開設科目名	異文化間交流演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	今田 淳			学年	～
担当教員	今田　淳			区分	

授業の概要

学生が異文化間交流について発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標

異文化間交流について他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点:異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。

思考・判断の観点:エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。

関心・意欲の観点:異文化に対する関心を持つ。

態度の観点:積極的に異文化を理解しようとする。

技能・表現の観点:異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

成績評価方法(総合)

演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411171
開設科目名	異文化間交流演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			学年	～
担当教員	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			区分	

授業の概要

学生が異文化間交流について発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標

異文化間交流を実践し、それを他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける

授業の到達目標

知識・理解の観点:異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。

思考・判断の観点:エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。

関心・意欲の観点:異文化に対する関心を持つ。

態度の観点:積極的に異文化を理解しようとする。

技能・表現の観点:異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

成績評価方法(総合)

演習と授業態度、参加度で評価をおこなう

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411179
開設科目名	国際文化学演習III			単位	2 単位
対象学生	今田 淳			学年	～
担当教員	今田　淳			区分	

授業の概要

国際文化学演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、卒業論文の作成に向けて、調査･研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査･研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点:各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。

思考･判断の観点:各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。

関心･意欲の観点:各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。

態度の観点:自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究に取り組む。

技能･表現の観点:各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

国際文化学演習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、卒業研究

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411180
開設科目名	異文化間交流演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	阿部 新			学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

環境問題や地域経済に関するテーマから、諸外国との比較を念頭に置き、受講生が分担して情報収集、報告をし、それについて助言・指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点：対象課題についての正確かつ基本的知識・理解を得ること。

思考・判断の観点：対象課題について考え、判断する力を養うこと。

関心・意欲の観点：対象課題に積極的に取り組むこと。

態度の観点：資料収集やレポート報告を着実かつ真面目に行う態度を養うこと。

技能・表現の観点：収集した資料をもとに自己表現すること。

成績評価方法(総合)

報告の仕方および内容、最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411183
開設科目名	国際文化学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	阿部 新			学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

環境問題や地域経済に関するテーマから、受講生が分担して情報収集、報告をし、それについて助言・指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点：対象課題についての正確かつ基本的知識・理解を得ること。

思考・判断の観点：対象課題について考え、判断する力を養うこと。

関心・意欲の観点：対象課題に積極的に取り組むこと。

態度の観点：資料収集やレポート報告を着実かつ真面目に行う態度を養うこと。

技能・表現の観点：収集した資料をもとに自己表現すること。

成績評価方法(総合)

報告の仕方および内容、最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411222
開設科目名	国際文化学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	岡村 康夫			学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

各自の選んだテーマによって、毎回レポート報告をし、その内容、報告の仕方等ついての助言･指導を行う。

授業の一般目標

レポート報告の仕方、またその資料収集の仕方、さらにはそれらを使っての論文作成の方法を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:選んだテーマについての正確かつ基本的知識･理解を得ること。

思考･判断の観点:選んだテーマついて的確な思考･判断をなすこと。

関心･意欲の観点:選んだテーマに積極的に取り組むこと。

態度の観点:選んだテーマについて着実に資料収集を行うこと。

技能･表現の観点:収集した資料をもとに、選んだテーマをめぐって自己表現をすること。

成績評価方法(総合)

毎回のレポート報告およびそれに基づいた最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411223
開設科目名	国際文化学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	北西 功一			学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。

思考・判断の観点: 各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。

関心・意欲の観点: 各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。

態度の観点: 自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。

技能・表現の観点: 各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411239
開設科目名	異文化間交流演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	北西 功一			学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

学生が異文化間交流について、発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標

異文化間交流について、他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける

授業の到達目標

知識・理解の観点:異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。

思考・判断の観点:エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。

関心・意欲の観点:異文化に対する関心を持つ。

態度の観点:積極的に異文化を理解しようとする。

技能・表現の観点:異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

成績評価方法(総合)

演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411240
開設科目名	異文化間交流演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	岡村 康夫			学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

各自の選んだテーマによってレポート報告をし、それについての助言･指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:選んだテーマについての正確かつ基本的知識･理解を得ること。

思考･判断の観点:選んだテーマについて考え、判断する力を養うこと。

関心･意欲の観点:選んだテーマに積極的に取り組むこと。

態度の観点:資料収集やレポート報告を着実かつ真面目に行う態度を養うこと。

技能･表現の観点:収集した資料をもとに自己表現すること。

成績評価方法(総合)

毎回のレポートの仕方および内容、そして最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411241
開設科目名	国際文化学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	今田 淳			学年	～
担当教員	今田　淳			区分	

授業の概要

卒業論文の作成に向けて、調査･研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査･研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。

思考･判断の観点: 各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。

関心･意欲の観点: 各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。

態度の観点: 自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究に取り組む。

技能･表現の観点: 各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411273
開設科目名	国際文化学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			学年	～
担当教員	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			区分	

授業の概要

卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表する
ことによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力
を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。
思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。
関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。
態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。
技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411292
開設科目名	国際文化学演習III			単位	2 単位
対象学生	北西 功一			学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。

思考・判断の観点: 各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。

関心・意欲の観点: 各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。

態度の観点: 自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。

技能・表現の観点: 各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411293
開設科目名	国際文化学演習III			単位	2 単位
対象学生	来島 浩			学年	～
担当教員	来島　浩			区分	

授業の概要

演習Ⅰ＆Ⅱより引き続いて経済学の基礎を学び、それを使って政策（公共政策）を勉強し、最後に日本経済を分析する。

授業の一般目標

社会の諸現象が分析･理解できるようにし、さらに卒業論文が作成できるようにする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

演習に於ける報告を、知識･理解、判断、関心･意欲、態度、表現の観点より評価する。

教科書

アメリカ型不安社会でいいか／橘木俊詔:朝日新聞社, 2006

福祉社会／武川正吾:有斐閣, 2008

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411294
開設科目名	国際文化学演習III			単位	2 単位
対象学生	岡村 康夫			学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

各自の選んだテーマによってレポート報告をし、その内容および方法について助言･指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:選んだテーマについての正確かつ基本的な知識･理解を得ること。

思考･判断の観点:選んだテーマについて考え、かつ正確に判断する力を養うこと。

関心･意欲の観点:自ら選んだテーマについて積極的に取り組むこと。

態度の観点:資料収集を着実に行い、レポート報告に真面目に取り組むこと。

技能･表現の観点:収集した資料を基に豊かな自己表現をすること。

成績評価方法(総合)

毎回のレポート報告の内容、方法およびその最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411295
開設科目名	国際文化学演習III			単位	2 単位
対象学生	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			学年	～
担当教員	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			区分	

授業の概要

卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表する
ことによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力
を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。
思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。
関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。
態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。
技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021411296
開設科目名	国際文化学演習III			単位	2 単位
対象学生	阿部 新			学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

受講生が自ら課題を選び、諸外国との比較を念頭に置き、制度や歴史に関して、情報収集、比較分析、報告をし、それについて助言・指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:対象課題についての正確かつ基本的知識・理解を得ること。

思考・判断の観点:対象課題について考え、判断する力を養うこと。

関心・意欲の観点:対象課題に積極的に取り組むこと。

態度の観点:資料収集やレポート報告を着実かつ真面目に行う態度を養うこと。

技能・表現の観点:収集した資料をもとに自己表現すること。

成績評価方法(総合)

報告の仕方および内容、そして最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021415025
開設科目名	外国史			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

キリスト教の浸透を経験したヨーロッパ社会とそうでない日本社会に、人間関係のあり方のレベルでどのような差異が形成されてきたのか、それが現在の我々の考え方・行動をどう特徴づけているのかを歴史学的に考察する。

授業の一般目標

宗教社会史的分析を通して、欧米におけるキリスト教信仰の歴史的社会的意味を理解する。
日欧比較史的分析を通して、「他人事、他所事の外国史」からの脱却と、我々をとりまく環境を相対的客観的に見る視点の獲得をめざす。

授業の到達目標

知識・理解の観点：講義内容のおおよそを再現することができる。
思考・判断の観点：史料や概念等を適切に使用することができる。
関心・意欲の観点：推論や仮説構築、概念の吟味等に意欲的に取り組むことができる。

成績評価方法(総合)

期末レポート（基本的に講義内容の再現を求める）と、授業内での小テスト・小レポート（6回程度）で評価する。3回欠席すると、期末レポートの提出資格を失う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021415029
開設科目名	アジア･アフリカ言語文化入門Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

前半はアフリカが現在抱えている問題について、ビデオなどを用いながら紹介し、考察する。後半は、アフリカで話されている言語についての基礎的な知識と、中部アフリカの地域共通語であるリンガラ語の初等文法とリンガラ語を話している人たちの文化について学ぶ。

授業の一般目標

アフリカが現在抱えている問題を知る。

リンガラ語を通して、アフリカの社会、文化、歴史に触れることを目的とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:アフリカが現在抱えている問題を知る。リンガラ語の初等文法を理解する。リンガラ語を話す人たちの文化を理解する。

思考･判断の観点:アフリカが現在抱えている問題の原因と対策について考える。

関心･意欲の観点:アフリカの人々、社会、文化、言語に関心を持つ。

技能･表現の観点:初歩的なリンガラ語を話すことができる。

成績評価方法(総合)

期末レポートと、出席点、授業の内容に関する宿題、および授業時における課題を合計して評価する。特別な理由なく 5 回以上欠席したものは失格とする。

教科書

参考書

アフリカをフィールドワークする／梶茂樹:大修館書店, 1993

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

研究室　教育学部 2 階　266 号室

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021415063
開設科目名	世界の食糧生産構造			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐藤　登			区分	

授業の概要

人間の歴史の中で主要な位置を占めてきた食べ物について、その生産の仕組みを説明する。

授業の一般目標

(1)食べ物の生産にかかわる要因を理解する。

(2)身近な食べ物を、日常生活の中から理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 主要農産物の生産について説明できる。

思考・判断の観点: 自然環境と農環境の関係を説明できる。

関心・意欲の観点: 日常の食生活について関心を持つ。

成績評価方法(総合)

1)授業中に数回行う小実験と栽培実習についてレポートを提出。

(2)個人課題でのレポート提出。

なお、出席が所定の回数に満たない者は単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021415112
開設科目名	メディア情報教育			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

ノートパソコンを用いて文書作成、表計算を学ぶ。

授業の一般目標

次の 3 項目をこの授業の目標とする。(1)数式やグラフを含んだ文書を作成できるようになること、(2)表計算を用いて成績処理などの計算を行うことができるようになること

授業の到達目標

知識・理解の観点:表計算ソフトの利用法:特に関数を用いた計算方法の知識を身に付けること。

思考・判断の観点:表計算ソフトにおいて、計算方法を考えることが出来るようになること。

関心・意欲の観点:コンピュータの活用法に興味を持って取り組むことができること。

技能・表現の観点:文書作成ソフトを用いて、グラフや数式を含んだ文書を作成できるようになること。さらに、表計算ソフトを用いて、簡単な計算及びプログラムの作成を行うことができること。

成績評価方法(総合)

定期試験とレポートによる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021415121
開設科目名	人類学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

文化人類学における異文化理解に対する考え方を学ぶ。具体的には、アフリカ、ヨーロッパ、近現代の日本における家族、親子関係、結婚、性などを取り上げる。

授業の一般目標

異文化理解において、文化相対主義という考え方の重要性を理解し、実践することが目標である。それには、単に異文化を理解するだけではなく、異文化を通して、日本人が当たり前であると考えている自文化の慣習的行為、制度、価値観を相対化するということも含まれている。

授業の到達目標

知識・理解の観点：文化人類学の基本的概念、特に文化相対主義を理解する。

思考・判断の観点：自文化中心主義ではなく文化相対主義に基づいて異文化を判断できるようになる。

関心・意欲の観点：異文化に関心を持つ。

態度の観点：異文化、特にアフリカなどの人たちの文化に対して偏見を持たずに接することができるようになる。

成績評価方法(総合)

期末レポートと授業中もしくは授業後に毎回課す小レポート、出席に基づいて評価する。特別な事情がないにもかかわらず、5 回以上欠席した学生は失格とする。

教科書

参考書

フランス家族事情／浅野素女：岩波書店, 1995

アフリカ女性の民族誌／和田正平編：明石書店, 1996

ヒトの自然誌／田中二郎・掛谷誠編：平凡社, 1991

性の人類学／高畑由起夫編：世界思想社, 1994

結婚の社会学―未婚化・晩婚化は続くのか／山田昌弘：丸善, 1996

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp　研究室　教育学部 2 階 266 号室

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021415147
開設科目名	経済学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

日々起きている社会現象を見ると、個人あるいは社会全体にとって望ましいとは言えない状況がある。経済学は、社会現象の要因を分析し、どのように望ましい方向に進むべきかを考えるうえで、重要な学問である。本授業では、経済学の基本的な考え方を習得するとともに、社会現象を分析し、どのように望ましい社会を作っていくかを考えていく。

授業の一般目標

経済学の基本的な考え方を習得したうえで、日々の社会生活で起きている事象について、個人や社会にとって望ましい方向に動いているのか、それができないのはなぜかについて経済学的な視点から思考する力を習得することを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：個人の消費、企業の生産、社会的余剰、市場の失敗について説明ができる。

思考・判断の観点：社会で起きている様々な事象について、経済学的な視点で分析できる。

関心・意欲の観点：地域または世界で起きている様々な社会問題に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

期末試験、授業中の演習問題により採点を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021415164
開設科目名	日本史			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森下　徹			区分	

授業の概要

日本史を通史的に概観する。(古代から中世まで)

授業の一般目標

日本史の通史的理解をする。(古代から中世まで)

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

中間･期末テストおよび小テストの合算

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021415206
開設科目名	生態学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北沢　千里			区分	

授業の概要

私たちを取り巻く身近な環境を題材に、環境と生物の関係について学習する。

授業の一般目標

生物学の立場から環境問題について考え、生態学の基礎知識を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：生物の様々な環境に対する適応法について学び、生態学の基礎知識を習得する。

思考・判断の観点：身近な生物現象のしくみについて考察できる。

関心・意欲の観点：生物と環境との関わりについて、環境問題等近年のトピックスについて考察することが出来る。

成績評価方法(総合)

レポート、出席、期末試験を総合的に評価し、判断する。

教科書

参考書

生態学入門／日本生態学会編：東京化学同人, 2004

トマトはなぜ赤い　生態学入門／三島次郎：東洋館出版社, 2003

生態学キーノート／Mackenzie, Ball & Virdee：シュプリンガー・フェアラーク東京, 2006

メッセージ

連絡先

E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日　13：00-14：30

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021415252
開設科目名	欧米言語文化入門Ⅳ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	小粥　良			区分	

授業の概要

欧米言語文化入門Ⅳ では、ヨーロッパを取り上げる。教科書、配布するテキスト、授業内に見るビデオなどを通して、ヨーロッパの歴史や、様々な文化的事象について考察していく。

授業の一般目標

文化を理解するために必要な歴史的背景についての知識を得る。歴史の中で、ヨーロッパ
という地域がどのように形成され、今日の姿になったかを理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:ヨーロッパの歴史的形成についての知識を得る。ヨーロッパの多様性についての理解を深めるとともに、ローマ文明、キリスト教といった共通の基盤をもつことも理解する。

思考・判断の観点:歴史的事象が今日のヨーロッパの形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。

関心・意欲の観点:参考文献、インターネットなどを調査し、ヨーロッパについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。

態度の観点:与えられた課題に積極的に取り組むことができる。

技能・表現の観点:発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。

成績評価方法(総合)

授業内の発表、授業や課題に対する熱意ある取り組み、期末レポートによる。出席は欠格条件とし、80%以上の出席を必要とする。

教科書

ヨーロッパ学入門／武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編:朝日出版, 2005

参考書

メッセージ

授業で関心を持った点を、自分でもどんどん調べていってください。図書館やインターネットを活用しましょう。

連絡先

小粥研究室(教育学部2F　200-4)

オフィスアワー

木曜日16:30－17:30

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021421054
開設科目名	美術史演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	菊屋　吉生			区分	

授業の概要

美術史に関する個々のテーマを設定し、その自主研究内容を発表形式で行い、全体で討議する。また卒業論文の指導も行う。

授業の一般目標

(1)各自の研究テーマを発表することによって、プレゼンテーション能力を高め、全体討議を通して自らの研究の論点を整理、確認する。

(2)卒業論文作成のための基礎固めとステップアップを目的とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 他のゼミ生の発表を吟味することによって、美術史全体に対する自らの知識と理解を深める。

思考・判断の観点: 自らの研究テーマを練った上で発表を行い、他のゼミ生との討論を通して、自らの思考、判断の妥当性を考察する。

関心・意欲の観点: 自らの関心の分野に対する認識をさらに深めるとともに、美術史全体に対する興味も喚起する。

態度の観点: 研究テーマについては、常に既存の論理の妥当性、信憑性を自らの眼と頭で再検討してみる。

技能・表現の観点: プレゼンテーション能力の向上をめざし、他者へ理解させ、納得させる技能を養成する。

成績評価方法(総合)

授業時間内における発表の内容を重視する。そのテーマについての分析能力、思考、判断の妥当性などが主な評価の基準となる。また他者の発表の際の、質問や意見表明など、授業への積極的な参加の態度も考慮に入れ、総合的に評価したい。

教科書

参考書

メッセージ

発表はなるべくヴィジュアルな形で、具体的な作品等を示しながら行なってほしい。

連絡先

kikuya@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021421095
開設科目名	音楽学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	斎藤　完			区分	

授業の概要

各人が音楽文化に関するテーマを設定しその研究内容を発表する。

授業の一般目標

⑴ プレゼンテーション能力を向上させる。

⑵ 全体討議を通して自らの研究を客観的に考察できるようにする。

⑶ 卒業論文作成のための基礎固め、ならびにステップアップを目的とする。

授業の到達目標

思考・判断の観点: 自らの研究の客観的な把握、資料の妥当性の検討。

関心・意欲の観点: 提出期限の厳守。周到な発表準備。

成績評価方法(総合)

出席、発表、レポートなどを総合的に判断して成績評価をおこなう。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021421104
開設科目名	欧米文学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	小粥　良			区分	

授業の概要

ヨーロッパまたはアメリカの文学作品を読む。その際、漫然と読むのではなく、分析的・批評的に読むことを学ぶ。講義ではなく演習なので、学生が自分で調べたり、考察したことを発表することは、この授業の重要な要素と考えている。毎回指定されたテキストの箇所についてテーマが与えられるので、それについて考察したことを文章にまとめてきて、発表し、それについて話し合う。文章は毎回提出。最終的には、授業で扱った作品または同一の作者による他の作品について、レポートを提出する。

授業の一般目標

文学のテキストを批評的・分析的に読み、味わい、評価する力を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 文学テキストの解釈に際して、書かれている記述内容と言語表現を吟味し、的確に理解することができる。テキストを理解するために必要と考えられる歴史的背景等の事実を調査することができる。

思考・判断の観点: テキストの特異性を見出し、その固有の価値を説明することができる。また、テキストについて自己との関わりにおいて考察を巡らし、その考えを整理して、論理的な文章にまとめることができる。

関心・意欲の観点: 文学的テキストを読み、味わい、思索することに喜びを見出す。

態度の観点: テキスト解釈の前提となる知識（言葉の意味、歴史的事実、関連する文献など）を丹念に調べる。

技能・表現の観点: 内容の解釈を踏まえた翻訳ができる。自分の考えと、他人から借りてきた考えをはっきり区別して論述ができる。独自の観点から、かつ客観的に、テキストを解釈・分析することができる。

成績評価方法(総合)

期末レポートによる。出席は欠格条件としてのみ扱い、全体の80%以上の出席がなけ
れば、成績評価は出さないこととする。

教科書

参考書

メッセージ

作品全体は自分で読んでいくので、時間を見つけてどんどん読んでください。作品を読んでいなければ、つまらない授業になってしまいます。作品の解釈をするのは自分なので、主体的に読みこんでいくこと。

連絡先

小粥研究室（国際理解教育資料室向かい）　木曜日16:30－17:30

オフィスアワー

木曜日16:30－17:30

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021421224
開設科目名	国語学特別演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

社会言語学の基本的な事項を概説する。対象は主に現代日本語である。様々な事例を観察することによって，ことばのバリエーションを認識する。

授業の一般目標

(1)社会言語学の基本的な事項を理解できる。

(2)ことばのバリエーションに関心を持ち，主体的に考察できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点：1．社会言語学の基本的な事項を説明できる。

関心･意欲の観点：1．ことばのバリエーションに関心を持ち，自ら調査･分析できる。

成績評価方法(総合)

(1)毎回授業の終わりにミニッツペーパーを課す。

(2)学期末にレポートを課す。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

日本語の多様性を意識して欲しい。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021421261
開設科目名	映画史Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	堀家　敬嗣			区分	

授業の概要

当初は見世物として誕生した映画は、ほどなく演劇の一変種として概念形成される一方で、やがて固有の表現様式を獲得するにいたり、以後一世紀におよぶ歴史を今日まで生きながらえてきた。この講義では、20 世紀の世界を席巻した演劇の新しい存在形態としての特徴をふまえつつ、世界における映画の歴史を俯瞰する。

授業の一般目標

この講義では、世界の映画の歴史をめぐる基礎的知識を獲得することを目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席 50%、期末レポート 50%

教科書

参考書

アメリカ映画の文化史（上）／ロバート・スクラー：講談社/学術文庫, 1995

アメリカ映画の文化史（下）／ロバート・スクラー：講談社/学術文庫, 1995

ハリウッド 100 年史講義／北野圭介：平凡社, 2001

フランス映画史の誘惑／中条省平：集英社, 2003

フィルム・スタディーズ事典／スティーブ・ブランドフォード：フィルムアート社, 2004

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021421264
開設科目名	国文学特別講義Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

卒業論文の指導。

授業の一般目標

卒業論文を書けるようにする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

演習の発表

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021421268
開設科目名	国語学特別講義Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

本授業では，現代日本語の諸相を研究する。具体的には，卒業論文に向けて受講生自身の研究の進捗状況を報告していく。また，それに対し全員で議論していく。本授業はゼミである。

授業の一般目標

(1)日本語研究の方法論を習得する。

(2)国語学の観点から論理的に議論できる力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 国語学の方法論を習得する。

思考・判断の観点：1. 日本語研究の方法論を新たなデータに適用できる。

2. 国語学の観点から主体的に討議できる。

関心・意欲の観点：1. 日本語研究に高い関心を持ち，主体的に取り組むことができる。

成績評価方法(総合)

(1)発表の仕方，レジュメの作成の仕方を評価する。

(2)授業中の議論への参加度を評価する。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

原則として，ゼミ生を対象とする。ゼミ生は毎回の出席が義務付けられる。他の授業とは質の異なるものであることを認識しておくこと。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021421328
開設科目名	映像表現論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	堀家　敬嗣			区分	

授業の概要

映画を含む映像を研究の対象に定めた学生のために、受講者それぞれの関心と問題意識に応じて参考文献を講読したうえで、受講者各自における課題を展開するかたちで授業をすすめる。したがって、この授業は基本的にはゼミ形式をとり、受講者による発表と、それにもとづく検討および議論が中心となる。

授業の一般目標

映画を含む映像を研究の対象に定めた学生が、それぞれの関心と問題意識に応じて各自の課題を展開することを目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業のみで評価する。

教科書

参考書

シネマ1・運動イメージ／ジル・ドゥルーズ：法政大学出版局, 2008

シネマ2・時間イメージ／ジル・ドゥルーズ：法政大学出版局, 2006

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021421333
開設科目名	国文学特別演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　恒徳			区分	

授業の概要

中世の演劇である能と狂言を取りあげる。能は、観阿弥、世阿弥父子によって大成された、わが国を代表する古典演劇･歌舞劇である。狂言もほぼ同時代に成立した科白劇で、能が多く悲劇的な世界を紡ぎ出すのに対して、狂言は笑いの劇･喜劇ということが出来る。本授業では、この能と狂言について、台本の読解と時に映像を用いることをとおして、理解と関心を深めることを主眼とする。

授業の一般目標

1）能と狂言への造詣を深め、これを楽しむことが出来る。

2）台本の読解を通して、古典文学(中世文学を中心に)の読解力を深める。特に能は「源氏物語」「平家物語」等、先行する作品を出典とすることが多く、それ等先行作品に触れることにもなる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

1 回の小テストとレポートによって評価する。

教科書

参考書

岩波講座「能･狂言」（全 8 巻）：岩波書店, 1988

謡曲を読む／田代慶一郎：朝日新聞社, 1987

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425037
開設科目名	国語学Ⅰ演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

現代日本語の文法について概説する。学校文法とは異なった枠組みである記述文法の観点から，私達が普段使っていることばの文法的側面を観察していく。

授業の一般目標

(1)現代日本語文法の基本的な事項を理解できる。

(2)様々な現象の法則性を一般化できる。

(3)日本語の文法現象を主体的に考察できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点：1. 現代日本語文法の基本的な事項を説明できる。

思考･判断の観点：1. 様々な現象からパターンを抽出し，法則性を定式化できる。

関心･意欲の観点：1. 文法現象に関心を持ち，主体的に考えることができる。

成績評価方法(総合)

(1)毎回授業の終わりにミニッツペーパーを課す。

(2)学期末にレポートを課す。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

学校文法との違いを絶えず意識して欲しい。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425049
開設科目名	国語学概説（音声言語及び文章表現を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

国語学（日本語学・言語学）の基礎的な項目（音声・文字・形態・文法・方言など）を解説する。

授業の一般目標

(1)国語学の基本的な事項を理解できる。

(2)国語学の方法論を習得し，それを新たなデータに適用できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 国語学の基本的な項目を理解し，説明できる。

思考・判断の観点：1. 国語学の方法論を新たなデータに適用できる。

2. 主体的な分析によって，法則性を導き出し，一般化できる。

関心・意欲の観点：1. 普段使っていることばに関心を持ち，主体的に考えることができる。

成績評価方法(総合)

(1)毎回授業の最後に小レポートを課す。

(2)学期末試験を行う。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

常に自分のことばを意識しつつ，学んで欲しい。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425116
開設科目名	哲学特論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	奥津　聖			区分	

授業の概要

この講義では、視覚的な思索という側面からの哲学入門を行います。「哲学」という言葉は、ギリシャ語の「知を愛すること（philo と sophia）」から作られたラテン語（philosophia）の、明治時代の津和野の先哲、西周による苦心の翻訳語です。現在のように細分化、専門化された難しい哲学ではなく、源初に立ち返って、《美しい》哲学とは何かを、できるだけ抽象的にではなく視覚的・具体的に考えて行こうと思います。時代的には古代から近世までの人間の思索や創造が考察の対象となりますが、私たちが今まさに生きている現代との関わりを無視してはこのような考察そのものも無意味になるでしょう。

一方通行の講義にしたくありませんので、出席者の主体的で積極的な参加をお願いいたします

授業の一般目標

1.哲学がどのようなものかを理解する。

2.人間の行為の所産としての文化や芸術に関心を持つ

授業の到達目標

知識・理解の観点：1.哲学とは何かを説明できる。

2.文化や芸術とは何であるかを説明できる

思考・判断の観点：授業で学んだことを自分で取り纏め、批判的に解説することができる。

関心・意欲の観点：文化や芸術に関する関心を高め、問題意識を広げることができる。

態度の観点：大学生活を通して文化や芸術教育の在り方を自主的に反省することができる。

技能・表現の観点：自分で、研究領域の資料の収集ができる。

その他の観点：この講義では、視覚的な思索という側面からの哲学入門を行います。「哲学」という言葉は、ギリシャ語の「知を愛すること（philo と sophia）」から作られたラテン語（philosophia）の、明治時代の津和野の先哲、西周による苦心の翻訳語です。現在のように細分化、専門化された難しい哲学ではなく、源初に立ち返って、《美しい》哲学とは何かを、できるだけ抽象的にではなく視覚的・具体的に考えて行こうと思います。時代的には古代から近世までの人間の思索や創造が考察の対象となりますが、私たちが今まさに生きている現代との関わりを無視してはこのような考察そのものも無意味になるでしょう。

一方通行の講義にしたくありませんので、出席者の主体的で積極的な参加をお願いいたします。

成績評価方法(総合)

最後のレポートで評価する。

教科書

参考書

メッセージ

主体的で積極的な授業参加を期待します。

連絡先

okutsu@c-able.ne.jp

オフィスアワー

講義後、火曜の 17:40 以降。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425122
開設科目名	国文学概説（国文学史を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

古事記神話を読む。

授業の一般目標

古事記神話の内容を理解する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

レポートと出席による

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425177
開設科目名	英米文学史Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡　紘一郎			区分	

授業の概要

英米文学とは何か、文学と言語の関係はどうか、文学における演劇、文学における小説等の問題を考察する。

授業の一般目標

英米文学について概観的知識を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点:文学作品と文学的特徴の関連性を理解する。

思考・判断の観点:筆者の論理の流れが理解でき、引用作品が読めるようになる。

関心・意欲の観点:テキストに引用されている作品の一部から更に全体が読めるようにする。

態度の観点:紹介されている人名や作品について、更に深く学ぶ態度を養う。

技能・表現の観点:作品、作者、文学用語等を理解し、簡潔な説明ができるようになる。

成績評価方法(総合)

出席点（三分の一以上欠席すれば受験資格を失う）、平常点、期末試験の成績で評価する。

教科書

English Literature／L.D.Lerner：Eihosha, 1995

参考書

メッセージ

予習を十分にして授業に出席すること。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425192
開設科目名	国文学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	村上　林造			区分	

授業の概要

文学の基本的な意義と機能について説明した後、近代日本文学における主な文学思潮について概説し、その大まかな全体像を理解できるようにする。具体的な作品に即して理解するため、小説を読んでレポートを提出することを要求する。

授業の一般目標

芸術表現の一般的性質を理解し、その上に立って小説分析の実例に触れる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

作品レポート、最終レポートを総合的に判断して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425197
開設科目名	国語学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

日本語の歴史的変化にかかわる特定のテーマを取り上げて掘り下げていく。本年度は、いくつかの慣用句・ことわざを取りあげて、その意味の変化等について述べる。

授業の一般目標

日本語の歴史的変化にかかわる特定のテーマについて、理解・思考を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 日本語の歴史的変化に関わる特定のテーマについて、深く理解できる。

思考・判断の観点: 得た知識を基に、日本語の歴史的変化について自ら、考えていくことができる。

関心・意欲の観点: 日本語の歴史的変化について興味を持つことがでできる。

成績評価方法(総合)

期末のレポートによって評価する。(授業で取り上げたテーマについて、各自で調査した結果をレポートにまとめる。レポートの課題は、授業中指示する。)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス:n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp

研究室:教育学部4階

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425242
開設科目名	国文学講読			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

芭蕉の門人の去来が筆録した『去来抄』を読む。『去来抄』は単なる俳論の域に留まらず、文学論・芸術論としても普遍性を獲得している優れた評論作品である。芭蕉と門人の人間味あふれる交流の機微を追体験しつつ、江戸時代の版本も用いて、基本的な古典文学研究の技法を学んでいく。

授業の一般目標

1・古典文学研究の基礎技法を習得する。

2・芭蕉の俳諧観を通して、日本の伝統的な文学観を知る。

3・評論としての特色や論理構造を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 芭蕉の俳諧観や芸術館について、あらましを説明することができる。

思考・判断の観点: テキストを読み、考察を加え、自己の見解をもつことができる。

関心・意欲の観点: 日本の古典文学への関心を高め、生涯にわたって古典に親しむ意欲を持つことができる。

態度の観点: 生涯にわたって古典に親しむ態度を身につける。

技能・表現の観点: 作品についての考察を口頭や文章で的確に表現することができる。

成績評価方法(総合)

毎回、提出する小レポートおよび期末のレポートにより評価する。

教科書

去来抄／山下一海:おうふう, 1998

参考書

メッセージ

連絡先

mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425297
開設科目名	国文学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　恒徳			区分	

授業の概要

600 年余りにわたって、現代に至るまで受け継がれて来た中性演劇のひとつ「狂言」をとりあげる。出来る限り、具体的に作品を解説することに主眼を置き、その上で、時代による変化に注意し、狂言の現代的意義についても考えてゆく。

授業の一般目標

1）狂言台本に触れることによって、中世的言語表現に親しむ。

2）狂言の魅力を知り、舞台表現一般への関心を深める。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

期末テストによって評価するが、時間がとれれば小テストをいちど行いたい。

教科書

参考書

岩波講座「能・狂言」（全8巻）：岩波書店, 1988

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021425357
開設科目名	美術史実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	菊屋　吉生			区分	

授業の概要

古美術、現代美術等に関して、実際の美術作品を鑑賞、体験する実地研修。研修コースについては、毎年変更し、実施の前に掲示連絡する。

授業の一般目標

(1)実際の美術作品、展覧会等を鑑賞し、生の作品から得られるものを通して、知識、理解を深める

(2)実作品、実物を見ることによって、その周辺をふくめたそのもの自体がもつ情報の把握をめざす。

授業の到達目標

知識・理解の観点:印刷物等では、見ることのできない生の作品の迫力を通して、作品に対する知識や理解を深める。

思考・判断の観点:実地にその場を訪れることにより、その周辺、あるいは副次資料をもふくめた上で、作品の考察に役立てる。

関心・意欲の観点:実作でした味わえないものを通して、そのものに対する関心を喚起する。

態度の観点:鑑賞に対する積極的な態度を期待する。

技能・表現の観点:古美術から現代美術まで幅広く作品を鑑賞し、柔軟な鑑賞能力を身につける。

成績評価方法(総合)

実習への参加は基本であるが、実習中の積極性、集中度などを評価する。また終了後に研修内容に関するレポートを提出してもらい、評価に加える。

教科書

参考書

メッセージ

研修コースについては、毎年変更し、実施の前に掲示連絡する。

連絡先

kikuya@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021511038
開設科目名	幼児教育方法技術			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

幼児教育を支える理論を学びながら、我が国の幼児教育の方法を外観し考察していく

授業の一般目標

我が国の幼児教育の方法を学び、幼児期の子どもの発達への関心を深めていく

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、授業への関心･意欲、及び、レポートの総合評価で行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021511075
開設科目名	幼児カウンセリング			単位	2 単位
対象学生	4年生用			学年	～
担当教員	白石　敏行			区分	

授業の概要

保育におけるカウンセリングマインドの意義等について概説する。

授業の一般目標

保育における心理臨床の今日的課題に関心をもつ。

保育におけるカウンセリングマインドの実際について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:保育におけるカウンセリングの役割について説明することができる。

関心・意欲の観点:ロールプレイ等の活動に積極的に参加することができる。

成績評価方法(総合)

出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。

特別な事情を除き、3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

教科書

参考書

子ども理解とカウンセリングマインドー保育臨床の視点からー／青木久子・間藤侑・河邉貴子:萌文書林, 2004

メッセージ

受講までに幼児教育コースの専門科目を履修していること。

連絡先

研究室:教育学部4階　404室

電話・ファックス:083－933－5330

メールアドレス:t-shira@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021511081
開設科目名	幼児カウンセリング			単位	2 単位
対象学生	3年生用			学年	～
担当教員	白石　敏行			区分	

授業の概要

保育におけるカウンセリングマインドの意義等について概説する。

授業の一般目標

保育における心理臨床の今日的課題に関心をもつ。

保育におけるカウンセリングマインドの実際について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:保育におけるカウンセリングの役割について説明することができる。

関心・意欲の観点:ロールプレイ等の活動に積極的に参加することができる。

成績評価方法(総合)

出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。

特別な事情を除き、3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

教科書

参考書

子ども理解とカウンセリングマインドー保育臨床の視点からー／青木久子・間藤侑・河邉貴子:萌文書林, 2004

メッセージ

受講までに幼児教育コースの専門科目を履修していること。

連絡先

研究室:教育学部4階　404室

電話・ファックス:083－933－5330

メールアドレス:t-shira@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021511140
開設科目名	幼児教育基礎実習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

幼稚園教育実習に連絡する授業である。

幼稚園教育実習につながる事前指導の場としても位置づけられている。

授業の一般目標

幼児期の子どもの実態を把握し、教育実習に活かせるように努める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:幼児期の子どもの実態を説明することができる。

思考・判断の観点:子どもの実態に応じた行動ができるようになる。

関心・意欲の観点:子どもの立場に立ってものごとを見たり、考えたりすることができる。

成績評価方法(総合)

出席、授業への参加（保育参加を含む）、および保育参加後のレポートをもとに総合的に評価する。

特別な事情を除き、3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

教科書

参考書

メッセージ

教育実習につながる授業であるために、出席を重視する。

連絡先

研究室:教育学部4階　404室

電話・ファックス:083－933－5330

メールアドレス:t-shira@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021511190
開設科目名	保育内容環境			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	越中　康治			区分	

授業の概要

保育内容「環境」に関する基礎的事項を概説する。

授業の一般目標

保育内容「環境」に関する基礎的事項を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：保育内容「環境」に関する基礎的事項を理解する。

関心・意欲の観点：保育内容「環境」に関する基礎的事項の理解を通して幼児教育への興味・関心を深める。

成績評価方法(総合)

授業への参加と課題（レポートなど）への取り組みをもとに総合的に評価する。

3回以上欠席した場合には評価対象外とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

教育学部4F（406 室）越中研究室

083-933-5443

etchu@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021511210
開設科目名	保育内容人間関係			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	白石　敏行			区分	

授業の概要

保育内容として領域「人間関係」が位置づけられている今日的意味・意義を理解し、保育活動における「人間関係」の内容と方法について概説する。

授業の一般目標

保育内容「人間関係」のに内容について理解する。

幼児教育・保育における今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標

知識・理解の観点：保育内容「人間関係」に関する基礎的事項について説明することができる。

関心・意欲の観点：集団での議論に積極的に参加することができる。

成績評価方法(総合)

出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。

特別な事情を除き、3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

教科書

参考書

保育内容人間関係／友定啓子・小田豊：光生館, 2008

メッセージ

乳幼児期の人間関係を学習することを通して、自分自身の人間関係の再確認するとともに、その大切さを実感してほしい。

連絡先

研究室：教育学部4階　404室

電話・ファックス：083－933－5330

メールアドレス：t-shira@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021515010
開設科目名	幼児教育基礎			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

幼児教育の基本的な概念や、保育の思想、歴史、幼児教育を支える理論を学びながら、幼児期の子どもの世界や育ちを含めた幼児教育について考えていく。

授業の一般目標

幼児教育の概要を学びながら、自分なりに幼児期の子どもの世界や幼児教育への感心を深める

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、授業への関心･意欲、試験の総合評価で行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021521053
開設科目名	障害児臨床心理			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　一成			区分	

授業の概要

発達に障害のある子どもたち（発達障害児）の心理・行動・社会性の特徴を理解し、彼らやその家族、保育・教育、医療、福祉、労働に関する支援のあり方や方法について学ぶ。特に自閉症を中軸として、アスペルガー障害、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）の認知特性や行動障害、情緒障害について理解し、具体的支援の方法について学ぶ。

授業の一般目標

1. 発達障害の諸相について基本的事項を学ぶ
2. 知的障害、行動障害、情緒障害の概念とその関連性について学ぶ
3. 行動分析に基づく支援のあり方、支援方法について学ぶ

授業の到達目標

知識・理解の観点：発達障害に関する基本的事項・概念を理解したか

思考・判断の観点：多様な概念の弁別と関連づけ・統合が可能か

関心・意欲の観点：障害児及びその家族の支援のあり方について学ぼうとしたか

態度の観点：真摯に学習したか

技能・表現の観点：習得した知識・技能を適切に表現し、他者に説明できるか

成績評価方法(総合)

毎回の授業終了時に課題論述を求める。授業中の質疑応答と最終の論述試験と総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021521067
開設科目名	障害児教育行政及び管理			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松田　信夫			区分	

授業の概要

特別支援教育諸学校（盲学校・聾学校・養護学校）並びに小学校・中学校の特別支援学級に在籍する障害児への教育に関する法令を中心としつつ、今日の特別支援教育行政の現状、今日的課題及び今後への展望について講義する。また、養護学校、特別支援学級、通常学校（学級）における具体的な指導事例等について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の融合をはかる。

授業の一般目標

障害児教育行政の基本原理について、法令の解釈に基づきつつその基礎的知識を獲得し、さらに実践事例との融合をはかることで、障害児教育行政をめぐる現状と課題を総合的に理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 特別支援教育行政の施策を法令に基づき説明できる。

思考・判断の観点：1. 特別支援教育行政における歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。

関心・意欲の観点：1. 特別支援教育行政に関する法令への関心を高め、学校教育における望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

成績評価方法(総合)

（1）授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。（2）期末に試験を実施する。（3）特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021521354
開設科目名	病弱教育			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	斎藤　美麿			区分	

授業の概要

特別支援教育に必要な病弱教育の歴史、対象の変遷、教育の考え方を教授する。

授業の一般目標

障害児を受け入れる人間性を育てる

授業の到達目標

知識・理解の観点:病弱教育対象児の特性を知る。

思考・判断の観点:疾病を理解し、どのように対応すべきかを理解する。

関心・意欲の観点:障害児の生きる力を育てられる意欲、関心を持つ。

態度の観点:自己の生き方が障害児の生き方の目標となることを理解する

技能・表現の観点:障害児への接し方を理解する

成績評価方法(総合)

各自の関心のある疾患についてどのような態度で接し、教育が可能であるかを、平常点、レポートに評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

maroudosaito@hotmail.com

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021521369
開設科目名	LD等教育総論			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥/多動性障害）、自閉症、アスペルガー症候群等の発達障害、知的障害を伴う脳性麻痺等の重複障害の心理的、行動的特徴について学び、こういった児童生徒に対する適切な理解および有効な指導法について解説する。

授業の一般目標

発達障害、重複障害のある児童生徒の心理的、行動的特徴、またそれらを踏まえた上での指導のあり方の基礎について習得することを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：(1)発達障害、重複障害の心理的、行動的特徴について理解する。(2)発達障害、重複障害のある児童生徒への指導法の基礎について理解する。

思考・判断の観点：発達障害、重複障害のある児童生徒の指導を行う上で必要となる具体的手続きの基礎について考え出すことができる。

成績評価方法(総合)

期末試験（小テストや中間試験を行うこともある）を中心に総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

授業内容をよく理解してもらうため、受講者同士によるグループ討論の時間を積極的に設定します。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525031
開設科目名	障害児の心理アセスメントII			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　一成			区分	

授業の概要

発達に障害のある子どもたちの個別の教育支援計画や指導計画のための心理検査の活用について学ぶ。知能検査として「WISC」「田中ビネー」「人物画検査(DAM)」、発達検査として「円城寺式」「津守式」「MN 式」、スクリーニング検査として「PRS(LD・ADHD 用)」について、理論と実際を習得する。

授業の一般目標

1. 発達障害児の心理特性を理解し支援するための評価法について学ぶ
2. 教育・福祉などの領域で用いられる知能検査法、発達検査法の実施法について理解する
3. 各種心理検査のテストバッテリーの組み方や総合的理解のあり方について学ぶ

授業の到達目標

知識・理解の観点:知能検査、発達検査などの理論的背景を理解し、検査実施法、活用法について理解したか

思考・判断の観点:障害児やその家族を支援するための心理検査の活用やその功罪について判断できるか

関心・意欲の観点:心理検査の活用のあり方について意欲的に考察したか

態度の観点:真摯に学習したか

技能・表現の観点:各種の心理検査の実施法を習得し、その内容を他者に伝えることができるか

成績評価方法(総合)

毎回の授業終了時に課題論述を求める。授業中の質疑応答と最終の論述試験と総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525127
開設科目名	障害児教育方法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松田　信夫			区分	

授業の概要

特別支援学校並びに小学校･中学校の特別支援学級及び一般学級に在籍する知的障害児を中心とした児童生徒に対する指導の実際について、実践事例をもとに検討し、個に応じた指導の必要性とその望ましいあり方について講義する。なお、事例については視聴覚機器等で具体的に紹介しつつ、理論と実践との融合をはかる。

授業の一般目標

特別支援教育の基本原理について、知的障害児を中心とした児童生徒に対する実践事例に基づきつつその基礎的知識と技能を獲得させ、特別支援教育に関する現状と課題を総合的に理解させる。なお、当科目は、3年生前期より開始される教育実習を念頭に置いた講義であり、特別支援学校の教育現場における指導に必要とされる知識･技能･態度を総合的に獲得させる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 障害児指導法の基本原理である「個に応じた指導」の具体を説明できる。

2. 「個に応じた指導」に基づいた学習計画案を作成できる。

思考･判断の観点: 1. 障害児指導法の歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。

関心･意欲の観点: 1. 特別支援教育の指導事例に接することで指導法への関心を高め、知的障害児、自閉症児等への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

成績評価方法(総合)

(1) 授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2) 期末に試験を実施する。(3) 指導案に関する講義では、指導のシュミレーション場面をもとに指導案を作成する。(4) 特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525148
開設科目名	重複障害児の指導			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

重複障害（重度・重複障害）の特徴について概観した後、知的障害、肢体不自由等が重複している事例（例えば脳性麻痺）、重度知的障害を伴う事例、強度行動障害（例えば自閉症）の事例等について詳細に取り上げ、行動上の問題、コミュニケーション、食事、睡眠、排泄等の身辺自立に関する指導のあり方について解説する。なお、この講義は1単位（授業回数は8回）である。

授業の一般目標

(1)重度・重複障害の基本的特徴について知る。

(2)上記にあげたさまざまな事例を通して、障害特性や具体的指導のあり方について習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：(1)重複障害（重度・重複障害）の基本的特徴について理解する。(2)重複障害のある児童生徒への具体的指導法について理解する。

思考・判断の観点：重複障害（重度・重複障害）のある児童生徒の指導を行う上で必要となる具体的指導方法を考えることができる。

成績評価方法(総合)

期末試験（小テストを行うこともある）

教科書

参考書

メッセージ

映像を用いた具体的な臨床指導法についてもあわせて検討する。また、グループ討論の機会を積極的に設定する。細かい指導法について検討するので「知的障害心理学（障害児の心理）」等、応用行動分析学に関する基礎的な知識を有している受講生を対象とする。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525246
開設科目名	障害児心理学研究法Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

障害のある人たちを対象とした事例研究を通して、障害のある人たちの行動の客観的な見方及び具体的支援のあり方の基礎について解説する。

授業の一般目標

発達障害をはじめ、障害のある人たちの心理学的な特徴、具体的支援のあり方の基礎について習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：(1)発達障害等の障害特性の基礎について理解する。(2)障害のある児童生徒への指導の基礎について理解する。

思考・判断の観点：発達障害等の障害のある児童生徒の指導を行う上で必要となる基本的な指導技法を考えることができる。

成績評価方法(総合)

受講生による事例発表（プレゼンテーション）／質疑応答／討論等を総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

毎回、受講生のプレゼンテーション（質疑応答）を行います。受講生同士のディスカッションを歓迎します。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525266
開設科目名	障害児教育原理			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松田　信夫			区分	

授業の概要

特別支援学校並びに小学校･中学校の特別支援学級及び一般学級に在籍する児童生徒（知的障害児、肢体不自由児、病弱児、視覚障害児、聴覚障害児、重複障害児、ＬＤ等の障害児）への教育の意義、教育史、発達過程、教育課程、法制度を中心としつつ、特別支援教育の現状、今日的課題及び今後の展望について講義する。なお、学校教育現場等での具体的な指導事例や取り組みの内容について視聴覚機器等で紹介し、模擬体験活動等も導入することで、特別支援教育の基本原理である「個に応じた指導」の理論と実践の融合をはかる。

授業の一般目標

特別支援教育の基本原理である「個に応じた指導」についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、特別な支援を必要とする児童生徒への教育をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標

知識･理解の観点：1. 特別支援教育の概念、歴史、教育課程等を説明できる。

2. 特別支援教育の基本原理である「個に応じた指導」の具体を説明できる。

思考･判断の観点：1. 特別支援教育における歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。

関心･意欲の観点：1. 障害児の生涯を見通した教育への関心を高め、学校教育段階における望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

成績評価方法(総合)

（1）授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。（2）期末に試験を実施する。（3）特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525284
開設科目名	特別支援教育総論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松田　信夫			区分	

授業の概要

特別支援学校並びに小学校･中学校の特別支援学級及び一般学級に在籍する児童生徒(知的障害児、肢体不自由児、病弱児、視覚障害児、聴覚障害児、重複障害児、LD等の障害児)への教育の意義、教育史、発達過程、教育課程、法制度を中心としつつ、特別支援教育の現状、今日的課題及び今後の展望について講義する。なお、学校教育現場等での具体的な指導事例や取り組みの内容について視聴覚機器等で紹介し、模擬体験活動等も導入することで、特別支援教育の基本原理である「個に応じた指導」の理論と実践の融合をはかる。

授業の一般目標

特別支援教育の基本原理である「個に応じた指導」についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、特別な支援を必要とする児童生徒への教育をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 特別支援教育の概念、歴史、教育課程等を説明できる。

2. 特別支援教育の基本原理である「個に応じた指導」の具体を説明できる。

思考･判断の観点: 1. 特別支援教育における歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。

関心･意欲の観点: 1. 障害児の生涯を見通した教育への関心を高め、学校教育段階における望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

成績評価方法(総合)

(1)授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2)期末に試験を実施する。(3)特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525337
開設科目名	障害児神経生理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　隆			区分	

授業の概要

運動障害について、その原因となる疾患概念と病態について理解し支援の方法を学ぶ。運動障害と併存または結果として生じる心理的な問題について、その背景を理解し支援の方法を学ぶ

授業の一般目標

運動障害についてのメカニズムと特徴について説明できる。運動障害児の心理的な特徴と教育的支援のポイントを説明できる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525353
開設科目名	運動障害心理･生理･病理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　隆			区分	

授業の概要

運動障害について、その原因となる疾患概念と病態について理解し支援の方法を学ぶ。運動障害と併存または結果として生じる心理的な問題について、その背景を理解し支援の方法を学ぶ

授業の一般目標

運動障害についてのメカニズムと特徴について説明できる。運動障害児の心理的な特徴と教育的支援のポイントを説明できる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525366
開設科目名	発達障害の心理アセスメント			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　一成			区分	

授業の概要

発達に障害のある子どもたちの個別の教育支援計画や指導計画のための心理検査の活用について学ぶ。知能検査として「WISC」「田中ビネー」「人物画検査(DAM)」、発達検査として「円城寺式」「津守式」「MN 式」、スクリーニング検査として「PRS(LD・ADHD 用)」について、理論と実際を習得する。

授業の一般目標

1. 発達障害児の心理特性を理解し支援するための評価法について学ぶ
2. 教育・福祉などの領域で用いられる知能検査法、発達検査法の実施法について理解する
3. 各種心理検査のテストバッテリーの組み方や総合的理解のあり方について学ぶ

授業の到達目標

知識・理解の観点:知能検査、発達検査などの理論的背景を理解し、検査実施法、活用法について理解したか

思考・判断の観点:障害児やその家族を支援するための心理検査の活用やその功罪について判断できるか

関心・意欲の観点:心理検査の活用のあり方について意欲的に考察したか

態度の観点:真摯に学習したか

技能・表現の観点:各種の心理検査の実施法を習得し、その内容を他者に伝えることができるか

成績評価方法(総合)

毎回の授業終了時に課題論述を求める。授業中の質疑応答と最終の論述試験と総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525367
開設科目名	知的障害教育			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	松田　信夫			区分	

授業の概要

特別支援学校並びに小学校･中学校の特別支援学級及び一般学級に在籍する知的障害児を中心とした児童生徒に対する指導の実際について、実践事例をもとに検討し、個に応じた指導の必要性とその望ましいあり方について講義する。なお、事例については視聴覚機器等で具体的に紹介しつつ、理論と実践との融合をはかる。

授業の一般目標

特別支援教育の基本原理について、知的障害児を中心とした児童生徒に対する実践事例に基づきつつその基礎的知識と技能を獲得させ、特別支援教育に関する現状と課題を総合的に理解させる。なお、当科目は、3年生前期より開始される教育実習を念頭に置いた講義であり、特別支援学校の教育現場における指導に必要とされる知識･技能･態度を総合的に獲得させる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 障害児指導法の基本原理である「個に応じた指導」の具体を説明できる。

2. 「個に応じた指導」に基づいた学習計画案を作成できる。

思考･判断の観点: 1. 障害児指導法の歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。

関心･意欲の観点: 1. 特別支援教育の指導事例に接することで指導法への関心を高め、知的障害児、自閉症児等への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

成績評価方法(総合)

(1) 授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2) 期末に試験を実施する。(3) 指導案に関する講義では、指導のシュミレーション場面をもとに指導案を作成する。(4) 特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021525368
開設科目名	重複障害教育総論			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

重複障害（重度・重複障害）の特徴について概観した後、知的障害、肢体不自由等が重複している事例（例えば脳性麻痺）、重度知的障害を伴う事例、強度行動障害（例えば自閉症）の事例等について詳細に取り上げ、行動上の問題、コミュニケーション、食事、睡眠、排泄等の身辺自立に関する指導のあり方について解説する。なお、この講義は1単位（授業回数は8回）である。

授業の一般目標

(1)重度・重複障害の基本的特徴について知る。

(2)上記にあげたさまざまな事例を通して、障害特性や具体的指導のあり方について習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：(1)重複障害（重度・重複障害）の基本的特徴について理解する。(2)重複障害のある児童生徒への具体的指導法について理解する。

思考・判断の観点：重複障害（重度・重複障害）のある児童生徒の指導を行う上で必要となる具体的指導方法を考えることができる。

成績評価方法(総合)

期末試験（小テストを行うこともある）

教科書

参考書

メッセージ

映像を用いた具体的な臨床指導法についてもあわせて検討する。また、グループ討論の機会を積極的に設定する。細かい指導法について検討するので「知的障害心理学（障害児の心理）」等、応用行動分析学に関する基礎的な知識を有している受講生を対象とする。

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021531225
開設科目名	語学教授法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	猫田　和明			区分	

授業の概要

H23 年度から全面実施される小学校外国語活動について、国際理解教育との関係、言語習得理論との関係、学習指導要領に基づく指導法等について、基本的な概念を解説する。後半は受講者によるプレゼンを課す。

授業の一般目標

小学校における外国語活動のあり方と国際理解教育との関係について理解し、実践の基礎となる知識を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：小学校における外国語活動の特徴を理解し、指導にあたって留意するべき点を説明できる。

思考・判断の観点：小学校における外国語活動の捉え方、活動のあり方について自分の意見を述べることができる。

関心・意欲の観点：様々な小学校外国語活動に関心をもつ。

技能・表現の観点：目的に応じて、既製の教材をアレンジすることができる。

成績評価方法(総合)

授業内レポート、期末レポート、プレゼンテーションの内容で評価する。

教科書

小学校英語教育の進め方／岡秀夫・金森強（編著）：成美堂, 2007

参考書

メッセージ

2 年次後期開設の「英語科教育学概論」を受講しておくことが望ましい。

連絡先

nekoda@yamaguchi-u.ac.jp　933-5417　研究室(教育 A354)

オフィスアワー

特に設けていません。時間が空いていればいつでも相談にのります。まずはメールください。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021531233
開設科目名	国際理解教育演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	石井　由理			区分	

授業の概要

国際理解教育を実践するにあたって必要な社会発展に関する知識を、文献講読を通して身につける。

受講者は各自分担の箇所を発表するとともに、討議に参加する。

授業の一般目標

社会の発展に関する理論の変遷を理解する。

開発と環境にかかわる問題の複雑さを理解する。

上記の問題に関し、自分なりの意見をもち、述べることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:社会の発展、開発と環境に関する基本的な知識を得る

思考・判断の観点:社会の発展、開発と環境について、自分なりの考えをもつことができる。

関心・意欲の観点:社会の発展、開発と環境について、さらに学ぼうという関心、意欲をもつ。

技能・表現の観点:自分の学んだ内容や考えたことについて、わかりやすく人に伝えることができる。

成績評価方法(総合)

授業中の発表と学期末のレポートによる総合評価。

教科書

開発学を学ぶ人のために／菊池京子:思想社, 2001

参考書

メッセージ

連絡先

教育学部200－1研究室

オフィスアワー

初回授業時に指示。

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021531289
開設科目名	英語コミュニケーション			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	SHALKOFF　ROBERT JOSEPH			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021531352
開設科目名	アジアの文化と教育			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　隆眞			区分	

授業の概要

アジアの中で、シンガポール、マレーシア、中国、台湾の教育課程をを概観し、美術教育についての内容の紹介を行う。また、マレー語の簡単な基礎について講義する。

授業の一般目標

シンガポール、マレーシアの教育課程を知る。簡単なマレー語を知る。

授業の到達目標

知識・理解の観点:教育課程について説明出来る。簡単なマレー語が理解できる。

思考・判断の観点:文化について説明出来る。

関心・意欲の観点:アジアの国に興味を持つ。

成績評価方法(総合)

レポートによる。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021535026
開設科目名	アジア･アフリカ言語文化入門			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

前半はアフリカが現在抱えている問題について、ビデオなどを用いながら紹介し、考察する。後半は、アフリカで話されている言語についての基礎的な知識と、中部アフリカの地域共通語であるリンガラ語の初等文法とリンガラ語を話している人たちの文化について学ぶ。

授業の一般目標

アフリカが現在抱えている問題を知る。

リンガラ語を通して、アフリカの社会、文化、歴史に触れることを目的とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:アフリカが現在抱えている問題を知る。リンガラ語の初等文法を理解する。リンガラ語を話す人たちの文化を理解する。

思考･判断の観点:アフリカが現在抱えている問題の原因と対策について考える。

関心･意欲の観点:アフリカの人々、社会、文化、言語に関心を持つ。

技能･表現の観点:初歩的なリンガラ語を話すことができる。

成績評価方法(総合)

期末レポートと、出席点、授業の内容に関する宿題、および授業時における課題を合計して評価する。特別な理由なく 5 回以上欠席したものは失格とする。

教科書

参考書

アフリカをフィールドワークする／梶茂樹:大修館書店, 1993

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

研究室　教育学部 2 階　266 号室

オフィスアワー

随時

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021535253
開設科目名	欧米文化論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	小粥　良			区分	

授業の概要

欧米文化論 II では、ヨーロッパを取り上げる。教科書、配布するテキスト、授業内に見るビデオなどを通して、ヨーロッパの歴史や、様々な文化的事象について考察していく。

授業の一般目標

文化を理解するために必要な歴史的背景についての知識を得る。歴史の中で、ヨーロッパ
という地域がどのように形成され、今日の姿になったかを理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:ヨーロッパの歴史的形成についての知識を得る。ヨーロッパの多様性についての理解を深めるとともに、ローマ文明、キリスト教といった共通の基盤をもつことも理解する。

思考・判断の観点:歴史的事象が今日のヨーロッパの形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。

関心・意欲の観点:参考文献、インターネットなどを調査し、ヨーロッパについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。

態度の観点:与えられた課題に積極的に取り組むことができる。

技能・表現の観点:発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。

成績評価方法(総合)

授業内の発表、授業や課題に対する熱意ある取り組み、期末レポートによる。出席は欠格条件とし、80%以上の出席を必要とする。

教科書

ヨーロッパ学入門／武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科編:朝日出版, 2005

参考書

メッセージ

授業で関心を持った点を、自分でもどんどん調べていってください。図書館やインターネットを活用しましょう。

連絡先

小粥研究室(教育学部 2F　200-4)

オフィスアワー

木曜日16:30－17:30

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021551335
開設科目名	コンピュータ概論(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	糸長　雅弘			区分	

授業の概要

コンピュータの仕組みと情報処理及びプログラミングについて概説する。一部，実習も行う。

授業の一般目標

データの表現とコンピュータの基本的な仕組みを理解し，プログラミングの基本を修得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. コンピュータにおけるデータの表現を説明できる。

2. コンピュータの基本的な仕組みを説明できる。

思考・判断の観点:1. 論理的な思考ができる。

関心・意欲の観点:1. コンピュータの応用に関心を持つことができる。

態度の観点:1. 知識のない問題にも粘り強く取り組むことができる。

技能・表現の観点:1. 明快かつ論理的な説明ができる。

2. 簡単なプログラムを作成できる。

成績評価方法(総合)

出席率 80%未満を欠格条件とし，課題と試験を総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

表現情報処理コース以外の学生が高等学校教諭一種免許状（情報）を取得するための必修科目である。また，実習時間を確保するため，受講者と相談の上，授業時間を延長したり，通常の時間割り以外の時間帯にも時間を設けて実習を行うことがある。

連絡先

E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021551358
開設科目名	マルチメディア概論(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤田　栄美子			区分	

授業の概要

マルチメディア、インターネットについての基礎知識を学び、マルチメディア教材作品の制作実習を行う。

授業の一般目標

マルチメディア、インターネットについての基礎知識の習得。

マルチメディア教材作品を制作し、完成させる。

完成させた作品についてプレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

知識・理解の観点:マルチメディア、インターネットについて理解できているか。

関心・意欲の観点:積極的に作品を作成しているか。

作品に独自性を出そうとしているか。

態度の観点:出席

成績評価方法(総合)

授業態度、作品、プレゼンテーション

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

アビリティ・ネット有限会社

083－934-8834

オフィスアワー

平日 9:00～18:00

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021555058
開設科目名	データベース概論(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中田　充			区分	

授業の概要

まずデータベースの基礎理論について学習し，その後，実際に関係型データベースを用いた演習を通してデータベース操作，情報検索の手法を習得する.

授業の一般目標

データベース管理システム（DBMS）の基礎概念を理解できるようになること.

データベース操作言語 SQL の文法を理解し，DBMS の基本操作ができるようになること.

授業の到達目標

知識・理解の観点：データベースシステムについて理解できているか？データモデルを理解しているか？SQL が理解できているか？

関心・意欲の観点：自ら新しい課題に取り組んでいるか？

態度の観点：出席しレポートを提出しているか？

成績評価方法(総合)

試験 8 割，レポート 1 割，出席（授業態度含む）1 割

教科書

データベースシステム／北川博之：昭晃堂，1996

参考書

メッセージ

●プログラミング言語 I,II，アルゴリズム論の内容を理解していることを前提に授業を進める.

●教員免許関連の法律改正に伴い，実習の時間を確保するため授業を 18 時まで行うことがあります.

●質問等がある時はメールにて事前にアポイントを取ってから研究室まで来て下さい.

連絡先

授業中に連絡します.

オフィスアワー

無し.

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021555066
開設科目名	情報通信ネットワーク論(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	葛　崎偉			区分	

授業の概要

通信ネットワークの仕組み、ネットワークシステムの構成、コミュニケーションおよびセキュリティについて講義し、また、ネットワークの構築およびクライアントの設定に関する実習も行う。

授業の一般目標

通信ネットワークの基本原理およびその利用に関する基本知識を習得することを目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、レポートなどによる総合評価 = 100%

教科書

参考書

メッセージ

Linux インストール済みのノートパソコンを用意すること

連絡先

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021555245
開設科目名	情報処理言語Ⅱ(実習を含む。)			単位	4 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中田　充			区分	

授業の概要

まず、高度な C 言語のプログラミングについて学習する。その後、グラフィックス・プログラムの基本知識を学習した後、図形、グラフなどを表示する簡単なコンピュータグラフィックスのプログラムを作成する。

授業の一般目標

●C 言語のより高度な内容を理解し，ファイル入出力，構造体などを用いたプログラムを作成できる.

●簡単なグラフィックが作成できる.

授業の到達目標

知識・理解の観点：高度な知識が身についているか？構造体，関数，描画などについて理解できている
か？

関心・意欲の観点：自ら新しい課題に取り組もうとしているか？

態度の観点：授業に出席し，高い意欲で学習しているか？

成績評価方法(総合)

出席 1 割，レポート 1 割，試験 8 割.

試験はペーパー試験と実技試験の 2 つを課す.

教科書

新訂 新 C 言語入門シニア編／林晴比古：ソフトバンクパブリッシング

参考書

メッセージ

プログラミング言語Ⅰの内容を理解していることを前提に授業を進めます.

質問がある場合は，メールにてアポイントを取ってから，研究室まで来て下さい.

連絡先

オフィスアワー

無し

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021555274
開設科目名	数理計画概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	永久　洋治			区分	

授業の概要

諸問題の合理的解決を提供する学問であるオペレーションズ･リサーチ中の，最適化手法についてを学ぶ．できるだけ多くの最適化問題の解決策を知ってもらいたいので，アルゴリズムを中心に解説する．

授業の一般目標

本講義で取り上げるアルゴリズムをすべて使うことができるようになる．

授業の到達目標

知識･理解の観点:1. 黄金分割法とニュートン法を理解する．

技能･表現の観点:1. 単体法(摂動法を含む)を使って簡単な線形計画問題を解くことができる．

2. PERT を使って簡単なスケジューリング問題を解くことができる．

3. ダイクストラ法およびワーシャル-フロイド法が使える．

4. 動的計画法を使って簡単な問題を解くことができる．

5. 分枝限定法を使って簡単な組み合わせ問題を解くことができる．

6. 変分法を使って簡単な問題を解くことができる．

成績評価方法(総合)

定期試験，レポートおよび出席状況で評価する．

教科書

参考書

メッセージ

山口大学のネットワークで電子メールによる通信が利用できることを前提とする．

連絡先

y_nghs69@c-able.ne.jp

オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021555359
開設科目名	情報職業論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	1021561372
開設科目名	協働実践基礎			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　吉永			区分	

授業の概要

学校や地域で行う実習（協働実践）の内容や意義を理解し，そのために必要な基礎的な事項を学習する。

授業の一般目標

・地域の小学校等実際の教育現場をフィールドとし、学校教員や保護者等と協働型の実践を行うために求められる知識や態度を身につける。

・特に、対人関係向上に向けたコミュニケーション能力、人権尊重にかかる意識や感覚、子どもの情報等についての守秘事項や学校安全上の配慮事項等協働実践を行うに必要な知識、技能や態度等を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：協働実践に必要な事項を理解している。

思考・判断の観点：教員として必要な思考や適切な判断が行える。

だだし教育的な場面では，勝手な思考・判断が極めて重大な問題を引き起こす場合があるため，常にホウレンソウ（報告・連絡・相談）を心がけること。

関心・意欲の観点：学校や教育を取り巻く状況に関心を持ち，進んで学ぼうとしている。

積極的に子どもや学校教員，地域関係者らと関わろうとしている。

態度の観点：実習生として求められる基本的な態度（マナーや積極性）を身につけている。

技能・表現の観点：必要な対人関係能力や企画力を身につけている。

他者の意見を尊重するとともに，自らの考えをわかりやすく伝えることができる。

成績評価方法(総合)

実践への取り組み姿勢，レポート等を総合的に判断する。

教科書

参考書

メッセージ

・受講にあたって，保険（学研賠など）への加入が必要です。

・遅刻や忘れ物，実習にふさわしくない服装や言動がみられた場合（事前事後を含む），受講を取り消す場合があります。

・通常の時間割を変更して行う実習が含まれます。注意してください。

連絡先

岡村：okasun@yamaguchi-u.ac.jp

緊急時（携帯）：08019382015

オフィスアワー

いつでも可（ただし用務が重なっている場合など，時間をずらしていただくこともあります。）

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001375
開設科目名	教科教育法体育			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	海野　勇三			区分	

授業の概要

小学校における体育科の教育内容･方法について学習する。授業は体育領域（海野）と保健領域（友定）に分け実施する。前半･後半で一人6～7回を担当し交代する。

授業の一般目標

小学校の体育指導および保健学習における教材づくりを中心に、＜楽しくわかる･できる授業＞を実際に体験したり、優れた実践記録に学びながら、授業づくりの視点と方法を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:学習指導要領における体育および保健領域の目標･内容について理解する

思考･判断の観点:子どもの実態にあわせた内容や方法を選択できる

関心･意欲の観点:体育指導および保健学習の教材づくりに興味･関心をもつ

成績評価方法(総合)

定期試験および課題レポートを中心に、出席状況を加味しながら評価する。

教科書

参考書

小学校学習指導要領　体育科編　解説／文部科学省:東洋館出版社, 2008

メッセージ

できるだけ多くの体育授業の実践記録を読んで、授業づくりへのイメージを膨らませて下さい。

連絡先

yunno@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001381
開設科目名	美術科教育学III			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　貴富			区分	

授業の概要

教育実習体験を踏まえ、美術教育のよりアクチュアルな問題について考察する。

自己の実習体験の中から設定したテーマの下にレポートを作成する。

★この授業は、後期基本実習の事後指導を兼ねているので、そのつもりで受講すること。

授業の一般目標

教育実習の成果と課題を生かし、美術教育のよりアクチュアルな問題に関心を持ち、理解を深める。

レポート・論文の書き方の基本を理解し、簡単な調査レポートを作成する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:教育実習体験を生かし、児童画コンクール等、美術教育のより実際的な問題について理解を深める。

レポート・論文の書き方の基本を理解する。

思考・判断の観点:美術教育の、より実際的・具体的な実践像を思い描くことが出来る。

児童画コンクールの功罪について、理解と思考を深める。

調査レポートについて、適切なテーマを設定し、必要な文献を入手し、的確にまとめることができる。

関心・意欲の観点:児童画コンクール等、美術教育のより実際的な問題について関心を持つ。

調査レポートに意欲的に取り組む。

態度の観点:教育実習体験を学部での学習にフィードバックする姿勢・態度

技能・表現の観点:調査レポートを作成することができる。

成績評価方法(総合)

3回欠席した時点で受講資格と受験資格を失う。

教科書

美術科教育の基礎知識／宮脇理監修:建帛社, 2001

レポート・論文の書き方入門／河野哲也:慶應義塾大学出版会, 2002

わかりやすい日本語の作文技術／本多勝一:オークラ出版, 2003

参考書

メッセージ

連絡先

電話:083－933－5372

E－Mail:takatomi@yamaguchi-u.ac.jp

メールは便利ですが、用件にはメールで済むものと済まないものがあることを踏まえて利用しましょう。

オフィスアワー

オフィスアワーという概念や制度がナンセンスだと思います。少なくとも日本の大学の実態には合っていません。

電話やメールでアポを取って来てくれるのが確実ですが、いつ研究室のドアをノックしてくれても構いません。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001402
開設科目名	初等科音楽			単位	2 単位
対象学生	教科(国, 社, 理), 幼, 国理			学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

本授業では、小学校音楽科の授業実践に必要な音楽の専門的な知識や技術を身に付ける。

授業の一般目標

楽典･ソルフェージュ･創作、歌唱、ピアノ、ﾘｺｰﾀﾞｰ、ﾘﾄﾐｯｸ、鑑賞の音楽的内容について学び、専門的な力量を獲得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:楽典、創作、鑑賞においては、専門用語を覚えると共に内容を理解する。

関心･意欲の観点:多くのジャンルが入っているので、それぞれに高い関心を持って臨む。

技能･表現の観点:独唱とﾘｺｰﾀﾞｰの演奏を可能にする。

成績評価方法(総合)

実技試験、筆記試験、出席率にて評価

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

jun_n@yamaguchi-u.ac.jp　学内内線5363

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001407
開設科目名	中等公民教育論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	外山　英昭			区分	

授業の概要

地球環境問題を取り上げ、公民教育の課題を、生徒の世界認識･現代認識とかかわらせて探る。

その上で、実際の授業案を作成し、環境教育実践としての可能性を議論する。

授業の一般目標

地球環境問題を取り上げ、公民教育の課題を、生徒の世界認識･現代認識とかかわらせて探る。

その上で、中学校公民分野の実際の授業案を作成することができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:地球環境問題について具体的テーマを選び、説明することができる。

思考･判断の観点:そのテーマについて、さまざまな視点から深めることができる。

技能･表現の観点:環境問題で、小単元の授業を構想しまとめることができる。

成績評価方法(総合)

環境教育実践としてのあらたな可能性を提案できたか。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001410
開設科目名	英語科教育学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	猫田　和明			区分	

授業の概要

本授業では、以後の発展科目への基盤となるような、英語科教育学の諸領域における基礎的な事項や用語を概説する。

授業の一般目標

英語科教育学における基礎的な事項や用語について幅広い知識を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 英語科教育学における基礎的な事項や用語について簡単に説明できる。

思考・判断の観点: 授業内で扱った内容を自分なりに整理することができる。

関心・意欲の観点: 自身の英語学習経験と照らし合わせながら、英語科教育学の扱う各領域への関心を高める。

成績評価方法(総合)

(1)定期試験の成績 (2)授業内レポート、(3)期末レポートで評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書

新しい学びを拓く　英語科授業の理論と実践／三浦省五・深澤清治ほか：ミネルヴァ書房, 2009

参考書

メッセージ

この授業の目的は英語教育に関する専門用語等の基礎的な知識を獲得することです。学習内容がとても多いので心の準備をして臨んでください。

連絡先

nekoda@yamaguchi-u.ac.jp　933-5417　研究室 (教育 A354)

オフィスアワー

特に設けていません。時間が空いていればいつでも相談にのります。まずはメールください。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001423
開設科目名	初等科社会			単位	2 単位
対象学生	教科(理, 家), 幼, 障, 国理			学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

初等科教育に必要な社会科各領域の基礎を学ぶ。

授業の一般目標

社会科の各領域、すなわち歴史学、地理学、法律学等の基礎的内容を、初等科教育の構成に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:社会科各領域の基礎的な知識を修得し、理解する。

思考・判断の観点:社会科各領域の基礎的な内容について自ら考察を深める力を養う。

関心・意欲の観点:社会科各領域の内容の理解のもとに、自ら学習する意欲を持てるようにする。

技能・表現の観点:社会科各領域の基礎的内容を初等科教育の教案作成に応用できる力を養う。

成績評価方法(総合)

原則的に、授業担当者それぞれの評価を平均化して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001428
開設科目名	教科教育法家庭			単位	2 単位
対象学生	教科(国～理), 幼, 障, 国理			学年	～
担当教員	西　敦子			区分	

授業の概要

小学校学習指導要領「家庭科」の歴史的な変遷を説明する。さらに今回の小学校学習
指導要領の目標、内容について具体的に解説する。後半は、授業実践例をもとに教材および学習指導法について説明する。

授業の一般目標

「家庭科」の学習指導要領の変遷から家庭科とは何かを理解するとともに、家庭科に求められている現代的課題を理解する。次に家庭科の授業実践の観点から、家庭科の教材の具体的内容と学習方法を知り、その有効性について考える。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1小学校学習指導要領の変遷で何が変わり、何が変わらなかった内容なのかについて説明できる。2家族をはじめ人と関わる意味やよさについて説明できる。
3実習における安全、衛生を説明できる。
思考・判断の観点: 家庭科の教材は「よりよい家庭生活」形成に向けて関連していると考えることができる。
関心・意欲の観点: 自分の生活を振り返り、生活技能と家族との関わりについて改善に関心をもつ。
態度の観点: 「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。
技能・表現の観点: 自分の考えを言葉で表現し、人に伝えることができる。

成績評価方法(総合)

毎時間のレポート、課題、ノートを勘案して行う。

教科書

生活実践力を育成する家庭科授業の創造／西敦子:明治図書, 2005

参考書

小学校学習指導要領／文部科学省, 2008
小学校学習指導要領解説　家庭科編／文部科学省, 2008

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001429
開設科目名	教科教育法家庭			単位	2 単位
対象学生	教科(音～英), 実践			学年	～
担当教員	入江　和夫			区分	

授業の概要

小学校学習指導要領「家庭科」の歴史的な変遷を説明する。さらに今回の小学校学習指導要領の目標、内容について具体的に解説する。

授業の一般目標

「家庭科」の学習指導要領の変遷から家庭科とは何かを理解する。次に家庭科の授業実践の観点から、家庭科の教材の具体的内容について取り上げ、説明を行う。さらに現場の小学校教師が実践している家庭科の授業について紹介する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1小学校学習指導要領の変遷で何が変わり、何が変わらなかった内容なのかについて説明できる。2家族をはじめ人と関わる意味やよさについて説明できる。3実習における安全、衛生を説明できる。

思考・判断の観点: 家庭科の教材は「よりよい家庭生活」形成に向けて関連していると考えることができる。

関心・意欲の観点: 自分の生活を振り返り、生活技能と家族との関わりについて改善に関心をもつ。

態度の観点: 「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。

成績評価方法(総合)

1 授業中の小テスト。2授業ごとにその内容理解についてのレポート(web)。3課題ノート

教科書

小学校学習指導要領解説／文部科学省:教育図書, 2008

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

水曜日

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001435
開設科目名	初等科国語			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

本授業では、言語と人間の関係及び国語学力の内実について考案するとともに、小学校国語科授業を構想する基礎となる教材分析の視点と方法について具体的な説明を試みる。

授業の一般目標

(1) 言語の機能について認識を深めるとともに、国語学力の内実について基本的理解を得る。

(2) 小学校国語科教材分析の視点と方法を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 言語の機能について説明できる。

2. 小学校国語科の「内容」の得失について説明できる。

思考・判断の観点：1. 教材を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。

関心・意欲の観点：1. 言語の役割や働きに高い関心を持つ。

2. 積極的に教材開発分析に取り組むことが出来る。

態度の観点：1. 小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。

技能・表現の観点：1. 考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。

成績評価方法(総合)

授業内のレポート(場合によっては、授業外レポート)、授業態度・授業への参加度によって評価を行う。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001436
開設科目名	情報科教育法Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	鷹岡　亮			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001443
開設科目名	家庭科教育学Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	西　敦子			区分	

授業の概要

中学校および高等学校家庭科の指導を行うにあたって、家庭科とは何か（家庭科の独自性）、家庭科のカリキュラム（目標、内容、指導方法、評価）、中学校と高等学校の関連性など、基本的事項について学習する。その後、生徒の生活実態を踏まえた上で、先行授業実践例および現職教員の授業を参考にしながら指導案を作成する。

授業の一般目標

中学校および高等学校家庭科の学習目標、内容、方法、評価について理解し、授業を組み立てる際の基本的観点について学習し、指導案を作成することが出来ることを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：中・高等学校家庭科の基本的な事項について理解出来たか。
授業設計・指導案作成について理解出来たか。
思考・判断の観点：生徒の生活実態を踏まえた上で、授業設計・指導案が作成されているか。
関心・意欲の観点：中・高等学校家庭科の授業に対して関心・意欲をもって臨んでいたか。
態度の観点：授業態度が真面目であったか。
技能・表現の観点：授業設計・指導案が分かりやすく書かれているか。

成績評価方法(総合)

授業参加の態度、指導案、レポートを勘案して行う。

知識・理解（中・高校家庭科の目標・内容および指導案作成の基本的事項）
思考・判断（生徒の生活実態を把握し、生徒が興味・関心・意欲をもつ指導案の作成）
技術・表現（中・高校の関連性を踏まえた指導案作成）
関心・意欲・態度（授業態度や中・高校家庭科の授業に対する関心・意欲）

教科書

参考書

新版　教育実践力をつける家庭科教育法／多々納道子・福田公子編著：大学教育出版，2008
家庭科教育法−中・高等学校の授業づくりー／中間美砂子編著：建帛社，2004
中学校学習指導要領　技術・家庭／文部科学省，2008
中学校学習指導要領解説　技術・家庭編／文部科学省，2008
高等学校学習指導要領　／文部科学省

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001460
開設科目名	教科教育法社会			単位	2 単位
対象学生	教科(音～家), 実践			学年	～
担当教員	吉川　幸男			区分	

授業の概要

小学校社会科の授業分析と授業構成を通して、社会科授業の分析と創造の技量を身につけることを目的とする。受講学生による作業、資料作成、発表、相互批評を中心に演習形式を取り入れて行う。

授業の一般目標

1. 小学校社会科の教科観に関して、一定の見解をもつことができる。
2. 任意の題材から教材研究を経て、一定の学習内容を構想し、それに対応して一定の学習過程を構想することができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:以下の概念を理解している

・社会科の意義と目標

・小学校地域学習、産業学習、歴史学習における現行カリキュラムの論点

・内容構成

・単元構成

思考・判断の観点:小学校社会科の指導計画に関する資料に対し、社会科教育としての視点から考察することができる。

関心・意欲の観点:子どもの視点から社会事象への探究視点をあげることができる。

態度の観点:毎回の授業に出席し、小レポートに自らの疑問、意見を述べることができる。

技能・表現の観点:・小学校社会科の内容に適した教材研究を行うことができる。

・教材研究の成果に基づき、小学校社会科の指導計画を立案することができる。

成績評価方法(総合)

出席、小レポート、期末試験、最終レポートを総合して評価する。

教科書

参考書

初等社会科教育学／社会認識教育学会:学術図書出版社, 2003

メッセージ

グループによる活動がかなりの部分を占めるので、協力すること。

連絡先

E-Mail: yoshcowr@yamaguchi-u.ac.jp

この授業の WEB サイト(ID、パスワード要) http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yoshcowr/po-login/kyoukashakai/

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001461
開設科目名	数学科教育法II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	関口　靖広			区分	

授業の概要

中学校における指導の重点，指導内容，指導内容の背景にある数学や，数学的見方･考え方を検討し，事象を中学校の数学の教材として具体化する実際について話し合う。

授業の一般目標

中学校数学が扱う数学の内容を理解し，事象の中から数学の教材を開発することができること.

授業の到達目標

知識･理解の観点: 中学校における数と式，図形，数量関係の領域にどのような数学的内容が含まれているか理解する

思考･判断の観点: 中学校における数と式，図形，数量関係の領域の内容の数学を指導対象として活用できる

関心･意欲の観点: 事象の中から数学の教材を開発することに関心をもつ

成績評価方法(総合)

教材開発の実習が中心になるため，出席，発表，およびレポートが中心になります.

教科書

参考書

中学校学習指導要領解説　数学編／文部科学省: 東洋館，2008

メッセージ

数学科の教材にじっくりと取り組んでください.

連絡先

オフィスアワー

火曜日 11:00-12:00

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001467
開設科目名	国語科教育法Ⅳ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岸本　憲一良			区分	

授業の概要

国語科の領域「話すこと・聞くこと」の指導を中心に、その歴史的変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身に付ける。

授業の一般目標

「話すこと・聞くこと」の指導における歴史的変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:「話すこと・聞くこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点等について説明することができる。

思考・判断の観点:「話すこと・聞くこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容について的確に意見を述べることができる。

関心・意欲の観点:意欲的に「話すこと・聞くこと」の授業を構想することができる。

態度の観点:グループ協議等に積極的に参加することができる。

技能・表現の観点:開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

成績評価方法(総合)

以下の点を総合的に判断して評価する。

(1) 学期末試験

(2) 毎時の課題シート

(3) 学習指導案

(4) 出席状況

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001468
開設科目名	理科指導実践研究			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐伯　英人			区分	

授業の概要

受講学生は2～3班に分かれ、班ごとに教材･展開案を作成し、小学校のクラブ活動を運営･実践する。対象クラブは附属山口小学校のサイエンスクラブとする。また、中学校の先生と話し合う活動をしたり、市内にある高等学校の理科の授業を見学したりする。さらに、実践事例の分析や教材化に取り組んだりする。

授業の一般目標

小･中･高等学校の理科教育に関する実践力を培う。

授業の到達目標

知識･理解の観点:理科教育を通して育てたい科学的なものの見方･考え方について理解することができる。

思考･判断の観点:児童･生徒の発達段階を考えながら、教材をつくることができる。また、教材の特性を生かした授業づくりができる。

関心･意欲の観点:教材の開発や活動の展開案を友達と話し合いながら、すすんで考えることができる。

態度の観点:友達と協力し合い、責任をもって活動し、まじめに取り組むことができる。

技能･表現の観点:児童･生徒の科学的なものの見方･考え方を育てるための教材を作ることができる。また、発達段階に応じた対応をすることができる。

成績評価方法(総合)

活動のようす、レポート、出席で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

校外(附属山口小学校･市内の高等学校)へ出向き、活動します。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001470
開設科目名	教科教育法社会			単位	2 単位
対象学生	教科(国～理, 英), 幼, 障, 国理			学年	～
担当教員	外山　英昭			区分	

授業の概要

小学校社会科のすぐれた実践に学びつつ、集団で教材研究および地域調査を行い、子どもたちが楽しく学ぶ教材を作成し、その活用法を提案する。

授業の一般目標

1. 関心のある題材を選び、教材研究をすることができる。
2. その上で、パワーポイントを活用して発表する。
3. すぐれた実践に触れ、これからの社会科授業について考える。

授業の到達目標

知識・理解の観点:地域調査、教材研究を通じて、選択した教材の本質をつかむ

思考・判断の観点:子どもが主体的に学ぶ社会科授業を構想できる

関心・意欲の観点:テーマを選んで主体的に調査研究を進めることができる

態度の観点:人と協力して課題に取り組むことができる

技能・表現の観点:地域調査や教材研究の技法を学ぶ

成績評価方法(総合)

小テスト／授業内レポート＝20～40%

宿題／授業外レポート＝個人および集団 40～60%

授業態度や授業への参加度＝20%未満

教科書

参考書

メッセージ

子ども主体の学びを支える教師の役割を考えよう

連絡先

外山英昭 : E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科教育, オフィスアワー 木5 6

オフィスアワー

開設学期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001480
開設科目名	初等科社会			単位	2 単位
対象学生	教科(国, 数, 音～技, 英), 実践			学年	～
担当教員	貞方　昇			区分	

授業の概要

初等科教育に必要な社会科各領域の基礎を学ぶ。

授業の一般目標

社会科の各領域、すなわち歴史学、地理学、法律学等の基礎的内容を、初等科教育の構成に役立てることができるようにする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

原則的に、授業担当者それぞれの評価を平均化して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001495
開設科目名	音楽科教育法III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	高橋　雅子			区分	

授業の概要

音楽科教育の基礎理論を生かし、教育実習に向けての実践力を養う。

授業の一般目標

音楽科教育の基礎理論を応用し、教育実習に向けて実践力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点:適切な指示や発問、比喩表現などについて理解する。

思考・判断の観点:授業をどのように組み立てるか、子どもの発達段階や授業の目標に合わせて考える。

関心・意欲の観点:実践力を高めるために、意欲的に講義・演習に取り組む。

態度の観点:遅刻・欠席厳禁。

技能・表現の観点:模擬授業における発問・指示に加え、実技指導における総合的な技能を高める。

成績評価方法(総合)

出席、授業態度、レポート、模擬授業と資料

教科書

参考書

メッセージ

まずは自分を良く知り、知識・技能共に磨きましょう。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001498
開設科目名	国語科教育法Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岸本　憲一良			区分	

授業の概要

国語科の領域「読むこと」の指導を中心に、その歴史的変遷と様々な指導法について考察し、学習指導案を作成するとともに模擬授業も行い、実践的な指導技術を身に付ける。

授業の一般目標

「読むこと」の指導における歴史的変遷と様々な指導法について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:「読むこと」の目標、様々な指導法、授業を構想する際の留意点等について説明することができる。

思考・判断の観点:「読むこと」の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容について的確に意見を述べることができる。

関心・意欲の観点:意欲的に「読むこと」の授業を構想することができる。

態度の観点:グループ協議等に積極的に参加することができる。

技能・表現の観点:開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。

成績評価方法(総合)

以下の点を総合的に判断して評価する。

(1) 学期末試験

(2) 毎時の課題シート

(3) 学習指導案

(4) 出席状況

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001509
開設科目名	中等地理歴史教育論Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉川　幸男			区分	

授業の概要

現行及び新学習指導要領の中学校･高等学校の地理歴史教育のカリキュラムを概観し、特に争点となるポイントを取り上げて論究する。後半は小グループで任意の題材を1つ取り上げ、、単元構成、指導計画、テスト問題作成などを行い、発表･検討する。

授業の一般目標

1. 中等地理･歴史授業における学習指導の分析力と実践力を養う。
2. さまざまな地理･歴史授業の事例や互いの発表資料に対して教科教育としての分析を行い、それを踏まえて単元と授業を構想できるようになる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:以下の概念を理解している。

･社会科歴史　社会科地理

･内容構成

･単元構成

･教材構成

思考･判断の観点:地理･歴史に関する授業計画や授業実践、評価問題に対し、授業構成論の観点から論評することができる。

関心･意欲の観点:地理･歴史の学習素材や教材資料に関して、内容論の観点から分析する視点を持つことができる。

態度の観点:毎回の授業に出席し、自らの疑問･意見を述べることができる。

技能･表現の観点:地理･歴史に関する内容研究を踏まえて単元計画、授業計画、評価計画をたてることができる。

成績評価方法(総合)

簡単な期末試験、授業内小レポート、最終レポートで総合評価する。なお最終レポートの提出資格は、出席回数10回以上であることとする。

教科書

参考書

中学校社会科教育／社会認識教育学会:学術図書出版社, 2004

地理歴史科教育／社会認識教育学会:学術図書出版社, 2004

メッセージ

○一部、小グループによる演習を取り入れます。グループ活動に協力してください。

○上記シラバスは受講者数により、一部若干変更することがあります。

○学習指導案の検討においては、模擬授業を実施することがあります。

連絡先

E-Mail:　yoshcowr@yamaguchi-u.ac.jp

この授業の WEB サイト(ID、パスワード要) http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yoshcowr/po-login/chireki/

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001510
開設科目名	理科実験指導法Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

中学校理科第1分野（物理・化学）の内容について、実験観察を中心とした指導法を学ぶ。

授業の一般目標

中学校理科第１分野について、実験観察を中心にした授業づくりと授業の指導するための基礎的な知識や技能を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：中学校理科第１分野の指導ができるための、物理と化学に関する基礎的な知識を理解する。

思考・判断の観点：実験観察に基づいた授業作りができる。

関心・意欲の観点：中学校理科第１分野の内容について興味と関心をもつ。

態度の観点：意欲的に実験や観察に取り組む

技能・表現の観点：中学校理科第１分野の内容について、基礎的な実験や観察を行い、その結果を文章や図を用いて表現できる。

成績評価方法(総合)

試験と領域別に課したレポートによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

中学校理科教員免許を取得するための必修科目です。

連絡先

教育学部218

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001511
開設科目名	技術科教育法Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿濱　茂樹			区分	

授業の概要

中学校技術･家庭科の技術分野の目的や意義についての理解を深めるとともに，教科の歴史などの基本的事項について講義する。また，学習指導の方法論や教科内容についても学び，模擬授業を行う。

授業の一般目標

技術科教育の目的や意義についての理解を深め，技術科教師としての指導理念や心構えの確立
と教科についての基礎的知識の習得を目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:技術科教育の目的と意義が説明が出来る。また，技術科の学習指導に関する基本的事項について説明できる。
思考･判断の観点:技術科教育に関して自分なりの考えを述べることが出来る。
関心･意欲の観点:技術科教育の目的と意義に関心をもち，技術科の学習指導に意欲をもつ。
技能･表現の観点:技術科の学習内容を理解し，学習指導の基本的な技術を身につける。

成績評価方法(総合)

課題に対するレポートを課す。最後に期末レポートを課す。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書

中学校学習指導要領解説　技術･家庭編／文部科学省編:教育図書，2008

参考書

技術科教育総論／日本産業技術教育学会:日本産業技術教育学会，2005

メッセージ

資料を随時配付する

連絡先

研究室

オフィスアワー

随時受け付け（研究室）

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001552
開設科目名	技術科教育法Ⅳ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿濱　茂樹			区分	

授業の概要

中学校技術･家庭科の技術分野の教科運営についての理解を深めるとともに，学習評価などの基本的事項について講義する。 あわせて，海外の技術教育についても解説する。

授業の一般目標

中学校技術･家庭科の技術分野の学習計画についての理解を深め，教科運営に必要な知識と技術を習得する。また，技術科教育に関する学習評価についての基礎的知識の習得を目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:技術科教育に関する学習計画および学習評価について説明が出来る。

思考･判断の観点:技術科教育に関する学習計画および学習評価について自分なりの考えを述べることが出来る

。

関心･意欲の観点:技術科教育に関する学習計画および学習評価について関心を高め，問題意識を持つことが出来る。

成績評価方法(総合)

課題に対するレポートを課す。最後に期末レポートを課す。これらにより評価する。出席が所定の回数に達しない者には単位を与えない。

教科書

技術科教育総論／日本産業技術教育学会:日本産業技術教育学会，2005

中学校学習指導要領解説　技術･家庭編，2008

参考書

メッセージ

資料を随時配付する

連絡先

研究室

オフィスアワー

随時受け付け（研究室）

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001553
開設科目名	英語科教育学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	高橋　俊章			区分	

授業の概要

英語教育学概論、実践英語科教育法、英語科教育学Ⅰの履修をベースに主として、各種指導法、指導技術、言語材料、言語技能、評価論の中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の一般目標

文法の指導、語彙指導、4技能の指導方法、言語習得、スピーキングなどの評価方法などの中から現在の英語教育にとって中心的なトピックを選び、その理論的背景を学習させる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

発表とテストの成績によって評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001555
開設科目名	教科教育法図画工作			単位	2 単位
対象学生	教科(音, 美, 技～英), 幼, 障, 国理, 実践			学年	～
担当教員	吉田　貴富			区分	

授業の概要

本授業は性格上、以下の2側面を持つ。

(1) 美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学I～IV」の基礎。

(2) 初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。

授業の一般目標

普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。

思考・判断の観点:教員からの投げかけや受講生の発言に耳を傾け、深く考察することによって、自己の思い込みや俗論や偏見やステレオタイプを相対化し、教職と造形文化への価値基準を広げる。

児童の反応を予想するなど、具体的な授業像を想像することが出来、有効な手立てを講じたり効果的な指導や展開案を構想することができる。

関心・意欲の観点:教員からの投げかけや受講生の発言に耳を傾け、真摯に受け止め、考えることができる。

挙手をして自主的に発言をすることができる。

課題に積極的に取り組み、丁寧に仕上げて提出する。

態度の観点:遅刻をしない。

人の話を聞く。

大人としての常識的な言動ができる。

技能・表現の観点:自分の考えが相手に伝わるように発言できる。

提出物を「人に見てもらうもの」として作成することができる。

成績評価方法(総合)

下記のような評価方法を考えているが、授業の状況に応じて変更もあり得る。授業は生き物である。変更も含めて、最終的な評価の割合については、最終回の授業で説明する。

遅刻は10分までは認める。それ以降の入室はお断りする(＝欠席)。

欠席は理由を問わず3回までは認める(3週間教育実習へ行った学生は2回まで)。4回(3週間教育実習へ行った学生は3回)欠席した時点で受験資格と受講資格を失う。

教科書

『美術科教育の基礎知識』／宮脇理監修:建帛社, 2000

参考書

メッセージ

Q1:学校教員の質が問われていますが、教員採用は「人物重視」で行うべきでしょうか、それとも「専門性重視」で行うべきでしょうか？

Q2:「図工や美術は、好きな人や得意な人だけがやればいい」ってホントでしょうか？

Q3:自分自身が図工や美術が苦手な教員に、図画工作科が教えられるでしょうか？

Q4:自分自身がサッカーが苦手な大人に、少年サッカーが教えられるでしょうか？

Q5:あなたのカバンの中に、テキストやマンガや雑誌以外の本が日常的に入っていますか？

連絡先

電話:083－933－5372

E－Mail:takatomi@yamaguchi-u.ac.jp

メールは便利ですが、用件にはメールで済むものと済まないものがあることを踏まえて利用しましょう。

オフィスアワー

オフィスアワーという概念や制度がナンセンスだと思います。少なくとも日本の大学の実態には合っていません。

電話やメールでアポを取って来てくれるのが確実ですが、いつ研究室のドアをノックしてくれても構いません。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001556
開設科目名	保健体育科教育学II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	海野　勇三			区分	

授業の概要

この授業では，保健体育科教育の目的･内容･方法に関する諸説について概説し，それらを一貫性という観点から考察する．また，後半では，小グループで実際に授業づくりのプロセス（教材解釈→教科内容の設定→授業プランの作成→評価計画）を追体験することを通じて，目標設定･教材づくり･学習集団の組織化･形成的および総括的授業評価等，体育実践の見方および構想の仕方について理解する．

授業の一般目標

体育の授業づくりに関わる基本用語についての理解を深めるとともに、授業計画の立案と学習指導案の作成に関する基本的な方法を習得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:体育の授業づくりに関わる基本用語について説明できる。

思考･判断の観点:先行実践に学びながらも、自分なりの独自な教材解釈や教材づくりに取り組む。

関心･意欲の観点:体育授業づくりに関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。

態度の観点:グループによる取り組みに共同的および主体的に参加し、自己の役割･分担を果たすことができる。

技能･表現の観点:学習指導案の形式にそって指導構想を叙述できる。

成績評価方法(総合)

定期試験、および課題レポート（中間･最終）やグループ研究への参加状況、出席状況等を加味しながら、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

この授業を通じて，実際に中学校で実践された体育授業記録に多く触れ，自分の持つ「よい体育授業」像を再吟味する機会として欲しい．同時に，現場教師による創意あふれる授業づくりに学ぶことを期待したい．

連絡先

yunno@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001562
開設科目名	保健体育科教育学IV			単位	2 単位
対象学生	3年生			学年	～
担当教員	海野　勇三			区分	

授業の概要

体育科教育研究に関わる特殊テーマを設定し、先行研究を検討したり、調査を実施するなどして、テーマに関わる理解を深め、交流する。

授業の一般目標

グループ、または個人の設定したテーマについて、必要な調査･文献研究を行い、その結果をレポートにまとめることを通して、テーマについての理解を深める。

授業の到達目標

知識･理解の観点:グループまたは個人の設定したテーマについて、その学習成果をもとにわかりやすく説明できる。

思考･判断の観点:関連する先行研究をもとにして、多角的（因果関係や水平的･垂直的分析）に考察することができる。

態度の観点:さまざまな問題について、批判的、主体的に思考し取り組むことができる。

技能･表現の観点:自ら設定したテーマに沿って学習してきた成果を、わかりやすい発表資料にまとめて、報告することができる。

成績評価方法(総合)

テーマ設定ー自主（グループ）研究ーゼミ報告、さらに最終レポートの完成度により総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

教科教育学の最終仕上げとして、実践的な課題に対して真正面から向き合って、学習と成果の交流を深めてください。

連絡先

yunno@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001571
開設科目名	音楽科教育法Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	高橋　雅子			区分	

授業の概要

音楽科教育の基礎である、教材研究及び演習をおこなう。音楽科における教材研究は、単に譜読みができて歌詞の内容を理解し、作詞者･作曲者について知れば良いというものではない。

その背景や成り立ち、作曲者の音楽観などを深く知ることによって、子どもたちに何を教えるかという授業づくりが可能となる。本講義では、学生が教材研究の方法論を学ぶだけではなく、プレゼンテーションを行うことによって、その技能を身につけることを目指している。

授業の一般目標

教材研究の方法論を学び、その内容を適切に説明できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:教材研究の方法論を理解できる。

思考･判断の観点:よりよい教材研究のあり方について考え、資料のまとめ方を工夫する。

関心･意欲の観点:他者のプレゼンテーションから多くを学び、また意欲的に質問する。

プレゼンテーション用の資料作りを工夫する。

態度の観点:遅刻･欠席をしないこと。

鑑賞や発表の態度、声の大きさなど。

技能･表現の観点:自分なりの言葉(指示、説明など)、声の大きさ、音色など。

成績評価方法(総合)

出席、授業時の発表、資料作成、レポート。

教科書

小学生の音楽:教育芸術社, 2005

中学生の音楽:教育芸術社, 2006

参考書

メッセージ

教材研究は、より良い授業の第一歩です。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001583
開設科目名	数学科教育法IV			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	関口　靖広			区分	

授業の概要

中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から検討を行なう。

授業の一般目標

中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から理解することができる

授業の到達目標

知識・理解の観点:中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から理解することができる.

思考・判断の観点:中等教育数学科の実践的研究の背景と方法について，理論的，社会的，国際的に広い視野から議論することができる

成績評価方法(総合)

レポートによって評価する.

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

連絡は，ysekigch のあとに，@yamaguchi-u.ac.jp をつけてへメールでお願いします.

オフィスアワー

火曜日 11:00-12:00

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001584
開設科目名	家庭科教育学IV			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	入江　和夫			区分	

授業の概要

中学校･高等学校家庭科の教育目標を把握し、教材化の視点から内容を分析していく。具体的な教材にふれ、学習効果について考察するとともに作成し、各自が独特な新規教材の作成を行う。

授業の一般目標

授業は教材の善し悪しによって大きく影響を受ける。ここでは中学校･高校家庭科を対象に高齢者に関する学習、家族関係、安全健康、環境保全などを中心に教材を作成するとともに自ら考えた教材を作成することを目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:教材を作成する過程で、家庭科教材の高齢者に関する学習、家族関係、安全健康、環境保全に関する基本的な知識や理解ができる。

思考･判断の観点:教材を作成する過程で学習内容を生徒にわかりやすくするにはどのようにしたらよいかなど判断できる。

関心･意欲の観点:教材を作成する過程で学習内容に関して関心･意欲を高めることができる。

態度の観点:わかりやすく、興味喚起の観点から教材を工夫することができる。

技能･表現の観点:powerpoint を活用し、自分の授業を表現できる

成績評価方法(総合)

指定した教材に関する小テストおよびレポート提出を行う。powerpoint で作成した教材を評価する。出席が70%未満のものは単位を与えない。

教科書

高等学校学習指導要領／文部科学省

参考書

構造学習法の入門／佐藤隆:明治図書, 1996

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

水曜日

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001590
開設科目名	教科教育法図画工作			単位	2 単位
対象学生	教科(国～理, 保)			学年	～
担当教員	吉田　貴富			区分	

授業の概要

本授業は性格上、以下の2側面を持つ。

(1) 美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学I～IV」の基礎。

(2) 初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。

授業の一般目標

普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:普通教育における美術教育の基礎的必須事項即ち初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。

思考・判断の観点:教員からの投げかけや受講生の発言に耳を傾け、深く考察することによって、自己の思い込みや俗論や偏見やステレオタイプを相対化し、教職と造形文化への価値基準を広げる。

児童の反応を予想するなど、具体的な授業像を想像することが出来、有効な手立てを講じたり効果的な指導や展開案を構想することができる。

関心・意欲の観点:教員からの投げかけや受講生の発言に耳を傾け、真摯に受け止め、考えることができる。

挙手をして自主的に発言をすることができる。

課題に積極的に取り組み、丁寧に仕上げて提出する。

態度の観点:遅刻をしない。

人の話を聞く。

大人としての常識的な言動ができる。

技能・表現の観点:自分の考えが相手に伝わるように発言できる。

提出物を「人に見てもらうもの」として作成することができる。

成績評価方法(総合)

下記のような評価方法を考えているが、授業の状況に応じて変更もあり得る。授業は生き物である。変更も含めて、最終的な評価の割合については、最終回の授業で説明する。

遅刻は10分までは認める。それ以降の入室はお断りする(＝欠席)。

欠席は理由を問わず3回までは認める(3週間教育実習へ行った学生は2回まで)。4回(3週間教育実習へ行った学生は3回)欠席した時点で受験資格と受講資格を失う。

教科書

『美術科教育の基礎知識』／宮脇理監修:建帛社, 2000

参考書

メッセージ

Q1:学校教員の質が問われていますが、教員採用は「人物重視」で行うべきでしょうか、それとも「専門性重視」で行うべきでしょうか？

Q2:「図工や美術は、好きな人や得意な人だけがやればいい」ってホントでしょうか？

Q3:自分自身が図工や美術が苦手な教員に、図画工作科が教えられるでしょうか？

Q4:自分自身がサッカーが苦手な大人に、少年サッカーが教えられるでしょうか？

Q5:あなたのカバンの中に、テキストやマンガや雑誌以外の本が日常的に入っていますか？

連絡先

電話:083－933－5372

E－Mail:takatomi@yamaguchi-u.ac.jp

メールは便利ですが、用件にはメールで済むものと済まないものがあることを踏まえて利用しましょう。

オフィスアワー

オフィスアワーという概念や制度がナンセンスだと思います。少なくとも日本の大学の実態には合っていません。

電話やメールでアポを取って来てくれるのが確実ですが、いつ研究室のドアをノックしてくれても構いません。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001620
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	人権教育			学年	～
担当教員	松原　幸恵			区分	

授業の概要

各担当教員が各自の専門研究、人生経験を通して持った人権問題を取り上げ問題提起し、続いて学生相互で討論して深める。CAP プログラム（子どもへの暴力防止プログラム）を取り上げ、今日の子どもたちの有効な人権教育のあり方を探る。

授業の一般目標

さまざまな人権問題の検討を通して、人権問題に対する捉え方や人権教育のあり方について自分なりの考えを持つことができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：身近な人権問題についての理解を深める。

思考・判断の観点：身近な人権問題について自分なりの考えを持つことができる。

関心・意欲の観点：身近な人権問題について関心を持つことができる。

態度の観点：学生同士の討論に積極的に参加することができる。

技能・表現の観点：問題提起された人権問題について、自分なりの考えを適切にレポートにまとめることができる。

成績評価方法(総合)

CAP プログラムに関する講義の感想提出と授業への参加度など（50 点）。5 人の教員が取り上げた講義内容より、2 テーマ選びレポートをまとめる（50 点）。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001621
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	国際理解総合演習			学年	～
担当教員	松谷　緑			区分	

授業の概要

国際理解･異文化理解･自国文化理解･平和･人権、国際理解教育の教育理念･目標･政策や教育現場の実情等のテーマで、オムニバス形式で各講師が授業を担当する。

授業の一般目標

国際理解･異文化理解･自国文化理解･平和･人権、国際理解教育の教育理念･目標･政策や教育現場の実情について理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:国際理解、国際理解教育、異文化理解、自国文化理解、平和･人権といったテーマについて、基礎を理解する。各テーマについての社会的な意味やこれまでの先行研究の概要･問題点を理解する。

思考･判断の観点:各テーマについて、自らの考えを論理的に展開することができる。

関心･意欲の観点:各テーマに関わる諸問題について、広く関心をもち、主体的に考えることができる。

態度の観点:授業に積極的に参加し、内容を理解し、討議を行うことができる。

技能･表現の観点:各テーマについて、自分の考えを豊かに表現し、的確に他者に伝えることができる。

成績評価方法(総合)

毎回の授業における出席状況･演習への取り組み･授業で示される課題による総合評価。

教科書

参考書

メッセージ

複数教員による演習の授業ですので、欠席をしないように必ず出席しましょう。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001622
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	情報教育			学年	～
担当教員	鷹岡　亮			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001623
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	環境と生活			学年	～
担当教員	澤本　章			区分	

授業の概要

この授業は、前半と後半に分けて進める。

前半は、7 人の教員(澤本、武田、村上、福田、山本、河野、小杉)が自然環境、社会環境および生活環境などの具体的な問題を専門の立場から取り上げて講義する。

後半は、各教員のテーマごとに希望に応じて学生が分かれ、少人数の演習形式の授業をする。学生による発表も行う。

授業の一般目標

現代の環境と生活との関わりを総合的に理解し、認識を深めるとともに環境に対する意識を高めることを目標とした演習を行う。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、授業への取り組みおよびレポート内容から判断する。

教科書

参考書

メッセージ

後半の演習課題については、前半部の授業で出席した教員･テーマの中から希望を出し、各班7～8 名を限度とする。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001624
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	健康と生活			学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

健康という事柄を「生活」かかわるあらゆる事象から考察し、健康と生活のかかわりについて理解する。本講では、生活の中から、運動、食、生活リズム、心、飲酒、喫煙など身近な行動を取り上げ、それらがどのように健康にかかわっているかを追及する。

授業の一般目標

生活にかかわったさまざまな行動と健康のかかわりを理解し、実際の生活の中で、それらのことがらをよりよい健康な生活実現に向けて生かしていくことができるようになる

授業の到達目標

知識・理解の観点:生活上の各事象と健康とのかかわりを理解できる。

思考・判断の観点:理解した知識等を実際の生活に結びつけて考えることができる

関心・意欲の観点:生活上の問題点や課題を積極的にとらえることができる

態度の観点:理解した知識や得た考え方等を実際の生活上の問題解決に応用しようと努力する。

成績評価方法(総合)

授業への出席と提出レポートにより総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

食生活、運動、こころのあり方など日常の多くの事象と健康との関係に関心・興味を強く持っている者の受講を希望する。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001625
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	国際文化総合演習			学年	～
担当教員	池田　恵子			区分	

授業の概要

第1回目の授業時にオリエンテーションを行い、受講者を「A 班」、「B 班」、「C 班」の3つの班に分ける。それぞれの班において、複数の専門分野の教員が連続して3週ずつ担当し、異なるテーマから本授業内容を深める。授業形式は各教員ごとに異なるが、定められたトピックについて受講者が演習を重ね、プレゼンテーション（発表）を伴う演習形式を主とする。

授業の一般目標

世界各地の社会や文化、さらにグローバリゼーションの問題やその日本との関わりについて、各教員が定めたテーマに従い、学生が調べ、発表をし、またそれをもとに教員や他の学生を含めてディスカッションをおこなうことによって、これらの問題について総合的に学習する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：世界各地の社会や文化の有り様を知り、グローバリゼーションにおける諸問題についても理解を深める。

思考・判断の観点：世界各地の社会や文化の有り様、グローバリゼーションにおける諸問題について知り得た情報から、適切なものを選択し、専門的に理解を深めた知識に基づいて、それらに生じている問題点について適切に判断できるようになる。

関心・意欲の観点：世界各地の社会や文化、もしくは世界で生じている出来事を、自らとは無関係の遠い世界で起きている事象として捉えるのではなく、自らにも関係のある事柄として関心を持つことができる。

技能・表現の観点：世界各地の社会や文化、さらに、現在進行しつつあるグローバリゼーションにおける問題について、情報を集める能力を得るとともに、それを他人に理解できるように説明し、発表することのできる技能を獲得する。

成績評価方法(総合)

授業計画の通り、オムニバス形式で担当した各担当教員が、各々のセクションごとの出席および発表の成果に基づいて評価した評点を合わせ、総合的な成績評価を行う。出席しないセクションがひとつでもあると、単位認定できないことも生じるので、十分に留意すること。基本的に欠席してはならない。

教科書

参考書

メッセージ

各班とも複数教員による異なったテーマの演習授業となる。しがたって、受講者は選択した班ごとに様々なセクションの分野と出会うことになる。評価は各セクションごとに行い、総じて成績評価を行うため、出席しないセクションがひとつでもあると、単位認定できないことも生じるので、十分に留意すること。基本的に欠席してはならない。

連絡先

933-5381　教育学部池田（恵）研究室

電子メール：kikeda@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

176 教育学部池田研究室　随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001626
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	表現と創造			学年	～
担当教員	上原　一明			区分	

授業の概要

自ら参加する場面も取り入れながら、広く表現活動･芸術活動について考えていく。人類の芸術的表現活動である言語、音楽、美術の三分野を、それぞれの表現方法について学び、実践してゆく。

授業の一般目標

広く表現活動･芸術活動についての考えを深めるとともに、創造性･感性を育む。

授業の到達目標

知識･理解の観点:音楽･言語･美術の異なる表現方法による多様性と、そこから見えてくる創造の可能性を学ぶ。 各分野の表現と創造に関する知識を習得し、芸術に対する理解を深める。

思考･判断の観点:演習による思考力の向上と、状況に応じた判断力を身につける。

関心･意欲の観点:表現の多様性に触れることにより、芸術に関心を持つ。

態度の観点:グループや団体行動の中で、望ましい態度を把握する。

技能･表現の観点:それぞれの表現方法の学習により、技能面を向上させる。

その他の観点:幅広い分野の理解を広げる。

成績評価方法(総合)

授業態度や各担当者によって出される課題等により、総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

現代の多様化する社会に対し、事象を芸術的視点で捉えて下さい。

連絡先

村上研究室 (国語)

オフィスアワー

水曜日　12:00～13:00

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001627
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	知財と創造			学年	～
担当教員	岡村　吉永			区分	

授業の概要

現代社会に生きる学校教員には，著作権や産業財産権等に関する正しい理解や創造的に物事にアプローチする態度が不可欠のものとなりつつある。

本講義においては，前半部で知的財産権に関わる理解を深め，これを適切に利用するために必要な事項を学習する。後半部では，等価変換を軸として，創造的に考え行動するための方法を実践的に学習する。

授業の一般目標

・著作権制度や産業財産権について理解し，適切に利用する方法や態度を身につける。

・創造的に考え，行動するため方法を知り，実践しようとする態度を身に付ける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：著作権制度や産業財産権について基本的な事項を学校教育の視点から説明できる。

思考・判断の観点：著作物や産業財産を適切に利用することができる。さらに，学校教育の中での知的財産の利用方法について適切な判断をすることができる。

課題を正しく把握し，その解決に当たっては，状況に即した分析や判断が行える。

関心・意欲の観点：自分の知的財産権を守るだけでなく，他人の知的財産も守ることができる。

また，知的財産の制度の変化に柔軟に対応できる意識をもつことができる。

常に社会や身の回りの事象に興味を持ち，進んで改善を図ろうとする意欲を有している。

態度の観点：常識的な判断にとらわれることなく，事象を客観的・分析的に捉えようとする態度を有している。また発見した課題等については，創造的・主体的にアプローチし，自らの思考判断について価値を認めることができる。

技能・表現の観点：創造的なアプローチを可能にする為の具体的なスキルを身に付けている

成績評価方法(総合)

前後半で，それぞれ下記の評価を行い，総合的に評価を行います。

前半：小テスト（知識・理解）と小課題（思考・判断および関心・意欲），最終課題で評価します。

後半：創造的なアプローチについて，いくつかの課題を課し，その過程および最終的な提出物等を総合的に評価します。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001658
開設科目名	美術科教育学Ⅳ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　貴富			区分	

授業の概要

中等教育の中でも高等学校段階に絞った内容とする。

特別支援教育における造形教育、および高等学校芸術科美術の、より具体的な授業内容について実地指導講師が担当する。

授業の一般目標

高等学校における美術教育の理念、目的、対象、内容、方法、制度等について理解を深める。

特別支援教育における造形教育について理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:高等学校における美術教育の理念、目的、対象、内容、方法、制度等について理解を深める。

特別支援教育における造形教育について理解を深める。

思考・判断の観点:自己の体験を踏まえながらも、表層的・個別的・瑣末的な事象にこだわることなく、高等学校の美術教育について制度的な枠組みと、地域・学校・教師個々の実情に合わせたカリキュラム開発や授業実践との関係を連関させて考えることができる。

関心・意欲の観点:自己の体験を踏まえながらも、表層的・個別的・瑣末的な事象にこだわることなく、高等学校の美術教育について制度的な枠組みと、地域・学校・教師個々の実情に合わせたカリキュラム開発や授業実践に関心を持ち、意欲的に学ぶ。

態度の観点:教育実習体験を学部での学習にフィードバックする姿勢・態度。

成績評価方法(総合)

3回欠席した時点で受講資格と受験資格を失う。

教科書

美術科教育の基礎知識／宮脇理:建帛社, 2001

参考書

メッセージ

連絡先

電話:083－933－5372

E－Mail:takatomi@yamaguchi-u.ac.jp

メールは便利ですが、用件にはメールで済むものと済まないものがあることを踏まえて利用しましょう。

オフィスアワー

オフィスアワーという概念や制度がナンセンスだと思います。少なくとも日本の大学の実態には合っていません。

電話やメールでアポを取って来てくれるのが確実ですが、いつ研究室のドアをノックしてくれても構いません。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001662
開設科目名	初等科音楽			単位	2 単位
対象学生	教科(数, 音～英), 障, 実践			学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

本授業では、小学校音楽科の授業実践に必要な音楽の専門的な知識や技術を身に付ける。

授業の一般目標

楽典･ソルフェージュ･創作、歌唱、ピアノ、ﾘｺｰﾀﾞｰ、ﾘﾄﾐｯｸ、鑑賞の音楽的内容について学び、専門的な力量を獲得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:楽典、創作、鑑賞においては、専門用語を覚えると共に内容を理解する。

関心･意欲の観点:多くのジャンルが入っているので、それぞれに高い関心を持って臨む。

技能･表現の観点:独唱とﾘｺｰﾀﾞｰの演奏を可能にする。

成績評価方法(総合)

実技試験、筆記試験、出席率にて評価

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

jun_n@yamaguchi-u.ac.jp　学内内線5363

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001694
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	自然と社会			学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

徳地青少年自然の家で行う2泊3日の合宿を中心に,集中講義方式で行う授業である。授業は9月下旬に4日間で行う。内容は①総合的な学習とは、②森林と田畑の荒廃、③人口ピラミッドから見た日本の未来、④農山村の高齢化と社会福祉である。授業ではこれらのテーマについて講義･参加型協働学習･野外学習などの手法を用いて行う。将来総合的な学習を担当することを想定して、授業作りと授業展開の方法を習得できるように、KJ 法などの討論の方法やネイチャーゲームを取り入れる。また、地域の専門家の協力を依頼する。

授業の一般目標

現代社会に関わる自然と社会の諸問題として農山村の高齢化を取り上げ、高齢化した農山村が抱えている諸問題を教材として取り上げ、総合的な学習の指導法を習得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:高齢化した農山村が直面している自然と社会の諸問題を理解する。

思考･判断の観点:必要なデータや情報を集めて、問題点を見いだしたり解決をすることができる。

関心･意欲の観点:高齢化した農山村の諸問題に関心をもつ。

態度の観点:積極的かつまじめに授業に参加している。友達と協力して作業を進めることができる。

技能･表現の観点:KJ 法やネイチャーゲームを取り入れた授業を構想することができる。

成績評価方法(総合)

授業への参加の熱心さとレポートで評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

教育学部215

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001955
開設科目名	教育心理学			単位	2 単位
対象学生	⑴理･工･農⑵			学年	～
担当教員	田崎　權一			区分	

授業の概要

教育心理学の父と呼ばれているヘルバルトは「教育の目的を倫理学に、教育の方法を心理学に求める」としている。受講者が、将来、教育現場で、教育実践効率化に活かせるような心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指定された受講者⑴担当者⑵は、その時間のテーマについて、ノートを完成させ、考察した内容の「ノートレポート」を１週間後に提出することになる。提出されたノートレポートは１週間後に返却する。

授業の一般目標

⑴受講者が、教職を目指すものとして、教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。⑵身近な問題として理解するだけでなく、専門の立場から具体的に考えることや対応へと志向する契機となることを目指す。

⑶また、教育や心理学関連の分野での文章表現を体験する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: ⑴教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。

思考･判断の観点: ⑴生徒の立場を理解した上で、教師の立場から適切な判断や支援ができる。

関心･意欲の観点: ⑴問題意識を高めることができる。

態度の観点: ⑴日常生活の中で主体的に考えることができる。

技能･表現の観点: ⑴身近な問題に気づき、文章表現ができる。

成績評価方法(総合)

⑴所定以上の出席回数⑵欠格条件⑵、⑵ノートレポート⑵20%⑵、⑶定期試験⑵80%⑵、を資料として評価する。

教科書

心理学からみた教育の世界／藤土圭三⑵監修⑵：北大路書房

参考書

心理学辞典／中島義明ほか⑵編集⑵：有斐閣, 1999

メッセージ

連絡先

tasaki@frontier-u.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001958
開設科目名	教育方法学（教育課程，情報機器及び教材を含む。			単位	2 単位
対象学生	（理・農）			学年	～
担当教員	岸　光城			区分	

授業の概要

高等学校及び中学校の「各教科」と「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいれて学校教育作用の全体構造を概観し、授業における教育方法を具体的に説明する。

授業の一般目標

(1) 高等学校及び中学校の教育課程編成の基本と授業の意義を理解する。
(2) 授業における指導方法の基本を実践事例を通じて学ぶ。
(3) 現代教育方法理論を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：各指導方法がイメージできる。
思考・判断の観点：本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。
関心・意欲の観点：学校の授業に対する問題意識と興味・関心を高めることができる。
態度の観点：将来の授業実践を意識して大学生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。

成績評価方法(総合)

1. 毎回の出欠確認
2. 授業内レポート（数回）
3. 録画授業感想文
4. 最終定期試験

教科書

参考書

メッセージ

少なくとも受講中はまもなく高等学校（中学校）の教師として授業するのだという姿勢で聞き、考えて欲しい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001959
開設科目名	教育方法学（教育課程，情報機器及び教材を含む。			単位	2 単位
対象学生	（人・経）			学年	～
担当教員	岸　光城			区分	

授業の概要

高等学校及び中学校の「各教科」と「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいれて学校教育作用の全体構造を概観し、授業における教育方法を具体的に説明する。

授業の一般目標

(1) 高等学校及び中学校の教育課程編成の基本と授業の意義を理解する。
(2) 授業における指導方法の基本を実践事例を通じて学ぶ。
(3) 現代教育方法理論を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：各指導方法がイメージできる。
思考・判断の観点：本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。
関心・意欲の観点：学校の授業に対する問題意識と興味・関心を高めることができる。
態度の観点：将来の授業実践を意識して大学生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。

成績評価方法(総合)

1. 毎回の出欠確認
2. 授業内レポート（数回）
3. 録画授業感想文
4. 最終定期試験

教科書

参考書

メッセージ

少なくとも受講中はまもなく高等学校（中学校）の教師として授業するのだという姿勢で聞き、考えて欲しい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001964
開設科目名	道徳教育			単位	2 単位
対象学生	〔理〕			学年	～
担当教員	滝沢　潤			区分	

授業の概要

道徳性の発達理論，道徳教育の歴史および現在の位置づけ，実践について講義する。

授業の一般目標

道徳教育に関する基礎的な理論および歴史を理解し，道徳教育をめぐる諸課題について自覚し，実践する能力をつけることを目的とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：道徳性の発達理論，道徳教育の歴史および現在の位置づけ，実践の要点を説明できる。

思考・判断の観点：道徳教育のあり方について発達理論，歴史的変遷の観点から検討し，授業計画を作成できる。

関心・意欲の観点：道徳教育の諸問題について関心をもち，主体的に考えることができる。

態度の観点：道徳教育の諸問題について，論理的，協調的な議論ができる。

成績評価方法(総合)

(1) 授業の中で小テストを行う。

(2) 道徳の時間の指導案を作成し，レポートとして提出する。

教科書

参考書

メッセージ

欠席回数が授業実施回数の３分の１以上に及んだ場合には単位は認められない.

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001965
開設科目名	特別活動			単位	2 単位
対象学生	〔人･経〕			学年	～
担当教員	杉山　直子			区分	

授業の概要

学校教育は大きく教科と教科外の活動に分けることができ、特別活動は教科外活動に位置づく。明治期から発生をした特別活動の前身や、戦後教育の中で発展してきた特別活動の意義を学ぶ。その上で、今日的な教育課題を考え、特別活動を理解し、指導のあり方を学ぶ。さらに、望ましい集団活動のあり方を体験し、その意味を認識する。

授業の一般目標

学校教育の構造を理解できる。学校教育における特別活動の位置づけや目標･内容を学習指導要領をもとに理解できる。望ましい集団活動や人間関係について、具体的に考えようとする。人間としての発達における望ましい教育の在り方について、考察する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:学校教育の構造を理解できる。学校教育における特別活動の位置づけや目標･内容･指導上の留意点を学習指導要領をもとに理解できる。

思考･判断の観点:学校教育や特別活動の役割･目標･内容を、人間発達の視点で考察する。実際に集団活動をする場合に、互いに他者から学び、自分で判断をして、望ましい集団の一員としての役割を考えながら参加する。

関心･意欲の観点:学びの内容や活動に興味を持ち、自分の経験やこれからの教師としての指導に具体的に結びつけようとする。集団活動に意欲的に参加する。

態度の観点:学習集団としての態度の表し方を理解し、「聴く」、「書く」、「話す」、「読む」を思考しつつ行い、意欲的な学習の態度を示す。集団活動に参加する。

技能･表現の観点:「話す」、「書く」は自己表現として、他者にわかりやすくする。

成績評価方法(総合)

授業内レポート(20%)、定期試験(80%)で評価を行なう。なお、2/3 の出席が試験の資格条件である。

教科書

中学校学習指導要領／文部科学省:東山書房, 2008

中学校学習指導要領解説　特別活動編／文部科学省:東山書房, 2008

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001966
開設科目名	特別活動			単位	2 単位
対象学生	〔理･工･農〕			学年	～
担当教員	杉山　直子			区分	

授業の概要

学校教育は大きく教科と教科外の活動に分けることができ、特別活動は教科外活動に位置づく。明治期から発生をした特別活動の前身や、戦後教育の中で発展してきた特別活動の意義を学ぶ。その上で、今日的な教育課題を考え、特別活動を理解し、指導のあり方を学ぶ。さらに、望ましい集団活動のあり方を体験し、その意味を認識する。

授業の一般目標

学校教育の構造を理解できる。学校教育における特別活動の位置づけや目標･内容を学習指導要領をもとに理解できる。望ましい集団活動や人間関係について、具体的に考えようとする。人間としての発達における望ましい教育の在り方について、考察する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:学校教育の構造を理解できる。学校教育における特別活動の位置づけや目標･内容･指導上の留意点を学習指導要領をもとに理解できる。

思考･判断の観点:学校教育や特別活動の役割･目標･内容を、人間発達の視点で考察する。実際に集団活動をする場合に、互いに他者から学び、自分で判断をして、望ましい集団の一員としての役割を考えながら参加する。

関心･意欲の観点:学びの内容や活動に興味を持ち、自分の経験やこれからの教師としての指導に具体的に結びつけようとする。集団活動に意欲的に参加する。

態度の観点:学習集団としての態度の表し方を理解し、「聴く」、「書く」、「話す」、「読む」を思考しつつ行い、意欲的な学習の態度を示す。集団活動に参加する。

技能･表現の観点:「話す」、「書く」は自己表現として、他者にわかりやすくする。

成績評価方法(総合)

授業内レポート(20%)、定期試験(80%)で評価を行なう。なお、2/3 の出席が試験の資格条件である。

教科書

中学校学習指導要領／文部科学省:東山書房, 2008

中学校学習指導要領解説　特別活動編／文部科学省:東山書房, 2008

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001973
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	〔人〕			学年	～
担当教員	HINTEREDER　EMDE　FRANZ			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001974
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	〔経〕			学年	～
担当教員	鍋山　祥子			区分	

授業の概要

現代社会におけるさまざまな問題を取り上げ、グループ毎に報告の後、全員によるディスカッションをおこないます。

その際、社会問題そのものについての知識の習得と同時に、プレゼンのやり方や、討論の進め方についても学びます。

授業の一般目標

1.社会問題への関心を高める

2.ある事象（社会問題やトピック）について、分かり易く説明する技術を習得する

3.ディスカッションを通じて自己表現力を高める

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

毎回の授業での報告およびディスカッションへの貢献度合い、それに加えて前半と後半の 2 回課す小レポートにより評価します。この講義は「演習」ですから毎回出席が単位認定の前提となります。よって4回以上欠席した場合、および自分の報告義務を果たさなかった場合には不合格とします。なお、やむを得ず欠席の場合には、直前になってもかまいませんのであらかじめ連絡をするようにしてください。

教科書

参考書

メッセージ

授業報告においては、グループワークを基本とします。したがって、授業時間外にグループで集まって作業をする必要があります。

連絡先

鍋山Ｅメール：nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp

齋藤Ｅメール：hidetomo@yamaguchi-u.ac.jp

メールを送る際は、件名に【総合演習】○○と名前を付してください。

オフィスアワー

鍋山：水曜日 3/4 限

齋藤：在室中はいつでも可

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022001975
開設科目名	総合演習			単位	2 単位
対象学生	〔理〕			学年	～
担当教員	朝日　孝尚			区分	

授業の概要

教職科目である「総合演習」を各講座の教員が適切なテーマを選んで行う。

授業の一般目標

教職に就いた際には、身近な問題を基に授業を構築することが重要である。身近な様々な話題について、色々な専門分野から簡単な実習を含めて演習を行う。

授業の到達目標

知識・理解の観点:専門でない分野の知識を得て、どのように自分の中で消化して理解できるかが重要である。

思考・判断の観点:一見難しい問題を、どのように他の人に理解できるように話すかは非常に重要である。話す対象に対する考え方とどれくらい専門的な知識を含めるかの判断力が問われる。

関心・意欲の観点:身近な問題に関心を持ち、聞く人に興味を持たせるにはどのように話すかを意欲的に考えることが必要である。

態度の観点:出席と授業に参加する態度が大切である。

技能・表現の観点:他の人に聞いてもらうには、人の興味を引く適切な表現が必要である。

成績評価方法(総合)

授業内レポートまたは授業外レポートにより評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005395
開設科目名	化学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	村上　清文			区分	

授業の概要

無機化学、有機化学、物理化学など、化学領域全般に渡る基礎を、教職現場での理科指導を念頭に置きながら、広く講義する。

授業の一般目標

無機化学、有機化学および物理化学の各領域の基本的な内容を理解するとともに、化学領域の緒内容についての関心を高める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:無機化学・有機化学・物理化学の基礎的知識を理解し、説明できる。

思考・判断の観点:物質の構造やその変化について、化学的な見方ができる。

関心・意欲の観点:化学的諸事象に関心を持つとともに、理科教育の観点からも関心をもつ。

成績評価方法(総合)

各分野毎に、出席、小課題、および、レポートまたは試験により評価し、各分野における評価を総合して評価する。

教科書

参考書

岩波講座現代化学への入門2『物質のとらえ方』／桜井秀樹:岩波書店, 2001 年

基礎化学熱力学／E.B.Smith:化学同人, 1992 年

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005544
開設科目名	社会教育			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	田代　直人			区分	

授業の概要

生涯学習の観点から社会教育を方向付けるとともに，社会教育の各分野の基本的事項と課題に就て説明する．

授業の一般目標

生涯学習に関する基本的事項に就て理解する．しかる後に，社会教育の各分野の基本的事項と課題について理解する．

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

中間試験及び最終試験の結果を中心に評価する．

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005549
開設科目名	国際理解教育概説			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	石井　由理			区分	

授業の概要

国際理解教育という用語ならびに概念を概観したうえで、現在の日本の学校教育における国際理解教育の位置づけを解説する。

授業の一般目標

国際理解教育の歴史、基本概念について理解する。

現在の日本の学校教育と国際理解教育との関連性を、主として政策面から理解する。

自分自身の専門性と国際理解教育の関連性を考える。

授業の到達目標

知識・理解の観点:国際理解教育の概念と歴史的展開について理解できる。

日本の学校教育課程における国際理解教育の位置づけを理解できる。

思考・判断の観点:国際理解教育を自分自身の専門性と関連付けて考察することができる。

技能・表現の観点:国際理解教育という用語、概念及び国際理解教育と学校教育の関連性を説明することができる。

成績評価方法(総合)

3 分の 2 以上出席の受講者について、学期末試験により評価する。

教科書

国際理解教育／永井滋郎:第一学習社, 1989

参考書

平和・人権・環境　教育国際資料集／堀尾輝久・河内徳子:青木書店, 1998

国際理解教育／佐藤郡衛:明石書店, 2001

国際理解と教育実践／坂井俊樹:エムティ出版, 1992

メッセージ

連絡先

教育学部200－1研究室

オフィスアワー

初回授業時に指示

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005595
開設科目名	発達心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	沖林 洋平 [OKIBAYASHI Yohhei]			区分	

授業の概要

人間の発達に関して、その原理や要因、心理学的発達課題、発達段階の特徴などについて、学校、家庭、地域社会など身近な場面で、子どもから高齢者、また障害のある児童生徒の発達や教育の視点も含めて生涯発達の観点に焦点を当てながら概観する。

授業の一般目標

人間の発達について、心理学の視点から概観し、発達段階とその課題、パーソナリティや社会性の発達など、いくつかの側面から理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 自己の深い理解の上に立って、発達心理学に関する知識を確実に吸収する。

思考・判断の観点: 与えられる知識やデータを受動的に受け入れるだけでなく、自ら考え、自らの判断に基づいて理解を深める。

関心・意欲の観点: 日常生活に密接に関連した内容を多く含むことになり、興味・関心の多大な学問として、意欲的に取り組む姿勢を身につける。

態度の観点: 展開される授業を単に受動的に参加するのでなく、積極的な態度で臨むことができる。

技能・表現の観点: 研究のあり方や分析の方法などの基本的な技能について理解し、それを適切に表現できる。

その他の観点: 科学としての「心理学」として位置づける。

成績評価方法(総合)

主として期末試験の成績が評価の対象となるが、提出された2回のレポートの記述が適切であり、かつ出席状況も考慮した上で、総合的に評価される。

教科書

児童心理学　／無藤隆:放送大学出版会, 1998

参考書

メッセージ

十分な予習のもとで積極的に授業に参加して下さい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005601
開設科目名	教育史			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　修			区分	

授業の概要

日本の教育の歴史的展開とそこに現れた理念･思想について講じ，日本の教育の歴史的性格について考える.

授業の一般目標

日本の教育の歴史的展開とそこに現れた理念･思想についての基礎的知識を得る.

日本の教育の歴史的性格について主体的に考えることができる.

授業の到達目標

知識･理解の観点: 日本の教育の歴史，理念，思想についての基礎的内容を説明できる.

思考･判断の観点: 日本の教育の歴史，理念，思想についての性格を考えることが出来る.

成績評価方法(総合)

開設科目名 教育の思想と歴史 単位数 2 単位 担当教官 福田修

開設期 2 年生 後期 開設時限　授業区分 講義

対象学生　備考

授業の概要

日本の教育の歴史的展開とそこに現れた理念･思想について講じ，日本の教育の歴史的性格について考える.

授業の一般目標

日本の教育の歴史的展開とそこに現れた理念･思想についての基礎的知識を得る.

日本の教育の歴史的性格について主体的に考えることができる.

授業の到達目標

　知識･理解の観点:

日本の教育の歴史，理念，思想についての基礎的内容を説明できる.

　思考･判断の観点:

日本の教育の歴史，理念，思想についての性格を考えることが出来る.

授業計画【概要･授業の目標(予定)】

日本の教育の歴史的変遷を概説し，そこに現れた理念と思想および性格について検討する.

各週 項目 内容 授業外指示 授業記録

<第 1 週> 武士の公的教育機関 (1)　武士の公的教育機関 (1)

<第 2 週> 武士の公的教育機関 (2)　武士の公的教育機関 (2)

<第 3 週> 庶民の教育 (1)　庶民の教育 (1)

<第 4 週> 庶民の教育 (2)　庶民の教育 (2)

<第 5 週> 私塾 私塾

<第 6 週> 近世の教育理念･思想 (1)　近世の教育理念･思想 (1)

<第 7 週> 近世の教育理念･思想 (2)　近世の教育理念･思想 (2)

<第 8 週> 近世の教育理念･思想 (3)　近世の教育理念･思想 (3)

<第 9 週> 近代日本公教育の創始 近代日本公教育の創始

<第 10 週> 近代日本公教育定着への模索 近代日本公教育定着への模索

<第 11 週> 近代日本公教育の確立 近代日本公教育の確立

<第 12 週> 近代日本公教育の理念･思想 (1)　近代日本公教育の理念･思想 (1)

<第 13 週> 近代日本公教育の理念･思想 (2)　近代日本公教育の理念･思想 (2)

<第 14 週> 近代日本公教育の理念･思想 (3)　近代日本公教育の理念･思想 (3)

<第 15 週> 日本教育の歴史的性格 日本教育の歴史的性格

成績評価方法(総合) 授業テーマに即して課題を出しレポートを提出させて評価する.
教科書
参考書
メッセージ 授業には無断欠席, 遅刻はしないこと. 遅刻は認めない. 欠席回数が授業実施回数の3分の1以上に及んだ場合は単位は認定されない. 板諸事項以上に積極的にノートを取ること.
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005614
開設科目名	教育の思想と歴史			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　修			区分	

授業の概要

日本の教育の歴史的展開とそこに現れた理念･思想について講じ，日本の教育の歴史的性格について考える.

授業の一般目標

日本の教育の歴史的展開とそこに現れた理念･思想についての基礎的知識を得る.

日本の教育の歴史的性格について主体的に考えることができる.

授業の到達目標

知識･理解の観点: 日本の教育の歴史，理念，思想についての基礎的内容を説明できる.

思考･判断の観点: 日本の教育の歴史，理念，思想についての性格を考えることが出来る.

成績評価方法(総合)

開設科目名 教育の思想と歴史 単位数 2 単位 担当教官 福田修

開設期 2 年生 後期 開設時限　授業区分 講義

対象学生　備考

授業の概要

日本の教育の歴史的展開とそこに現れた理念･思想について講じ，日本の教育の歴史的性格について考える.

授業の一般目標

日本の教育の歴史的展開とそこに現れた理念･思想についての基礎的知識を得る.

日本の教育の歴史的性格について主体的に考えることができる.

授業の到達目標

　知識･理解の観点:

日本の教育の歴史，理念，思想についての基礎的内容を説明できる.

　思考･判断の観点:

日本の教育の歴史，理念，思想についての性格を考えることが出来る.

授業計画【概要･授業の目標(予定)】

日本の教育の歴史的変遷を概説し，そこに現れた理念と思想および性格について検討する.

各週 項目 内容 授業外指示 授業記録

<第 1 週> 武士の公的教育機関 (1)　武士の公的教育機関 (1)

<第 2 週> 武士の公的教育機関 (2)　武士の公的教育機関 (2)

<第 3 週> 庶民の教育 (1)　庶民の教育 (1)

<第 4 週> 庶民の教育 (2)　庶民の教育 (2)

<第 5 週> 私塾 私塾

<第 6 週> 近世の教育理念･思想 (1)　近世の教育理念･思想 (1)

<第 7 週> 近世の教育理念･思想 (2)　近世の教育理念･思想 (2)

<第 8 週> 近世の教育理念･思想 (3)　近世の教育理念･思想 (3)

<第 9 週> 近代日本公教育の創始 近代日本公教育の創始

<第 10 週> 近代日本公教育定着への模索 近代日本公教育定着への模索

<第 11 週> 近代日本公教育の確立 近代日本公教育の確立

<第 12 週> 近代日本公教育の理念･思想 (1)　近代日本公教育の理念･思想 (1)

<第 13 週> 近代日本公教育の理念･思想 (2)　近代日本公教育の理念･思想 (2)

<第 14 週> 近代日本公教育の理念･思想 (3)　近代日本公教育の理念･思想 (3)

<第 15 週> 日本教育の歴史的性格 日本教育の歴史的性格

成績評価方法(総合) 授業テーマに即して課題を出しレポートを提出させて評価する.
教科書
参考書
メッセージ 授業には無断欠席, 遅刻はしないこと. 遅刻は認めない. 欠席回数が授業実施回数の3分の1以上に及んだ場合は単位は認定されない. 板諸事項以上に積極的にノートを取ること.
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005635
開設科目名	教育制度			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐々木　司			区分	

授業の概要

学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、パワーポイント、配付資料等をベースに解説を加えていく。基本的には講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。授業でテキストの全部分を扱うわけではないが、あらかじめ該当する章を読んでおくことが望ましい。

なお、本授業は「教育法規」の発展科目という位置づけになっている。「教育法規」を受講し、単位を取得済みであることが望ましいが、そうでない場合も履修してよい。

授業の一般目標

学生が複眼的な思考方法で、クリティカルに教育の制度を捉え、それを論理的に表現できる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

中間レポートと期末レポート、その他の課題によって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

第1回目の授業（オリエンテーション）で、詳細を説明する。受講希望者多数の場合、受講許可人数を制限することがある。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005638
開設科目名	発達心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	恒吉　徹三			区分	

授業の概要

人が生まれてから死に至るまでの間には，さまざまな出来事が起きます。この生涯にわたる
発達の心理学について講義します。発達の過程は順調であるとばかりは限りません。つまづきもあるものです。時には，不適応の状態に至ることもあるでしょう。学校をめぐる不適応
についても注目されているところです。このような事柄についても講義ではふれていきます。
なお，講義には，障がいのある幼児，児童および生徒の心身発達および学習過程についてもふれます。

授業の一般目標

自らの体験も振り返りながら，日常的な出来事も含めた発達について理解することが目
標です。ふだんは，気づかないでいることを発達視点からとらえなおし，これからの時
代を担う子どもたちや，これまでの時代を担ってきて高齢者の方々，それに今を生きて
いる自分自身について理解するための視点を身につけることが大きな目標です。この目標には，障がいのある幼児，児童および生徒の心身発達および学習過程について説明できることも含んでいます。

授業の到達目標

知識・理解の観点：発達心理学の基礎的な用語や考え方を理解し説明できる。
関心・意欲の観点：日常的な場面においても発達にかかわる事象に関心をもってながめることができる。
その他の観点：私語など講義の進行を妨げる行為があり 3 回の注意を行った場合には以後の講義の受講は認めない。

成績評価方法(総合)

期末試験により評価する。

教科書

キーワードコレクション発達心理学［改訂版］,／子安増生・二宮克美編：新曜社，2004

参考書

対象喪失―悲しむということ,／小此木啓吾：中公新書，1979
0 歳児がことばを獲得するとき,／正高信男：中公新書，1993
ケータイを持ったサル,／正高信男：中公新書，2003
アイデンティティの心理学／鑪幹八郎：講談社現代新書，1990

メッセージ

家族や友達など他者との関係，学校教育の中での自分，将来の自分像など，さまざまな自己の体験も振り返りながら講義に参加してください。
事前学習として，テキストの該当部分を読んでおいてください。事後学習として，講義内容の復習を行い，発展的な文献を読んだり，日常生活のなかでも発達心理学的視点と関心を向けて，とらえてみてください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005677
開設科目名	教育哲学			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　正登			区分	

授業の概要

教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察し、日本における教育哲学研究の動向を踏まえた上で、シュプランガーとシュタイナーの教育哲学を学び、教育の本質的な意味について考察する。

授業の一般目標

(1) 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について考察する。
(2) 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を理解する。
(3) シュプランガーの教員養成論と教育哲学について理解する。
(4) シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1. 教育哲学を学ぶ意義とその学問的性格について説明できる。
2. 明治以後の日本の教育哲学研究の動向と課題を説明できる。
3. シュプランガーの教員養成論と教育哲学について説明できる。
4. シュタイナー学校の教育の特徴とシュタイナーの教育哲学について説明できる。
思考・判断の観点: 1. シュプランガーとシュタイナーの教育哲学について自分の意見を論理的に述べることができる。
2. 今日の教育の諸問題について自分の意見を論理的に述べることができる。
関心・意欲の観点: 1. 教育の本質的な意味に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。
態度の観点: 1. 日常生活の中で教育の諸問題について本質的に考えることができる。
技能・表現の観点: 1. シュタイナー学校の授業を活用して、教育実習で実践できる。
2. シュプランガーの教員養成論を活用し、教育実習で実践できる。

成績評価方法(総合)

筆記試験と授業への出席状況を総合的に判断して評価する。

教科書

シュプランガーの教員養成論と教師教育の課題／西村正登:風間書房, 2008

参考書

メッセージ

シュタイナーやシュプランガーが生きた時代背景や生涯の中で、彼らの教育哲学を生き生きと
把握するように努めて下さい。

連絡先

教育学部・教育哲学研究室
内線:5450
メールアドレス:masaton@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日　12時～12時50分

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005704
開設科目名	特別活動			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022005720
開設科目名	特別活動			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011385
開設科目名	国語史			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

日本語の歴史的変遷について概説する。今年度は、文字･表記に関する問題について講義する。

授業の一般目標

文字･表記に関する日本語の歴史について、基礎的な事項を理解するとともに、日本語について歴史的な観点から見ていく考え方を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 日本語の歴史的変化について概観的に理解できる。

思考･判断の観点: 日本語の歴史的変化について、自ら考えていくことができる。

関心･意欲の観点: 日本語の歴史的変化について興味を持つことができる。

成績評価方法(総合)

期末のレポートによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス:n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp

研究室:教育学部4階

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011425
開設科目名	国語特演Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	村上 林造			学年	～
担当教員	村上　林造			区分	

授業の概要

作品研究を演習形式で行う。受講生はレポート発表を行い、全員で作品について討議する。

授業の一般目標

作品分析の基礎を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：作品分析の基礎知識を身につける。

思考・判断の観点：作品分析に必要な思考力を身につけている。

関心・意欲の観点：作品分析に意欲的に取り組むことができる。

態度の観点：作品分析に真面目かつ熱心に取り組むことができる。

技能・表現の観点：作品分析において必要な表現力を身につけている。

成績評価方法(総合)

授業でのレポート発表と演習への参加態度によって、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設学期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011451
開設科目名	国語特演Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	藤原 マリ子			学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

国語科教育の諸問題について検討する。授業は演習形式で行う。字湯女討議を加えて課題への理解を深めていく。

授業の一般目標

国語科教育の諸問題について理解を深める。研究の基本的技能を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点:国語科教育の諸問題について理解し、あらましを説明できる。

思考・判断の観点:課題について、広い視野から考察を加えることができる。

関心・意欲の観点:国語科教育の諸問題について強い関心をもち、高い問題意識をもつことができる。

態度の観点:課題んいついて積極的に調査し、考察を加えることができる。

技能・表現の観点:自己の見解を口頭や文章で的確に表現することができる。

成績評価方法(総合)

授業における発表内容・参加状況により、評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011452
開設科目名	国語特演Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	吉村 誠			学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

卒論指導

授業の一般目標

卒業論文を書けるようにする

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

発表による

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011453
開設科目名	国語特演Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	岸本 憲一良			学年	～
担当教員	岸本　憲一良			区分	

授業の概要

授業の形式は概ね演習形式で、あるテーマを基に受講生の一人が発表し、そのことについて受講生全員で討議するという形をとることが多い。

授業の一般目標

国語科教育に関する内容について研究を進める。

授業の到達目標

知識・理解の観点：研究分野に関する内容を理解することができる。

思考・判断の観点：諸氏の論にあたり、考察を加えることができる。

関心・意欲の観点：研究分野に関する文献研究、調査研究等にあたることができる。

態度の観点：積極的に授業に参加し、発表することができる。

技能・表現の観点：自己の考察をレポート等にまとめ、発表することができる。

成績評価方法(総合)

発表内容、討議の際の態度等で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011454
開設科目名	国語特演II			単位	2 単位
対象学生	中野 伸彦			学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

日本語についての様々な問題を、発表及びそれに対する討議という形で考えていく。国語特演Ｉを受けて、より詳細な分析を目指す。

授業の一般目標

討議の場を通しながら、日本語をめぐる問題について自ら考えていくことができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。

思考・判断の観点：日本語をめぐる様々な問題について、自ら考察を発展させることができる。

関心・意欲の観点：日本語をめぐる様々な問題について興味を持つことができる。

成績評価方法(総合)

授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部4階

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011455
開設科目名	国語特演Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	南部 英彦			学年	～
担当教員	南部　英彦			区分	

授業の概要

漢文学の授業。授業の形式は概ね演習形式。受講生が自分でテーマを定め、発表
し、それを受講生全員で討議する。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、そのテーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方･発表の仕方を習得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 自分の調査する事柄について、しかるべき知識と理解を得ることができるか。

思考･判断の観点: しかるべき根拠に基づきながら、穏当に思考し、適切に判断することができるか。

態度の観点: 調査の姿勢、発表の態度が誠実であるか。

又、他の発表者に対して、真摯な態度で意見を述べることができるか。

成績評価方法(総合)

基本的には、発表内容をもとにして、テーマ設定における主体性の有無、資料調査の綿密さ、資料読解の適切さ等の観点から総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011465
開設科目名	国語特論Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	藤原 マリ子			学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

各自の研究テーマに即して、研究の深化に繋がる指導･助言を行う。研究成果を論文にまとめるように支援する。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、課題への理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめかた、発表の仕方を修得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:各自の課題の先行研究の概要を説明できる。

思考･判断の観点:課題について多角的観点から考察を加えることができる。

関心･意欲の観点:課題に強い関心を持ち、問題意識をもって研究活動を行うことができる。

態度の観点:主体的、かつ積極的に課題に取り組むことができる。

技能･表現の観点:自己の見解を口頭や文章で的確に表現することができる。

成績評価方法(総合)

授業の中での発表内容により評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011481
開設科目名	国語特論Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	吉村 誠			学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

卒業論文指導

授業の一般目標

卒業論文を完成させる

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

発表内容による

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011482
開設科目名	国語特論Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	岸本 憲一良			学年	～
担当教員	岸本　憲一良			区分	

授業の概要

国語科教育の内容に関して、自己の研究テーマに沿って研究を進める。

授業の一般目標

自己の研究テーマに沿って、文献研究、調査研究等にあたり、考察を加えることができる。

授業の到達目標

思考・判断の観点:諸氏の論をそのまま受け入れるのではなく、自分なりの考察を加えることができる。

成績評価方法(総合)

発表、レポート、討議への参加態度等により、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011483
開設科目名	国語特論Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	南部 英彦			学年	～
担当教員	南部　英彦			区分	

授業の概要

各自の設定したテーマに応じて、調査･発表の仕方及び論文作成の方法について指導を行う。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて、必要な調査を行い、その結果を論文にまとめることを通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方･発表の仕方を習得する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 自分の関心事項について、必要最低限の知識･理解を得ることができる。

思考･判断の観点: しかるべき根拠に基づいて、穏当に思考し判断することができる。

態度の観点: 発表において真摯な態度であるか。受講時に、真摯な態度で意見を述べることができるか。

成績評価方法(総合)

テーマ設定が適否、又、資料調査･資料読解の出来不出来、取り組みの姿勢を総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011484
開設科目名	国語特論II			単位	2 単位
対象学生	中野 伸彦			学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

国語特論Ｉを受け、各自の選んだテーマについて、発表及びそれに対する討議という形で考えていく。

授業の一般目標

討議の場を通して、日本語をめぐる問題について自ら考えていくことが出来る。

授業の到達目標

知識・理解の観点：対象とするテーマに基づいた資料の調査方法や他の受講生との討議内容を理解することができる。

思考・判断の観点：日本語をめぐる様々な問題について、自ら考察を発展させることができる。

関心・意欲の観点：日本語をめぐる様々な問題に興味を持つことができる。

成績評価方法(総合)

授業時の発表やそれについての討論への参加状況により評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部4階

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011512
開設科目名	国文学演習III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	村上　林造			区分	

授業の概要

近代小説をテキストにして、討議を中心に授業を進める。学生諸君が自らの解釈を元に、主体的積極的な姿勢で授業に参加してくれることを望む。

授業の一般目標

客観的な作品分析を元に、小説の内容を把握する力を養う。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

作品ごとのレポート、討論への参加態度、期末レポート等を総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022011561
開設科目名	国語特論II			単位	2 単位
対象学生	村上 林造			学年	～
担当教員	村上　林造			区分	

授業の概要

作品研究を演習形式で行う。受講生はレポート発表を行い、全員で作品について討議する。

授業の一般目標

作品分析の基礎を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：作品分析の基礎知識を身につける。

思考・判断の観点：作品分析に必要な思考力を身につけている。

関心・意欲の観点：作品分析に意欲的に取り組むことができる。

態度の観点：作品分析に真面目かつ熱心に取り組むことができる。

技能・表現の観点：作品分析において必要な表現力を身につけている。

成績評価方法(総合)

授業でのレポート発表と演習への参加態度によって、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022015391
開設科目名	漢文学講読			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	南部　英彦			区分	

授業の概要

中国の文学･思想･歴史に関わる古典の文章をいくつか選んで、漢文訓読法を講じつつ、出席者全員で丁寧に読解する。

授業の一般目標

(1)精確な漢文訓読･現代語訳を行うための知識･技術を養う。そのために、まずは漢和辞典を自在に引けるようにする。

(2)中国古代の物の考え方や価値観についての関心･教養を深める。

授業の到達目標

知識･理解の観点:適度な訓読の力を備え、文章を精確に理解しているか。

思考･判断の観点:漢文につき、その内容に即しつつ、自分なりの批判･評価ができるか。

態度の観点:発表態度が真摯であるか。受講者として、真摯な態度で意見を述べることができるか。

成績評価方法(総合)

授業中での発表に基づく平常点と、学期末のレポートとを勘案して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022015420
開設科目名	書道Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	小倉　菊太郎			区分	

授業の概要

行書の用筆、基本点画、結体を学習する。字配り、大きさに気をつけて、行書2～6字を一紙に書作する。

授業の一般目標

行書の基本的な書写能力を高める。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

・書は実際に書けるということが必要であるので、日頃の練習態度、姿勢、筆使い等を評価す る。

・提出作品採点(相対評価)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022015471
開設科目名	国語学特講Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

本講義では，私達が日頃意識していない日本語の音声について，様々な身近な現象を取り上げつつ解説する。

授業の一般目標

(1)音声研究の基本的な事項を理解できる。

(2)音声研究の方法論を新たなデータに適用できる。

(3)普段使っていることばの音声現象を客観的に認識できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 音声研究の基本的な事項を説明することができる。

思考･判断の観点: 1. 音声研究の方法論を新たなデータに適用できる。

2. 法則性を一般化できる。

関心･意欲の観点: 1. 普段意識していない自分のことばの音声現象を主体的に観察できる。

成績評価方法(総合)

(1)毎回授業の終わりにミニッツペーパーを課す。

(2)学期末にレポートを課す。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

常に身近なことばの音声を意識しておいて欲しい。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022015496
開設科目名	国文学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

枕草子を章ごとにグループで発表する。

授業の一般目標

古文とその内容を理解する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

発表と出席、レポート

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022015557
開設科目名	国文学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

芭蕉の『おくのほそ道』を読んでいく。はじめに基礎的事柄について概説し、次いで、全員で分担して演習発表を行っていく。先行文献を比較参照し、問題点を洗い出して考察を加え、資料を用意して分かりやすく発表し、討議・批評を加える一連の学習を通じて、古典文学研究の基礎的技能の修得を図る。

授業の一般目標

1・作品・作者・時代背景などについて知るとともに、紀行文としてのユニークな特質を魅力を理解する。

2・古典文学研究の基礎的技法を習得する。

3・生涯にわたって古典に親しむ態度を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：作品や作者について理解する。

思考・判断の観点：作品の特質や問題点を指摘することができる。

関心・意欲の観点：古典文学への関心をもつことができる。

態度の観点：生涯にわたって古典に親しむ態度を身につける。

技能・表現の観点：自分の見解を口頭や文章で的確に表現することができる。

成績評価方法(総合)

演習発表の内容、毎回提出する小レポート、期末のレポートにより評価する。

教科書

芭蕉　おくのほそ道／萩原恭男：岩波文庫

参考書

メッセージ

連絡先

mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022015563
開設科目名	国語学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

過去の日本語を記録した資料を読みながら、過去の日本語のあり方、あるいは、それと比べた場合の現代の日本語のあり方について考えていく。

授業の一般目標

資料を基に、日本語について歴史的に考えていく方法を学ぶ。

授業の到達目標

思考・判断の観点：資料に基づいて、歴史的観点から日本語について自ら考えることができる。

関心・意欲の観点：歴史的観点から、日本語について考えていくことに興味を持つことができる。

成績評価方法(総合)

授業時の発表や討論への参加状況による。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部4階

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022015709
開設科目名	国語実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

文学作品の舞台等、国語科の内容に関わりのある土地を訪れる。日程は、おおよそ2泊3日で、11月に実施の予定(詳しい日程、訪れる土地等については決まり次第、掲示等で知らせる)。

授業の一般目標

国語科の内容に関わりのある土地を訪れ、土地の風土やことば、文化財等に実地に触れることを通して、内容に対する理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:訪れた土地に関する知識を得ながら、その土地と関わる文学作品・ことば等に対する理解を深める。

思考・判断の観点:実地の経験に基づき、その土地と関わる文学作品・ことば等に対して自ら考える機会を持つ。

関心・意欲の観点:実地にその土地を訪れることで、その土地と関わる文学作品・ことば等に対して関心を持つ。

成績評価方法(総合)

授業への参加態度及びレポートによって評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス:n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp
研究室:教育学部4階

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021374
開設科目名	社会科特別研究ＢⅠ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

3年前期におこなわれる社会科教育の各演習科目に引き続き，卒業研究に向けた個別的な指導を行う。

授業の一般目標

履修者の興味や関心に基づいて，個別の研究課題に取り組み，講義時間中の発表や討論，作業などをへて，以下の能力や知識を身につけることを目指す。(1) 関心領域に対する先行研究の成果を吸収し，理論的な基礎を構築するとともに方法論などを吸収する。(2) 自らの問題意識を深めるとともに，それを明確にし，研究対象を設定する。(3) 研究対象に関する理論的実証的アプローチに着手する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：先行研究の成果を吸収する。

思考・判断の観点：研究対象に対して，客観的にまた，批判的にとらえられる視点を醸成する。

関心・意欲の観点：自らの問題意識にたいして，積極的であること。

態度の観点：自身の研究に対して真摯に取り組むとともに，クラスメイトの研究に対しても充分な関心と配慮をもとめる。

技能・表現の観点：プレゼンテーションの技術，発表資料，ハンドアウト，パワーポイントなどの作成術を体得する。

成績評価方法(総合)

演習形式での評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

社会科教育の学生の卒論指導を前提とした授業である。履修にあたってはそれぞれの演習科目を受講していることが前提となる。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021386
開設科目名	人文地理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	荒木　一視			区分	

授業の概要

実際の地理教材を題材にして，地理学的な思考法について講義する。なお，講義には授業の前半を充て，後半は質疑の時間に当てる。

授業の一般目標

地理教材の客観的な検討を通じて，地理学におけるの題材の取り上げ方についての理解を深める。また，その作業を通じて地理学的なセンスと題材を処理する技術の体得を目指す。

授業の到達目標

知識・理解の観点：教科書を含めた地理教材に関する問題点の認識を持つ。

思考・判断の観点：地理教材に対して客観的な評価を下す能力を養う。

関心・意欲の観点：実際に地理学の題材を取り上げ，その処理能力を身につける。

成績評価方法(総合)

授業で取り上げた題材をもとにした試験を行う。なお，毎回の授業時の討論の内容も評価に加える。

教科書

小学生に教える「地理」～先生のための最低限ガイド／荒木一視・川田力・西岡尚也：ナカニシヤ出版，2006

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021398
開設科目名	社会科特別研究ＡⅠ			単位	２単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

3年前期におこなわれる社会科教育の各演習科目に引き続き，卒業研究に向けた個別的な指導を行う。

授業の一般目標

履修者の興味や関心に基づいて，個別の研究課題に取り組み，講義時間中の発表や討論，作業などをへて，以下の能力や知識を身につけることを目指す。(1) 関心領域に対する先行研究の成果を吸収し，理論的な基礎を構築するとともに方法論などを吸収する。(2) 自らの問題意識を深めるとともに，それを明確にし，研究対象を設定する。(3) 研究対象に関する理論的実証的アプローチに着手する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：先行研究の成果を吸収する。

思考・判断の観点：研究対象に対して，客観的にまた，批判的にとらえられる視点を醸成する。

関心・意欲の観点：自らの問題意識にたいして，積極的であること。

態度の観点：自身の研究に対して真摯に取り組むとともに，クラスメイトの研究に対しても充分な関心と配慮をもとめる。

技能・表現の観点：プレゼンテーションの技術，発表資料，ハンドアウト，パワーポイントなどの作成術を体得する。

成績評価方法(総合)

演習形式での評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

社会科教育の学生の卒論指導を前提とした授業である。履修にあたってはそれぞれの演習科目を受講していることが前提となる。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021411
開設科目名	日本史Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森下　徹			区分	

授業の概要

日本史を通史的に概観する（近世から近代）

授業の一般目標

日本史を通史的な把握すること（近世から近代）

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

中間･期末テストおよび小テストの合算

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021462
開設科目名	外国史Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岩崎　好成			区分	

授業の概要

1930年代前半のドイツの歩みをたどりながら、1. ファシズム・自由民主主義という概念を<国のかたち>という巨視的なレベルでとらえ、2. その意味内容の把握に関しては、中学生に説明できるくらいに徹底して平明な形に解きほぐすことを試みる。また、3. ファシズム史学習から史実以外に何が学べるかを検討することで、歴史学習の基礎を固める一助とする。

授業の一般目標

1. 国家形態の転換という視座の獲得
2. 全体主義・自由主義・公共・公正などの概念の理解
3. 歴史学習の意義理解

授業の到達目標

知識・理解の観点：講義内容のおおよそを理解できる。

思考・判断の観点：資料や概念等を理解し、適切に説明できる。

授業で示された考え方や視点を応用することができる。

関心・意欲の観点：推論や仮説構築に意欲的に取り組むことができる。

成績評価方法(総合)

中間・期末レポート（講義内容の再現や応用）と、授業内レポート・小テスト（・質疑応答）で評価する。3回欠席すると成績評価の対象にはならない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021521
開設科目名	社会科基礎演習A			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	外山　英昭			区分	

授業の概要

山口大学周辺地域や山口市を対象としながら、フィールドワークに基づく地域学習の基本的方法を学ぶ。地理学･歴史学･社会学･教育学などを主たる方法とするグループに分かれ、グループ単位で地域調査を進めてゆく。

授業の一般目標

山口大学周辺や山口市で実際にフィールドワークを行い，その企画や手法についての実践的な能力を身につける。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

発表会での報告および報告書の内容。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021653
開設科目名	哲学倫理学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021663
開設科目名	地域自然地理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	貞方　昇			区分	

授業の概要

日本人が目にしている自然景観と呼ばれるものが、どのようにして歴史的に形成されてきたかを知り、その意義を捉え直す。

授業の一般目標

歴史的に形成されてきた自然景観をおもに自然地理学的な切り口から考察し、地誌的な理解に接近する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:人間の歴史的な自然への働きかけを、その時代の技術や制度の仕組みとともに整理して理解できるようにする。

思考・判断の観点:大縮尺地図に描出されている歴史的な人間活動の証拠を見出し、その意味を類推し、応用できるか。

関心・意欲の観点:「自然景観」に潜む歴史的な人間の営みに地図等を用いてアプローチすることに知的な関心を有するか。

技能・表現の観点:授業の中での地図作業により、説明しようとする事柄を他の人に示せるように表現できるか。

成績評価方法(総合)

授業中の地図作業や課題発表、期末試験等を複合して評価する。

教科書

参考書

土地に刻まれた歴史（岩波新書）／古島敏雄：岩波書店, 1967

歴史時代の地形環境／日下雅義編：古今書院, 1980

中国地方における鉄穴流しによる地形環境変貌／貞方　昇：渓水社, 1996

平野の環境考古学／高橋　学：古今書院, 2003

遺跡の環境考古学／外山秀一：古今書院, 2006

メッセージ

私たちが「自然」と思っている身の回りの景観が、人間による長い間の自然への働きかけの結果であることの意義を大縮尺地図を用いて、また大学周辺の土地景観を実際に見て回ることにより、具体的に考えてゆきたい。

連絡先

sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

火曜日 11:50～12:50

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021695
開設科目名	地理学巡検			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	貞方　昇			区分	

授業の概要

地理学的な野外調査の方法を会得する。

授業の一般目標

地域を実際に、事前の準備をした上で訪れ、関係の人々、関係機関、諸計測、聞き取りなどを行い、調査報告を作る。社会科教員としての資質を高めるため、地理以外の問題関心をも取り込みながら調査する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

巡検にむけてのどのような準備にもとづき、実際にどのような現地調査が行われ、それが発表物としてどのようにまとめられ、いかに的確に発表されたかを総合的に判断し、評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

sadakata@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

火曜日 11:50～12:50

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022021705
開設科目名	社会調査論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　寛子			区分	

授業の概要

社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。

授業の一般目標

社会調査についての知識、技法について学ぶ。特に、調査票の作成、サンプリング、基礎的な集計などの知識・技法の習得を目指す。

授業の到達目標

知識・理解の観点：社会調査についての基本的な知識、技法について理解できる。

思考・判断の観点：社会調査に関する基礎的な知識の習得を踏まえて、調査のあり方について検討できる。

関心・意欲の観点：社会調査のもつ意義を理解し、現代社会を分析する手段としての社会調査に関心をもつ。

態度の観点：他者と協力して作業することができる。

技能・表現の観点：調査の企画、実施、分析にいたるまでの基礎的な技法を身につけている。

成績評価方法(総合)

定期試験　50%

授業内レポート(毎回提出)　20%

宿題・授業外レポート　30%

教科書

参考書

社会調査へのアプローチ／大谷信介他：ミネルヴァ書房, 2005

メッセージ

レポート未提出者や欠席数が一定程度を超える者は期末試験受験の資格をもたない。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022025430
開設科目名	宗教学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

東西の宗教（主に仏教とキリスト教）を比較することによって、「宗教とは何か」という
ことを明らかにする。

授業の一般目標

主に仏教とキリスト教の基本的知識を習得し、それを通して宗教に対する姿勢を獲得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：仏教とキリスト教の教えについての基礎的知識を得ること。

思考・判断の観点：宗教に対する正しい思考・判断力を得ること。

関心・意欲の観点：宗教に対する関心を深めること。

態度の観点：人生に対する真摯な態度を得ること。

成績評価方法(総合)

毎回のレポートと最終試験を中心に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022025558
開設科目名	経済政策(国際経済を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

経済がグローバル化しているなかで、われわれは日々の生活において、国内のみならず、国外の経済の動向を無視できない状況にある。社会においてどのように経済が動いているのか、それをどのように見るかは、重要な視点である。本授業では、経済学の基礎理論を用いて、経済学的な視点から社会を見る力を養うとともに、社会をより望ましい状況にするために、どのような対応が考えられるのかを皆で考えていく。

授業の一般目標

経済学の基本的な考え方を用いて国内外で起きている社会問題を分析し、なぜそれが起きてしまったのか、それが起きないためにはどうしたらよいかについて、意見を述べることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:社会的余剰、インセンティブの考え方を説明できる。

思考・判断の観点:社会の様々な問題について経済学的な視点で分析することができる。

関心・意欲の観点:国内外で起こっている社会問題の背景について広く関心を持つ。

成績評価方法(総合)

試験、授業中の演習問題により採点を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022025572
開設科目名	現代法(国際法を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松原　幸恵			区分	

授業の概要

現代日本における法的問題を、特に情報化社会の観点から考察する。

授業の一般目標

今日の情報化社会における様々な問題を法学的思考によって捉える力を身につける。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

試験を主体に、授業中の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022031399
開設科目名	数学講究III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐藤　好久			区分	

授業の概要

解析学、確率・統計学周辺の本をテキストとして、輪読形式で受講生の発表学習を行う。

毎回、発表力と表現力を涵養しながら、数学的素養と数学的考え方を身に付けさせる。

更に、小・中学校教師として必要な、数学に関する内容を生徒に教えることができる発表力・表現力を育成する。

授業の一般目標

発表のための準備（予習、復習）により、発表力と表現力を涵養しながら、数学的素養と数学的考え方を学ぶ。

小・中学校教師として必要な、数学に関する内容を生徒に教えることができる発表力・表現力を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：テキストの内容を正しく理解し、それを使って正しく計算をすることができる。

思考・判断の観点：効果ある発表となるように、内容・構成の仕方を再構築することができる。

態度の観点：発表を担当する際の準備をする。

意見発言等により、授業に参加する。

技能・表現の観点：数学に関する内容の発表力、表現力を十分に発揮することができる。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度、発表力、表現力などから総合的に評価する。

出席は欠格条件とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022035432
開設科目名	数学講究Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	笠井　伸一			区分	

授業の概要

代数学周辺のテキストを用いてセミナー形式で授業を行い、
数学的な考え方を育成する。
発表を担当する学生自らが、テキストの内容に対する考察を、
他の受講生なり教員の目にさらすことにより、
またそれを受講生が批判することにより、理解や考えを深めていく。
併せて、小･中学校教師として必要な、数学に関する内容を
生徒に教えることができる発表力、表現力を育成する。

授業の一般目標

代数学に関連するテキストを用いて、輪講形式で授業を行い、
数学的な考え方を学習する。
小･中学校教師として必要な、数学に関する内容を
生徒に教えることができる発表力、表現力を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:テキストの数学に関する内容を正しく論理的に理解する。
思考･判断の観点:発表を担当する際には、理解できている部分と理解できない部分を明確に判断する。
関心･意欲の観点:授業の復習を毎週したうえで、授業に意欲的に参加する。
態度の観点:発表を担当する際には十分に準備を行う。
他者の発表の際には意見･アドバイス等により積極的に授業に参加する。
技能･表現の観点:テキストの数学に関する内容を論理的に整理して発表し、
他の受講者に理解できるように表現する。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度、
発表を担当した際の表現内容、
期末試験の結果、
以上をもとにして総合的に評価する。
欠席状況は欠格条件として評価に用いる。

教科書

参考書

メッセージ

受講希望者が多いときは、必修の者を優先し、
残りは1年前期の数学の単位を取得した者を優先して
その中から抽選で選びます。

連絡先

オフィスアワー

テキストの内容等について、わからない事･質問等がある人は、
水曜日の13時から18時頃に研究室に来て下さい（但し会議の時間は除きます）。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022035444
開設科目名	数学講究Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	飯寄　信保			区分	

授業の概要

代数学についてのテキストを輪読する。

授業の一般目標

数学等の専門書を読む力を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点: テキストを読み理解し、他人に説明できる力を養う。

態度の観点: 積極的に課題に取り組み問題解決できるようになる。

成績評価方法(総合)

テキストの理解度及び、輪読の際のプレゼン等を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

授業形態として輪読形式をとるので無責任に欠席をすると他の授業を受けている学生に迷惑がかかります。責任ある受講をしてください。

連絡先

飯寄研究室（教育 286 室）

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022035499
開設科目名	幾何学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐藤　好久			区分	

授業の概要

「距離」や「近さ」の概念は小学校、中学校の算数・数学の学習内容でもある。当講義では、現代数学での基礎概念である距離空間（「距離」が導入された集合）について講義する。さらに、距離空間を抽象化した位相空間についても講義し、位相空間としての幾何学の考え方を学習する。

授業の一般目標

ユークリッド的距離空間を中心に、距離空間の基本的概念を理解する。これにより、ユークリッド空間内の図形の位相的性質について論じることができるようになる。また、これらを一般化した距離空間や抽象化した位相空間について理解し、現代数学の立場から幾何学を考察できるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：距離関数を用いて、開集合や閉集合、コンパクト性や連結性などの基本的な事柄を論じることができる。ユークリッド空間内の図形を位相幾何学的に調べることができる。

思考・判断の観点：具体的な空間から抽象的な空間への高度な抽象化を理解することができる。

関心・意欲の観点：日常生活の中にある幾何学的現象を位相幾何的立場から説明することができる。

技能・表現の観点：距離関数を用いて、開集合や閉集合、コンパクト性や連結性などの基本的性質を導くことができる。演習問題などの解答を論理正しく述べることができる。

成績評価方法(総合)

授業中の演習と小テストの成績、授業外レポート、および、中間試験・定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

高度な抽象化の理解を必要とするので、「集合論Ⅰ」、「集合論Ⅱ」を履修しておくことが望ましい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022035513
開設科目名	解析学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	飯寄　信保			区分	

授業の概要

解析学Ⅰに引き続き微積分学の基礎について解説する。

授業の一般目標

微分積分学においての基本的演算を正確に行うことができるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:多変数関数の微分・積分の基本的概念を説明することができる。微分・積分の計算が正しくできる。多変数の関数の性質を微分積分を用いて調べることが出来る。

思考・判断の観点:基本的な定理を正しく説明することができ、正しく使うことができる。

技能・表現の観点:多変数関数の微分・積分の計算が正確にできる。

成績評価方法(総合)

授業中の演習、小テストの成績、授業外レポート、および、中間試験・定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

飯寄研究室（教育 286 室）

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022035545
開設科目名	代数学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北本　卓也			区分	

授業の概要

代数学Ⅰの単位を取得していることを前提にして、現代数学の基本である線形代数学について解説をする。

授業の一般目標

代数学Ⅰで学んだ行列の計算法は理解していることを前提にして、ベクトル空間と線型写像に関する線形代数の基礎的内容を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:抽象的な概念を理解する能力。

成績評価方法(総合)

テスト、演習の結果と出席状況をもとに、総合的に判断する。

教科書

参考書

メッセージ

再試験はしませんので、しっかり試験準備してください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022035564
開設科目名	グラフ・ネットワーク理論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	葛　崎偉			区分	

授業の概要

グラフの基本定義、性質から、通信ネットワークにおける経路決定問題とそのアルゴリズムまで講義する。

授業の一般目標

グラフ・ネットワークの理論、またそれに基づいたネットワーク問題のモデル化とその解決のためのアルゴリズムの設計についての基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、レポートおよび試験で評価する

教科書

グラフ理論入門／R.J.Wilson,訳者:西関:近代科学社, 2001

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022035579
開設科目名	計算機概論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

計算機を利用するための基本ソフトとして UNIX が広く利用されている。この授業では、UNIX の基礎的な利用法を習得する。さらに、数式を多く含んだ文書を作成するための TeX の利用法を学ぶ。

授業の一般目標

次の 3 項目を目標とする。(1)UNIX 上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること、(2)簡単なシェルプログラムが作成できるようになること、(3)TeX を用いて数式･表･グラフ･図を含んだ文書を作成できるようになること。

授業の到達目標

知識･理解の観点:UNIX や TeX の考え方を理解し、利用法を習得すること。

思考･判断の観点:C Shell プログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。

関心･意欲の観点:UNIX や TeX の利用法について興味を持つこと。

成績評価方法(総合)

毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書

参考書

LATEX2 ε 文典／生田誠三:朝倉書店, 2000

メッセージ

計算機概論Ⅲと同時に履修のこと。また、履修にはノートパソコンが必要。

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 13 時～15 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022035596
開設科目名	計算機概論III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

計算機を利用するための基本ソフトとして UNIX が広く利用されている。この授業では、UNIX の基礎的な利用法を習得する。さらに、数式を多く含んだ文書を作成するための TeX の利用法を学ぶ。

授業の一般目標

次の 3 項目を目標とする。(1)UNIX 上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること、(2)簡単なシェルプログラムが作成できるようになること、(3)TeX を用いて数式･表･グラフ･図を含んだ文書を作成できるようになること。

授業の到達目標

知識･理解の観点:UNIX や TeX の考え方を理解し、利用法を習得すること。

思考･判断の観点:C Shell プログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。

関心･意欲の観点:UNIX や TeX の利用法について興味を持つこと。

成績評価方法(総合)

毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書

参考書

LATEX2 ε 文典／生田誠三:朝倉書店, 2000

メッセージ

計算機概論Ⅱと同時に履修のこと。また、履修にはノートパソコンが必要。

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 13 時～15 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022035616
開設科目名	集合論Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	笠井　伸一			区分	

授業の概要

集合論Ⅰの履修を前提に、離散数学の中から話題を選び解説する。

授業の一般目標

集合論Ⅰの学習をもとに、離散数学のいくつかの話題について学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:離散数学的思考法を理解する。

思考・判断の観点:離散数学的計算法を実行できる。

関心・意欲の観点:授業の復習を毎週したうえで、毎回の授業に意欲的に参加する。

わらないこと、疑問点は授業中やオフィスアワーの時間に積極的に質問する。

態度の観点:演習問題・宿題の問題を解き、授業において積極的に解答する。

他の学生の解答の際には、意見・アドバイス等により積極的に授業に参加する。

技能・表現の観点:演習問題、宿題の解答においては、他の受講生が理解できるように表現できる。

試験においては、解答を読んでわかるように記述する。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度、

問題の解答とその内容、

期末試験の結果、

以上をもとにして総合的に評価する。

欠席状況は欠格条件として評価に用いる。

教科書

参考書

メッセージ

積極的に授業に参加する人を高く評価します。

演習問題を解き、授業中に解答するようにして下さい。

据わっているだけでは評価されません。

積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。

連絡先

オフィスアワー

水曜日の13時から18時頃まで。

わらないこと、疑問点は積極的に質問して下さい。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022041400
開設科目名	化学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	村上　清文			区分	

授業の概要

化学およびその関連分野を対象として、学生自身で興味ある課題を設定し（比較的短期間で解決可能なものを設定）、文献調査、企画、準備、実験・調査、報告書の作成および発表を行う。課題設定を始めとして、各段階における指導を行う。

授業の一般目標

課題の設定および実験目的設定のポイント、その後の準備・実施段階において種々の場面で必要になる判断の仕方、および、まとめと発表の仕方についての基本概要を理解・身につけ、問題解決の力を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：設定課題に関する基礎的知識を理解し、説明できる。

思考・判断の観点：設定課題に関する実験・調査結果について、適切な分析や評価ができる。

関心・意欲の観点：設定課題に関連する事象に関心を持つ。

態度の観点：積極的に課題に取り組むことができる。

技能・表現の観点：1. 設定課題遂行に必要な実験・調査技術を体得し実行することができる。

2. 結果を口頭発表およびレポートとして表現することができる。

成績評価方法(総合)

出席、課題への取り組み方、レポートおよび発表内容を基に、総合的に評価する。

教科書

化学実験書／山口大学教育学部化学教室編, 2004 年

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022041412
開設科目名	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	糸長　雅弘			区分	

授業の概要

物理学における基礎的な分野から物性、光、音、電磁気に関する 11 テーマの実験を行い、実験結果を解析しレポートで報告する。また、コンピュータを活用し物理学の原理を理解する。

授業の一般目標

物理学実験によって、基礎的な物理分野における原理･概念を確認し、理解することができるようになる。得られた結果を検討考察し、報告することによって、原理･概念について説明することができるようになる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:実験の目的･原理を理解することができる。実験指針に基づき仮説をたて、実証することができる。

思考･判断の観点:原理と実験結果とを関連づけて、その実験の妥当性を検証することができる。

関心･意欲の観点:本授業で行った内容と、小･中学校で扱われている項目･実験を比較検討し、小･中学校でできる実験を組み立てることができる。

態度の観点:実験書だけでなく、既習事項や参考書により、実験をより理解し、同テーマに取り組んでいる者と相互に教示し、協力することができる。

技能･表現の観点:実験書で扱われる実験機器を操作することができる。

成績評価方法(総合)

各テーマ毎にレポートを、期限（2週間）内に提出すること。欠席の場合は適宜補講を行う。出席、実験への取り組み方、レポートによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022041426
開設科目名	地学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	武田　賢治			区分	

授業の概要

文献検索、文献講読、実験機器の操作、野外実験などの実践的演習を行う。

授業の一般目標

地学分野の基礎的な概念を学ぶとともに、問題解決のための研究手法を見に付ける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：地学分野の基礎的概念・事項についての知識と理解を深める。

思考・判断の観点：地学的なものの見方（とくに時間・空間概念）を身に付ける。

関心・意欲の観点：身近な地学現象に興味・関心を抱き、探求しようとする態度を身に付ける。

態度の観点：前向きに授業・演習等に取り組むことができるようになる。

技能・表現の観点：問題解決のための観察力・実験技術・機器操作法、プレゼンテーション能力を身に付ける。

その他の観点：野外調査や各種実験を自らが企画できるようになる。

成績評価方法(総合)

レポート70％、授業態度・授業への参加度20％、プレゼンテーション10％の評価割合で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022041488
開設科目名	地学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	武田　賢治			区分	

授業の概要

中学校理科天文分野の基礎的事項とともに、新しい宇宙観･惑星像について解説する。

授業の一般目標

天文分野で必須の空間概念を修得する。宇宙、恒星、太陽系天体に関する基礎事項を理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 天体の位置の表し方や運動を説明できる。

2. 宇宙、恒星、太陽系天体の様子や形成過程などを説明できる。

思考･判断の観点: 1. 天体の位置を予測できる。

2. 天体の運動を分析的に考えることができる。

関心･意欲の観点: 日常生活の中で、天文現象に関心をもつ。

成績評価方法(総合)

宿題(課題) 15%、期末試験85%の評価割合で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

takeda@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

特に指定しない

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022041554
開設科目名	地史学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	千々和　一豊			区分	

授業の概要

46 億年にも及ぶ地球表層の歴史はどのようにして編まれ、どのような特徴をもっているのだろうか。地史を編む情報源（地層、岩石、化石など）の特徴とそれらの基本的な見方を学習するとともに、変動帯日本列島の形成・地史について学ぶ。

授業の一般目標

地球誕生より地質時代を通して地球上に起こった出来事（地史）を理解するとともに、
地史の編み方、新しい地球観の基づく地球の姿について理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1.地史を編む方法について説明できる。
2.地球史における主要な出来事とその背景を説明できる。
3.日本列島の成り立ちを説明できる。
思考・判断の観点：地史に興味を持ち、local な視点だけでなく、global な視点から地史を考えることができる。
関心・意欲の観点：地史の理解を通して、自然の事物、日本列島の特徴、地球環境、未来の地球像について関心を広げ、問題意識を高めることができる。
態度の観点：地史に関して様々な情報を提供する自然物に興味関心をもち、自然物を大切に扱う態度を育てる。

成績評価方法(総合)

課題レポート、試験、出席態度を総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

chijiwa@yamaguchi-u.ac.jp　千々和　研究室：教育学部４階

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022041603
開設科目名	自然科学特論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	武田　賢治			区分	

授業の概要

担当教官がそれぞれの専門に即したテーマを提示する。学生の興味･関心に応じて、
教官と相談の上、主体的にテーマを設定することも可。

授業の一般目標

物理、化学、生物、地学のいずれかの分野を選択し、専門的テーマを掘り下げて研究
し、理解を深める。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

それぞれの担当教官が総合的に評価する。下の評価割合はを基準とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022041607
開設科目名	物理学概論III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

温度や熱の概念;理想気体の性質;熱量、仕事、エネルギーの関係(熱力学第一法則)やエントロピーの性質(熱力学第二法則);熱現象と原子・分子の集団運動、を勉強したのち、分子・原子の統計的な性質も学ぶ。

授業の一般目標

温度、圧力、体積など物体の状態を表す量の理解。熱量、仕事、内部エネルギーの間の関係や、エントロピーの概念を理解する。統計力学的概念の理解。

授業の到達目標

知識・理解の観点:温度、圧力、体積など物体の状態を表す量の理解。熱量、仕事、内部エネルギーの間の関係や、エントロピーの概念を理解する。統計力学的概念の理解。

思考・判断の観点:身の回りの物質は無数の分子・原子から構成されており、このことが温度圧力などの全体的性質を生み出していることなどを理解する。また無数の分子・原子から構成されたものに対して普遍的な見方が可能であることを理解する。

成績評価方法(総合)

小テスト(出席)、期末試験、レポート、授業態度・授業への参加度で総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022041644
開設科目名	物理学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

物理学の全分野の演習問題を解く。

授業の一般目標

物理的な思考方法とスキルを身につける。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022041664
開設科目名	化学実験（コンピュータ活用を含む。）			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	村上　清文			区分	

授業の概要

無機分析化学・有機化学・物理化学の基礎的分野の実験を行い、これに基づいて、実験結果のデータ整理、解析、レポートの作成および発表を行う。

授業の一般目標

講義・演習などで得た知識を実験によって実際に自分の手で確認できることが出来る。そしてこの化学実験を通して科学的な態度や問題解決能力を培う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：実験課題に関する基礎的知識を理解し、説明できる。

思考・判断の観点：実験課題の遂行における実験・調査結果ついて、適切な分析や評価ができる。

関心・意欲の観点：実験課題に関連する教育事象を始めとした種々の事象に関心を持つ。

態度の観点：積極的に実験課題取り組むことができる。

技能・表現の観点：1. 課題遂行に必要な実験技術を修得し実行することができる。

2. 実験結果をレポートとして表現することができる。

成績評価方法(総合)

実験の準備状況、実験実施における態度・技能、レポート（毎回提出）内容、発表の仕方、および、出席について、総合的に評価する。

教科書

化学実験書／山口大学教育学部化学教室編, 2004

参考書

メッセージ

各実験は、レポートを提出し「合」の評価を得て終了となる。単位は、すべての課題の終了が前提となる。病気等により行えなかった課題は後日補講を行う。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022045382
開設科目名	生物学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部　弘和			区分	

授業の概要

学校教育における理科教育生物分野の中から、生態学･環境教育･科学史などの分野に関連する論文や著作を輪読す。また、必要に応じて、実習、関連する施設の見学などを行う。

授業の一般目標

論文や著作の内容を理解し、自分自身で問題点をみつけ、それを探求する科学的態度を育成する。また、レポート作成、授業内における発表などを通じて、科学的なスキルやコミュニューケション能力を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

レポートの内容、発表内容、課題への理解、取り組み態度、出席状況をもとに総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

授業に用いる著作(本)は前期末まで掲示し知らせので確認し、授業が始まるまでに購入しておくこと。論文等は配布する。

連絡先

E-mail　habe@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022045456
開設科目名	有機化学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	源田　智子			区分	

授業の概要

有機化学の基礎である 1)原子軌道や分子軌道、2)共有結合、3)一般的な有機化合物の命名法とその特徴や構造、4)化学反応などについて説明する。また生体物質や身近に存在する化学物質についてその構造や関連事象を説明し、「環境と化学」の関係についても解説する。

授業の一般目標

基本的な原子の電子配置や軌道についての理解を深める。一般的な有機化合物の命名法や性質、化学反応について理解する。また簡単な生体分子や代謝経路および高分子化合物の構造や性質について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1.一般的な有機化合物の命名法を理解し説明できる。

2.個々の有機化合物の構造や反応性を説明できる。

3.簡単な生体分子について理解し、その構造や代謝経路について説明できる。

思考・判断の観点:1.有機化合物の構造や反応を「電子の流れ」によって説明できる。

2.身の回りの物質や日常生活の諸現象を化合物の物性と関連づけて理解できる。

関心・意欲の観点:基本的な有機化合物の性質や構造を理解した上で、日常生活における現象や物質について科学的な見方ができるようになることで、理科教育における児童・生徒の生活経験に即した物質観の育成に寄与できる。

態度の観点:化合物の命名、化学反応や計算問題などについて、授業内に行なう演習に積極的に参加できる。

技能・表現の観点:1.有機化合物の命名法と官能基の特徴を関連づけ、与えられた分子式からその化合物を命名できる。

2.有機化合物の構造や反応について電子の移動を用いて説明できる。

成績評価方法(総合)

適宜課すレポートと出席、期末試験により評価する。

教科書

, 2003

参考書

なっとくする有機化学／秋葉欣哉:講談社, 2003

有機化学概説／マクマリー:東京化学同人, 2004

大学への橋渡し　有機化学／宮本真敏、齊藤正治:化学同人, 2006

有機化合物命名の手引き／小川政爾、村井真二監修:化学同人, 2004

現代有機化学（Ⅰ、Ⅱ）／ボルハルトシュアー:化学同人, 2004

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022045476
開設科目名	生物学基礎			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北沢　千里			区分	

授業の概要

生物の構造や機能に関する基礎的な知識を習得する。

授業の一般目標

生物を構成する物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸）の特徴を基に、細胞と細胞小器官がどのように作られ、物質代謝やエネルギー獲得方法について理解する。また、細胞が諸組織・器官への分化について、特に、筋肉や神経系の構造と機能，脳と感覚器について学習する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：生物学の基礎知識を身につける。

思考・判断の観点：生物の構造と機能の関係を理解する。

成績評価方法(総合)

レポート、出席、中間・期末試験を総合的に判断し評価する。

教科書

ダイナミックワイド図説生物 / 石川統ほか編／石川統：東京書籍，2008

参考書

メッセージ

広範囲に及ぶ生物の内容について講義します。そのため、自らが日々身近な生物に関心を持ち、予習復習を行うことで、授業内容を確実な知識にし、同時に補足も行ってくれることを望みます。

連絡先

E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日　13：00-14：30

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022045645
開設科目名	分子と生命			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部　弘和			区分	

授業の概要

生命活動は分子によって支えられている。この授業では生体を構成する分子が生体の形態と機能を決定し、それらの分子が DNA（遺伝子）によって産制される仕組み、DNA の構造と機能を学ぶ。

授業の一般目標

生命活動の化学的仕組み、それに関わる分子の構造や機能などに関する知識を習得し
ＤＮＡを中心とした生命観を理解する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

定期試験（期末試験、中間試験）、課題レポート、授業時における小テスト、出席状況などを通して総合的に評価する。

教科書

図説生物　総合版：東京書籍,, 2004

参考書

メッセージ

連絡先

E-mail habe@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051373
開設科目名	管･弦楽器Ⅴ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

これまでに習得した演奏技術や表現法を深め、より高度な演奏法を追求する。また、管楽器の指導法も研究する。

授業の一般目標

時代様式を踏まえて、より高度な楽曲を演奏することができる。

管楽器の指導法を習得できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:管楽器の指導法を理解する。

技能･表現の観点:シャープ、フラット3つまでの音階と半音階ができる。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051376
開設科目名	管楽器IV			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

音階、基本的奏法、腹式呼吸法、運指法に習熟し、楽曲の分析･演奏解釈、表現法について学ぶ。

授業の一般目標

楽曲を分析･解釈し、音楽的な表現法を研究することができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:楽曲の分析、演奏解釈を理解する。

技能･表現の観点:管･弦楽器IIIで習得した調に加えて、ニ長調、変ロ長調の音階ができる。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051379
開設科目名	管楽器Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

運指法、リードの選び方と調整法、腹式呼吸を理解し、タンギング、レガート奏法、スタッカート奏法について学ぶ。

授業の一般目標

正しい腹式呼吸を習得できる。

ロングトーンを安定させ、レガート奏法、スタッカート奏法を習得できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:タンギングの仕方を理解する。

技能・表現の観点:レガート奏法、スタッカート奏法を習得する。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051380
開設科目名	管･弦楽器Ⅴ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

これまでに習得した演奏技術や表現法を深め、より高度な演奏法を追求する。また、管楽器の指導法も研究する。

授業の一般目標

時代様式を踏まえて、より高度な楽曲を演奏することができる。

管楽器の指導法を習得できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:管楽器の指導法を理解する。

技能･表現の観点:シャープ、フラット3つまでの音階と半音階ができる。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051390
開設科目名	管楽器IV			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

音階、基本的奏法、腹式呼吸法、運指法に習熟し、楽曲の分析･演奏解釈、表現法について学ぶ。

授業の一般目標

楽曲を分析･解釈し、音楽的な表現法を研究することができる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:楽曲の分析、演奏解釈を理解する。

技能･表現の観点:管･弦楽器IIIで習得した調に加えて、ニ長調、変ロ長調の音階ができる。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051396
開設科目名	管楽器Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　一			区分	

授業の概要

運指法、リードの選び方と調整法、腹式呼吸を理解し、タンギング、レガート奏法、スタッカート奏法について学ぶ。

授業の一般目標

正しい腹式呼吸を習得できる。

ロングトーンを安定させ、レガート奏法、スタッカート奏法を習得できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:タンギングの仕方を理解する。

技能・表現の観点:レガート奏法、スタッカート奏法を習得する。

成績評価方法(総合)

実技試験により評価

教科書

吹奏楽器教則本:全音楽譜

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051413
開設科目名	独唱Ⅳ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　満理子			区分	

授業の概要

独唱Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことをさらに向上、定着させる。また、楽譜をしっかり分析し、音楽的な表現につなげる。

授業の一般目標

無理のない発声で、音楽的な表現ができる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

毎回の授業への取り組み方と、実技試験を併せ総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051447
開設科目名	伴奏法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

和音コードの理解に始まり、和音の連結の仕方、伴奏の種類を学び、小･中学校の歌唱教材に伴奏をつける。

授業の一般目標

既存の伴奏譜に縛られずに各自の技能と解釈で伴奏ができるようになる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:コードネームを覚える。

思考･判断の観点:和音の選択ができる

技能･表現の観点:伴奏技能の習得

成績評価方法(総合)

実技試験と出席率

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

juna_n@yamaguchi-u.ac.jp　内線5363

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051457
開設科目名	合奏II			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

教材制作としての編曲も含めて授業展開を行う。

授業の一般目標

小･中学校で経験する打楽器の扱い方が解り、演奏を可能にする。

合奏曲の記譜が出来、編曲も可能になる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:移調楽器を理解することが出来る。

態度の観点:グループでの活動が多いので、皆が同じ意識が持てる。

技能･表現の観点:少しでもスキルアップを目指し、表現を広げることが出来る。

成績評価方法(総合)

授業参加態度と出席率により評価

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

jun_n@amaguchi-u.ac.jp　学内内線5363

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051489
開設科目名	ピアノII			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	成川　ひとみ			区分	

授業の概要

本授業は、ピアノIからの展開としてロマン派のピアノ作品を教材に用い、個別の実技指導を行う。

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれの授業計画に従って課題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標

思考・判断の観点:楽器の操作に留まらず、楽曲を分析し、楽曲の表現を探求することができる。

関心・意欲の観点:毎週出された技術トレーニングの課題を実行し、表現の工夫に取り組む事が出来る。

技能・表現の観点:作品を途中で中断することなく最後まで演奏することができる。

成績評価方法(総合)

1.公開による実技試験を行う。

2.出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nr1103@yamaguchi-u.ac.jp　?083-933-5364

オフィスアワー

火～金曜日の昼休み

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051522
開設科目名	ソルフェージュ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	成川　ひとみ			区分	

授業の概要

聴音、新曲視唱、リズム叩き、ハ音記号の読みとり、移調奏を演習する。

授業の一般目標

聴音：基本的な単旋律の書き取り、2声のメロディーの書き取り、和声的な課題の書き取りを習得する。

新曲視唱及びハ音記号の読みとり：歌唱教材程度の難易度の旋律を正しいリズムと音程で新曲視唱することを習得する。

リズム叩き：基礎的なリズム譜を、片手及び両手を用いて、正しくリズム打ちをすることを習得する。

移調奏：最終的には、歌唱教材の移調奏による弾き歌いを習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：楽典の基礎力があり、楽譜を正しく書く事ができる。

関心・意欲の観点：課題に前向きに取り組み、習熟出来るまでトレーニングを行い、技能の段階的な上達を、目指す事ができる。

技能・表現の観点：技能の段階的な難易度展開に、対応する事ができる。また習得した技能を、実践に生かす応用性を持つ事ができる。

成績評価方法(総合)

各項目の技能が、一定レベルまで習得できている事を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nr1103@yamaguchi-u.ac.jp　Tel. 083-933-5364

オフィスアワー

火～金曜日昼休み

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051550
開設科目名	独唱II			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　満理子			区分	

授業の概要

独唱Ｉで学んだ基本をもとにさらに向上させる。また、自然で無理のない発声を目指す。イタリア古典歌曲集1より、それぞれに合わせた課題を教材とする。

授業の一般目標

自然で無理のない声で歌うことができる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

毎回の授業への取り組み方と、実技試験を併せ総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051639
開設科目名	ピアノII			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　順子			区分	

授業の概要

本授業はピアノIを履修後の学生を対象に行う授業である。ピアノIに引き続き、練習曲とバッハのピアノ作品に加えて、ロマン派のピアノ作品を学習する

授業の一般目標

各自の進度に適した教材選択のもとに、それぞれ授業計画に従って課
題に取り組み、ピアノ演奏表現に必要な技能を習得する。

授業の到達目標

思考・判断の観点:楽器の操作に留まらず、楽曲を分析することができる。
関心・意欲の観点:毎週出された課題を実行できる。
技能・表現の観点:作品が求める表現を汲み取り、中断することなく演奏できる。

成績評価方法(総合)

(1) 公開による実技試験を行う。　(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

jun_n@amaguchi-u.ac.jp　学内内線5363

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051672
開設科目名	合唱III			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　満理子			区分	

授業の概要

合唱Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを合同で行う。この授業は週ごとに指揮、伴奏、合唱の担当を決め、合唱の指導力を高める授業である。

合唱Ⅲでは、小学校、中学校の合唱教材を用いて指揮をし、声を合わせることに重点をおきながらその場に合わせた的確な指導を行う。

授業の一般目標

声を合わせる指導を行いながら、全体を音楽的にまとめることができる。

その場に合わせた的確な指導ができる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

主にプレゼンテーションの内容を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051678
開設科目名	合唱II			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　満理子			区分	

授業の概要

合唱Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを合同で行う。この授業は週ごとに指揮、伴奏、合唱の担当を決め、合唱の指導力を高める授業である。

合唱Ⅱでは、小学校の合唱教材を用いて指揮をし、各声部の役割を理解して指導をする。その場に合った指導も行う。

授業の一般目標

指揮をしながら各声部を聴き分け、その場に合った指導ができる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業への参過度、取り組み方、プレゼンテーションの内容を併せ総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022051681
開設科目名	合唱Ⅰ(日本の伝統的な歌唱を含む。)			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　満理子			区分	

授業の概要

合唱Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを合同で行う。この授業は週ごとに指揮、伴奏、合唱の担当を決め、合唱の指導力を高める授業である。

合唱Ⅰでは、簡単な教材を用いて指揮、指導を行う。各声部の役割を理解して指導をする。

授業の一般目標

指揮をしながら各声部の役割を理解して指導ができる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業への参加度、取り組み方、プレゼンテーションの内容を併せ総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022055500
開設科目名	作･編曲法Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池上　敏			区分	

授業の概要

対位法の基礎とそれに基づく楽曲形式を学習します。

授業の一般目標

二声の厳格対位法の実習と、自由対位法による二声のカノンの作曲法を獲得することを目標にします。

授業の到達目標

知識･理解の観点:厳格対位法の基礎的な知識の獲得と、自由対位法との相違の理解。

思考･判断の観点:厳格対位法実習のための思考法の獲得と実習に必要な判断力の獲得。

関心･意欲の観点:厳格対位法、模倣対位法的な楽曲への関心と、実習への意欲。

態度の観点:実習への積極的な態度の育成、獲得。

技能･表現の観点:厳格対位法実習上の技能の獲得と、対位法的音楽表現力の獲得。

成績評価方法(総合)

学期末に行うペーパーテストの結果を主とし、授業の理解度、及び受講態度などを総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

この講義内容は付焼刃では手が出ません。普段からの実習の積み重ねがものをいいます。毎回の実習課題の予習復習を欠かさずに。

連絡先

音楽棟109研究室

オフィスアワー

時間割が確定した後に通知します。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022055508
開設科目名	音楽学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	斎藤　完			区分	

授業の概要

音楽学のあり方を概説したのちに、近年の傾向である文化研究的な音楽学（とくに民族音楽学）のあり方を紹介する。そのうえで、音楽学的成果がいかに日常に還元されているかに関する考察を促す。

授業の一般目標

音楽学（とくに民族音楽学）のあり方／傾向を把握したうえで、この学問領域と日常との関わりを考察する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

知識よりも、考え方（思考・判断）の習得を重視し、授業での発表と期末レポートでそれを評価する。

なお出席も重視し、3回以上欠席した場合（公欠を除く）は原則として欠格とする。なお、遅刻は3回で、欠席1回とみなす。

教科書

参考書

メッセージ

第1回目の授業には必ず参加すること。欠席した場合は原則として受講を認めない。やむを得ない事情により欠席した場合には、下記連絡先にてアポイントメントを取ったうえで、来室すること。

連絡先

mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

上記連絡先でアポイントメントをとったうえで、来室してください。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022055580
開設科目名	作･編曲法Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池上　敏			区分	

授業の概要

初歩的な作曲について様々な観点から講義します。リズム、旋律、和声、対位法、音楽形式などの学習を基礎に、様々な形式の楽曲、様々な手法の作曲をやります。

授業の一般目標

西洋芸術音楽を基にした初歩的なものから始めて、様々な形式、様々な手法の作曲ができる能力の獲得を目標とします。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 作曲法の基本的な知識とその仕組みの理解。

思考･判断の観点: 作曲における様々な事象に対する判断力、思考力の育成。

関心･意欲の観点: 作曲に対する関心と、積極的に作曲をしてみよう、という意欲の持続。

態度の観点: 自分なりの表現、音楽を大切にし、作曲をしてみようというと態度の保持、育成。

技能･表現の観点: 作曲についての様々な技能の育成、表現の練磨。

成績評価方法(総合)

自分で作曲した楽曲（これをレポートとする）と、学期末に行う小テストを中心に評価。作曲能力の獲得の程度と作曲理論の理解度を中心に評価。

教科書

音楽の基礎／芥川也寸志:岩波書店, 1971

参考書

メッセージ

音楽は感性のみによって、と捉えられ易いが、実は極めて精緻な論理体系をもっている。その理解があれば音楽的な再生産としての作曲が可能であることを、認識し、実際に作曲できるようになることが重要です。

連絡先

音楽棟109研究室

オフィスアワー

新年度に時間割が決定後に通知します。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022061414
開設科目名	絵画III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　良寿			区分	

授業の概要

人体をモチーフに平面におけるデッサン力の向上と油彩表現の多様性を学習する。

授業の一般目標

人体の構造を理解し、平面において人物像を描きながらデッサン力を向上させ、油彩画の多様な表現に応用する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 人体の基本的なプロポーションや動きについての概略が説明できる。

思考・判断の観点: 人体の基本的なプロポーションや動きについ理解したものを描画の実践に生かすことができる。

関心・意欲の観点: 普段見慣れた人物の構造や動き、質感などに関心が持てる。

態度の観点: 人物の構造や動き、量感、質感などを平面上にどのように表すかについての試行錯誤ができる。

技能・表現の観点: モチーフの成り立ちについて理解し、モチーフの性質にあった技法や表現を選択できる。

成績評価方法(総合)

(1)出席による評価。 (2) 授業態度。 (3)授業での作品制作。(1)～(3)による総合的な評価。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp

083-933-5366

090-9003-6944

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022061439
開設科目名	芸術教育論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　隆眞			区分	

授業の概要

美術を中心とした芸術の教育について講義する。

授業の一般目標

芸術と教育について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:芸術についての説明が出来る。

思考・判断の観点:芸術の分類、種類が説明出来る。

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022061494
開設科目名	工芸BIII			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉賀　將夫			区分	

授業の概要

陶芸の基礎的知識･技術を踏まえて、より高度な陶芸作品を制作する。各自でテーマを決め、制作や研究をする。

授業の一般目標

陶芸での、より進んだ作品制作ができる力を養う。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022061514
開設科目名	工芸ＢⅠ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	河野　令二			区分	

授業の概要

金属と竹によるもののデザインと制作をそれぞれ行う。

授業の一般目標

・金属の材料特性を理解し、金属によるもののデザインと制作ができる。

・竹の材料特性を理解し、竹によるもののデザインと制作ができる。

・それぞれの制作をとおして、基礎的な技法について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:・金属、竹の材料特性を理解する。

・金属、竹の加工の基礎的な技法と道具の関係を理解する。

思考・判断の観点:・ものを道具の機能性として理解し、制作ができる。

・道具と技法の関係を理解し、的確に制作に生かすことができる。

関心・意欲の観点:制作するもののありかや形態に対して興味を持ってデザイン、制作ができる。

態度の観点:客観的に制作過程を確かめ、実験的に制作をする。

技能・表現の観点:技法を理解し、豊かな発想を持ち、的確に制作ができる。

成績評価方法(総合)

デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出する作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み(出欠を含む) を見ます。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022061523
開設科目名	絵画Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　良寿			区分	

授業の概要

平面に於ける造形を対象として美術一般の基礎的な表現を学習する。

授業の一般目標

平面に於ける造形を対象として描画における基礎的な技術を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：近代の西洋美術の概略を説明できる。デッサンおよび、油彩画における素材や用具の特性や、使用法を的確に説明できる。

思考・判断の観点：絵画表現における色彩や形体のバランスについて判断することができる。

関心・意欲の観点：西洋美術や、日本美術における美について感受し、生活の中に美を見出すことができる。

態度の観点：普段から自主的に身の回りのものをデッサンする習慣をつける。

技能・表現の観点：デッサンおよび、油彩画における技術の多様さを理解し習得しようとする。

成績評価方法(総合)

(1)出席による評価。 (2) 授業態度。 (3)授業での作品制作。(1)~(3)の観点により総合的に判断する。特に作品制作については基本的な技法の理解を重視する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

nakano-y@yamaguchi-u.ac.jp

083-933-5366

090-9003-6944

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022061636
開設科目名	総合造形			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	河野　令二			区分	

授業の概要

・「箱を用いた記憶に関する表現」をテーマとして、絵画的色彩表現、彫刻的立体表現、音の　出る装置を取り入れた音響表現等、総合的な表現方法による「メモリーボックス」の考案・　制作をします。

・造形の様々な表現方法を生かした本のデザイン、制作をします。

授業の一般目標

立体、平面の多様な表現技法を理解し、それらをもとに総合的な造形の力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点:演習を通して、材料の特性や技法の関係を理解し、作品に生かし、表現するとができる。

思考・判断の観点:表現への意図を明確にし史ながら、創造的に制作ができる。

関心・意欲の観点:課題意識を持って望み、意欲的に表現、制作ができる。

態度の観点:客観的に制作過程を見つめ、表現への可能性を持って、確かめながら制作ができる。

技能・表現の観点:表現のための技法を確実なものにし、作品を制作し、作品の自己評価ができる。

成績評価方法(総合)

各課題の制作物に関して、コンセプト、課題の理解度、制作態度等を総合的に判断して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022061654
開設科目名	工芸ＡＩ			単位	２単位
対象学生				学年	～
担当教員	河野　令二			区分	

授業の概要

木のによるもののデザインと制作を行う。

授業の一般目標

・木の材料特性を理解し、木によるもののデザインと制作ができる。

・制作をとおして、木の加工の基礎的な技法について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:・工芸について、材料、技術とのかかわりから考えることができる。

・工芸について、道具、社会、環境等の広い視点からとらえることができる。

・木の材料特性を理解する。

・木の基礎的な技法と道具の関係を理解する。

思考・判断の観点:・ものを道具の機能性として理解し、制作ができる。

・道具と技法を的確に制作に生かすことができる。

関心・意欲の観点:制作するものの在りかや形態に対して興味を持ってデザインができる。

態度の観点:客観的に制作過程を確かめ、試行錯誤を恐れずに制作ができる。

技能・表現の観点:技法を理解し、豊かな発想で的確に制作ができる。

成績評価方法(総合)

デザイン、制作の手法の理解および制作への意欲等を制作の過程と作品により総合的な観点から評価します。提出する作品だけでなく、制作過程である学習への取り組み(出欠を含む) を見ます。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022065448
開設科目名	立体造形基礎			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	上原　一明			区分	

授業の概要

様々な立体造形の基礎として，量感，フォルム，テクスチャー、空間感、動きなどを基礎的材料経験と立体制作を通して、感覚的理論的に学ぶ。

授業の一般目標

⑴ 立体の制作を通して、量感、テクスチャーなどの造形要素について体験を通して理解できる。

⑵ 幾何形体や有機的形態の対比のおもしろさに気づき美しい構成ができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:基礎的な造形要素について説明ができる。

思考・判断の観点:立体的思考を高める。

関心・意欲の観点:身近にある造形物に興味や関心を持ち、鑑賞ができる。

技能・表現の観点:物と空間との関係を考え、立体的に表現することができる。

その他の観点:各課題ごとに作品のプレゼンテーションを行うことにより、自己表現を磨く。

成績評価方法(総合)

出席状況や授業態度、作品制作状況と提出作品で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

身の回りにある立体造形物に目を向けてみましょう。

連絡先

上原研究室

オフィスアワー

水曜日　12:00～14:00

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022065573
開設科目名	美術史Ⅱ(鑑賞･日本の伝統美術･アジア美術含)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	菊屋　吉生			区分	

授業の概要

日本美術史、とくに日本の近世絵画史(室町期～江戸期)に関して、流派とスタイルという観点から論述する。なお　日本をとりまく当時の東アジア諸国とのつながりも含む。

授業の一般目標

(1)日本美術史、とくに日本の近世絵画の歴史的流れを理解し、知識を深める。

(2)日本の各時代(室町期～江戸期)における絵画の新しい流れが生まれる社会的、文化的背景に関心を深める。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 日本の室町期以降、江戸期までの絵画史の概観を説明できる。

思考･判断の観点: 各時代に生まれた絵画作品の歴史的位置付け、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。

関心･意欲の観点: 日本絵画史の概観を知ることによって、当時の東アジアを中心とした諸外国との文化的な交流のあり方についての関心も喚起する。

態度の観点: 日本美術史の重要な実作品を鑑賞しようという意欲を涵養する。

技能･表現の観点: 日本の各時代における美術の特色を理解し、説明できる能力を養成する。

成績評価方法(総合)

試験の成績は重視します。授業のノート、教科書をよく勉強してください。試験前勉強の仕方については、授業の一番最後に説明いたします。むろん、出席や受講態度も評価には加えますので、注意してください。

教科書

カラー版　日本美術史／辻惟雄:美術出版社, 1991

参考書

メッセージ

授業では、なるべく多くの美術作品をヴィジュアルに見せるつもりですが、受講生もなるべく日ごろから展覧会など、自分から積極的に見るように努めてください。スライドや画像だけでは絶対に生の作品の迫力は伝えることはできません。

連絡先

kikuya@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022065631
開設科目名	デザインIII(映像メディア表現を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　隆眞			区分	

授業の概要

写真を利用した映像表現によるデザインを行う。

授業の一般目標

写真を効果的に撮影できる。写真を使ったプレゼンテーションが出来る。

授業の到達目標

知識・理解の観点:視覚言語について説明出来る。

思考・判断の観点:視覚言語に基づいた写真表現が出来る。

関心・意欲の観点:たくさん写真を撮影する。

技能・表現の観点:効果的な写真、意図的な写真、個性的な写真を撮影できる。

成績評価方法(総合)

予備作品と全体作品による評価

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022071501
開設科目名	学校保健Ⅱ(学校安全, 救急処置を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	友定　保博			区分	

授業の概要

学校保健活動の教育的側面を扱う「健康教育論」を内容としています。とくに、保健学習・指導の目的・内容・方法について、受講者が参加する方法をとりいれ、具体的に教授します。

授業の一般目標

教科保健の担当者として教科書・学習指導要領を理解し、教材・授業づくりの視点や方法を修得し、保健学習の指導案作成ができるようになること

授業の到達目標

知識・理解の観点:学習指導要領・教科書における保健教育内容について理解する。

思考・判断の観点:子ども実態に基づく教材内容や教育方法を選択できる。

関心・意欲の観点:学習活動への積極的な参加ができる。

態度の観点:学習活動への積極的な参加ができる。

技能・表現の観点:グループ活動や授業中の発言や説明ができる。

成績評価方法(総合)

授業プランレポート 50%、授業内レポート 30%、授業外レポート 10%、授業への参加度 10%

欠席 4 回は欠格条項

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

tomo-y@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022071632
開設科目名	保健体育学演習Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	海野　勇三, 友定　保博, 池田　恵子, 上地　広昭			区分	

授業の概要

本授業は、

1. 各専門領域の先行研究に学び、
2. 自己の研究課題を決め、
3. 研究方法を深めるための演習

である。

各教官の研究室に所属し、指導を受ける。専門的な研究論文の読解、専門的な研究方法について、担当教官の指導のもと、自主的に研究･学習する態度を養う。

授業の一般目標

専門領域の先行研究の検討を行い、自己の研究課題を決定すると同時にそのための研究方法を理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 専門領域の先行研究の概要について説明できる。

思考･判断の観点: 各自の研究課題について自分の意見を述べることができる。

関心･意欲の観点: 体育･健康教育･スポーツ問題に興味･関心を持つ。

態度の観点: 自己の課題･テーマに真摯に向き合う。

成績評価方法(総合)

レポートを提出する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022071692
開設科目名	野外運動特習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	海野　勇三, 友定　保博, 池田　恵子, 上地　広昭			区分	

授業の概要

冬期集中講義として、冬季スポーツの中からスキーをとりあげ、具体的な活動計画を作成し、実習をとおして指導法や指導理論の理解をはかる。そのための事前準備・学習として学校教育における野外教育の意義・方法、スキーの技術指導の理論を学習する。

授業の一般目標

スキーを素材にして、冬季スポーツの指導法および指導理論を学習し、習得する。

また、学校教育における野外活動プログラムの立案と運営に関する基礎的な知識と方法を獲得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:スキーの指導法と指導理論に関する理解を深める。

学校教育における野外教育の意義およびプログラム立案・運営に関する知識を得る。

思考・判断の観点:初心者指導法をはじめとして、指導のポイントや理論的根拠について、理論的および実践的に追求しようとする。

態度の観点:集団生活のなかで、規律を守り、協業と分業の中で自己の役割を果たそうとする。

技能・表現の観点:スキーのスキルの向上を図る。

成績評価方法(総合)

事前学習への出席状況、レポートおよび実習期間中の学習し政党を考慮しながら、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

受講学生集団による自主管理を基本に集中講義を運営します。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022075387
開設科目名	運動学(運動方法学を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022075490
開設科目名	球技Ⅰ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

ハンドボールは、ボールをパス･キャッチ･ドリブルしながら相手ゴールに投げ込むチームスポーツである。運動の基本形態である走･投･跳が多く含まれることから、教育的価値も高いとされ学校現場で広く行われている。受講者は卒業後に教員をはじめ様々な形で指導者としてｽﾎﾟｰﾂ活動に携わることから、ハンドボールを通して走･投･跳の運動の基本動作を解説し、指導上の注意点について教授する。

授業の一般目標

この授業ではボールを使って体力づくりを行いながら、ハンドボールの基本的な技能を身につけ、それらをチーム戦術の中で生かすことができるようになることを目標とする。また受講者独自の指導教書本を作成する

授業の到達目標

知識･理解の観点:走･投･跳の運動基本動作を説明できる

ハンドボールの競技特性を説明できる

ハンドボールのルｰルを説明できる

思考･判断の観点:ボールを使った体力づくりを指導できる

フォｰメｰションを考えることができる

関心･意欲の観点:個人技能の習得に意欲的であること

チームのメンバーとしてチームの運営に積極的に参加できる

独自のハンドボール指導教書を積極的に作成する

技能･表現の観点:ハンドボールの基本的な技能を身につける。身についた技能をチームプレーと結びつけることができる。

審判ができる

成績評価方法(総合)

積極的参加度(20%)、習熟度(20%)、意欲度(60%)などから総合的に評価する。

教科書

参考書

ハンドボール指導教本　新訂版／日本ハンドボール協会:大修館書店, 1996

ハンドボール強化指導教本　NTS2002／日本ハンドボール協会:日本ハンドボール協会, 2002

メッセージ

体調管理に充分配慮すること

「自分だけのハンドボール指導教書」の作成に積極的に取り組んでください

連絡先

shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022075515
開設科目名	球技Ⅱ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022075524
開設科目名	体育原論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　恵子			区分	

授業の概要

現代社会における文化現象としての体育･スポーツが有する諸問題、また今日の体育学、スポーツ科学が包括している諸問題を、哲学的方法を用いて省察する。政治、メディア、国際化、民族問題、ナショナリズムと体育･スポーツ、遊戯論、身体論、スポーツ文学といった視点から投影されるパースペクテヴを紹介し、その論点を整理する。具体的には複数の論文の中身を紹介しつつ、個人、集団をとりまく体育･スポーツ現象に対する学問的アプローチの基本概念を学習する。講義時間内に体育を哲学するための思考トレーニングとして、「コミュニケーションカード」の記入を行う。

授業の一般目標

次の内容について、理論的理解を深め、思考力を養う。期末試験では、基本用語の概念を説明し、それらの用語を用いて、自分なりの考えを表明できるかをペーパー試験により考査する。1.体育とスポーツの概念、2.近代体育と近代スポーツの概念とその定義、3.身体とコミュニケーション 4.スポーツの文明化について、5.身体文化論のパースペクティヴと遊戯論、6.オリンピズム、7.アマチュアリズム、8.スポーツの政治的中立性についてなど。

授業の到達目標

知識･理解の観点:近代体育･スポーツの特性とその変遷について説明することができる。

遊戯論（プレイ論）から、近代体育･スポーツの根底に流れているスポーツ現象を分析し、性格づけることができる。

身体とコミュニケーションといった観点から、近代体育･スポーツが有する有効性について説明することができる。

思考･判断の観点:スポーツ事象を多角的に捉え、分析することができる。

スポーツ思想にかかわる事象を指摘し、説明することができる。

アマチュアリズム、アスレティシズム、オリンピズム、ナショナリズムとスポーツの関係を論理的に理解し、例示することができる。

関心･意欲の観点:実社会におけるスポーツ事象や、自分自身の体験を、履修内容にひきつけて考えることができる。

成績評価方法(総合)

期末試験により評価する ＝60～80%

授業態度や授業への参加度は毎時配布のコミュニケーションカードにより判断する ＝20～40%

教科書

参考書

スポーツと現代アメリカ,／アレン･グットマン(清水哲男訳）,：TBS ブリタニカ, 1981

ホモ･ルーデンス／J･ホイジンガ（高橋英夫訳）：中央公論社,, 1983

遊戯とスポーツ,／H･レールス（長谷川守男監訳）：玉川大学出版部, 1987

メッセージ

「体育･スポーツを哲学する」という、この「矛盾」からスタートする。

期末試験は、「思考のプロセス」を評価するものであるので、普段から体

育･スポーツについて考える思考を養っておくこと。

連絡先

E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室連絡先 083-933-5381, 研究室 教育学部 176 研究室

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022075574
開設科目名	体育史			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　恵子			区分	

授業の概要

本授業では、体育･スポーツの成立過程を、主として近代化の観点から概観し、その歴史的位置づけを学習する（1.体育･スポーツの概念史　2.近代スポーツの定義　3.分析視角となる概念装置について）。とりわけ3. 分析視角となる概念装置については、体育･スポーツ史に関する種々の個別研究論文をとりあげ、微細な権力関係、国民統合装置としてのスポーツ、文化人類学的視点、文化帝国主義、文化ヘゲモニー、民族スポーツとの関わりについて学習する。受講者は、幾つかの小論文の検討を行い、最終レポートを提出する。

授業の一般目標

経験知に頼る体育･スポーツに関する認識を脱却し、体育･スポーツ事象を客観的に科学できる論理思考を養う。多様な脈絡で語られる体育･スポーツ評論を整理することを通して、体育･スポーツが含み持つ社会的脈絡を理解し、本質を捉える。最終レポートは、講義全体を通じて学習した成果の小論とする。体育･スポーツの今後を見据える上で、歴史的脈絡は無視できないことを理解する。種々の論文の主旨を正確に把握するための読解につとめ、学習の成果は、プレゼンテーション、小論文の提出の双方により表現する。この2つを評価の対象とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:近代スポーツの伝播過程を歴史的に辿ることができる。
日本における体育･スポーツの展開を概念史に即して説明することができる。
思考･判断の観点:近代体育･スポーツ事象について、その文化的特性と歴史的脈絡を関連させて捉えることができる。
日本における体育･スポーツの成立契機についてその特徴を捉え、論じることができる。
スポーツ特有の文化伝播について、文化帝国主義や文化ヘゲモニーの観点を考慮し、今後のスポーツの発展･推移について、歴史的展開を考慮した上でその展望を論じることができる。

成績評価方法(総合)

授業内プレゼンテーションと授業外レポート課題の合計得点とする。

宿題／授業外レポート ＝40～60%
受講者の発表(プレゼン)＝40～60%

教科書

スポーツと帝国―近代スポーツと文化帝国主義―,／アレン･グットマン：昭和堂, 1997

参考書

メッセージ

目指せ！読書するスポーツマン･スポーツウーマン。

連絡先

E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022075597
開設科目名	公衆衛生学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	日野　精二			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022075659
開設科目名	トレーニング処方演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

トレーニングの指導法や体力測定及びそのデーター処理法に関する実習を行う。

授業の一般目標

トレーニングの指導法や体力測定方法を理解し、得られたデーターの整理方法について実習を通して理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：体力測定の意義と方法を理解する。トレーニングの指導法理解する。得られたデーターの整理方法について実習を通して理解する。

思考・判断の観点：既成の体力測定法にとらわれずに新しい方法を思考する。

関心・意欲の観点：体力測定結果のデーターの利用法について関心を持つ。

成績評価方法(総合)

定期試験 60%、レポ-ト 30%、積極的な授業参加 10%で総合的に評価する

教科書

参考書

C級コーチ教本（前期・後期）／日本体育協会：日本体育協会, 1995

健康・スポーツ科学のための統計学／出村慎一：大修館書店, 1996

健康運動実践指導者用テキスト／宮下ら：健康・体力づくり事業団, 1998

メッセージ

卒業研究に向けて、統計法を正確に理解すること

連絡先

shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022075679
開設科目名	ダンス			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　恵子			区分	

授業の概要

そもそも人間は、演技的存在である。それゆえ本授業では、人間のしぐさや儀礼的な身体所作、情動とリズムを通して表出される豊かな身体表現の可能性を模索する。具体的には、1. モダンダンスの理念、2. ダンスの創作、3. その指導法等を通して、非言語的コミュニケーションとしての多様な身体表現の可能性を学習する。表現運動の楽しさや表現運動を通して得られる運動文化の新たな側面を発見する。以上のことを学習するために、本授業では、授業作品発表会の場を設け、授業作品を公開し、最終的な達成度を作品を通して評価する。

授業の一般目標

ダンスの意義を実践を通して理解する。特に、創作の基本、表現形式に関する理論、身体育成法を身につけ、効果的な表現技術を習得する。テーマ作品のモチーフを理解し、形式を工夫し、全体の構成・展開を組み立てることができるようになる。舞踊公演全体を通して、身体表現による生命力と個性の表出、メッセージ性、身体コミュニケーション能力の役割を理解する。また日常の自己と表現運動との関係について考察し、自己を見つめ直し、次なる作品へと自己を高めることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:モダンダンスの理念を歴史的に理解することができる。
表現運動の基礎的運動、アクションフレーズの意味、専門用語を理解することができる。
思考・判断の観点:テーマについて思考を巡らし、テーマに込めた思いを表現につなげることができる。
自主制作のダンス作品を通して、自己を見つめなおし、日常生活とダンスについて一定の関係を見出すことができる。
関心・意欲の観点:グループのリーダーとなり、率先して、作品づくりを進めることができる。
自主学習により、授業内容を反復、応用し、次回授業時までに高めておくことができる。
態度の観点:心を込めた作品づくりができる。テーマについて試行錯誤し、出来上がった作品を他人に見せることができる。
技能・表現の観点:基本のステップ、ターン、ジャンプが正確にできる。
アクションフレーズの連続動作をリズミカルに再現することができる。
以上を組み合わせ、全体を構成することができる。
表現内容に即した作品を構成し、演技することができる。
その他の観点:コミュニケーション能力を備えた作品を舞台（人前）で披露することができる。

成績評価方法(総合)

受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 80～100%未満
出席 = 欠格条件

教科書

参考書

舞踊創作と舞踊演出（改訂版）／邦正美：論創社, 1998
舞踊創作と舞踊演出／邦正美：論創社, 1986

メッセージ

ダンスの苦手意識の克服は、解放される自己存在を知るための扉です。日常生活は本来ダンスの本質を胚胎しており、あなたもすでに潜在的ダンサーです。保健体育選修、スポーツ健康科学コース以外の受講者も歓迎します。

連絡先

kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5381, 教育学部 176 池田研究室

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022081408
開設科目名	木材加工演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　吉永			区分	

授業の概要

木工具および木工機械の保守･整備をとおして，その加工原理や仕組み，安全対策を学ぶ。

木材加工法の学習を基礎として，より高度な加工方法を身につける。

授業の一般目標

基本的な木工具および木工機械の加工原理や仕組み，安全対策を説明できる。

基本的な木工具および木工機械の保守･整備が行える。

木材加工に関する高度な加工技法を実践できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:木材加工用工具、機械の保守･整備について必要な知識を有し、安全管理についても十分に理解している。

思考･判断の観点:効率的かつ安全な作業環境の整備について、実践的に思考･判断することができる。

関心･意欲の観点:木材加工に関心があり、様々な加工方法や加工具･機械について意欲的に学ぼうとしている。

態度の観点:安全に留意し、作業に主体的に取り組もうとしている。

技能･表現の観点:木材加工を指導する上で求められる加工技能、工具や機械の整備等について、必要な技能を有している。

成績評価方法(総合)

木材加工に用いる工具や加工機械について、その整備や安全管理について系統的に理解し、実践することができる。

教科書

参考書

メッセージ

天候や気温に左右される内容が含まれるため、適宜、授業の順序を入れ替えることがあります。各回の授業終了時に、次回の指示を行いますので、やむをえず欠席等をする場合は、次回内容を確認しておいてください。

連絡先

okasun@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

いつでもどうぞ。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022081575
開設科目名	木材加工学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　吉永			区分	

授業の概要

木材加工法で学習した内容をさら詳しく説明し，木材やその加工方法に関する知識や理解を深める。授業は講義が中心となるが，必要に応じて演習を含める場合がある。

授業の一般目標

木材及び木質材料に関する理解を深める。また，これに使用する工具や加工機械について必要な知識を身に付ける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 木材および木質材料について説明できる。

2. 木材加工に使用する工具や機械について説明できる。

3. 作業の安全や管理について説明できる。

思考・判断の観点：1. 木質材料の特徴を踏まえ，適切な加工方法を考えることができる。

関心・意欲の観点：1. 木材や木質材料について進んで知ろうとする。

2. 木材の加工について，進んで知ろうとする。

態度の観点：1. 身の回りの木々や自然環境について感心を持っている。

2. 木材と人との関わりについて，正しく理解しようとしている。

成績評価方法(総合)

成績の評価は主として期末試験によって行い，これに受講態度および授業中に出題する
課題の達成状況を加える。

教科書

木材の性質と加工／山下晃功ほか：開隆堂，1993

参考書

メッセージ

木材加工法を履修済みであることが望ましい。

連絡先

okasun@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

いつでもどうぞ

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022081585
開設科目名	総合技術Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	澤本　章			区分	

授業の概要

われわれの身の回りにある製品は、その多くが数種の材料を組み合わせて作られている。製品に求められる機能やデザインが複雑化、高度化しつつある今日、材料が持つ様々な性質や特徴を知り、適切に組み合わせることは、技術ならびにもの作り教育に携わる教員にとって、必須の知識であり能力といわざるをえない。

主な学習内容は、各種材料の物理的、化学的、機械的性質の比較検討、製品の考案・設計と素材の選定、加工方法ならびに加工性の検討、各種材料を組み合わせることによる長所と短所の検討、安全指導および管理等が挙げられる。

授業の一般目標

製作品の構想・立案，素材の特徴に対する正しい理解，適切な加工方法や工具・機械の選択など，加工に関する総合的な技術力向上を図る。

授業の到達目標

知識・理解の観点：加工に必要な，素材に対する知識・理解を有している。
思考・判断の観点：適切な素材や加工方法を選択できる。
関心・意欲の観点：積極的に加工について知ろうとしている。
態度の観点：問題解決的に取り組んでいる。
技能・表現の観点：加工に必要な技能を有している。
作品の完成度。
その他の観点：とくになし。

成績評価方法(総合)

授業への取り組みや加工に対する理解・技能を基礎的な評価項目とし，作品の構想から完成までの一連の流れを総合的に判断・評価する。作品の概観や使用感，完成度についても評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022081608
開設科目名	総合技術Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森岡　弘			区分	

授業の概要

機械分野における、機構学について基礎的な知識を身につけた後、実際に揺動スライダクランク機構の設計と製作を行う。

さらに機械要素を駆動するアクチュエータとそれをコンピュータを使用して制御する方法を学習する

授業の一般目標

機械分野で学習した内容を基礎に情報分野で学習した内容を加えて、機械工学と電気工学の総合技術であるメカトロニクスの基礎を体験的に修得することを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:揺動スライダクランク機構の設計製作を通して、中学校技術科教員に必要と考えられる機械工学と電気工学の基本的な知識の習得を目指す。

関心・意欲の観点:ものづくりに関して関心を高め、みずからの手を使って製作に積極的に参加できるようになることを目標とする。

態度の観点:実習時には常に安全に注意するとともに、実習にふさわしい服装を着用することを心がける。

技能・表現の観点:比較的製作が困難な機械システムの設計製作能力と機械加工技術を習得することを目標とする。

成績評価方法(総合)

成績評価は出席状況と設計計画書、製作課題の完成度が 80%、実習中の態度およびプレゼンテーションの結果をおよび宿題・授業外レポートをそれぞれ 10%として総合的に評価する。

教科書

参考書

はじめてのロボット創造設計／米田完, 坪内孝司, 大隅久共著, 2002

メッセージ

機械加工の実習を多く含むため作業服を着用すること。

連絡先

E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

木1, 2

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022081629
開設科目名	機械工学II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森岡　弘			区分	

授業の概要

ものづくりや身近な家庭用機械の動作原理、構造、及び適切な使用法を理解するために必要となる機械工学の基礎について学習し演習により理解を深める。

授業の一般目標

機械工学の中でも、その基礎となる材料力学、機械力学、流体力学および熱力学について、特に重要な項目について演習を通して学習し、技術科教員になるための教養を身に付けることを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:機械工学の中で、材料力学、機械力学、流体力学および熱力学の基本的な知識の習得を目指す

思考・判断の観点:身のまわりにある機械製品を機械工学の観点から思考判断できるようになることを目標とする。

関心・意欲の観点:機械工学に関して関心を高め、機械工学に関するさまざまな現象に興味・関心を示すことができる。

態度の観点:授業中は演習を行う。毎週電卓を持参して、積極的に計算問題を解くことを心掛ける。

技能・表現の観点:授業中またはレポートでの内容を確認するとともに、そのプレゼンテーションを行う。

成績評価方法(総合)

定期試験-40%

小テスト・授業内レポート　20%

宿題・授業外レポート　10%

授業態度・授業への参加度　10%

受講者の発表　　10%

演習　　10%

教科書

図解もの創りのためのやさしい機械工学／門田和雄:技術評論社, 2001

参考書

ハンディブック機械／土屋喜一:オーム社, 2001

機械工学概論／草間秀俊:理工学社, 2003

メッセージ

レポートの採点を通してライティングの指導を行ないます。「コミュニケーション技術」、篠田義明著、中公新書、等の参考書を利用してしっかりとしたレポートを提出して下さい。

ノートパソコン必携です。

連絡先

E-mail:morioka@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

月1, 2

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022081682
開設科目名	製図			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　吉永			区分	

授業の概要

「ものづくり」を行う際に必要となる製図について,その基礎的な知識と作図法を習得する。授業は，講義とこれに続く演習を基本的な構成とし，授業計画に沿って出題する課題を通して実践的な力を身に付ける。

授業の一般目標

基本的な製図法について理解し，作図が行えること。製図用具を正しく使用できること。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1. 製図の意義を知る。
2. 基本的な製図方法について理解する。
思考・判断の観点: 1. 製図を正しく読み取ることができる。
関心・意欲の観点: 1. 進んで製図を描こうとする。
2. 様々な製図に関心を持とうとする。
態度の観点: 1. きれいな図面を描くよう心がけている。
2. 正しい図面を描くようにしている。
技能・表現の観点: 1. 製図用具が正しく扱える。
2. 製図用具が効率的利用できている。
3. 読みやすい，きれいな製図を描くことができる。

成績評価方法(総合)

主として，提出された課題および製図により評価する。特に図面については，正確さ，美しさ，読み取りやすさ，効率的に描かれているか，といったことを基準に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

製図用具が必要です。初回の授業で，必要な用具を紹介します。

連絡先

okasun@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

いつでもどうぞ

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022085377
開設科目名	情報基礎Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

まず、計算機における情報の表現方法の基礎について説明する。さらに、計算機に適した四則演算の方式や計算機を構成する基本となる論理演算及び論理回路について説明する。最後に、中央処理装置や主記憶装置の基礎となる回路について説明する。

授業の一般目標

2 進数による情報の表現方法、計算機における加減算の演算方法を理解する。またブール代数や論理回路について理解し、簡単な演算回路を構成することができるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:情報の表現方法、計算機の構成、演算方式について理解する。

関心・意欲の観点:情報科学や計算機科学について関心を持つ。

成績評価方法(総合)

毎回の授業で課す課題の提出状況と中間・期末試験の結果を用いて成績を評価する。また、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書

参考書

現代電子計算機ハードウェア／萩原宏、黒住祥祐:オーム社, 1991

メッセージ

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 13 時～15 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022085415
開設科目名	ディジタル回路学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標

組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウエアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. 2 値のブール代数演算を習得する

2. ブール関数と真理値表の関係を理解する

3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する

4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する

思考・判断の観点:1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する

2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

成績評価方法(総合)

試験とレポートによる

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022085565
開設科目名	農業環境論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐藤　登			区分	

授業の概要

世界各地の農業地帯に永い間営まれてきた歴史の上に作られた農法や文化そして暮らしのあることを説明する。

授業の一般目標

世界の歴史と農業文化、教育の理解をする。日本の農業が世界的にどのような位置にあるかを理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 世界の農業地帯を説明できる。

思考・判断の観点: 農業文化の多様性を説明できる。

関心・意欲の観点: 身近な農業文化に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

授業で行う数回のレポート提出と個人課題についてのレポート提出。

なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022085611
開設科目名	電子回路学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

電気回路で学んだ回路理論の基礎知識をもとに、身の回りの電気･電子機器の構造や動作原理を理解する。また、電子回路の基本素子としてダイオードおよびトランジスタの動作原理を解説し、それを用いたた基本的な電子回路について解説する。

授業の一般目標

基礎的な電子回路素子の動作原理とその利用法を習得することにより、身の回りの電子
機器に対する興味と理解を深めることを目的とする

授業の到達目標

知識･理解の観点:1. ダイオード、トランジスタの動作を理解し説明ができる。
2. 全波整流回路半波整流回路の回路図が描け、動作を概説できる
3. 身の回りの電気･電子機器の構造や動作原理を理解し説明できる。
関心･意欲の観点:1.身の回りの電気･電子機器の構造や動作原理に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

試験とレポートによる

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022091392
開設科目名	生活科学論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	入江　和夫			区分	

授業の概要

水環境、生活排水、河川の自然浄化に関して講義をする。授業の前半では山口市内に流れる川について、水性生物による水質分析を行うとともに後半で室内空気汚染について実験を通して理解しながら、学習内容を power point でまとめ、発表を行う。

授業の一般目標

本授業では水性生物による水質調査によって山口市の河川の水質階級を判定し、汚れの原因を探っていく。後半で生活が及ぼす環境問題を調査し、発表する資料としてまとめていく。その結果をプレゼンテーションソフトを用いて発表することで、環境保全の意識を高めることを目的とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：水汚染の分析項目 COD,BOD,硝酸性＆亜硝酸性窒素、アンモニア性窒素などについて理解できる。室内空気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化、ごみ問題、環境ホルモンなどの環境問題を理解できる

思考・判断の観点：水質調査結果から、そこの水質階級が判断できる。種々の環境問題と生活との関わりから身の回りの生活態度をどのように改善したらよいか判断できる。

関心・意欲の観点：結果をまとめる過程で環境問題と生活との関わりに意識を高めることができる。

態度の観点：自分の生活を振り返り、環境負荷を少なくするための生活様式に気づき、実践できる

技能・表現の観点：水生生物の同定と水質階級を見極めることができるとともに種々の環境問題を理解した結果を powerpoint で表現できる。

成績評価方法(総合)

評価は水汚染の水質検査項目の理解、水循環、水生生物と水質階級などについて小テストと演習時の小テストおよび調査結果をまとめた powerpoint によって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

水曜日

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022095440
開設科目名	設計製図			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山本　善積			区分	

授業の概要

家族生活のためのよりよい空間創造の力を養おうとする授業である。住居設計の手順や方法を
習得し、想定した家族生活のための住居を構想する。その設計図を作成するとともに、さらに模型で表現する。

授業の一般目標

住居設計の手順や方法を習得し、設定された条件の中で、実際に家族の住居を構想し設計する。さらに模型に表現する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 住居設計の手順、方法を実際に使って製図することができる。
2. 各住居空間に求められる条件や必要な広さを説明できる。
思考・判断の観点：1. 想定した家族のニーズを必要な空間に置きかえることができる。
関心・意欲の観点：1. 平面計画だけでなく、インテリアやエクステリアにも関心をもって考えることができる。
技能・表現の観点：1. 空間や家具などを模型に表現することができる。

成績評価方法(総合)

構想図、設計図、模型の制作で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

住まいを考える楽しさを味わってほしい。

連絡先

E-mail:yoshizum@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022095477
開設科目名	児童学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	友定　啓子			区分	

授業の概要

乳幼児の心身の発達について講義する。保育記録とＶＴＲ記録をもとに、幼児の特性に
応じた関わりの基本を学ぶ。絵本を紹介しながら、子ども理解について考える。
授業の一般目標

授業の一般目標

幼児に関する関心を深める。乳幼児の心身の発達を理解し、それを支える保育の基本について学ぶ。また絵本等を中心に児童文化に触れる。幼児や低学年に適した手作りおもちゃの製作を行し、教材製作の視点を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:幼児期の発達と保育に関する理解ができたか
児童文化に関する知識と理解が深まったか
思考・判断の観点:幼児の行動の見方が広がり、かかわり方について考えることができたか
児童文化に関する資料を見て、自分なりの判断・思考をすることができるか
関心・意欲の観点:幼児や子どもに対する関心が深まったか
絵本鑑賞とおもちゃの製作を通じて、児童文化に意欲や関心を抱くようにな
ったか

成績評価方法(総合)

授業内および課外レポートと、定期試験を総合して判定する

教科書

参考書

育児日記からの子ども学／友定啓子:勁草書房, 1996
子どもの心を支える／村田陽子他:勁草書房, 1999
幼児の笑いと発達／友定啓子:,勁草書房, 1993

メッセージ

連絡先

友定啓子

オフィスアワー

水12:00-12:50

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022095525
開設科目名	食品衛生学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

我々の健康の源である食物の安全性については、古来よりもっとも重要な課題の一つであるが、近年、その食物の生産、製造における種々の変遷がその課題をより複雑なものにしている。この授業では食の安全をテーマに種々の角度から考える。

授業の一般目標

この授業では、先ず、これまで起こった四つの大きな食品公害事件を検証し、その概要と問題点を探り、食品衛生の意義について理解する。ついで、典型的な細菌性食中毒をはじめ、化学性食中毒などの食中毒について理解する。特に、最も日常的で身近な存在である食品添加物については、そのベネフィットーリスク論の構築を行い、ディベート等を通してその問題点を明らかにする。さらに、今日的重要課題である遺伝子組換え食品、クローン技術、環境ホルモン、環境変異原物質等についても理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：・四大食品公害事件の概要と問題点を説明できる。

・代表的な細菌性食中毒について説明できる。

・食品添加物についてベネフィットーリスク論を構築できる。

・遺伝子組換え、クローン技術、環境ホルモンなど新しいテーマについて説明できる。

思考・判断の観点：食品の安全性について、個々の問題点をより深く理解し、総合的に食の安全性について考えることができる。

関心・意欲の観点：日常の食生活との関わりのなかで、食の安全性を考えることができるようになる。

態度の観点：個人個人の食の安全への関心・意欲の高まりが、社会全体の「食の安全性」の監視状況を強化することにつながることに気づき、日常の食生活の中で、自然な形で、その関心・意欲が実際の食生活へ反映できるようになる。

技能・表現の観点：食の安全性については、個人個人がどのような考え方を持つかが大きく問われる。授業中のディベートを通して、自らの意見を正確に相手に伝える力を身につける。

成績評価方法(総合)

期末試験、レポート、授業内ディベート、出席等を総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

この授業では、課題や問題点について、自らの考えを構築する力を養成してほしい。また、自分の考えを伝えることのできる力を身につけてほしい。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022095543
開設科目名	保育学(実習及び家庭看護を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	友定　啓子			区分	

授業の概要

幼稚園における幼児の行動理解と保育のあり方について、保育記録に基づいて学ぶ。家庭看護及び小児の救急看護について実習を行う。幼稚園にて、幼児の行動観察・保育実習を行う。

授業の一般目標

幼児および保育実践についてのテキストを集団で読むことと幼稚園で幼児の参加観察を行うことによって、これまでの幼児理解・保育理解を更に具体的なものに発展させる。

家庭看護に関する基礎的な知識と技術を身につける。

授業の到達目標

授業の到達目標

知識・理解の観点:保育に関するテキストを読んで、内容を理解したか

思考・判断の観点:保育参加観察において適切な判断がなされ、行動できたかどうか

関心・意欲の観点:幼児および幼児教育について、意欲や関心が高まったか

態度の観点:テキスト読み込みと討論への積極的な参加があったかどうか

成績評価方法(総合)

定期試験・保育参加実習レポート・演習への参加態度により、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

この授業を受ける前に「児童学」を受講しておくこと

連絡先

友定啓子

オフィスアワー

水 12:00-12:50

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022095591
開設科目名	衣料素材論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	星野　裕之			区分	

授業の概要

化学繊維の発展の歴史を述べ、その上で、最近のいわゆる機能性繊維は高感性繊維について紹介し、その特徴および機能発現の機構を論述する。

授業の一般目標

日常生活において、知らず知らずのうちに着用している機能性繊維や高感性繊維について科学的な目で理解し、正しい知識を修得するとともに、技術の進歩、その恩恵を身近に受けていることを知る。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 化学繊維の起こりを説明できる。

2. 機能性繊維、高感性繊維の機能発現の機構を説明できる。

思考・判断の観点：機能性繊維、高感性繊維の機能を効率よく発揮させる方法を自分で考えることができる。

関心・意欲の観点：世界の最先端をいく日本の繊維技術について関心をもつ。

成績評価方法(総合)

学期末試験で評価する。ただし、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

生活のための被服材料学／日下部信幸著：家政教育社, 1998

よくわかる新繊維のはなし／林田隆夫著：日本実業, 1998

新繊維材料入門／宮本武明・本宮達也著：日刊工業新聞社, 1992

被服学辞典／阿部幸子ほか 7 名編集：朝倉書店, 1999

メッセージ

繊維素材に関する基礎的知識を理解しているという前提で授業を行うので、できれば衣料素材論Iを履修済みであることが望ましい。

連絡先

E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部 300 号室

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022095640
開設科目名	栄養学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

この授業では、先ず、栄養と病気の基本的なかかわりを学ぶ。ついで、幼児期･児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解するさらに、おもな生活習慣病について、食生活との関連を通して学習する。

授業の一般目標

この授業では、乳幼児期･児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解し、それぞれの時期における栄養学的重要性を知る。次に、それを土台に、おもな生活習慣病の病態を理解し、また、その予防について考えられるようになる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1.各ライフサイクルの栄養の特徴を理解し、説明できる。

2. 主な生活習慣病について理解し、説明できる。

思考･判断の観点: 1. 実際の生活状況と生活習慣病との関連を考えることができる。

2. マスコミやインターネットで垂れ流し状態になっている「食と健康」にかかわる情報を取捨選択できる。

関心･意欲の観点: 授業を通して、食と健康の課題をさらに発展的に考え、問題意識を高める。

態度の観点: 健康を自分の問題として考えることができる。

成績評価方法(総合)

期末試験、レポート、出席で総合評価する。

教科書

参考書

メッセージ

栄養学Ⅰで学んだ基礎を土台に、栄養と食生活と疾病との関連性を構築できるように学んでほしい。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022095651
開設科目名	生活情報論（家庭電気・機械を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	友定　啓子			区分	

授業の概要

家庭機械・電機に関する講義と演習を行い、基本的な知識と技術を習得する。また生活における情報の活用について学ぶ。専門領域に必要なソフトの習得および生活における情報の役割と課題について学習する。

授業の一般目標

家庭における電気機器・機械について、基本的理解を得、簡単な補修ができる。インターネットから生活情報を収集し、教材として活用するために、word,excel、ムービーソフトなどを用いて種々の情報処理ができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：家庭電気・機械について基本的知識を得る。

生活情報の意義と限界に関する基本的知識と理解を持つ。

思考・判断の観点：家庭電気・機械について知識をもとに判断することができる。

word,excel を用いて学校現場で効果的な情報処理を考えることができる

関心・意欲の観点：家庭電気・機械、生活情報に、関心を持ち、教育実践に活用しようとする。

技能・表現の観点：家庭電気・機械に関して適切な管理・補修ができる。word,excel、ムービーソフトを用いた情報処理の課題を操作できる。

授業計画【概要・授業の目標(予定)】

各週 項目 内容 授業外指示 授業記録

<第 1 週> 機械の基礎

<第 2 週> 家庭用機械の仕組み

<第 3 週> 電気の基礎

<第 4 週> 電気の動力・光・熱への変換と利用

<第 5 週> 家庭用電気の仕組み

<第 6 週> 家庭生活と情報

<第 7 週> ワード演習1

<第 8 週> ワード演習2

<第 9 週> エクセル演習1

<第 10 週> エクセル演習2

<第 11 週> エクセル演習3

<第 12 週> 静止画 と

Power Point

<第 13 週> 動画と Power

Point

<第 14 週> 動画と Power

Point

<第 15 週> 作品発表・まとめ

成績評価方法（総合）

授業で行う講義に関するレポートや word,excel を用いた課題演習で評価する。出席が7割を満たない場合は単位を与えない。

成績評価方法（観点別）

知識・理解 思考・判断 関心・意欲 態度 技能・表現 その他 評価割合(%) JABEE 収集資料

定期試験(中間・期末試験)　評価に加えず

小テスト・授業内レポート ○ ○　○　50%

宿題・授業外レポート　評価に加えず

授業態度・授業への参加度　評価に加えず

受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 ○ ○　◎　30%

演習	○ ○	○	20%
出席		欠格条件	
その他		評価に加えず	
合計		100% 0%	

教科書

参考書

メッセージ コンピュータを活用しよう

キーワード 家庭電気･機械

生活情報活用 コンピュータ操作

成績評価方法(総合)

授業に関するレポートや word,excel を用いた課題演習で評価する。出席が7割を満たない場合は単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

入江和夫

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022095665
開設科目名	食品科学			単位	2 単位
対象学生	生健2年			学年	～
担当教員	五島　淑子			区分	

授業の概要

この授業では、食品素材の特徴および調理特性について習得する。また、嗜好性、調理操作についても講義する。

授業の一般目標

1)調理と嗜好性について理解する。

2) 調理操作の種類と目的を理解する。

3) それぞれの食品について、種類、成分などの基本的性質を説明し、調理特性を理解する

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1それぞれの食品成分の特徴を理解する

2それぞれの食品の調理特性を理解する。

3調理と嗜好性を理解する。

4調理操作について理解する。

思考・判断の観点: 1食品成分の特徴を科学的な立場で説明できる。

2食品の調理特性を科学的な立場で説明できる。

3調理と嗜好性を説明できる。

4調理操作について説明できる。

関心・意欲の観点: 1食品に対する科学的知識を高める

2調理特性に対する科学的知識を高める。

3調理と嗜好性について、科学的知識を高める。

態度の観点: 1食品に関心をもつ。

2調理に関心をもつ。

3おいしさに関心を持つ。

成績評価方法(総合)

講義した内容についての筆記試験を行い、評価する。 授業態度も考慮する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

goto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日　16:10～17:40

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022095668
開設科目名	食品科学			単位	2 単位
対象学生	家政1年			学年	～
担当教員	五島　淑子			区分	

授業の概要

この授業では、食品素材の特徴および調理特性について習得する。また、嗜好性、調理操作についても講義する。

授業の一般目標

1)調理と嗜好性について理解する。

2) 調理操作の種類と目的を理解する。

3) それぞれの食品について、種類、成分などの基本的性質を説明し、調理特性を理解する

授業の到達目標

知識・理解の観点: 1それぞれの食品成分の特徴を理解する

2それぞれの食品の調理特性を理解する。

3調理と嗜好性を理解する。

4調理操作について理解する。

思考・判断の観点: 1食品成分の特徴を科学的な立場で説明できる。

2食品の調理特性を科学的な立場で説明できる。

3調理と嗜好性を説明できる。

4調理操作について説明できる。

関心・意欲の観点: 1食品に対する科学的知識を高める

2調理特性に対する科学的知識を高める。

3調理と嗜好性について、科学的知識を高める。

態度の観点: 1食品に関心をもつ。

2調理に関心をもつ。

3おいしさに関心を持つ。

成績評価方法(総合)

講義した内容についての筆記試験を行い、評価する。 授業態度も考慮する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

goto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日　16:10～17:40

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022101427
開設科目名	英文法演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松谷　緑			区分	

授業の概要

文レベルの英文法の基本的事項と用語の知識を確認しながら、更に、談話や社会言語学的視点を踏まえた上での文法の機能についても考察する。演習形式で進める。

授業の一般目標

文レベルの英文法の基本的事項と用語の知識を確認する。

談話や社会言語学的視点を踏まえた上での英文法の機能を理解し、実践に添った英文法の活用ができるようになる。

談話や社会言語学的視点を踏まえた上での英文法の機能を理解し、それを実践に添った英文法の指導に活かすことできるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 文法の基礎をふまえ、より複雑な構造の英文も理解することができる。

思考・判断の観点: 文法の知識を応用して、英語の文や談話を分析できる。

関心・意欲の観点: より高度な英文法への関心を涵養し、英語の本質的な特徴を見極めようとする。

態度の観点: 積極的に授業に参加する。

技能・表現の観点: 文法の知識を活用して、より高度なコミュニケーションを行うことができる。

文法の知識を応用して、英語の文章について、適切な説明・解説をすることができる。

成績評価方法(総合)

授業の出席状況、課題、期末の定期試験を総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022101472
開設科目名	ライティングII			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	HIGGINS　MICHAEL　LEO			区分	

授業の概要

Preliminary requirement: the successful completion of ライテイング1. This course builds upon ライテイング1 and may only be taken after the former course have been completed and passed. Grammatical accuracy will not be lost sight of, and several additional skills and knowledge sets will be introduced. In addition, students at this stage will also be expected to develop stylistic skills working with different types of writing designed to expand their repertoire ― letter writing, reports, narratives, and academic English.

As with ライテイング1, students will be expected to produce weekly writing assignments, either in-class or as homework, and a weekly on-line blog which will provide the basis for their continuous assessment, plus a 300-word final essay, both of which will serve to determine their final grade. Students will have a range of topics to choose from for their final essay.

授業の一般目標

The students will learn the difference between 'the voice' or register of various types of writing. They will build their academic writing skills and abilities.

授業の到達目標

知識・理解の観点: The students will demonstrate the ability to write in different styles for different purposes.

技能・表現の観点: Through practice and continuing development, the skill required for written communication in English will be strengthened and the students will gain confidence in their writing ability.

成績評価方法(総合)

Continuous assessment, weekly blogs, final Report.

教科書

参考書

メッセージ

Students should bring an English-English dictionary (electronic or book form) to class every week.

連絡先

Professor Michael Higgins
研究1号館 #304
Tel/Fax:　083-933-5086
Email: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

Wednesday 4:00-5:30PM

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022101531
開設科目名	オーラルIII			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	EDWARDS　NATHANIEL　TYLER			区分	

授業の概要

1) Students will work together in pairs and groups to complete a variety of fun and interesting English activities.

2) Students will increase their vocabulary on different useful topics.

3) Students will learn and practice new study techniques.

4) Students will ask and answer questions, using their own opinions.

5) Students will use English to make plans, and to give short presentations.

6) Students will learn how to use word and sentence stress.

7) Students will write and perform role plays in different situations and use gestures.

授業の一般目標

This course is for students who wish to improve their English speaking, listening, communication, and presentation skills.

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

Final Written and Oral Exam: 30% of Final Grade.

Homework and Reports: 30%

Attitude and Participation: 20%

Presentations: 20%

教科書

Synergy 4／Adrian Tennant：MacMillan, 2006

参考書

メッセージ

Bring your dictionary and textbook to every class.

連絡先

ca72@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

14:30-16:00 (木)

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022101655
開設科目名	英文法演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松谷　緑			区分	

授業の概要

英文法の基礎的かつ全体的な演習を行う。

授業の一般目標

現代英語における基本的な言語事実を観察し、英語文法の構造全体を体系的に考察し、正用法を確実に習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:英文法の基礎を確実にする。日本語と英語の構造的な相違を理解する。

思考・判断の観点:基礎的な事項をふまえて応用できる。

関心・意欲の観点:英文法の基礎について理解を深め、より高度な英文法への関心を涵養する。

態度の観点:正しい英語を用いてコミュニケーション活動に積極的に取り組む。

技能・表現の観点:正しく且つ実際的な英語によるコミュニケーションができる。

成績評価方法(総合)

授業での活動状況、課題、期末の定期試験を総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022101684
開設科目名	英米文学講義II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

アメリカ的価値観を最もよく体現する作品の一つである、F. Scott Fitzgerald の The Great Gatsby を丁寧に読み込み、アメリカ人が何に価値を置いてきたかを考えていきます。

授業の一般目標

文学作品を、その作品が書かれた時代の中から理解し、この作品に盛り込まれているアメリカ的価値観、例えばアメリカの夢・スポーツ精神・飲酒などを探っていきます。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席(20%)と授業内の確認テスト(30%)及び授業外レポート(50%)などにより総合的に評価します。

教科書

参考書

『グレート・ギャッビー』 村上春樹訳／フィッツジェラルド：中央公論新社, 2006

『グレート・ギャッビー』　野崎孝訳／フィッツジェラルド：新潮文庫, 2006

『華麗なるギャッビー』 大貫三郎訳／フィッツジェラルド：角川文庫, 1957

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022101685
開設科目名	英米文学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

イニシエーションをテーマとする作品を読んでいきます。イニシエーションという観点から選び取った作品の中に、他の重要なアメリカ的テーマ（例えば暴力・荒野と無垢など）も含まれてくることを確認していきます。

授業の一般目標

ある文化の重要な価値観は、一つ一つが独立しているのではなく、複雑に絡み合って形象化されること、また、文化間で同じ価値観に重要度の差があることを具体的な作品で確認していきます。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席(20%)と授業内の確認テスト(30%)及び授業外レポート(50%)などにより総合的に評価します。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022101696
開設科目名	英語史Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中尾　佳行			区分	

授業の概要

英語を通時的に考察する。音韻、形態、語彙、統語法、意味の各々について、英語がどのように変化して今日の状態になったのかを通覧する。諸々の規則の説明は、できるだけ原典テクストの読解を通して行う。

授業の一般目標

本授業を通して、英語を通時的な観点から調査し、分析し、説明することができるようになり、現代英語の知識を深化・拡充する、一つの学習方略にすることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:英語の変異がなぜまたどのように起こったかを、言語外面史と内面史を関連づけて、説明・叙述することができる。

思考・判断の観点:英語の変異を体系的に分類し、音、形態、語彙、統語等に応じて、それぞれがどのような要因から推移したか、その原理・原則を把握することができる。

関心・意欲の観点:英語がなぜ国際語と言える状況になったかを、ヴィデオなどの視覚教材を通して、その背立の背景が知りたいと思うようになる。

態度の観点:英語の変異に関するプロジェクトを、班ごとに情報収集し、協議し、まとめる。

技能・表現の観点:班ごとのプロジェクトを、論理的にかつわかりやすく口頭発表し、質問に対して適切に答えることができるようになる。

成績評価方法(総合)

授業内で行われるテスト、授業態度・授業への参加度で評価を行う。

教科書

The English Language／David Crystal

参考書

メッセージ

必ず出席し、授業に参加してください。

連絡先

ynakao@hiroshima-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022101701
開設科目名	英米文学演習			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

イニシエーションをテーマとする作品を読んでいきます。イニシエーションという観点から選び取った作品の中に、他の重要なアメリカ的テーマ（例えば暴力・荒野と無垢など）も含まれてくることを確認していきます。

授業の一般目標

ある文化の重要な価値観は、一つ一つが独立しているのではなく、複雑に絡み合って形象化されること、また、文化間で同じ価値観に重要度の差があることを具体的な作品で確認していきます。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席(20%)と授業内の確認テスト(30%)及び授業外レポート(50%)などにより総合的に評価します。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022101706
開設科目名	英米の人と文学II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

それぞれの時代の出来事に真摯に向き合ってきた人々の表現を「文学」と捉えておきます。この授業では、近代に生きたイギリスやアメリカの人々、特にアメリカ人の思考や感性を追っていくことにします。

授業の一般目標

ある時代に特徴的な表現から、その時代の人々の思考や感性に触れ理解することを目指します。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席(20%)と授業内の確認テスト(30%)及び授業外レポート(50%)などにより総合的に評価します。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022105534
開設科目名	オーラルⅠ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	非常勤　講師			区分	

授業の概要

The Oral English courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on English pronunciation, enunciation, rhythm and syntax will be expected. This is a course that requires 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Students will learn how to project their voice through dramatic readings. They will work on rhythm through reading limericks and poetry. They will work on pronunciation through specially designed tongue twisters and oral exercises.

授業の一般目標

Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit this, then the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The students should take as much advantage of that as they can.

授業の到達目標

知識・理解の観点：Through active classroom practice with a native-speaker in speaking and listening, students will develop their ability to understand and communicate in naturally spoken English.

技能・表現の観点：Students will learn how to project their voice through dramatic readings. They will develop a good sense of the rhythm of English through reading limericks and poetry. They will develop better pronunciation and enunciation through specially designed tongue twisters and oral exercises.

成績評価方法(総合)

Attendance and class participation are of paramount importance. Evaluation is continuous, but there will also be a short oral test at the end of the term.

教科書

参考書

メッセージ

Students should bring an English-English dictionary (electronic or book form) to every class.

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022105535
開設科目名	オーラルⅠ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	HIGGINS　MICHAEL　LEO			区分	

授業の概要

The Oral English course are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on English pronunciation, enunciation, rhythm and syntax will be expected. This is a course that requires 'audience participation': students will gain the most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions ― not to give one-word answers, and not be too shy to initiate an exchange. Oral 1 starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard.

授業の一般目標

Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit this, then the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The students should take as much advantage of that as they can.

授業の到達目標

知識・理解の観点：Through active classroom practice with a native-speaker in speaking and listening, students will develop their ability to understand and communicate in naturally spoken English.

技能・表現の観点：Students will develop their ability to listen and respond to normal conversational topics in English without resorting to translation.

成績評価方法(総合)

Attendance and class participation are of paramount importance. Evaluation is continuous.

教科書

参考書

メッセージ

Students should bring an English-English dictionary (electronic or book form) to every class.

連絡先

Professor Michael Higgins
研究1号館 #304
Tel/Fax:　083-933-5086
Email: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

Wednesday 4:00-5:30PM

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022105538
開設科目名	英米文学概論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡　紘一郎			区分	

授業の概要

英米文学とは何か、文学と言語の関係はどうか、文学における演劇、文学における小説等の問題を考察する。

授業の一般目標

英米文学について概観的知識を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：文学作品と文学的特徴の関連性を理解する。

思考・判断の観点：筆者の論理の流れが理解でき、引用作品が読めるようになる

関心・意欲の観点：テキストに引用されている作品の一部から更に全体が読めるようにする。

態度の観点：紹介されている人名や作品について、更に深く学ぶ態度を養う。

技能・表現の観点：作品、作者、文学用語等を理解し、簡潔な説明ができるようになる

成績評価方法(総合)

出席点（三分の一以上欠席すれば受験資格を失う）、平常点、期末試験の成績で評価する。

教科書

English Literature／L.D.Lerner：Eihosha, 1996

参考書

メッセージ

毎回予習を十分におこなって出席すること。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022105540
開設科目名	オーラルⅠ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	非常勤　講師			区分	

授業の概要

The Oral English courses are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on English pronunciation, enunciation, rhythm and syntax will be expected. This is a course that requires 'audience participation': students will gain most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions - not to give one-word answers, always to stay alert, and occasionally to initiate an exchange. Oral I starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard. Students will learn how to project their voice through dramatic readings. They will work on rhythm through reading limericks and poetry. They will work on pronunciation through specially designed tongue twisters and oral exercises.

授業の一般目標

Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit this, then the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The students should take as much advantage of that as they can.

授業の到達目標

知識・理解の観点：Through active classroom practice with a native-speaker in speaking and listening, students will develop their ability to understand and communicate in naturally spoken English.

技能・表現の観点：Students will learn how to project their voice through dramatic readings. They will develop a good sense of the rhythm of English through reading limericks and poetry. They will develop better pronunciation and enunciation through specially designed tongue twisters and oral exercises.

成績評価方法(総合)

Attendance and class participation are of paramount importance. Evaluation is continuous, but there will also be a short oral test at the end of the term.

教科書

参考書

メッセージ

Students should bring an English-English dictionary (electronic or book form) to every class.

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022105541
開設科目名	オーラルⅠ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	HIGGINS　MICHAEL　LEO			区分	

授業の概要

The Oral English course are designed to build upon the student's existing knowledge of English grammar and vocabulary, and to provide classroom practice with a native-speaker in speaking and listening. Continued work on English pronunciation, enunciation, rhythm and syntax will be expected. This is a course that requires 'audience participation': students will gain the most enjoyment and benefit if they attempt to be creative in their classroom contributions ― not to give one-word answers, and not be too shy to initiate an exchange. Oral 1 starts as a 'false beginners' course, and seeks to bring the student through to the pre-intermediate standard.

授業の一般目標

Any student wishing to teach English in a state or private school should ideally spend as much time as possible in an English-speaking country. If circumstances do not permit this, then the next best thing is to have contact with a native speaker. That is what this course provides. The students should take as much advantage of that as they can.

授業の到達目標

知識・理解の観点: Through active classroom practice with a native-speaker in speaking and listening, students will develop their ability to understand and communicate in naturally spoken English.

技能・表現の観点: Students will develop their ability to listen and respond to normal conversational topics in English without resorting to translation.

成績評価方法(総合)

Attendance and class participation are of paramount importance. Evaluation is continuous.

教科書

参考書

メッセージ

Students should bring an English-English dictionary (electronic or book form) to every class.

連絡先

Professor Michael Higgins
研究1号館 #304
Tel/Fax: 083-933-5086
Email: higginsm@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

Wednesday 4:00-5:30PM

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022105592
開設科目名	言語学概論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松谷　緑			区分	

授業の概要

言語学概論Ｉで扱われた知識を基礎として、言語習得、社会言語学、言語変化、言語と文体等のテーマについて講義する。

授業の一般目標

言語学上の基本概念を確認し、社会における言語の在り方についても理解を深める。言語を客観的に観察し、言語についての理解を深めることによって、英語教育の実践において重要な考え方の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点：言語学の基礎的な諸領域について、基本的な考え方や用語を理解する。

思考・判断の観点：言語現象を客観的且つ論理的に分析することができる。言語分析の基礎的手法や考え方を語用論的な視点をもって応用できる。

関心・意欲の観点：言語学に関するテーマについて広く関心を持ち、主体的に考えることができる。

態度の観点：学習のための時間を自ら積極的に作り出すとともに、学習を進めるにあたって生じる諸問題の解決に向けて自主的に取り組むことができる。

技能・表現の観点：言語分析に際し、理解した理論や用語を用いながら、適切な表現でわかりやすく説明できる。

成績評価方法(総合)

授業中の課題、レポート、期末の定期試験により総合的に評価する。

教科書

An Introduction to Language　8th ed.／Victoria Fromkin, Robert Rodman, Nina Hyams

参考書

メッセージ

言語学概論Ｉを履修していることが望ましい。

連絡先

mmatsu@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022111383
開設科目名	教育社会学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	田中　理絵			区分	

授業の概要

教育事象をアカデミックな視点から分析するためには、われわれのもつ「常識」をまず疑うところからはじめなければならない。そのための研究手法が必要となるが、本演習では、教育社会学の視点から様々な教育（子ども）問題について、受講者の興味関心をもとに文献講読を行い、研究に必要な知識・技術等の獲得を目指す。

授業の一般目標

(1)文献講読を通して、教育事象の分析力を上げる。

(2)理解するべき事象の背景・言葉・変遷を、各自で適切に調べることができるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：①教育事象の分析に必要な概念・分析方法の取得。

思考・判断の観点：①「常識」にとらわれない、自由な分析力の取得。

関心・意欲の観点：①問題事象の背景、その現実、そして解決方法について、関心意欲を持ち続けることができる。

態度の観点：①真摯な態度で問題に迫る。

成績評価方法(総合)

発表の内容、議論への参加態度などを総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

原則として、教育社会学演習Ⅰの既習者のみ受講可能（事情のある学生は要相談）。

連絡先

教育社会学研究室（ta-na@yamaguchi-u.ac.jp）

オフィスアワー

水曜日 10:20-12:00

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022111542
開設科目名	人間教育学研究法II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　修			区分	

授業の概要

卒業論文作成に向けて各自のテーマに従って研究を深める。

授業の一般目標

(1)卒業研究論文を作成するための学術的知識･方法を習得できる。

(2)適切な学術ターム･方法等を理解できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 各学問領域における学術タームを正確に把握できる。

2. 各学問領域における研究方法を正確に習得できる。

思考･判断の観点: 1. 各自のテーマに沿ったイシューに対して系統的かつ論理的に指摘できる。

関心･意欲の観点:. 各自の研究テーマに対して日常的に関心を持ち続け、その問題解明に意欲を表示できる。

態度の観点: 1. 主体的かつ積極的に研究に取り組むことができる。

成績評価方法(総合)

研究論文作成過程の意欲･態度、課題の提出、成果の発表を総合的に判断する。

教科書

参考書

メッセージ

各学問領域固有の研究方法が把握できるように努めて下さい。

無断欠席, 遅刻は認めない. 欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の及んだ場合には, 単位は認められない.

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022111593
開設科目名	教育社会学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	田中　理絵			区分	

授業の概要

本演習では、教育社会学の視点から教育事象を読み解く。様々な現代的教育問題について取り上げ、毎回、受講者による発表・討論を積み重ねることによって、①問題の背景・現状について把握すること、②教育社会学的研究の視点・手法について理解できるようになることを目的とする。なお、演習で取り上げるテーマについては、こちらから幾つか候補を示すので、その中から受講者同士による話し合いで決定する。

授業の一般目標

①問題の背景・現状について把握すること。

②教育社会学的研究の視点・手法について理解できるようになること。

授業の到達目標

知識・理解の観点:①教育社会学で用いられる学術用語、研究手法等について理解する。

思考・判断の観点:①教育問題に対して、常識的思考を一旦括弧に入れ、自由な視点から改めて問い直すことができるようになる。

関心・意欲の観点:①問題の背景・現状・解決に向けての方策について、一貫した探究心をもつことができる。

態度の観点:①真摯な態度で携わることができる。

成績評価方法(総合)

①発表と質疑応答への参加態度、②レポートを総合的に評価。

教科書

参考書

メッセージ

原則として、教育社会学の既習者の受講が望ましい。

連絡先

教育社会学研究室 (ta-na@yamaguchi-u.ac.jp)

オフィスアワー

水曜日 10:20-12:00

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022111628
開設科目名	教育哲学演習Ⅱ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	西村　正登			区分	

授業の概要

受講生が教育哲学に関する研究を発表し、討議しながら授業を進める。また、教育哲学研究の進め方や論文構成の立て方についても説明する。

授業の一般目標

教育哲学に関する研究をまとめたものを発表したり、討議することによって、レポートや論文をまとめたり、それを発表し表現する力を養う。また、教育哲学研究の進め方や論文構成の立て方について理解できる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 教育哲学の基本的な概念を理解し、説明できる。

2. 教育哲学研究の進め方や論文構成の立て方を説明できる。

思考・判断の観点：1. 論理的に筋道を立ててレポートや論文を作成することができる。

2. 論理的に筋道を立てて考え、判断し、発表することができる。

関心・意欲の観点：1. 自分の関心や意欲に基づいて研究テーマを設定することができる。

2. 研究テーマに基づいて文献を収集することへの関心や意欲を高めることができる。

3. 自分の考えを論理的に筋道を立てて表現し、発表することへの関心や態度を高めることができ る。

態度の観点：1. 研究テーマを追究し、論理的に筋道を立てて考えていく態度を養うことができる。

2. 研究テーマに基づいて文献を収集しようとする態度を態度を養うことができる。

3. 自分の考えを論理的に筋道を立てて表現し、発表しようとする態度を養うことができる。

技能・表現の観点：1. 自分の考えを論理的に筋道を立てて表現し、発表することができる。

2. レポートや論文を論理的に筋道を立てて書くことができる。

成績評価方法(総合)

受講生が作成したレジュメの内容とプレゼンテーションを中心に、授業への出席状況を加味して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

自主的に研究テーマを設定し、文献を収集し、論文を構成していくよう努めて下さい。授業では疑問に思ったことは積極的に発言するようにして下さい。

連絡先

教育学部・教育哲学研究室

内線：5450

メールアドレス：masaton@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日　12時～12時50分

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022111646
開設科目名	教育制度演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐々木　司			区分	

授業の概要

教育制度演習Ⅰを踏まえ、各自、興味関心に応じテーマを設定する。その後、資料収集、調査研究を行い、随時進捗状況を報告する。最後に、そのテーマについての発表会を行う。

授業の一般目標

教育の制度（仕組み、メカニズム）に関する研究をやり遂げ、その成果を発表する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：選択したテーマ及びそれに関連する基本的な知識を理解している。また、そのテーマについて、これまで研究上何が明らかにされ、何が明らかにされていないのか、研究上の課題は何かについて理解している。

思考・判断の観点：選択したテーマ及び自ら行った研究について建設的かつクリティカルな見方ができる。今後、自分にとっての課題が何であるのかを明確に認識できている。

関心・意欲の観点：選択したテーマについて旺盛な関心をもち、自分から意欲的に研究を行っている。

態度の観点：授業への出席状況が良好であり、自他の発表において積極的な態度を示している。

技能・表現の観点：発表を行う際、分かりやすく発表するように努めている。

成績評価方法(総合)

「授業外レポート」と「発表」から、授業の到達目標に達しているか、また達するように努めているかを評価する。「授業外レポート」は、授業で何を学び、また何が課題として明らかになったかなどを、毎回の授業終了後に完結に報告してもらうものである。

教科書

参考書

メッセージ

第1回目の授業でオリエンテーションを行い、授業について詳しく説明する。「教育制度」「教育制度演習Ⅰ」を履修した人間教育学教室所属の学生を主な対象として想定している。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022111669
開設科目名	人間教育学研究法Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　修			区分	

授業の概要

人間教育学の研究内容と方法に関して、概説する。

授業の一般目標

人間教育学の研究分野および研究方法に関して理解し、今後の研究視点の基礎を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 教育哲学、教育史、教育社会学、教育方法学、教育制度学の基礎的な学問領域・方法を説明できる。

関心・意欲の観点：1. 教育哲学、教育史、教育社会学、教育方法学、教育制度学の複数領域の視点から、日常的に教育や子どもの問題に関心をもつことができる。

態度の観点：1. 卒業論文を作成することを視野に入れて、教育や子どもの問題を主体的に考察することができる。

成績評価方法(総合)

各担当教官がそれぞれ課題を出します。最終評価は、各教官の出した評点をもとに総合的に判断されます。

教科書

参考書

メッセージ

授業に無断欠席, 遅刻をしないこと. 遅刻は認めない. 欠席回数が授業実施回数の3分の1に及んだ場合には単位は認められない.

人間教育学コースの学生の必修科目であり、今後のゼミ選択の基礎となる講義・演習です。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022111673
開設科目名	教育史演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　修			区分	

授業の概要

学生各自研究テーマを設定し，研究資料の収集と分析を行う.

授業の一般目標

教育史の基礎的研究方法を身につける.

教育問題を歴史的に考察することができる.

授業の到達目標

知識･理解の観点:教育史の研究方法が説明できる.

思考･判断の観点:資料を多面的に検討できる.

関心･意欲の観点:教育に関する関心をひろげ，問題意識を深めることができる.

態度の観点:課題を計画的･継続的に追求することができる.

成績評価方法(総合)

毎回の発表内容で評価する．欠席回数が授業実施回数の 3 分の 1 に及んだ場合には単位は

認められない.

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022111697
開設科目名	教育方法学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

人間の内面を取り扱う優れた文献を読み自分の言葉で表現する

授業の一般目標

認識より深い次元の人間の内面について自分なりの表現で語れるようになる

授業の到達目標

知識・理解の観点:知識の習得は目指さない。人間の内面の理解し難さについて理解を深める。

思考・判断の観点:思考によって一旦獲得された理解を乗り越える思考方法を身につける

関心・意欲の観点:広義での教育の問題、人間理解の問題について自分自身にひきつけて考える

態度の観点:他者の発表を能動的に聴く、自分の発表を積極的に創る

成績評価方法(総合)

発表

教科書

参考書

メッセージ

自分の言葉で自分の想いを表現できることが目標です。積極的な参加を求めます。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022121441
開設科目名	臨床心理学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	大石　英史			区分	

授業の概要

臨床心理学に関する現代的テーマを取り上げ、演習形式で内容を深めていきます。

授業の一般目標

臨床心理学の基本的な考え方と方法について自分の言葉で理解し説明できるようになることが目標です。

授業の到達目標

知識・理解の観点:臨床心理学に関する現代的テーマに関する基礎的知識をディスカッションを通して学ぶ。

思考・判断の観点:臨床事例の背景にある問題について幅広く思考できる力。

関心・意欲の観点:人の心の病に関する深い関心が持てること。

態度の観点:人間を全体性をもった存在として理解していける態度が身につくこと。

技能・表現の観点:発表担当箇所において、しっかりとした問題提起ができる。レポート課題において自分の考えを自分の言葉で表現できる。

成績評価方法(総合)

教科書

思春期臨床の考え方・すすめ方／鍋田恭孝編:金剛出版, 2007

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022121485
開設科目名	臨床心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	名島　潤慈			区分	

授業の概要

臨床心理学の領域と対象、問題行動の理解の仕方、心理療法、社会資源の活用の仕方などについて講義する。また、ﾘﾗｸｾｰｼｮﾝやｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞに関する基礎的技法の練習も行う。

授業の一般目標

臨床心理学の基礎を習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:臨床心理学に関する基礎的な知識を持つ。

思考・判断の観点:人間に関するさまざまな出来事（やっかいごと）を援助的な視点から考えることができる。

関心・意欲の観点:臨床心理学に関する基礎知識の習得に積極的に取り組む。

態度の観点:真面目に授業に出席する。積極的に発言する。

成績評価方法(総合)

定期試験、授業態度、出席などから総合的に評価する。

教科書

新版 心理臨床家の手引／鑪幹八郎・名島潤慈編著：誠信書房, 2000

参考書

メッセージ

講義だけでなく、ﾘﾗｸｾｰｼｮﾝの技法やｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞの技法についての実技練習、社会資源の活用の仕方についての練習も行います。

連絡先

najima@yamaguchi-u.ac.jp　083-933-5465

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022121491
開設科目名	心理学研究法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　廣			区分	

授業の概要

心理学の理解を深めるためには、その研究方法についての理解が肝要である。心理学の諸領域の各特性に関連が深い方法、領域間で共通する方法について、「測定すること」に焦点化する形で心理学研究法について論考する。

授業の一般目標

心理学の幾つかの領域の諸問題への共通アプローチ法及び個別的なアプローチ法の特色を知り、、実証的な研究のやり方についての枠組みを習得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業中における討論および期末試験の成績で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

講義時配付資料とテキストを援用しながらの講話中心の講義である。自分なりの工夫された講義ノートを作成し、それをテストに活用されたい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022121502
開設科目名	カウンセリング実習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	木谷　秀勝			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022121688
開設科目名	社会心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	小杉　考司			区分	

授業の概要

現代社会心理学の様々な研究テーマを概観し、かつ、新しい社会心理学の在り方を模索する

授業の一般目標

人間理解における社会の重要性を知ること

授業の到達目標

知識・理解の観点:社会を中心とした個人の在り方を理解する

思考・判断の観点:社会を中心とした人間観察、判断の基準を得る

関心・意欲の観点:社会に興味をもつ

成績評価方法(総合)

試験による

教科書

参考書

社会心理学／藤原武弘:見洋書房, 2009

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022121708
開設科目名	心理教育測定法			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	小杉　考司			区分	

授業の概要

心理尺度および学力テストの作成法、運用法、分析法について講義する。

授業の一般目標

よいテスト（調査票も含む）と悪いテストの区別ができ、作成時に注意すべき点について理解が深まる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：テストや尺度を作成するプロセスについての理解を得る。

思考・判断の観点：良いテストと悪いテストの区別ができるようになる。

技能・表現の観点：得られたテストの結果から、良い項目と悪い項目を峻別し、より正確に目に見えないもの（心理特性、能力特性）を測定できるようになる。

成績評価方法(総合)

授業内に課される課題と、期末テストで評価する。

教科書

参考書

項目反応理論【入門編】／豊田秀樹：朝倉書店

メッセージ

連絡先

小杉研究室

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022125463
開設科目名	心理データ処理法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	田邊　敏明			区分	

授業の概要

まずはパソコンの基本的な使い方に慣れ、次にデータの特徴を把握した上で、その入力の仕方を学び、さらには表計算ソフトや統計ソフトを使った統計分析の方法を学んでいく。特に Excel によるデータ入力と下位計算、そしてそのデータを応用した形での SPSS による多変量解析、さらには最近 Web 用になった ANOVA4 を用いての分散分析を、実際のデータを用いて演習する。さらにはそれらの結果のグラフでの表し方や、プレゼンテーションの方法、最後には Web 上での公開の仕方まで学んでいく。

授業の一般目標

パソコンの使い方に慣れ、そしてエクセルを使ったデータの扱い方、特に csv ファイルの扱い方に慣れること、そしてそれを基に SPSS の多変量解析や Web 上での ANOVA4 による分散分析の仕方を修得していく。後は、その結果の扱いを柔軟にこなせるまでになりたい。

授業の到達目標

知識・理解の観点: パソコンに対する基本的な知識、イメージを獲得し、ファイルの扱い方に慣れること。特にデータの種類、中でもテキストファイル(csv ファイル）の扱いになれるようにしたい。また統計ソフトを使いこなせるために、データ入力から統計解析、そして結果の考察という一連の流れをつかみたい。

思考・判断の観点: データを生かすためにどのような工夫が必要かを自ら判断していく。

関心・意欲の観点: パソコンを自ら触ることによって、新たな使い方を修得したい。

態度の観点: パソコンにたくさん触ることが基本であり、授業外でもどのくらいパソコンに向かうかを評価したい。

成績評価方法(総合)

データを処理した結果は、提出を義務づける。その他、統計計算による結果の解釈、さらに研究成果のプレゼンテーション作成の課題がある。（結果はフロッピで提出するか、メールの添付機能で送付する）さらに授業態度や出席も加えて総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

現在あるいは将来、心理的なデータを処理する必要のある学生を対象とします。

連絡先

E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372

オフィスアワー

オフィスアワー　火曜日 18:00～19:00

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022211505
開設科目名	情報数学Ⅱ（表現情報処理コース開設）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	永久　洋治			区分	

授業の概要

情報処理工学やマルティメディアアートの基本的な知識の一つである，線形代数学全般について学ぶ.

授業の一般目標

情報科学やメディアアートに関する専門科目で基本的に使われるベクトル，行列およびそれらの基本的な性質について学び，それらが自在に使いこなせるようにすることを目標とする.

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 計量ベクトル空間の構造が理解できる.

2. 線形変換と行列の関係について理解できる.

3. 正則行列の性質が理解できる

技能・表現の観点：1. 3次元空間で立体を操れる技術をもつこと

成績評価方法(総合)

定期試験，レポートおよび出席状況で評価する.

教科書

参考書

メッセージ

山口大学のネットワークで電子メールによる通信が利用できることを前提とする.

連絡先

最初の講義で伝える.

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022211594
開設科目名	デザイン情報処理Ⅰ(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	熊谷　武洋			区分	

授業の概要

CG 表現の基礎技術の理解と習得のため、2 次元画像処理アプリケーションおよびビジュアルプログラミング環境である PureData、Processing を用いて課題の制作を中心とした演習を行う。

授業の一般目標

本講義は計算機による視覚表現処理の概念および処理過程の基本を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:画像情報処理の論理的な処理プロセスを理解しているか

思考・判断の観点:与えられた素材、情報から自己学習を通し、表現行為を行えるか

関心・意欲の観点:講義や課題に積極的に取り組んでいるか

技能・表現の観点:セオリーに基づいて意識的にプログラムおよびデザインを行っているか

成績評価方法(総合)

課題を中心に、専門知識の理解度、受講態度を含めて総合的に判断する

教科書

参考書

Built with Processing ―デザイン/アートのためのプログラミング入門／前川 峻志、田中 孝太郎: BNN, 2008

メッセージ

予習・復習を積極的に行うこと。なお、実習時間を確保するため、受講者と相談の上、通常の時間割り以外の時間帯にも時間を設けて実習を行うことがある。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022211609
開設科目名	画像形成デザイン			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	熊谷　武洋			区分	

授業の概要

画像情報処理技術を応用して、CG･デジタル映像を中心とした映像コンテンツを制作する。本講ではコンテンツ制作において不可欠な計画の基礎から学習する。なおなお本講義においては筆記試験は課さず、制作のみで評価を行う。

授業の一般目標

本講義はデザイン情報処理1,2 において修得した内容を基礎としてさらに内容を発展させたコンテンツ制作を制作することを目標としている。具体的には各種アプリケーションを用いてデジタル編集による大学 CM やオリジナルの映像作品を制作する。

授業の到達目標

技能･表現の観点: これまで修得した各種技術を自分が策定した計画どおりに応用し、具体化できているかどうか

成績評価方法(総合)

課題を中心に、専門知識の理解度、受講態度を含めて総合的に判断する

教科書

参考書

メッセージ

選択科目なのでメディアリテラシを学びたい人も受講可

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022211647
開設科目名	情報数学Ⅴ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	永久　洋治			区分	

授業の概要

主として統計について学ぶが，情報理論の基礎領域も含む．すなわち確率，情報理論，統計量，推定，検定を学ぶ．特に統計の領域では，確率分布表は使わず Excel の機能を使って計算する．

授業の一般目標

情報理論と統計の基礎的な計算ができるようにすることを目標にする．

授業の到達目標

技能･表現の観点:1. 諸エントロピー，通信路容量およびコンパクト符号を求められる．

2. 各種統計量を求めることができる．

3. 母平均，母分散，母比率の区間推定ができる．

4. 母平均，母分散，母比率の検定ができる．

5. 適合度，独立性の検定ができる．

成績評価方法(総合)

定期試験，レポートおよび出席状況で評価する．

教科書

参考書

メッセージ

山口大学のネットワークで電子メールによる通信が利用できることを前提とする．

連絡先

y_nghs69@c-able.ne.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022211666
開設科目名	情報数学IV			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	永久　洋治			区分	

授業の概要

情報処理工学の基礎である積分法を学ぶ. 積分の定義, 計算法を学び, その後応用として, 面積, 体積, 曲線の長さ, 線形微分方程式, フーリエ級数などを学ぶ.

授業の一般目標

積分の定義と置換積分法や部分積分法など簡単な積分法が使えることと, 理工系出身者間の積分に関する話題が理解できるようにすることを目標とする.

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. 積分の定義を理解する.

技能・表現の観点:1. 簡単な置換積分法と部分積分法等の積分方法が利用できる能力を習得する.

2. 簡単な重積分ができるような技能を習得する.

3. 面積, 体積, 曲線の長さ, 線形微分方程式の解, フーリエ級数を求めるような技能を習得する.

成績評価方法(総合)

定期試験, レポートおよび出席状況で評価する.

教科書

参考書

メッセージ

山口大学のネットワークで電子メールによる通信が利用できることを前提とする.

連絡先

y_nghs69@c-able.ne.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022215403
開設科目名	アルゴリズム論(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	葛　崎偉			区分	

授業の概要

探索やソーティングなどの実例を取り上げ、そのアルゴリズムとソフトウェアの設計について講義し、また計算量およびプログラムの実測時間によるアルゴリズムの能率確認の実習も行う。

授業の一般目標

計算機処理に必要なアルゴリズム、データ構造、計算量についての基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、レポート、試験などによる総合評価 = 100%

教科書

アルゴリズム論／浅野, 和田, 増澤: オーム社, 2003

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022215416
開設科目名	音響構成デザインⅠ(実習を含む。)			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	池上　敏			区分	

授業の概要

コンピュータソフトを用いての初歩的な作曲について様々な観点から講義します。リズム、旋律、和声、対位法、音楽形式などの学習と、音楽ソフトの操作が主な学習内容となります。様々な形式の楽曲、様々な手法の作曲を作品として定着すること。

授業の一般目標

初歩的なものから始めて、様々な形式、様々な手法の作曲がコンピュータ上で、音楽ソフトによって実現できる能力の獲得を目標とします。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 作曲法の基本的な知識と理解、コンピュータ音楽ソフトの操作の知識の獲得。

思考・判断の観点: 音楽ソフトの操作に対する判断力、及び実現したい内容はどうすれば実現できるか、という思考力の育成。

関心・意欲の観点: 作曲に対する関心と、積極的に音楽ソフトで作曲してみよう、という意欲の持続。

態度の観点: 音楽ソフトで作曲をしてみよう、というと態度の保持、育成。

技能・表現の観点: 作曲についての様々な技能の育成、と音楽ソフトを用いての表現の練磨。

成績評価方法(総合)

音楽ソフトによって自分で作曲した楽曲(これをレポートとする、複数)と受講態度、授業への参加度などを総合的に評価。

教科書

参考書

メッセージ

音楽ソフトによって作曲は誰にでもできるものになったように思われます。音楽もこれからの時代、重要な発信情報の一つになるでしょう。この際、自分のオリジナルの楽曲を作れる能力を獲得しよう。作曲できることは素晴らしいことだろうし、これからの人生が豊かになるかもッ！です。

連絡先

音楽棟109研究室

オフィスアワー

新年度に時間割が決定後に通知します。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022215421
開設科目名	論理回路			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標

組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウエアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. 2 値のブール代数演算を習得する

2. ブール関数と真理値表の関係を理解する

3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する

4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する

思考・判断の観点:1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する

2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

成績評価方法(総合)

試験とレポートによる

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022215478
開設科目名	プログラミング言語Ⅰ(実習を含む。)			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	中田　充			区分	

授業の概要

最も一般的なプログラミング言語であるC言語を学習する. 文法, 変数, 関数等の基礎知識を学習した後, 実際にプログラミングを行い, ソフトウェア作成の基本的技術を習得する.

授業の一般目標

プログラミングの基礎知識を習得し, 簡単なプログラムが作成できる.

授業の到達目標

知識・理解の観点: プログラミングに関する基礎知識が理解できているか？

関心・意欲の観点: 自ら, 新しい課題に取り組もうとしているか？

態度の観点: 出席し, レポートを提出しているか？

成績評価方法(総合)

出席1割, レポート1割, 試験8割

試験はペーパー試験と実技試験の2つを課す.

教科書

C言語スタートブック 改訂第3版／髙田美紀:技術評論社, 2008

参考書

メッセージ

質問がある場合は, メールにてアポイントを取ってから, 研究室まで来て下さい.

連絡先

オフィスアワー

無し.

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022215612
開設科目名	電子回路			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

電気回路で学んだ回路理論の基礎知識をもとに、身の回りの電気･電子機器の構造や動作原理を理解する。また、電子回路の基本素子としてダイオードおよびトランジスタの動作原理を解説し、それを用いたた基本的な電子回路について解説する。

授業の一般目標

基礎的な電子回路素子の動作原理とその利用法を習得することにより、身の回りの電子
機器に対する興味と理解を深めることを目的とする

授業の到達目標

知識･理解の観点:1. ダイオード、トランジスタの動作を理解し説明ができる。
2. 全波整流回路半波整流回路の回路図が描け、動作を概説できる
3. 身の回りの電気･電子機器の構造や動作原理を理解し説明できる。
関心･意欲の観点:1.身の回りの電気･電子機器の構造や動作原理に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

試験とレポートによる

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022215698
開設科目名	情報社会概論(情報倫理を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　泰子			区分	

授業の概要

情報社会において情報の持つ特性を理解し、社会や教育上での情報に関する多様な問題を通して、情報倫理（情報モラル）の重要性を考える。また、情報倫理を法的、技術的観点に加えて、道徳的な観点からも捉えて考察し、情報社会での問題事象に対して活用し実践できる能力を培う。

授業の一般目標

情報が氾濫する社会で、情報の本質を見極める力を養う。そのうえで、情報社会人として必要な情報倫理の知識と実践する態度を習得し、社会で活用できる能力を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：情報社会の仕組みや情報の特性を理解し、その中で情報倫理についての知識を習得し理解することができる。

思考・判断の観点：情報社会の中で、情報の本質を見極め、問題事象の対処について法的、技術的、道徳的観点から考察し判断することができる。

関心・意欲の観点：習得した知識や思考を、情報社会人として主体的に活用できる。

態度の観点：情報倫理（情報モラル）について主体的な考え方を提案し、実践することができる。

技能・表現の観点：問題事象や課題に対して、自らの考えや意見を積極的に述べることができる。

成績評価方法(総合)

出欠、授業内提出物、課題レポート、プレゼン、授業参加などを総合して評価する。

教科書

「コミュニケーション実践学」／林徳治・沖裕貴：ぎょうせい，2007

参考書

メッセージ

本講義は集中講義で実施します。講義のみではなくグループ活動による演習も取り入れ、情報社会における問題点をグループで考察・解決していきます。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022221656
開設科目名	計算機言語II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	糸長　雅弘			区分	

授業の概要

「計算機言語 I」に引き続いて，C 言語のより深い内容（文字列，ポインタ，構造体，ファイル処理など）について解説する。ポインタと構造体は C 言語の要であり，これを理解し，使いこなせるかどうかが，C 言語を修得したかどうかの分かれ目である。

授業の一般目標

ポインタと構造体を完全に理解し，複雑なデータ構造や文字列処理のアルゴリズムを修得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. ポインタと構造体を説明できる。

2. 目的に応じたデータ構造（構造体）を定義できる。

3. 文字列処理のプログラムを作成できる。

思考・判断の観点：1. 論理的な思考ができる。

2. エラーメッセージを判断して，バグの所在を特定できる。

関心・意欲の観点：1. 何らかの答えが必要な問題を，プログラミングで解決することに関心を持つことができる。

2. プログラミングという行為自体に，意欲を持つことができる。

態度の観点：1. 協調して，問題の解決に取り組むことができる。

2. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。

技能・表現の観点：1. プログラムを適切な部品（関数）に分割できる。

2. 読みやすいプログラムを記述できる。

成績評価方法(総合)

出席率 80%未満を欠格条件とし，課題と発表及び期末試験を総合的に評価する。

教科書

新版 明解 C 言語 実践編／柴田 望洋：ソフトバンクパブリッシング，2004

参考書

メッセージ

内容が高度になるので，「計算機言語 I」，「計算機言語演習 I」で基礎をしっかりと身に付けておくことが重要である。「計算機言語演習 II」と併せて受講し，ノートパソコンを持参すること。

連絡先

E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部 224 号室

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022221667
開設科目名	計算機言語演習II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	糸長　雅弘			区分	

授業の概要

授業科目「計算機言語II」の講義内容に従って，実際にプログラムを書き，コンパイルし，実行する作業を行う。

授業の一般目標

ポインタや構造体を用いたプログラムを数多く書くことを通じて，プログラミングの高度な能力を身に付ける。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. ポインタと構造体を説明できる。

2. 目的に応じたデータ構造（構造体）を定義できる。

3. 文字列処理のプログラムを作成できる。

思考・判断の観点:1. 論理的な思考ができる。

2. エラーメッセージを判断して，バグの所在を特定できる。

関心・意欲の観点:1. 何らかの答えが必要な問題を，プログラミングで解決することに関心を持つことができる。

2. プログラミングという行為自体に，意欲を持つことができる。

態度の観点:1. 協調して，問題の解決に取り組むことができる。

2. プログラミングの作業に粘り強く取り組むことができる。

技能・表現の観点:1. プログラムを適切な部品（関数）に分割できる。

2. 読みやすいプログラムを記述できる。

成績評価方法(総合)

出席率80%未満を欠格条件とし，課題と発表及び期末試験を総合的に評価する。

教科書

新版 明解C言語 実践編／柴田 望洋:ソフトバンクパブリッシング，2004

参考書

メッセージ

自分の頭で考え，プログラミングに取り組むこと。「計算機言語II」と併せて受講し，ノートパソコンを持参すること。

連絡先

E-mail: itonaga@yamaguchi-u.ac.jp，電話: 083-933-5350，研究室: 教育学部224号室

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022221674
開設科目名	数理情報講究			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	渡邉　正			区分	

授業の概要

数理情報教室の各教員がテキストを指定し，セミナー形式の授業を行う。

授業の一般目標

「卒業研究」に取り掛かるための基礎力を身に付ける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 数学の基礎的な問題を解くことができる。

2. 情報科学の基礎的な問題を解くことができる。

思考・判断の観点：1. 論理的な思考ができる。

関心・意欲の観点：1. 卒業研究のテーマに関心を持つことができる。

2. 卒業研究のテーマに意欲をもやすことができる。

態度の観点：1. 高度なテーマや難問にも粘り強く取り組むことができる。

技能・表現の観点：1. 明快かつ論理的に物事を説明できる。

成績評価方法(総合)

グレード試験と講読を総合的に評価する。なお，グレード試験は数学と情報科学を課すが，3 回の試験のいずれかで，両方とも 100 点満点中 60 点以上の得点にならなければ，不合格になる。

教科書

参考書

メッセージ

テキストを精読し，理解した内容を他者にわかりやすく伝える努力をすること。テキストは，授業開始前に指定する。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022225378
開設科目名	情報処理基礎			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

まず、計算機における情報の表現方法の基礎について説明する。さらに、計算機に適した四則演算の方式や計算機を構成する基本となる論理演算及び論理回路について説明する。最後に、中央処理装置や主記憶装置の基礎となる回路について説明する。

授業の一般目標

2 進数による情報の表現方法、計算機における加減算の演算方法を理解する。またブール代数や論理回路について理解し、簡単な演算回路を構成することができるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:情報の表現方法、計算機の構成、演算方式について理解する。

関心・意欲の観点:情報科学や計算機科学について関心を持つ。

成績評価方法(総合)

毎回の授業で課す課題の提出状況と中間・期末試験の結果を用いて成績を評価する。また、情報処理技術者試験合格者には加点するので申し出ること。

教科書

参考書

現代電子計算機ハードウェア／萩原宏、黒住祥祐:オーム社, 1991

メッセージ

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 13 時～15 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022225433
開設科目名	数学論究Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	笠井　伸一			区分	

授業の概要

代数学周辺のテキストを用いてセミナー形式で授業を行い、
数学的な考え方を育成する。
発表を担当する学生自らが、テキストの内容に対する考察を、
他の受講生なり教員の目にさらすことにより、
またそれを受講生が批判することにより、理解や考えを深めていく。
併せて、小･中学校教師として必要な、数学に関する内容を
生徒に教えることができる発表力、表現力を育成する。

授業の一般目標

代数学に関連するテキストを用いて、輪講形式で授業を行い、
数学的な考え方を学習する。
小･中学校教師として必要な、数学に関する内容を
生徒に教えることができる発表力、表現力を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:テキストの数学に関する内容を正しく論理的に理解する。
思考･判断の観点:発表を担当する際には、理解できている部分と理解できない部分を明確に判断する。
関心･意欲の観点:授業の復習を毎週したうえで、授業に意欲的に参加する。
態度の観点:発表を担当する際には十分に準備を行う。
他者の発表の際には意見･アドバイス等により積極的に授業に参加する。
技能･表現の観点:テキストの数学に関する内容を論理的に整理して発表し、
他の受講者に理解できるように表現する。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度、
発表を担当した際の表現内容、
期末試験の結果、
以上をもとにして総合的に評価する。
欠席状況は欠格条件として評価に用いる。

教科書

参考書

メッセージ

受講希望者が多いときは、必修の者を優先し、
残りは1年前期の数学の単位を取得した者を優先して
その中から抽選で選びます。

連絡先

オフィスアワー

テキストの内容等について、わからない事･質問等がある人は、
水曜日の13時から18時頃に研究室に来て下さい（但し会議の時間は除きます）。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022225445
開設科目名	数学論究Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	飯寄　信保			区分	

授業の概要

代数学についてのテキストを輪読する。

授業の一般目標

数学等の専門書を読む力を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：テキストを読み理解し、他人に説明できる力を養う。

態度の観点：積極的に課題に取り組み問題解決できるようになる。

成績評価方法(総合)

テキストの理解度及び、輪読の際のプレゼン等を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

授業形態として輪読形式をとるので無責任に欠席をすると他の授業を受けている学生に迷惑がかかります。責任ある受講をしてください。

連絡先

飯寄研究室（教育 286 室）

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022225516
開設科目名	微分積分学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	飯寄　信保			区分	

授業の概要

微積分学Ⅰに引き続き微積分学の基礎について解説する。

授業の一般目標

微分積分学においての基本的演算を正確に行うことができるようになる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:多変数関数の微分・積分の基本的概念を説明することができる。微分・積分の計算が正しくできる。多変数の関数の性質を微分積分を用いて調べることが出来る。

思考・判断の観点:基本的な定理を正しく説明することができ、正しく使うことができる。

技能・表現の観点:多変数関数の微分・積分の計算が正確にできる。

成績評価方法(総合)

授業中の演習、小テストの成績、授業外レポート、および、中間試験・定期試験の成績により、総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

飯寄研究室（教育 286 室）

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022225532
開設科目名	教育工学II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	鷹岡　亮			区分	

授業の概要

本講義では、教育工学の授業設計(Instructional Design)の概念と方法論を学びます。
そして、その方法論を利用して ICT リテラシーを身につけるプログラムを設計･開発しま
す。その際、教育情報工学的な手法を利用して教材を開発します。

授業の一般目標

教育工学に関連する知識･概念や方法論を理解し、活用することができること。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業内レポートや課題、授業態度･授業への参加度、発表、出席等を総合的に評価する。

教科書

教材作成マニュアル／鈴木克明,:北大路書房, 2002

参考書

メッセージ

基本的に, 皆さんが主体的に作業し、頭を働かし、行動しなければならない
授業です。また、授業の連絡等は、下記の授業 HP に提示します。
http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/~ryo/Lecture/09ET2

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022225546
開設科目名	線形代数学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北本　卓也			区分	

授業の概要

代数学Ⅰの単位を取得していることを前提にして、現代数学の基本である線形代数学について解説をする。

授業の一般目標

代数学Ⅰで学んだ行列の計算法は理解していることを前提にして、ベクトル空間と線型写像に関する線形代数の基礎的内容を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:抽象的な概念を理解する能力。

成績評価方法(総合)

テスト、演習の結果と出席状況をもとに、総合的に判断する。

教科書

参考書

メッセージ

再試験はしませんので、しっかり試験準備してください。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022225581
開設科目名	教育情報基礎			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

計算機を利用するための基本ソフトとして UNIX が広く利用されている。この授業では、UNIX の基礎的な利用法を習得する。さらに、数式を多く含んだ文書を作成するための TeX の利用法を学ぶ。

授業の一般目標

次の 3 項目を目標とする。(1)UNIX 上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること、(2)簡単なシェルプログラムが作成できるようになること、(3)TeX を用いて数式･表･グラフ･図を含んだ文書を作成できるようになること。

授業の到達目標

知識･理解の観点:UNIX や TeX の考え方を理解し、利用法を習得すること。

思考･判断の観点:C Shell プログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。

関心･意欲の観点:UNIX や TeX の利用法について興味を持つこと。

成績評価方法(総合)

毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書

参考書

LATEX2 ε 文典／生田誠三:朝倉書店, 2000

メッセージ

教育情報基礎演習と同時に履修のこと。また、履修にはノートパソコンが必要。

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 13 時～15 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022225598
開設科目名	教育情報基礎演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

計算機を利用するための基本ソフトとして UNIX が広く利用されている。この授業では、UNIX の基礎的な利用法を習得する。さらに、数式を多く含んだ文書を作成するための TeX の利用法を学ぶ。

授業の一般目標

次の 3 項目を目標とする。(1)UNIX 上でファイル処理やプロセス制御などの操作を行うことができるようになること、(2)簡単なシェルプログラムが作成できるようになること、(3)TeX を用いて数式･表･グラフ･図を含んだ文書を作成できるようになること。

授業の到達目標

知識･理解の観点:UNIX や TeX の考え方を理解し、利用法を習得すること。

思考･判断の観点:C Shell プログラミングにおいて、プログラミングの基本的な思考力を身に付ける。

関心･意欲の観点:UNIX や TeX の利用法について興味を持つこと。

成績評価方法(総合)

毎回の授業で課す課題と期末試験によって成績を評価します。出席も考慮します。

教科書

参考書

LATEX2 ε 文典／生田誠三:朝倉書店, 2000

メッセージ

教育情報基礎と同時に履修のこと。また、履修にはノートパソコンが必要。

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 13 時～15 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022225617
開設科目名	離散数学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	笠井　伸一			区分	

授業の概要

集合論Ⅰの履修を前提に、離散数学の中から話題を選び解説する。

授業の一般目標

集合論Ⅰの学習をもとに、離散数学のいくつかの話題について学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:離散数学的思考法を理解する。

思考・判断の観点:離散数学的計算法を実行できる。

関心・意欲の観点:授業の復習を毎週したうえで、毎回の授業に意欲的に参加する。

わらないこと、疑問点は授業中やオフィスアワーの時間に積極的に質問する。

態度の観点:演習問題・宿題の問題を解き、授業において積極的に解答する。

他の学生の解答の際には、意見・アドバイス等により積極的に授業に参加する。

技能・表現の観点:演習問題、宿題の解答においては、他の受講生が理解できるように表現できる。

試験においては、解答を読んでわかるように記述する。

成績評価方法(総合)

授業態度や授業への参加度、

問題の解答とその内容、

期末試験の結果、

以上をもとにして総合的に評価する。

欠席状況は欠格条件として評価に用いる。

教科書

参考書

メッセージ

積極的に授業に参加する人を高く評価します。

演習問題を解き、授業中に解答するようにして下さい。

据わっているだけでは評価されません。

積極的な姿勢で授業に臨むことを期待します。

連絡先

オフィスアワー

水曜日の13時から18時頃まで。

わらないこと、疑問点は積極的に質問して下さい。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022311434
開設科目名	文献講読演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	丹　信介			区分	

授業の概要

スポーツ健康科学に関する理論的･実験的研究手法を理解するために国内･外の文献を講読する。

授業の一般目標

スポーツ健康科学に関する理論的･実験的研究手法を理解するために国内･外の文献を講読する。その中で、スポーツ健康科学の今日的課題を明らかにし、課題解決のための研究方法などが構築できることを目標とする。そして、プレゼンテーション能力を高めることも目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:国内･外の文献を講読して、スポーツ健康科学に関する理論的･実験的研究手法を理解する。

思考･判断の観点:国内･外の文献を講読して、スポーツ健康科学の今日的課題を明らかにし、課題解決のための研究方法を思考する。

関心･意欲の観点:スポーツ健康科学の今日的課題に関心を持ち、課題解決に意欲を持つ。

技能･表現の観点:口頭および文章で適切な表現による説明ができる。

成績評価方法(総合)

国内･外の文献を講読し、口頭および文章で適切な表現により説明ができるかどうかを評価する。

教科書

参考書

メッセージ

15コマ分の演習は、受講生の所属ゼミで行う。

連絡先

オフィスアワー

開設学期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022311473
開設科目名	運動生理学実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	丹　信介			区分	

授業の概要

安静時や運動時の呼吸循環機能の測定に関する実習を行う。

授業の一般目標

運動に関わる生理的機能の測定方法ならびに、安静時や運動時の呼吸循環系の反応につ
いて実習を通して理解を深める。また実習した測定法を卒業研究に活用できるようにな
ることもこの授業の目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

実習の態度および実習レポートにより評価する。

教科書

参考書

メッセージ

履修上の注意 運動生理学Ⅰ･Ⅱを受講しておくこと
この実習は受講生をいくつかのグループに分け、グループ毎に２名の担当教官
をローテーションしながら受講する。実習は2～3コマ連続して行う。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022311487
開設科目名	運動生化学実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	塩田　正俊			区分	

授業の概要

身体運動によって生じる生体内の変化をとらえる際、生化学的手法は今や分野を問わず強力な手法の一つとして行われている。本授業では、身体運動に関わり深い体液成分や骨格筋の酵素活性などの測定を通して、生化学測定法について理解修得する。さらに、各課題についてのレポートのまとめ方についても修得する。

授業の一般目標

顕微鏡や分光光度計などの使い方、試料の取り扱い方、血球数の算定、ヘモグロビン、血中乳酸濃度、酵素活性等の測定原理等を実習を通して修得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:各測定法の原理について説明ができる。

思考・判断の観点:測定結果について、妥当な解釈ができる。

関心・意欲の観点:研究方法の一つの手法として、関心を持つことができる。

態度の観点:実験実習にふさわしい態度を持つことができる。

技能・表現の観点:測定手技、結果のまとめ方、結果の解釈、文章表現などが確実にできる。

成績評価方法(総合)

出席、レポートを基に評価する。各担当者について1回の欠席は認めるが、補講を行う。

教科書

参考書

メッセージ

日程については、変更もあるので掲示などに注意すること。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022311586
開設科目名	メンタルヘルス概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	上地　広昭			区分	

授業の概要

心理学の基礎について，行動主義の立場から講義する。

授業の一般目標

健康問題の解決に役立つ心理学の基礎知識を教授する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

基本的には期末テストの得点をそのまま成績に反映させるが，欠席 1 回につき 10 点減点する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022311670
開設科目名	人体構造機能論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	塩田　正俊			区分	

授業の概要

運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を神経･感覚器官･呼吸循環器官･泌尿器官･内分泌器官などについて概説する。

授業の一般目標

運動の仕組みを理解する上で必要な人体の構造と機能を神経･感覚器官･呼吸循環器官･泌尿器官･内分泌器官などについて理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点:各器官の構造と機能について理解し、説明することができる。

思考･判断の観点:運動による各器官の機能変化などについて推論することができる。

関心･意欲の観点:各器官の構造と機能について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。

成績評価方法(総合)

欠席= 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠席として扱います。この授業は 2 名の教員が各 7 週ずつ担当します。2 名のいずれもが可以上の評価でなければ、この授業の単位は認定されません。

教科書

人体の構造と機能／エレイン･N･マリーブ著; 林正健二 [ほか] 訳:医学書院

参考書

メッセージ

本授業科目は、上級学年で履修する専門科目の基礎科目であり、非常に大切な科目の一つです。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022311675
開設科目名	健康運動処方演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	丹　信介			区分	

授業の概要

医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にした、個々人に応じた運動プログラム（運動の種類、強度、時間、頻度）の具体的たて方について解説し、演習や実習を通して、実際に運動プログラムを作成する。

授業の一般目標

演習や実習を通して、健康運動処方論で講義した内容に関する理解をより深めるとともに、いろいろな対象に応じた運動処方を、医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にして具体的に行うことができる基礎的な実践能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にした、個々人に応じた運動プログラム（運動の種類、強度、時間、頻度）の具体的たて方について説明できる。

思考・判断の観点：いろいろな対象に応じた運動処方を、医学検査、運動負荷検査、体力測定などの結果を基にして具体的に行うことができる。

関心・意欲の観点：いろいろな対象に応じた運動処方を実際に行うことに、関心を持つ。

技能・表現の観点：運動負荷検査、体力測定の結果を基に、運動処方を実際に行うための計算等が出来る。

成績評価方法(総合)

定期試験(中間試験と期末試験) = 60～80%

授業態度や授業への参加度 = 20%未満

演習 = 20%未満

出席 = 欠格条件

教科書

参考書

運動生理学／池上晴夫：朝倉書店, 1995

メッセージ

履修上の注意 健康運動処方論を受講していること

一部、実習を行います。また、ノートパソコンを用意して下さい。

健康運動処方論で使用した教科書、プリント、ノートを持ってきて下さい。

連絡先

tan@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

月曜日 13:00-14:00

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022311689
開設科目名	テーピング･マッサージ演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315388
開設科目名	バイオメカニクス			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315417
開設科目名	病態生理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	塩田　正俊			区分	

授業の概要

疾病構造の変遷を概観し、生活習慣病の要因構造について述べる。その上で各生活習慣病がどのような原因で発症するか、生理･生化学および栄養学的な観点から概説する。

授業の一般目標

生活習慣病（成人病）を中心に各種疾患の病態生理（発症、原因、症状等）について理解する

授業の到達目標

知識･理解の観点：各生活習慣病の原因について理解し、説明することができる。

思考･判断の観点：生活習慣の異常、改善がどのような変化をもたらすか推論することができる

関心･意欲の観点：生活習慣と疾病の関連について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。

技能･表現の観点：生活習慣と疾病の関連について解説し、その改善と効果について表現できる。

成績評価方法(総合)

欠席= 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠席として扱います。

教科書

参考書

メッセージ

人体構造機能論、運動生理学、運動生化学を履修していることが望ましい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315492
開設科目名	ボールゲームⅠ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

ハンドボールは、ボールをパス･キャッチ･ドリブルしながら相手ゴールに投げ込むチームスポーツである。運動の基本形態である走･投･跳が多く含まれることから、教育的価値も高いとされ学校現場で広く行われている。受講者は卒業後に教員をはじめ様々な形で指導者としてｽﾎﾟｰﾂ活動に携わることから、ハンドボールを通して走･投･跳の運動の基本動作を解説し、指導上の注意点について教授する。

授業の一般目標

この授業ではボールを使って体力づくりを行いながら、ハンドボールの基本的な技能を身につけ、それらをチーム戦術の中で生かすことができるようになることを目標とする。また受講者独自の指導教書本を作成する

授業の到達目標

知識･理解の観点:走･投･跳の運動基本動作を説明できる

ハンドボールの競技特性を説明できる

ハンドボールのルｰルを説明できる

思考･判断の観点:ボールを使った体力づくりを指導できる

フォｰメｰションを考えることができる

関心･意欲の観点:個人技能の習得に意欲的であること

チームのメンバーとしてチームの運営に積極的に参加できる

独自のハンドボール指導教書を積極的に作成する

技能･表現の観点:ハンドボールの基本的な技能を身につける。身についた技能をチームプレーと結びつけることができる。

審判ができる

成績評価方法(総合)

積極的参加度(20%)、習熟度(20%)、意欲度(60%)などから総合的に評価する。

教科書

参考書

ハンドボール指導教本　新訂版／日本ハンドボール協会:大修館書店, 1996

ハンドボール強化指導教本　NTS2002／日本ハンドボール協会:日本ハンドボール協会, 2002

メッセージ

体調管理に充分配慮すること

「自分だけのハンドボール指導教書」の作成に積極的に取り組んでください

連絡先

shunsuke@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315517
開設科目名	ボールゲームⅡ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315526
開設科目名	スポーツ原論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　恵子			区分	

授業の概要

現代社会における文化現象としての体育･スポーツが有する諸問題、また今日の体育学、スポーツ科学が包括している諸問題を、哲学的方法を用いて省察する。政治、メディア、国際化、民族問題、ナショナリズムと体育･スポーツ、遊戯論、身体論、スポーツ文学といった視点から投影されるパースペクテヴを紹介し、その論点を整理する。具体的には複数の論文の中身を紹介しつつ、個人、集団をとりまく体育･スポーツ現象に対する学問的アプローチの基本概念を学習する。講義時間内に体育を哲学するための思考トレーニングとして、「コミュニケーションカード」の記入を行う。

授業の一般目標

次の内容について、理論的理解を深め、思考力を養う。期末試験では、基本用語の概念を説明し、それらの用語を用いて、自分なりの考えを表明できるかをペーパー試験により考査する。1.体育とスポーツの概念、2.近代体育と近代スポーツの概念とその定義、3.身体とコミュニケーション 4.スポーツの文明化について、5.身体文化論のパースペクティヴと遊戯論、6.オリンピズム、7.アマチュアリズム、8.スポーツの政治的中立性についてなど。

授業の到達目標

知識･理解の観点:近代体育･スポーツの特性とその変遷について説明することができる。

遊戯論（プレイ論）から、近代体育･スポーツの根底に流れているスポーツ現象を分析し、性格づけることができる。

身体とコミュニケーションといった観点から、近代体育･スポーツが有する有効性について説明することができる。

思考･判断の観点:スポーツ事象を多角的に捉え、分析することができる。

スポーツ思想にかかわる事象を指摘し、説明することができる。

アマチュアリズム、アスレティシズム、オリンピズム、ナショナリズムとスポーツの関係を論理的に理解し、例示することができる。

関心･意欲の観点:実社会におけるスポーツ事象や、自分自身の体験を、履修内容にひきつけて考えることができる。

成績評価方法(総合)

期末試験により評価する ＝60～80%

授業態度や授業への参加度は毎時配布のコミュニケーションカードにより判断する ＝20～40%

教科書

参考書

スポーツと現代アメリカ,／アレン･グットマン(清水哲男訳）,：TBS ブリタニカ, 1981

ホモ･ルーデンス／J･ホイジンガ（高橋英夫訳）：中央公論社,, 1983

遊戯とスポーツ,／H･レールス（長谷川守男監訳）：玉川大学出版部, 1987

メッセージ

「体育･スポーツを哲学する」という、この「矛盾」からスタートする。

期末試験は、「思考のプロセス」を評価するものであるので、普段から体

育･スポーツについて考える思考を養っておくこと。

連絡先

E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室連絡先 083-933-5381, 研究室 教育学部 176 研究室

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315576
開設科目名	スポーツ史			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　恵子			区分	

授業の概要

本授業では、体育･スポーツの成立過程を、主として近代化の観点から概観し、その歴史的位置づけを学習する（1.体育･スポーツの概念史　2.近代スポーツの定義　3.分析視角となる概念装置について）。とりわけ3. 分析視角となる概念装置については、体育･スポーツ史に関する種々の個別研究論文をとりあげ、微細な権力関係、国民統合装置としてのスポーツ、文化人類学的視点、文化帝国主義、文化ヘゲモニー、民族スポーツとの関わりについて学習する。受講者は、幾つかの小論文の検討を行い、最終レポートを提出する。

授業の一般目標

経験知に頼る体育･スポーツに関する認識を脱却し、体育･スポーツ事象を客観的に科学できる論理思考を養う。多様な脈絡で語られる体育･スポーツ評論を整理することを通して、体育･スポーツが含み持つ社会的脈絡を理解し、本質を捉える。最終レポートは、講義全体を通じて学習した成果の小論とする。体育･スポーツの今後を見据える上で、歴史的脈絡は無視できないことを理解する。種々の論文の主旨を正確に把握するための読解につとめ、学習の成果は、プレゼンテーション、小論文の提出の双方により表現する。この2つを評価の対象とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:近代スポーツの伝播過程を歴史的に辿ることができる。
日本における体育･スポーツの展開を概念史に即して説明することができる。
思考･判断の観点:近代体育･スポーツ事象について、その文化的特性と歴史的脈絡を関連させて捉えることができる。
日本における体育･スポーツの成立契機についてその特徴を捉え、論じることができる。
スポーツ特有の文化伝播について、文化帝国主義や文化ヘゲモニーの観点を考慮し、今後のスポーツの発展･推移について、歴史的展開を考慮した上でその展望を論じることができる。

成績評価方法(総合)

授業内プレゼンテーションと授業外レポート課題の合計得点とする。

宿題／授業外レポート ＝40～60%
受講者の発表(プレゼン)＝40～60%

教科書

スポーツと帝国―近代スポーツと文化帝国主義―,／アレン･グットマン：昭和堂, 1997

参考書

メッセージ

目指せ！読書するスポーツマン･スポーツウーマン。

連絡先

E-mail kikeda@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5381, 研究室 176

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315599
開設科目名	衛生学公衆衛生学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	日野　精二			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315641
開設科目名	健康科学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	五島　淑子			区分	

授業の概要

健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関しての今日的な話題を取り上げ、問題点や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築をする。

授業の一般目標

健康と密接に関わる運動、食生活および住居に関しての科学的な視点で捉え、その概念を理解・説明できるとともに、生活上の問題点を客観的に抽出し、運動、食生活、住生活の場で実践できるでき、問題や対応策などを考察して、「健康」について考える基本的な姿勢・視点の構築を目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1健康と運動のかかわりについて説明できる
2健康と食生活のかかわりについて説明できる
3健康的な住生活について説明できる
思考・判断の観点：1健康と運動のかかわりについて考察できる。
2健康と食生活のかかわりについて考察できる。
3健康と住生活のかかわりについて考察できる。
関心・意欲の観点：1運動に関心を広げ、実践できる。
2食生活に関心を広げ、健康的な食生活を実践できる。
3住生活に関心を広げ、健康的な住生活を実践できる。
態度の観点：1健康について主体的に改善をはかろうとする。

成績評価方法(総合)

3回のレポートの合計で、評価する。授業態度も考慮する。

教科書

参考書

メッセージ

担当者の順番は変更されることがあります。

連絡先

goto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

金曜日　16：10～17：40

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315648
開設科目名	武道			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	上地　広昭			区分	

授業の概要

柔道の基本的な礼法･技法を身につける。

授業の一般目標

柔道における基本的な礼法･技法を教授する。また，寝技に重点を置いた指導を行う。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

基本的には出席状況をそのまま成績に反映させるが，紅白試合において技能優秀の者には加点する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315657
開設科目名	発育発達老化論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	杉浦　崇夫			区分	

授業の概要

「小児は、大人の縮図ではない。」ということを耳にする。これは、健康問題について考える場合、加齢の過程を正しく認識することが重要であることを示唆するものである。同様に、教育の領域においても然りである。

本講義では、乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化について概説す
る。

授業の一般目標

乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化についての理解する。また、各ライフステージにおける健康保持や運動指導などの留意点について学習する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:乳児期から高齢期までの間に見られる形態や機能の変化についての概略を説明できる。

思考・判断の観点:授業で取り上げた項目について、運動指導などの関わり合いからの見方・考え方ができる。

関心・意欲の観点:構造的・機能的発育発達経過の観点から人体に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

期末試験とレポート で評価する。欠席回数４回以上の場合、期末試験の受験を認めない。

教科書

からだの発達／高石昌弘、樋口満、小島武次:大修館書店, 1998

参考書

メッセージ

連絡先

E-mail takahito@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022315660
開設科目名	体力トレーニング処方演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	森田　俊介			区分	

授業の概要

トレーニングの指導法や体力測定及びそのデーター処理法に関する実習を行う。

授業の一般目標

トレーニングの指導法や体力測定方法を理解し、得られたデーターの整理方法や統計処理法を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:体力測定の意義と方法を理解する。トレーニングの指導法理解する。得られたデーターの整理方法について実習を通して理解する。

思考・判断の観点:既成の体力測定法にとらわれずに新しい方法を思考する。

関心・意欲の観点:体力測定結果のデーターの利用法について関心を持つ

技能・表現の観点:データー処理に当たってパソコン操作技能を向上させる

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022321503
開設科目名	居住環境論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山本　善積			区分	

授業の概要

持続可能な社会に向かっての住まい･地域環境の課題と対策について学ぶ。まず、住まい･地域の環境と温暖化や環境共生との関わりをとらえ、居住環境のあり方を考える。次に、子どもや高齢者･障がい者に必要な空間･環境条件を考え、これからの高齢社会に求められる住まいや地域の環境について理解を深める。

授業の一般目標

住まいと地域環境との関わりやさらに広い地球環境との関わりが理解できる。もう1つは、子どもや高齢者･障がい者の暮らしやすさから、住まい･地域環境に必要なことが説明でき、さらに具体的な問題への対策を考察できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 住まいが地域環境と関わること、広い環境との相互関係も有することを説明できる。

2. 子どもや高齢者が住みやすい観点から、居住環境に求められることが説明できる。

思考･判断の観点: 1. 地球環境への影響を少なくするための居住環境の条件を指摘できる。

2. 住まいや地域でのバリアフリー･子どもや高齢者配慮の進め方を考察できる。

関心･意欲の観点: 1. 身近な居住環境での問題を認識し、社会的な取り組みも参考にして、改善方法を提案できる。

技能･表現の観点: 1. 住まい･環境の空間特性を言うことができる。

成績評価方法(総合)

試験とレポートで評価する。欠席状況も加味する（1/3回以上の欠席は欠格）。

教科書

参考書

メッセージ

子どもや高齢者等の住まい･地域環境を中心に話します。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022321528
開設科目名	色彩科学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	星野　裕之			区分	

授業の概要

色彩は、ファッションにとどまらず、住居設計、室内インテリア、家電製品、小物、さらには案内標識にいたるまで、すべての物に関わるものである。この講義では、まず基本となる光と色の物理的性質、およびその測定方法と表示法を解説し、色覚、色知覚、色彩感情および色の心理的効果について口述する。

授業の一般目標

光と色について科学的に理解し、その上で、カラーコーディネーションの基礎的な方法を身に付け、日常生活に生かしていくことを目標とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 光の物理を説明できる。

2. 表色系を体系的に説明できる。

3. 配色の基本を説明できる。

思考・判断の観点：1. 配色の方法を分類できる。

2. 色彩から受ける感情効果を指摘できる。

関心・意欲の観点：日常生活にあるものを色彩配色の観点から見ることができる。

態度の観点：自分の色彩感覚を磨くとともに、日常生活に生かしていく。

成績評価方法(総合)

授業中に行う小テストあるいは課題演習と学期末試験で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

カラーコーディネーター入門　色彩　改訂版／大井義雄・川崎秀昭共著：日本色研事業, 1999

参考書

色彩科学事典／日本色彩学会編：朝倉書店, 1998

色彩の事典／川上・児玉・富家・太田編集：朝倉書店, 1997

カラーコーディネーターのための色彩科学入門／日本色彩研究所編：日本色研事業, 2000

カラーイメージスケール／小林重順著：講談社, 1992

メッセージ

連絡先

E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部 300 号室

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022321671
開設科目名	住生活科学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山本　善積			区分	

授業の概要

今日の住生活には便利さや快適さとあわせて、地球環境への影響が少なく、持続できることが求められる。住生活の諸側面で生じる問題や課題をとらえ、それらに対処・実践する方法やよりよい住生活の仕方を学ぶ。住生活が生活財や住まい空間、住環境などと関わり、住生活の向上のためにそれらとの関係の改善が必要なことを理解する。そして、よりよい関係を住生活
様式として築いていくための課題を考える。

授業の一般目標

住生活の諸側面（生活財の利用面、経済的側面、空間的側面、時間的側面など）での課題を理解する。その上で、持続可能な住生活様式について考察する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 住生活の諸側面での一般的な課題について説明できる。
2. 生活財を購入、利用、廃棄する際に留意することがわかる。
思考・判断の観点：1. 住生活に関する調査結果をもとに、改善すべきことを考察できる。
2. 生活様式がもたらす地球環境や持続性への影響を判断できる。
関心・意欲の観点：1. 住生活にとどまらず、食生活や衣生活を含んだ生活全般の改善に関心を広げ、実践できる。
態度の観点：1. 自らの住生活に引き寄せて思考し、主体的に住生活の改善をはかろうとする。

成績評価方法(総合)

1ヶ月間の家計簿作成とその分析、1週間のごみ調査（実家、現住所）を通してのごみ対策や生活様式の改善に関する考察によって評価する。欠席状況も加味する。

教科書

参考書

メッセージ

自らの住生活をよりよくするために授業を生かしてほしい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022325393
開設科目名	生活化学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	村上　清文			区分	

授業の概要

無機化学、有機化学、物理化学など、化学領域全般に渡る基礎を、教職現場での理科指導を念頭に置きながら、広く講義する。

授業の一般目標

無機化学、有機化学および物理化学の各領域の基本的な内容を理解するとともに、化学領域の緒内容についての関心を高める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:無機化学・有機化学・物理化学の基礎的知識を理解し、説明できる。

思考・判断の観点:物質の構造やその変化について、化学的な見方ができる。

関心・意欲の観点:化学的諸事象に関心を持つとともに、理科教育の観点からも関心をもつ。

成績評価方法(総合)

各分野毎に、出席、小課題、および、レポートまたは試験により評価し、各分野における評価を総合して評価する。

教科書

参考書

岩波講座現代化学への入門2『物質のとらえ方』／桜井秀樹:岩波書店, 2001 年

基礎化学熱力学／E.B.Smith:化学同人, 1992 年

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022325418
開設科目名	病態栄養学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	塩田　正俊			区分	

授業の概要

疾病構造の変遷を概観し、生活習慣病の要因構造について述べる。その上で各生活習慣病がどのような原因で発症するか、生理･生化学および栄養学的な観点から概説する。

授業の一般目標

生活習慣病（成人病）を中心に各種疾患の病態生理（発症、原因、症状等）について理解する。

授業の到達目標

知識･理解の観点：各生活習慣病の原因について理解し、説明することができる。

思考･判断の観点：生活習慣の異常、改善がどのような変化をもたらすか推論することができる。

関心･意欲の観点：生活習慣と疾病の関連について関心を持ち、自ら学ぶ姿勢が見られる。

技能･表現の観点：生活習慣と疾病の関連について解説し、その改善と効果について表現できる。

成績評価方法(総合)

欠席= 欠格条件 2/3 以上出席が単位認定のための最低必要条件です。遅刻は 2 回で 1 回欠席として扱います。

教科書

参考書

メッセージ

人体構造機能論、運動生理学、運動生化学を履修していることが望ましい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022325442
開設科目名	住居設計			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山本　善積			区分	

授業の概要

家族生活のためのよりよい空間創造の力を養おうとする授業である。住居設計の手順や方法を
習得し、想定した家族生活のための住居を構想する。その設計図を作成するとともに、さらに模型で表現する。

授業の一般目標

住居設計の手順や方法を習得し、設定された条件の中で、実際に家族の住居を構想し設計する。さらに模型に表現する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 住居設計の手順、方法を実際に使って製図することができる。
2. 各住居空間に求められる条件や必要な広さを説明できる。
思考・判断の観点：1. 想定した家族のニーズを必要な空間に置きかえることができる。
関心・意欲の観点：1. 平面計画だけでなく、インテリアやエクステリアにも関心をもって考えることができる。
技能・表現の観点：1. 空間や家具などを模型に表現することができる。

成績評価方法(総合)

構想図、設計図、模型の制作で評価する。

教科書

参考書

メッセージ

住まいを考える楽しさを味わってほしい。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022325459
開設科目名	生活の有機化学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	源田　智子			区分	

授業の概要

有機化学の基礎である 1)原子軌道や分子軌道、2)共有結合、3)一般的な有機化合物の命名法とその特徴や構造、4)化学反応などについて説明する。また生体物質や身近に存在する化学物質についてその構造や関連事象を説明し、「環境と化学」の関係についても解説する。

授業の一般目標

基本的な原子の電子配置や軌道についての理解を深める。一般的な有機化合物の命名法や性質、化学反応について理解する。また簡単な生体分子や代謝経路および高分子化合物の構造や性質について理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1.一般的な有機化合物の命名法を理解し説明できる。

2.個々の有機化合物の構造や反応性を説明できる。

3.簡単な生体分子について理解し、その構造や代謝経路について説明できる。

思考・判断の観点:1.有機化合物の構造や反応を「電子の流れ」によって説明できる。

2.身の回りの物質や日常生活の諸現象を化合物の物性と関連づけて理解できる。

関心・意欲の観点:基本的な有機化合物の性質や構造を理解した上で、日常生活における現象や物質について科学的な見方ができるようになる。

態度の観点:化合物の命名、化学反応や計算問題などについて、授業内に行なう演習に積極的に参加できる。

技能・表現の観点:1.有機化合物の命名法と官能基の特徴を関連づけ、与えられた分子式からその化合物を命名できる。

2.有機化合物の構造や反応について電子の移動を用いて説明できる。

成績評価方法(総合)

適宜課すレポートと出席、期末試験により評価する。

教科書

, 2003

参考書

なっとくする有機化学／秋葉欣哉:講談社, 2003

有機化学概説／マクマリー:東京化学同人, 2004

大学への橋渡し　有機化学／宮本真敏、齊藤正治:化学同人, 2006

有機化合物命名の手引き／小川政爾、村井真二監修:化学同人, 2004

現代有機化学（Ⅰ、Ⅱ）／ボルハルトシュアー:化学同人, 2004

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022325527
開設科目名	食品衛生学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

我々の健康の源である食物の安全性については、古来よりもっとも重要な課題の一つであるが、近年、その食物の生産、製造における種々の変遷がその課題をより複雑なものにしている。この授業では食の安全をテーマに種々の角度から考える。

授業の一般目標

この授業では、先ず、これまで起こった四つの大きな食品公害事件を検証し、その概要と問題点を探り、食品衛生の意義について理解する。ついで、典型的な細菌性食中毒をはじめ、化学性食中毒などの食中毒について理解する。特に、最も日常的で身近な存在である食品添加物については、そのベネフィットーリスク論の構築を行い、ディベート等を通してその問題点を明らかにする。さらに、今日的重要課題である遺伝子組換え食品、クローン技術、環境ホルモン、環境変異原物質等についても理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：・四大食品公害事件の概要と問題点を説明できる。

・代表的な細菌性食中毒について説明できる。

・食品添加物についてベネフィットーリスク論を構築できる。

・遺伝子組換え、クローン技術、環境ホルモンなど新しいテーマについて説明できる。

思考・判断の観点：食品の安全性について、個々の問題点をより深く理解し、総合的に食の安全性について考えることができる。

関心・意欲の観点：日常の食生活との関わりのなかで、食の安全性を考えることができるようになる。

態度の観点：個人個人の食の安全への関心・意欲の高まりが、社会全体の「食の安全性」の監視状況を強化することにつながることに気づき、日常の食生活の中で、自然な形で、その関心・意欲が実際の食生活へ反映できるようになる。

技能・表現の観点：食の安全性については、個人個人がどのような考え方を持つかが大きく問われる。授業中のディベートを通して、自らの意見を正確に相手に伝える力を身につける。

成績評価方法(総合)

期末試験、レポート、授業内ディベート、出席等を総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

この授業では、課題や問題点について、自らの考えを構築する力を養成してほしい。また、自分の考えを伝えることのできる力を身につけてほしい。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022325566
開設科目名	国際文化学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐藤　登			区分	

授業の概要

世界各地の農業地帯に永い間営まれてきた歴史の上に作られた農法や文化そして暮らしのあることを説明する。

授業の一般目標

世界の歴史と農業文化、教育の理解をする。日本の農業が世界的にどのような位置にあるかを理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 世界の農業地帯を説明できる。

思考・判断の観点: 農業文化の多様性を説明できる。

関心・意欲の観点: 身近な農業文化に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

授業で行う数回のレポート提出と個人課題についてのレポート提出。

なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022325637
開設科目名	栄養科学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	山田　次郎			区分	

授業の概要

この授業では、先ず、栄養と病気の基本的なかかわりを学ぶ。ついで、幼児期･児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解するさらに、おもな生活習慣病について、食生活との関連を通して学習する。

授業の一般目標

この授業では、乳幼児期･児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について理解し、それぞれの時期における栄養学的重要性を知る。次に、それを土台に、おもな生活習慣病の病態を理解し、また、その予防について考えられるようになる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1.各ライフサイクルの栄養の特徴を理解し、説明できる。

2. 主な生活習慣病について理解し、説明できる。

思考･判断の観点: 1. 実際の生活状況と生活習慣病との関連を考えることができる。

2. マスコミやインターネットで垂れ流し状態になっている「食と健康」にかかわる情報を取捨選択できる。

関心･意欲の観点: 授業を通して、食と健康の課題をさらに発展的に考え、問題意識を高める。

態度の観点: 健康を自分の問題として考えることができる。

成績評価方法(総合)

期末試験、レポート、出席で総合評価する。

教科書

参考書

メッセージ

栄養学Ⅰで学んだ基礎を土台に、栄養と食生活と疾病との関連性を構築できるように学んでほしい。

連絡先

内線5407

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022325652
開設科目名	生活メディア論（家庭電気・機械を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	星野　裕之			区分	

授業の概要

家庭機械・電機に関する講義と演習を行い、基本的な知識と技術を習得する。また生活における情報の活用について学ぶ。専門領域に必要なソフトの習得および生活における情報の役割と課題について学習する。

授業の一般目標

家庭における電気機器・機械について、基本的理解を得、簡単な補修ができる。インターネットから生活情報を収集し、教材として活用するために、Excel、PowerPoint などを用いて種々の情報処理ができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 家庭電気・機械について基本的知識を得る。

2. 生活情報の意義と限界に関する基本的知識と理解を持つ。

思考・判断の観点：1. 家庭電気・機械について知識をもとに判断することができる。

2. Excel、PowerPoint を用いて学校現場等で効果的な情報処理を考えることができる

関心・意欲の観点：家庭電気・機械、生活情報に関心を持ち、教育実践に活用しようとする。

技能・表現の観点：1. 家庭電気・機械に関して適切な管理・補修ができる。

2. Excel、PowerPoint を用いた情報処理の課題を操作できる。

成績評価方法(総合)

授業で行う講義に関するレポート、Excel を用いた課題演習、PowerPoint を用いたプレゼンテーション（発表）で評価する。出席が7割に満たない場合は単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

共通教育「情報ﾘﾃﾗｼｰ演習」および「情報セキュﾘﾃｨ・モラル」を履修済みであること。（入学年度が平成 20 年度以前の者は、共通教育「情報処理」を履修済みであること。）

連絡先

E-mail: hhoshino@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部 300 号室

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022325676
開設科目名	国際文化学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。

授業の一般目標

ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点から考察する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得る。

思考・判断の観点:ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養う。

関心・意欲の観点:ヨーロッパ文化の基礎的思想的理解への関心を喚起する。

態度の観点:ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う。

技能・表現の観点:ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養う。

成績評価方法(総合)

毎回レポートと最終試験による。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411389
開設科目名	地誌学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	MIKHOVA　DIMITRINA　JORDANOVA			区分	

授業の概要

This course examines issues of global importance such as development, demographic change, urbanization and migration, and international conflict. Offers knowledge on population, environment, economies and cultures of major world regions.

授業の一般目標

To understand the global setting of world regions and their interrelations through global environmental, economic, cultural and political processes.

授業の到達目標

知識・理解の観点:o understand the global regional differentiation

思考・判断の観点: To learn how to explain factors that create global regions and discuss environmental, economic, political, cultural issues concerning these regions.

関心・意欲の観点: To discuss processes of development in the world regions.

態度の観点: To develop understanding and tolerance to problems and differences between and within regions.

技能・表現の観点: To learn to communicate with people from different parts of the world and discuss international problems in English. To practice public speaking and presentation skills in English.

その他の観点: To do research on a specific problem concerning Regional Geography.

成績評価方法(総合)

Attendance: 10%

Oral presentation in English: 30%

Final test: 60%

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411401
開設科目名	国際文化学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	岡村 康夫			学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

各自の選んだテーマによって、毎回レポート報告をし、その内容、報告の仕方等ついての助言･指導を行う。

授業の一般目標

レポート報告の仕方、またその資料収集の仕方、さらにはそれらを使っての論文作成の方法を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:選んだテーマについての正確かつ基本的知識･理解を得ること。

思考･判断の観点:選んだテーマついて的確な思考･判断をなすこと。

関心･意欲の観点:選んだテーマに積極的に取り組むこと。

態度の観点:選んだテーマについて着実に資料収集を行うこと。

技能･表現の観点:収集した資料をもとに、選んだテーマをめぐって自己表現をすること。

成績評価方法(総合)

毎回のレポート報告およびそれに基づいた最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411409
開設科目名	異文化間交流演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	岡村 康夫			学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

各自の選んだテーマによってレポート報告をし、それについての助言･指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:選んだテーマについての正確かつ基本的知識･理解を得ること。

思考･判断の観点:選んだテーマについて考え、判断する力を養うこと。

関心･意欲の観点:選んだテーマに積極的に取り組むこと。

態度の観点:資料収集やレポート報告を着実かつ真面目に行う態度を養うこと。

技能･表現の観点:収集した資料をもとに自己表現すること。

成績評価方法(総合)

毎回のレポートの仕方および内容、そして最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411446
開設科目名	地理学II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	MIKHOVA　DIMITRINA　JORDANOVA			区分	

授業の概要

This course offers the students a geographic perspective of the environment and its problems. It is shaped around the idea of the Earch as home of humankind. Global environments are discussed, the focus being on how environments influence the creation, development and disappearance of cultures.

授業の一般目標

To understand the relationships between cultures and natural environments.

授業の到達目標

知識・理解の観点: To understand the role of nature for the formation of cultures

思考・判断の観点: To learn how to explain the environmental impact in the formation of culutre traits

関心・意欲の観点: To discuss and explain the processes of culture-environment interaction

態度の観点: To develop understanding to environmentsl problems from cultural perspective

技能・表現の観点: To learn to communicate with people from other cultures on environmental problems and convey their opinions in Enlgish

その他の観点: To do research on cultural/environmental problems

成績評価方法(総合)

Attendance 10%

Oral presentation in English 30%

Final test 60%

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411458
開設科目名	国際文化学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	北西 功一			学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。

思考・判断の観点: 各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。

関心・意欲の観点: 各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。

態度の観点: 自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。

技能・表現の観点: 各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411466
開設科目名	国際文化学演習IV			単位	2 単位
対象学生	岡村 康夫			学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

各自の選んだテーマによってレポート報告をし、その内容および方法について助言･指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:選んだテーマについての正確かつ基本的な知識･理解を得ること。

思考･判断の観点:選んだテーマについて考え、かつ正確に判断する力を養うこと。

関心･意欲の観点:自ら選んだテーマについて積極的に取り組むこと。

態度の観点:資料収集を着実に行い、レポート報告に真面目に取り組むこと。

技能･表現の観点:収集した資料を基に豊かな自己表現をすること。

成績評価方法(総合)

毎回のレポート報告の内容、方法およびその最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411469
開設科目名	国際文化学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			学年	～
担当教員	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			区分	

授業の概要

卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表する
ことによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力
を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。
思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。
関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。
態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。
技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411486
開設科目名	異文化間交流演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	今田 淳			学年	～
担当教員	今田　淳			区分	

授業の概要

学生が異文化間交流について発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標

異文化間交流について他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点:異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。

思考・判断の観点:エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。

関心・意欲の観点:異文化に対する関心を持つ。

態度の観点:積極的に異文化を理解しようとする。

技能・表現の観点:異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

成績評価方法(総合)

演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411506
開設科目名	欧米言語文化入門III			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

世界の環境問題に関する英文資料や記事を丁寧に読み、その実態を知るとともに、背景として何があるのか、われわれは全く関係のないことなのか、どのようにして防ぐことができるのかを考える。

授業の一般目標

英文資料や記事を丁寧に読み、現状の対策のほか、関わっている産業は何なのか、原因物質は何なのかを知る。また、どのようにして環境問題を防ぐことができるのかについて、意見を述べる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:英文資料の内容を丁寧に説明できる。その場所がどこなのかを説明できる。

思考・判断の観点:環境問題の背景として何があるのか、どのようにして防ぐことができるのかについて、意見を述べることができる。

関心・意欲の観点:世界で起きている様々な環境問題に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

授業中の報告 (20%) 、毎回の演習問題 (40%) 、期末試験 (40%) で評価する。出席が 70%を満たない場合は試験の採点はしない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411518
開設科目名	人類学Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

本講義では、人間と自然の関係を考えるにあたって、その根源となる自然観をいくつかの民族、社会について取り上げ、比較する。また、農耕の起源を考えるとともに、世界各地の農耕の特徴ををバナナを例にとって比較し、自然の利用の仕方の多様性を理解する。

授業の一般目標

環境問題を考える上でその基盤となる自然観及び自然の利用についての理解を深めつつ、文化相対主義的な考え方を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 自然観および自然の利用の仕方の普遍性と多様性を理解する。

思考・判断の観点: 文化相対主義に基づいた思考、判断ができる。

関心・意欲の観点: 異文化に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

期末レポート、授業中に課す小テスト、宿題の小レポート、出席に基づいて評価する。特別な事情がないにもかかわらず、5 回以上欠席した学生は失格とする。

教科書

参考書

岩波講座開発と文化３　反開発の思想／川田順造編:岩波書店, 1997

アイヌ文化の基礎知識／アイヌ民族博物館:草風館, 1993

カトリックの文化誌／谷泰:日本放送出版協会, 1997

クマにあったらどうするか　アイヌ民族最後の狩人　姉崎等／姉崎等:木楽舎, 2002

神・人・家畜―牧畜文化と聖書世界／谷泰:平凡社, 1997

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411529
開設科目名	異文化間交流演習II			単位	2 単位
対象学生	阿部 新			学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

受講生が自ら課題を選び、諸外国との比較を念頭に置き、対象課題に関して、情報収集、報告をし、それについて助言・指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:対象課題についての正確かつ基本的知識・理解を得ること。

思考・判断の観点:対象課題について考え、判断する力を養うこと。

関心・意欲の観点:対象課題に積極的に取り組むこと。

態度の観点:資料収集やレポート報告を着実かつ真面目に行う態度を養うこと。

技能・表現の観点:収集した資料をもとに自己表現すること。

成績評価方法(総合)

報告の仕方および内容、そして最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411536
開設科目名	国際文化学演習Ⅳ			単位	2 単位
対象学生	今田 淳			学年	～
担当教員	今田　淳			区分	

授業の概要

国際文化学演習Ⅰ･Ⅱ･Ⅲに引き続き、卒業論文の作成に向けて、調査･研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査･研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。

思考･判断の観点: 各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。

関心･意欲の観点: 各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。

態度の観点: 自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究に取り組む。

技能･表現の観点: 各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411537
開設科目名	国際文化学演習II			単位	2 単位
対象学生	阿部 新			学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

受講生が自ら課題を選び、対象課題に関わる先行研究に関して、情報収集、報告をし、それについて助言・指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:対象課題についての正確かつ基本的知識・理解を得ること。

思考・判断の観点:対象課題について考え、判断する力を養うこと。

関心・意欲の観点:対象課題に積極的に取り組むこと。

態度の観点:資料収集やレポート報告を着実かつ真面目に行う態度を養うこと。

技能・表現の観点:収集した資料をもとに自己表現すること。

成績評価方法(総合)

報告の仕方および内容、そして最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411547
開設科目名	欧米言語文化入門Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	小粥　良			区分	

授業の概要

本年度の欧米言語文化入門Ⅰでは、ドイツの文化･社会について扱ったドイツ語の中級レベルのテキストを読みながら、ドイツの文化･社会について理解を深める。

授業の一般目標

ドイツの文化･社会について理解を深めるとともに、ドイツ語の読解力を高める。

授業の到達目標

知識･理解の観点:ドイツの文化･社会のさまざまな事象についての知識を得る。

思考･判断の観点:ドイツのさまざまな文化的事象、社会制度などについて、背景にある考え方や歴史を説明できる。

関心･意欲の観点:参考文献、インターネットなどを調査し、ドイツについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。

態度の観点:与えられた課題に積極的に取り組むことができる。

技能･表現の観点:発表、レポートなどで、論理的･客観的な報告あるいは記述ができる。

成績評価方法(総合)

主として期末レポートによるが、普段の授業への参加度も考慮する。出席は欠格条件とし、80%以上出席しなければ成績は出さないこととする。

教科書

体験するドイツ語／須澤　通　他:郁文堂, 2005

参考書

メッセージ

連絡先

小粥研究室(国際理解教育資料室向かいの 200-4 の部屋)

オフィスアワー

木曜日 16:30－17:30

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411582
開設科目名	国際文化学基礎講義Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法についての概説の後、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを毎回おこなう。その一部は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。

授業の一般目標

PowerPoint を用いてわかりやすくて説得力のあるプレゼンテーションができる能力を修得する。また、他人の発表を聞いて議論する能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 各自が設定したテーマについての情報を収集し、知識を得る。

思考・判断の観点: 各自が設定したテーマについての情報を分析し、論理的にまとめることができる。

関心・意欲の観点: 各自が設定したテーマについて意欲を持って取り組む。また、他人の発表に対して関心を持つ。

態度の観点: 自らのプレゼンテーションで自分の考えを述べるとともに、他人のプレゼンテーションについても積極的に意見を述べる。

技能・表現の観点: PowerPoint を用いて、論理的であり、かつわかりやすいプレゼンテーションの技術を身につける。

成績評価方法(総合)

自らおこなうプレゼンテーションと、他人のプレゼンテーションに対する関心、意見などから評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411587
開設科目名	異文化間交流演習II			単位	2 単位
対象学生	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			学年	～
担当教員	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			区分	

授業の概要

学生が異文化間交流について発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標

異文化間交流を実践し、それを他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける

授業の到達目標

知識・理解の観点:異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。

思考・判断の観点:エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。

関心・意欲の観点:異文化に対する関心を持つ。

態度の観点:積極的に異文化を理解しようとする。

技能・表現の観点:異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

成績評価方法(総合)

演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411588
開設科目名	国際文化学演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	今田 淳			学年	～
担当教員	今田　淳			区分	

授業の概要

国際文化学演習Ⅰに引き続き、卒業論文の作成に向けて、調査･研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査･研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。

思考･判断の観点: 各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。

関心･意欲の観点: 各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。

態度の観点: 自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究に取り組む。

技能･表現の観点: 各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411600
開設科目名	国際文化学基礎講義II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

PowerPoint を用いたプレゼンテーションの方法についての概説の後、各自が設定したテーマについて、プレゼンテーションを毎回おこなう。その一部は英語でおこなう。また、他人の発表に対して質問や意見を述べる。

授業の一般目標

PowerPoint を用いてわかりやすくて説得力のあるプレゼンテーションができる能力を修得する。また、他人の発表を聞いて議論する能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 各自が設定したテーマについての情報を収集し、知識を得る。

思考・判断の観点: 各自が設定したテーマについての情報を分析し、論理的にまとめることができる。

関心・意欲の観点: 各自が設定したテーマについて意欲を持って取り組む。また、他人の発表に対して関心を持つ。

態度の観点: 自らのプレゼンテーションで自分の考えを述べるとともに、他人のプレゼンテーションについても積極的に意見を述べる。

技能・表現の観点: PowerPoint を用いて、論理的であり、かつわかりやすいプレゼンテーションの技術を身につける。

成績評価方法(総合)

自らおこなうプレゼンテーションと、他人のプレゼンテーションに対する関心、意見などから評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411604
開設科目名	国際文化学演習IV			単位	2 単位
対象学生	北西 功一			学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表することによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。

思考・判断の観点: 各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。

関心・意欲の観点: 各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。

態度の観点: 自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。

技能・表現の観点: 各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411605
開設科目名	国際文化学演習IV			単位	2 単位
対象学生	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			学年	～
担当教員	MIKHOVA DIMITRINA JORDANOVA			区分	

授業の概要

卒業論文の作成に向けて、調査、研究の方法や論文の書き方の指導をおこなう。

授業の一般目標

各自の設定したテーマについて必要な調査研究をおこない、その結果を演習で発表する
ことによって、調査、研究の方法や発表の仕方を修得し、国際人としてふさわしい能力
を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：各自の設定したテーマに関して、これまでおこなわれた研究およびその問題点を理解する。
思考・判断の観点：各自の設定したテーマに関して、研究結果に基づいて、自分の考えを論理的にまたわかりやすく述べることができる。
関心・意欲の観点：各自の研究テーマに意欲を持って取り組む。
態度の観点：自分で問題点を発見し、自らその問題を解決しようとする態度で研究をおこなう。
技能・表現の観点：各自のテーマについて、適切な発表の仕方、および論文の書き方を修得する。

成績評価方法(総合)

各自の研究テーマについてのゼミにおける発表や、ゼミへの参加状況に基づいて、成績を評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411606
開設科目名	国際文化学演習IV			単位	2 単位
対象学生	阿部 新			学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

受講生が自ら課題を選び、諸外国との比較を念頭に置き、対象課題に関して、分析、主張をまとめ、それについて助言･指導を行う。

授業の一般目標

資料収集、レポート報告、論文作成の仕方を学ぶ。

授業の到達目標

知識･理解の観点:対象課題についての正確かつ基本的知識･理解を得ること。

思考･判断の観点:対象課題について考え、判断する力を養うこと。

関心･意欲の観点:対象課題に積極的に取り組むこと。

態度の観点:資料収集やレポート報告を着実かつ真面目に行う態度を養うこと。

技能･表現の観点:収集した資料をもとに自己表現すること。

成績評価方法(総合)

報告の仕方および内容、そして最終のまとめによって評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411613
開設科目名	欧米言語文化入門II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

欧米、特にドイツの言語と文化について、ドイツ語の原典を通して学ぶ。初歩的なドイツ語の文法指導と読解を指導する。

授業の一般目標

ドイツ語の初歩的理解を前提に、原典を読解を通して、ドイツの思想と文化について学ぶ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:ドイツ語の初歩的読解ができるようになる。

思考・判断の観点:原典を通して、ドイツの思想を理解できるようになる。

関心・意欲の観点:ドイツ語やドイツの思想・文化への関心を高める。

態度の観点:原典読解を通して、思想・文化理解への真摯な態度を学ぶ。

技能・表現の観点:ドイツ語読解の力をつける。

成績評価方法(総合)

毎回の予習・復習に基づく発表内容と最終の授業内試験による。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411630
開設科目名	国際文化学演習IV			単位	2 単位
対象学生	来島 浩			学年	～
担当教員	来島　浩			区分	

授業の概要

卒業論文作成指導。毎回 2 人づつ研究成果を報告する。

授業の一般目標

卒業論文を完成させる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

演習における報告を、知識･理解、判断、関心･意欲、態度等の観点より評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411649
開設科目名	異文化間交流演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生	北西 功一			学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

学生が異文化間交流について、発表をおこなう。学生は指導教員の下で演習をおこなう。

授業の一般目標

異文化間交流について、他者に論理的にわかりやすく伝える能力を身につける

授業の到達目標

知識・理解の観点:異文化についての知識や、異文化理解についての知識を身につける。

思考・判断の観点:エスノセントリズムに陥ることなく、適切に異文化を理解する方法を修得する。

関心・意欲の観点:異文化に対する関心を持つ。

態度の観点:積極的に異文化を理解しようとする。

技能・表現の観点:異文化を論理的かつ分かりやすく表現、説明することができる。

成績評価方法(総合)

演習と授業態度、参加度で評価をおこなう。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022411661
開設科目名	アフリカ研究演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北西　功一			区分	

授業の概要

この授業は二つの部分から成り立っている。第一は、アフリカに関する統計データを
Excel で分析し、アフリカにおけるさまざまな問題（教育、衛生、保健、ジェンダー）について考える。第二は、各々の学生がアフリカの国もしくは地域、またはアフリカを取り巻く問題（エイズ、環境問題、内戦、教育問題など）を選んで、それについて調べ PowerPoint を用いて発表をおこなう。

授業の一般目標

日本から見ると最も遠い存在であるアフリカについての興味や関心を持ち、アフリカが抱えるさまざまな問題について考えることと、Excel を用いて統計資料を分析するテクニックを学ぶことが目標である。

授業の到達目標

知識・理解の観点：アフリカの統計的な資料の分析によって、アフリカの現状、特にアフリカが抱えているさまざまな問題を理解する。
思考・判断の観点：アフリカの現状について統計的資料に基づき客観的に判断できる。
関心・意欲の観点：アフリカに関心を持つ。
技能・表現の観点：エクセルによる統計資料の分析とパワーポイントによるプレゼンテーションができるようになる。

成績評価方法(総合)

アフリカの統計資料を分析したエクセルのファイルの提出と、アフリカの国もしくはある問題についてのプレゼンテーションの内容で評価する。理由もなく 5 回以上欠席したものは失格とする。

教科書

参考書

人間開発報告書 2007/2008／二宮正人：阪急コミュニケーションズ，2008

メッセージ

連絡先

kitanisi@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022415384
開設科目名	生態学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部　弘和			区分	

授業の概要

生態学･環境教育･科学史などの分野に関連する論文や著作を輪読す。また、必要に応じて、実習、関連する施設の見学などを行う。

授業の一般目標

論文や著作の内容を理解し、自分自身で問題点をみつけ、それを探求する科学的態度を育成する。また、レポート作成、授業内における発表などを通じて、科学的なスキルやコミュニューケション能力を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

レポート内容、発表、授業への取り組み意欲態度、出席状況などに基づきを総合的に評価する

教科書

参考書

メッセージ

授業には必要な著作（本）などは前期末までに指定しますので、各自購入しておくこと。また、論文等は配布します。

連絡先

E-mail　habe@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022415431
開設科目名	比較宗教学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

東西の宗教（主に仏教とキリスト教）を比較することによって、「宗教とは何か」という
ことを明らかにする。

授業の一般目標

主に仏教とキリスト教の基本的知識を習得し、それを通して宗教に対する姿勢を獲得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：仏教とキリスト教の教えについての基礎的知識を得ること。

思考・判断の観点：宗教に対する正しい思考・判断力を得ること。

関心・意欲の観点：宗教に対する関心を深めること。

態度の観点：人生に対する真摯な態度を得ること。

成績評価方法(総合)

毎回のレポートと最終試験を中心に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022415474
開設科目名	生物の世界			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	北沢　千里			区分	

授業の概要

生物の構造や機能に関する基礎的な知識を習得する。

授業の一般目標

生物を構成する物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸）の特徴を基に、細胞と細胞小器官がどのように作られ、物質代謝やエネルギー獲得方法について理解する。また、細胞が諸組織・器官への分化について、特に、筋肉や神経系の構造と機能，脳と感覚器について学習する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：生物学の基礎知識を身につける。

思考・判断の観点：生物の構造と機能の関係を理解する。

成績評価方法(総合)

レポート、出席、中間・期末試験を総合的に判断し評価する。

教科書

ダイナミックワイド図説生物 / 石川統ほか編／石川統：東京書籍，2008

参考書

メッセージ

広範囲に及ぶ生物の内容について講義します。そのため、自らが日々身近な生物に関心を持ち、予習復習を行うことで、授業内容を確実な知識にし、同時に補足も行ってくれることを望みます。

連絡先

E-mail: chisak@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日　13：00-14：30

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022415559
開設科目名	国際経済学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	阿部 新 [ABE Arata]			区分	

授業の概要

経済がグローバル化しているなかで、われわれは日々の生活において、国内のみならず、国外の経済の動向を無視できない状況にある。社会においてどのように経済が動いているのか、それをどのように見るかは、重要な視点である。本授業では、経済学の基礎理論を用いて、経済学的な視点から社会を見る力を養うとともに、社会をより望ましい状況にするために、どのような対応が考えられるのかを皆で考えていく。

授業の一般目標

経済学の基本的な考え方を用いて国内外で起きている社会問題を分析し、なぜそれが起きてしまったのか、それが起きないためにはどうしたらよいかについて、意見を述べることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点:社会的余剰、インセンティブの考え方を説明できる。

思考・判断の観点:社会の様々な問題について経済学的な視点で分析することができる。

関心・意欲の観点:国内外で起こっている社会問題の背景について広く関心を持つ。

成績評価方法(総合)

試験、授業中の演習問題により採点を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022415567
開設科目名	農業文化論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐藤　登			区分	

授業の概要

世界各地の農業地帯に永い間営まれてきた歴史の上に作られた農法や文化そして暮らしのあることを説明する。

授業の一般目標

世界の歴史と農業文化、教育の理解をする。日本の農業が世界的にどのような位置にあるかを理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 世界の農業地帯を説明できる。

思考・判断の観点: 農業文化の多様性を説明できる。

関心・意欲の観点: 身近な農業文化に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

授業で行う数回のレポート提出と個人課題についてのレポート提出。

なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022415680
開設科目名	ヨーロッパ文化論II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。

授業の一般目標

ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点から考察する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得る。

思考・判断の観点:ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養う。

関心・意欲の観点:ヨーロッパ文化の基礎的思想的理解への関心を喚起する。

態度の観点:ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う。

技能・表現の観点:ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養う。

成績評価方法(総合)

毎回レポートと最終試験による。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421424
開設科目名	映像表現特論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	堀家　敬嗣			区分	

授業の概要

映画を含む映像を研究の対象に定めた学生のために、この授業は基本的にはゼミ形式をとり、受講者自身による問題提起と、それにもとづく議論、さらにはこれを学術論文にふさわしい体裁に整えるための、題材に応じた受講者各自の文章力の鍛錬が中心となる。

授業の一般目標

映画を含む映像を研究の対象に定めた学生のために、とりわけ卒業論文作成を視野に入れつつ、映像を分析し、記述する能力と技術の習得をめざす。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業のみで評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421493
開設科目名	映画史Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	堀家　敬嗣			区分	

授業の概要

映画は、世界を大衆化した最初のマス･メディアである。それは、新聞など印刷技術を利用した先行のマス･メディアが文字という局所的に有効な構成要素によって成立していたのに対して、映画が映像という一種の普遍的な構成要素によって成立していたことによる。この講義では、世界に開かれた/世界を開いたマス･メディアとしての映画の特性をふまえつつ、日本における映画の歴史を俯瞰する。

授業の一般目標

この講義では、日本における映画の歴史をめぐる基礎的知識を獲得することを目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席 50%、期末レポート 50%

教科書

参考書

日本映画史 100 年／四方田犬彦:集英社, 2000

映画史を学ぶクリティカル･ワーズ／村山匡一郎:フィルムアート社, 2003

映画技法のリテラシーⅠ／ルイス･ジアネッティ:フィルムアート社, 2003

映画技法のリテラシーⅡ／ルイス･ジアネッティ:フィルムアート社, 2004

フィルム･アート―映画芸術入門―／デイヴィッド･ボードウェル:名古屋大学出版会, 2007

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421530
開設科目名	英米文芸演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	増田　勉			区分	

授業の概要

先ず、シェイクスピア全般について基礎知識を学ぶ。

それから、シェイクスピアの劇作品を読んでみる。作品は『ハムレット』か『オセロウ』か『ヴェニスの商人』のいずれかにしようと思う（検討中）。

映像メディアを観る機会も設けたい。

授業の一般目標

シェイクスピアについて基礎知識を身につけ、シェイクスピアの原文に触れ、シェイクスピア劇に親しみ、将来生きてゆく上での教養の一端とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点：英国演劇誕生までを追い、それから、シェイクスピア全般について知る。

思考・判断の観点：テキスト（台本）を舞台で上演するにはどのような知識と理解と判断が必要となるかを考える。

関心・意欲の観点：映像メディアを使い、また台本の読み合わせを行って、関心を喚起する。

また、教室で読む作品あるいはシェイクスピアの他の作品について、何らかの形でレポートを提出してもらう。

態度の観点：全員が作品のドラマ化にコミットすることを望む。

技能・表現の観点：自分が舞台監督だったらどう演出するか、俳優だったらどう演じるかを考えてもらう。

成績評価方法(総合)

授業中の発表、熱意、後期試験得点、出席状況、レポート等を総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

欠席及び遅刻をしないように（4 回欠席したら欠格とします）。

教育実習等やむを得ない事情で欠席する場合は原則として事前に届け出れば出席扱いとします。

楽しい授業にしたいと思っています。

連絡先

個人情報なので必要とあらば授業で伝達します。

オフィスアワー

非常勤講師なのでオフィスアワーは設定できません。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421610
開設科目名	映像論演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	堀家　敬嗣			区分	

授業の概要

1895 年に誕生した映画という映像メディアは、以来、今日にいたるまでの一世紀のあいだに、固有の表現様式を獲得すべく独自の理論と技法を洗練させてきた。この講義では、アルフレッド・ヒッチコック監督作品『恐喝（ゆすり）』（1929）を具体的に参照しつつ、その理論と技法の分析を演習形式でおこなう。

授業の一般目標

この講義では、映画に代表される映像メディアにおける表現を研究の対象として扱うにあたって、最低限必要なリテラシーを獲得することを目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

毎回の授業内で上映される『恐喝（ゆすり）』該当箇所についての分析レポートのみで評価する。

教科書

参考書

映画理論集成／岩本憲児・他：フィルムアート社，1982

「新」映画理論集成（1）歴史・人種・ジェンダー／岩本憲児・他：フィルムアート社，1998

「新」映画理論集成（2）知覚・表象・読解／岩本憲児・他：フィルムアート社，1999

シネマ1・運動イメージ／ジル・ドゥルーズ：法政大学出版局，2008

シネマ2・時間イメージ／ジル・ドゥルーズ：法政大学出版局，2006

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421619
開設科目名	国文学特別講義Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

卒論指導

授業の一般目標

卒業論文を書けるようにする

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

発表による

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421633
開設科目名	国語学特別演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

本授業は，国語学（日本語学）の諸相を多角的に分析し，議論するものである。

授業の一般目標

(1)国語学の基本的な事項について総合的に理解できる。

(2)日本語の諸相に関心を持ち，主体的に考えることができる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 国語学の基本的な事項について説明できる。

思考・判断の観点：1. 日本語の諸相について，精密な調査・実験に基づいた分析をすることができる。

関心・意欲の観点：1. 国語学の諸問題の解明に高い関心を持つ。

成績評価方法(総合)

(1)授業への参加度を最重要視する。

(2)学期末にレポートを課す。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

ゼミを希望する者は必ず選択すること。大いなる議論を期待する。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421643
開設科目名	国語学特別講義II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

本授業では，現代日本語の諸相を研究する。具体的には，前期開講の「国語学特別講義 I」に引き続き，卒業論文に向けて受講生自身の研究の進捗状況を報告していく。また，それに対し議論していく。本授業はゼミである。

授業の一般目標

(1)日本語研究の方法論を習得する。

(2)国語学の観点から論理的に議論できる力を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 日本語研究（国語学）の方法論を習得する。

思考・判断の観点：1. 日本語研究の方法論を新たなデータに適用できる。

2. 国語学の観点から主体的に討議できる。

関心・意欲の観点：1. 日本語研究に高い関心を持ち，主体的に取り組むことができる。

成績評価方法(総合)

(1)発表の仕方，レジュメの作成の仕方を評価する。

(2)授業中の議論への参加度を評価する。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

原則として，ゼミ生を対象とする。ゼミ生には毎回の出席が義務付けられる。他の授業とは質の異なるものであることを認識しておくこと。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421650
開設科目名	国文学特別演習Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　恒徳			区分	

授業の概要

基本的には前期「国文学特別演習Ⅰ」を踏まえて授業を進める。受講生の選んだテーマ（作品とか事項）に沿って、レポートをしていただき、質疑応答という形で進めたい。（可能な限り映像資料を提供したい。）

授業の一般目標

1) 中世演劇に対する関心と理解を深めつつ伝統継承の意味を考えることが出来る。
2) 作品（台本）を読み解く能力を養う。
3) 研究の成果を整理して、分かり易く発表する（語る）ことができる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

基本的には授業内レポートの内容によって評価するが、場合によっては、別に書面によるレポートの提出を求めることがある。

教科書

参考書

岩波講座「能・狂言」（全８巻）：岩波書店, 1988
能への誘い／金春国雄：淡交社, 1980

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421700
開設科目名	言語と人間			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

本授業は近世の文芸作品を通して、日本語の変遷について理解を深めることを目的とする。
まず、近世中期に、標準語が上方語から江戸語に移って、江戸語がどのように発達したか、また、明治以降の標準語が国語政策でどのように定められたかなども含め、現代語への橋渡しをすることで、古語への理解も深める。
以上のことを通して、時代とともに歩んできたことばの変遷に対する理解を深める。
室町時代語から現代の標準語成立まで幅広く見る。

授業の一般目標

古典を読み、使われた言語の歴史的変遷について理解し、意味の変化や簡単な解釈ができるようになる。また、各時代を反映した作品について理解を深め、当時の風俗や社会について興味を広げる態度を育てる。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 文芸作品や日本語史について理解を深める。
思考・判断の観点: 文芸作品のスタイルを理解し、そこで使われた言葉の意味について考察する。
関心・意欲の観点: 作品に関心を持ち、日本語史資料から現代語との違いや変化の道筋を知ろうとする態度を育てる。
態度の観点: 問題意識を持って授業に取り組むことができる。
技能・表現の観点: 簡単な変体仮名の読み方を身につけ、考察したことを文章に表現できる。

成績評価方法(総合)

学期末に行う試験で判定するとともに、授業中の短いレポートも加味する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022421707
開設科目名	社会の中の言語			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

本授業は近世の文芸作品を通して、日本語の変遷について理解を深めることを目的とする。

狂言や歌舞伎の中のことばには、今でも中世語や近世語が多く含まれ、また文法や音韻が独特である。本授業では、作品を鑑賞しながら、中世、近世の音韻、語法、表現など、ことばの変遷に対する理解を深める。

授業の一般目標

古典を読み、使われた言語の歴史的変遷について理解し、意味の変化や簡単な解釈ができるようになる。また、各時代を反映した作品について理解を深め、当時の風俗や社会について興味を広げる態度を育てる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：文芸作品や日本語史について理解を深める。

思考・判断の観点：文芸作品のスタイルを理解し、そこで使われた言葉の意味について考察する。

関心・意欲の観点：作品に関心を持ち、鑑賞する態度を養い、自ら他の作品に対する関心を持てるようになる。

態度の観点：問題意識を持って授業に取り組むことができる。

技能・表現の観点：簡単な変体仮名の読み方を身につけ、考察したことを文章に表現する。

成績評価方法(総合)

学期末に行う試験で判定するとともに、授業中の短いレポートも加味する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022425475
開設科目名	国語学Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	有元　光彦			区分	

授業の概要

本講義では，私達が日頃意識していない日本語の音声について，様々な身近な現象を取り上げつつ解説する。

授業の一般目標

(1)音声研究の基本的な事項を理解できる。

(2)音声研究の方法論を新たなデータに適用できる。

(3)普段使っていることばの音声現象を客観的に認識できる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 音声研究の基本的な事項を説明することができる。

思考･判断の観点: 1. 音声研究の方法論を新たなデータに適用できる。

2. 法則性を一般化できる。

関心･意欲の観点: 1. 普段意識していない自分のことばの音声現象を主体的に観察できる。

成績評価方法(総合)

(1)毎回授業の終わりにミニッツペーパーを課す。

(2)学期末にレポートを課す。

なお，出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

常に身近なことばの音声を意識しておいて欲しい。

連絡先

arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022425497
開設科目名	国文学Ⅰ演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉村　誠			区分	

授業の概要

枕草子を章ごとにグループで発表する。

授業の一般目標

古文とその内容を理解する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

発表と出席、レポート

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022425539
開設科目名	英米文学史Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡　紘一郎			区分	

授業の概要

英米文学とは何か、文学と言語の関係はどうか、文学における演劇、文学における小説等の問題を考察する。

授業の一般目標

英米文学について概観的知識を養う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：文学作品と文学的特徴の関連性を理解する。

思考・判断の観点：筆者の論理の流れが理解でき、引用作品が読めるようになる

関心・意欲の観点：テキストに引用されている作品の一部から更に全体が読めるようにする。

態度の観点：紹介されている人名や作品について、更に深く学ぶ態度を養う。

技能・表現の観点：作品、作者、文学用語等を理解し、簡潔な説明ができるようになる

成績評価方法(総合)

出席点（三分の一以上欠席すれば受験資格を失う）、平常点、期末試験の成績で評価する。

教科書

English Literature／L.D.Lerner：Eihosha, 1996

参考書

メッセージ

毎回予習を十分におこなって出席すること。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022425560
開設科目名	国文学Ⅱ演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	藤原　マリ子			区分	

授業の概要

芭蕉の『おくのほそ道』を読んでいく。はじめに基礎的事柄について概説し、次いで、全員で分担して演習発表を行っていく。先行文献を比較参照し、問題点を洗い出して考察を加え、資料を用意して分かりやすく発表し、討議・批評を加える一連の学習を通じて、古典文学研究の基礎的技能の修得を図る。

授業の一般目標

1・作品・作者・時代背景などについて知るとともに、紀行文としてのユニークな特質を魅力を理解する。

2・古典文学研究の基礎的技法を習得する。

3・生涯にわたって古典に親しむ態度を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：作品や作者について理解する。

思考・判断の観点：作品の特質や問題点を指摘することができる。

関心・意欲の観点：古典文学への関心をもつことができる。

態度の観点：生涯にわたって古典に親しむ態度を身につける。

技能・表現の観点：作品について、口頭や文章で的確に発表することができる。

成績評価方法(総合)

演習発表のない洋、毎回提出する小レポート、期末のレポートにより評価する。

教科書

芭蕉　おくのほそ道／萩原恭男：おうふう

参考書

メッセージ

連絡先

mf260923@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022425568
開設科目名	国語学Ⅱ演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

過去の日本語を記録した資料を読みながら、過去の日本語のあり方、あるいは、それと比べた場合の現代の日本語のあり方について考えていく。

授業の一般目標

資料を基に、日本語について歴史的に考えていく方法を学ぶ。

授業の到達目標

思考・判断の観点：資料に基づいて、歴史的観点から日本語について自ら考えることができる。

関心・意欲の観点：歴史的観点から、日本語について考えていくことに興味を持つことができる。

成績評価方法(総合)

授業時の発表や討論への参加状況による。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp

研究室：教育学部4階

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022425683
開設科目名	哲学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡村　康夫			区分	

授業の概要

ヨーロッパ文化の根本問題を主にニーチェの思想によって明らかにする。

授業の一般目標

ヨーロッパ文化の根本問題を思想的観点から考察する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:ヨーロッパ文化の基本的思想的理解を得る。

思考・判断の観点:ヨーロッパ文化について考え、判断する力を養う。

関心・意欲の観点:ヨーロッパ文化の基礎的思想的理解への関心を喚起する。

態度の観点:ヨーロッパ文化の真摯な理解の態度を養う。

技能・表現の観点:ヨーロッパ文化の理解を自分の言葉で表現する力を養う。

成績評価方法(総合)

毎回レポートと最終試験による。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022425710
開設科目名	文芸風土実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	中野　伸彦			区分	

授業の概要

文学作品の舞台等、国語科の内容に関わりのある土地を訪れる。日程は、おおよそ2泊3日で、11月に実施の予定（詳しい日程、訪れる土地等については決まり次第、掲示等で知らせる）。

授業の一般目標

国語科の内容に関わりのある土地を訪れ、風土やことば、文化財等に実地に触れることを通して、内容に対する理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点：訪れた土地に関する知識を得ながら、その土地と関わる文学作品・ことば等に対する理解を深める。

思考・判断の観点：実地の経験に基づき、その土地と関わる文学作品・ことば等に対して自ら考える機会を持つ。

関心・意欲の観点：実地にその土地を訪れることで、その土地と関わる文学作品・ことば等に対して関心を持つ。

成績評価方法(総合)

授業への参加態度及びレポートによって評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

メールアドレス：n_nakano@yamaguchi-u.ac.jp
研究室：教育学部4階

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022511437
開設科目名	保育内容基礎			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	越中　康治			区分	

授業の概要

保育内容に関する基礎的事項を概説する。

授業の一般目標

保育内容に関する基礎的事項を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：保育内容に関する基礎的事項を理解する。

関心・意欲の観点：保育内容を中心として幼児教育に関心を持つ。

成績評価方法(総合)

授業への参加と課題（レポートなど）への取り組みをもとに総合的に評価する。

3回以上欠席した場合には評価対象外とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

教育学部4F（406 室）越中研究室

083-933-5443

etchu@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022511519
開設科目名	保育内容表現			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

生活や遊びの中の子どもの表現について学びながら、遊びの重要性と保育内容の領域における「表現」のについて考えていく。

授業の一般目標

子どもの「遊び」と発達における表現のついて理解を深めるとともに、保育者としての自らの感性や表現力を高めようとする意識を持って取り組む。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、授業への関心・意欲、及び、レポート、試験の総合的評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022511548
開設科目名	保育内容健康			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	村田　陽子			区分	

授業の概要

保育内容「健康」は、子どもの健康な心と体を育て、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出す力を育てるという観点から、その内容や方法を学ぶ。

授業の一般目標

現場で実践できる保育者としての知識や能力を培う。

授業の到達目標

知識・理解の観点：保育内容「健康」についての知識と理解を得る。

思考・判断の観点：理論及び実践事例から「心身の健康を培う」方法について思考し、保育実践における判断能力を培う。

関心・意欲の観点：幼児との心の交流や幼児の心身の調和的発達、幼児にふさわしい習慣や態度などに関心を寄せ、意欲的に取り組み学ぶ。

態度の観点：1. 意欲的な態度で授業に臨む。

2. プリントに目を通し、自ら学ぶ。

成績評価方法(総合)

出席日数、授業態度（特別な事情を除く遅刻を含む）、試験の総合評価で行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

東亜大学

代表番号:083-256-1111

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022511577
開設科目名	保育内容言葉			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	越中　康治			区分	

授業の概要

保育内容「言葉」に関する基礎的事項を概説する。

授業の一般目標

保育内容「言葉」に関する基礎的事項を理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：保育内容「言葉」に関する基礎的事項を理解する。

関心・意欲の観点：保育内容「言葉」に関する基礎的事項の理解を通して幼児教育への興味・関心を深める。

成績評価方法(総合)

授業への参加と課題（レポートなど）への取り組みをもとに総合的に評価する。

3回以上欠席した場合には評価対象外とする。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

教育学部4F（406 室）越中研究室

083-933-5443

etchu@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022511690
開設科目名	造形表現（指導法）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	未　定			区分	

授業の概要

幼児の様々な表現について学ぶとともに、保育における造形的な遊びや表現活動を支援するための実践的な力を養う。

授業の一般目標

幼児期の発達を捉えながら幼児の様々な表現について理解を深めるとともに、保育に生かせる実践的な造形表現の知識と技術を身につける。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、授業への関心・意欲、レポートの総合評価で行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022515438
開設科目名	幼児心理理解			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	白石　敏行			区分	

授業の概要

乳幼児期の子どもの心理を理解するためにの基礎的事項および研究方法等について概説する。

授業の一般目標

乳幼児期の子どもの心理に関する基礎的事項を理解する。

乳幼児期の子どもに関する今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:乳幼児期の発達に関する基礎的事項について説明することができる。

関心・意欲の観点:集団での討論に積極的に参加することができる。

成績評価方法(総合)

出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。

特別な事情を除き、3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

教科書

参考書

はじめて学ぶ乳幼児の心理／桜井茂男:有斐閣ブックス, 2006

メッセージ

子どもから学ぶ姿勢のある方の受講を望みます。

連絡先

研究室:教育学部4階　404室

電話・ファックス:083－933－5330

メールアドレス:t-shira@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022515449
開設科目名	幼児心理基礎			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	白石　敏行			区分	

授業の概要

乳幼児期の子どもの心理を理解するためにの基礎的事項および研究方法等について概説する。

授業の一般目標

乳幼児期の子どもの心理に関する基礎的事項を理解する。

乳幼児期の子どもに関する今日的課題に関心をもつ。

授業の到達目標

知識・理解の観点:乳幼児期の発達に関する基礎的事項について説明することができる。

関心・意欲の観点:集団での討論に積極的に参加することができる。

成績評価方法(総合)

出席、授業への参加、レポートおよびテストをもとに総合的に評価する。

特別な事情を除き、3回以上欠席した場合には、評価対象外とする。

教科書

参考書

はじめて学ぶ乳幼児の心理／桜井茂男:有斐閣ブックス, 2006

メッセージ

子どもから学ぶ姿勢のある方の受講を望みます。

連絡先

研究室:教育学部4階　404室

電話・ファックス:083－933－5330

メールアドレス:t-shira@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

随時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022521551
開設科目名	障害児の職業指導			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

主として発達障害（アスペルガー症候群等）のある人を対象とした就労支援のあり方について心理学の観点から検討する。

授業の一般目標

(1)障害児の就労状況について知る。

(2)障害児の就労支援のために必要な条件を知る。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

受講者によるプレゼンテーションの後、質疑応答を行います。最後に各階のポイントについて詳しく解説します。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525397
開設科目名	障害児の心理アセスメントⅠ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　一成			区分	

授業の概要

発達に障害のある子どもたちの個別の教育支援計画や指導計画のための専門的心理検査の活用について学ぶ。言語学習能力に関する「ITPA」、認知発達に関する「K-ABC」、自閉症児・発達障害児支援のための「PEP」スクリーニング検査としての「CARS」などについて、理論と実際を習得する。

授業の一般目標

1. 発達障害児の心理特性を理解し支援するための評価法について学びを深める
2. 障害児支援のために用いられる心理検査の実施法について理解する
3. 各種心理検査のテストバッテリーの組み方や総合的支援のあり方について学ぶ

授業の到達目標

知識・理解の観点：知能検査、発達検査などの理論的背景を理解し、検査実施法、活用法について理解したか

思考・判断の観点：障害児やその家族を支援するための心理検査の活用やその功罪について判断できるか

関心・意欲の観点：心理検査の活用のあり方について意欲的に考察したか

態度の観点：真摯に学習したか

技能・表現の観点：各種の心理検査の実施法を習得し、その内容を他者に伝えることができるか

成績評価方法(総合)

毎回の授業終了時に課題論述を求める。授業中の質疑応答と最終の論述試験と総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525405
開設科目名	障害児の心理アセスメント			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉田　一成			区分	

授業の概要

発達に障害のある子どもたちの個別の教育支援計画や指導計画のための専門的心理検査の活用について学ぶ。言語学習能力に関する「ITPA」、認知発達に関する「K-ABC」、自閉症児・発達障害児支援のための「PEP」スクリーニング検査としての「CARS」などについて、理論と実際を習得する。

授業の一般目標

1. 発達障害児の心理特性を理解し支援するための評価法について学びを深める
2. 障害児支援のために用いられる心理検査の実施法について理解する
3. 各種心理検査のテストバッテリーの組み方や総合的支援のあり方について学ぶ

授業の到達目標

知識・理解の観点：知能検査、発達検査などの理論的背景を理解し、検査実施法、活用法について理解したか

思考・判断の観点：障害児やその家族を支援するための心理検査の活用やその功罪について判断できるか

関心・意欲の観点：心理検査の活用のあり方について意欲的に考察したか

態度の観点：真摯に学習したか

技能・表現の観点：各種の心理検査の実施法を習得し、その内容を他者に伝えることができるか

成績評価方法(総合)

毎回の授業終了時に課題論述を求める。授業中の質疑応答と最終の論述試験と総合して評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525406
開設科目名	障害児心理学研究法II			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

最近の学会機関誌に掲載された、障害のある人たちを対象とした実践的、事例的研究論文を題材に、障害のある人たちの行動の客観的な見方及び具体的支援のあり方について検討する。

授業の一般目標

発達障害をはじめ、障害のある人たちの心理的な特徴および具体的支援のあり方について習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:(1)発達障害をはじめとする障害のある人たちの心理的特徴を理解する。(2)障害のある人たちを対象とした事例的、実践的研究の動向をつかむ。(3)障害のある人たちを支援するプログラム（支援法略）の基礎を理解する。

思考・判断の観点:障害のある人たちを対象とした実践邸、事例的研究を行う上での基礎および留意点について述べることができる。

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

毎回、受講生によるプレゼンテーション（質疑応答を含む）、ポイントの解説を行い、理解を深めます。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525450
開設科目名	障害児教育演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松田　信夫			区分	

授業の概要

山口大学教育学部附属特別支援学校（知的障害児童生徒が主に在籍）での教育実習期間中に関心をもち、取り組んだ実践事例、あるいは実習終了後に文献などをもとに調べた内容等について、1コマにつき原則として2名が発表し（発表者1名につき 15 分）、続いてその内容について全員で討論（10 分）する。この学習活動を通し、特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級に在籍する知的障害児を中心とした児童生徒への指導の具体的あり方について検討する。発表については、受講生が関心を持つテーマを自主的に選択させる。過去、下記のようなテーマが選択されてきた。（1）知的障害児への指導：知的障害児への数量指導、金銭指導、言語指導（書く・読む指導）、言語指導（話す・聞く指導）、体育指導、造形指導、領域・教科を合わせた指導～生活単元学習、作業学習、日常生活の指導、遊びの指導等。（2）肢体不自由児への指導：肢体不自由児への歩行指導、摂食指導、言語指導、自立活動の指導（手指の巧緻性、環境の把握、言語の受容と表出）等。

授業の一般目標

教育実習生自らが実践した指導事例に基づきつつ、知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした障害の実態とニーズに応じた教材・教具の開発と指導のあり方等を反省の上で検討し、より望ましい指導に発展させていくための視点を習得させる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 障害児指導の基本原理である「個に応じた指導」の具体を説明できる。

思考・判断の観点：1. 自身による障害児指導の課題を指摘し、改善策を講じることができる。

関心・意欲の観点：1. 特別支援教育の指導事例に接することで指導法への関心を高め、知的障害児、自閉症児、肢体不自由児等への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

技能・表現の観点：1. 指導のために作成し使用した教具類を効果的に使用し、指導経過や今後の課題を具体的に表現できる。

成績評価方法(総合)

（1）レジュメをもとに発表する。（2）質疑応答をする。（3）発表者は発表後に示された課題についてのレポートを提出する。（4）発表者に対して紙面にてアドバイスする。（5）全員共通テーマのレポートを提出する。（6）特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525507
開設科目名	障害児の心理			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

(1)障害のある人たちを支援する際に有効な心理学（応用行動分析学）の基礎について学ぶ。

(2)さまざまな障害特性（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由，重度･重複障害，自閉症，学習障害，注意欠陥多動性障害）のある子どもたちの心理･行動的特徴について理解する。

(3)上記(1)(2)を踏まえたうえで、障害のある子どもたちが示す「問題行動」の理解と支援の実際について検討する。

授業の一般目標

(1)障害のある子どもたちの支援に有効な心理学（応用行動分析学）の特徴について理解する。

(2)さまざまな障害特性について理解する。

(3)障害のある子どもたちへの支援のあり方の基礎を習得する

(4)障害のある子どもが示す「問題行動」の分析方法，指導方法を習得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

定期試験を中心にしながら総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

グループ討論を行う。基礎から学びたい学生向け。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525520
開設科目名	知的障害心理学			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

(1)障害のある人たちを支援する際に有効な心理学（応用行動分析学）の基礎について学ぶ。

(2)さまざまな障害特性（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由，重度・重複障害，自閉症，学習障害，注意欠陥多動性障害）のある子どもたちの心理・行動的特徴について理解する。

(3)上記(1)(2)を踏まえたうえで、障害のある子どもたちが示す「問題行動」の理解と支援の実際について検討する。

授業の一般目標

(1)障害のある子どもたちの支援に有効な心理学（応用行動分析学）の特徴について理解する。

(2)さまざまな障害特性について理解する。

(3)障害のある子どもたちへの支援のあり方の基礎を習得する

(4)障害のある子どもが示す「問題行動」の分析方法，指導方法を習得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

定期試験を中心にしながら総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

グループ討論を積極的に行う。知的障害心理学（応用行動分析学を含む）を基礎から学びたい学生向け。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525602
開設科目名	障害児福祉			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	松田　信夫			区分	

授業の概要

児童福祉法、知的障害者福祉法、身体障害者福祉法を中心に、障害児･者の福祉史、福祉施設サービスや行政サービスの内容、地域生活の実現に向けた支援のあり方、21世紀のわが国の障害児･者福祉のあり方等について講義する。社会福祉施設等における支援内容や、就労を支える支援内容等について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の融合をはかる。

授業の一般目標

障害児･者福祉の基本原理についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、障害児･者福祉をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 障害児･者福祉の概念、歴史、福祉施設サービスや行政サービス等を説明できる。

2. 地域生活の実現に向けた支援を説明できる。

思考･判断の観点: 1. 障害児･者福祉における歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。

関心･意欲の観点: 1. 障害児の生涯を見通した支援のあり方への関心を高め、学校教育段階における望ましい福祉的支援並びに雇用に向けた支援との連携のあり方を探求する態度を身につける。

成績評価方法(総合)

(1) 授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2) 期末に試験を実施する。(3) パール･バック著「母よ嘆くなかれ」を読み、レポートする。(4) 特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525615
開設科目名	特別支援教育心理学演習Ⅰ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

障害のある人たちを対象とした事例研究を通して、障害のある人たちの行動の客観的な見方及び具体的支援のあり方の基礎について習得する。

授業の一般目標

発達障害をはじめ、障害のある人たちの心理学的な特徴、具体的支援のあり方の基礎について習得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525618
開設科目名	障害児福祉総論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	松田　信夫			区分	

授業の概要

児童福祉法、知的障害者福祉法、身体障害者福祉法を中心に、障害児･者の福祉史、福祉施設サービスや行政サービスの内容、地域生活の実現に向けた支援のあり方、21世紀のわが国の障害児･者福祉のあり方等について講義する。社会福祉施設等における支援内容や、就労を支える支援内容等について視聴覚機器等で紹介しつつ、理論と実践の融合をはかる。

授業の一般目標

障害児･者福祉の基本原理についての基礎的知識を獲得させ、さらに実践事例との融合をはかることで、障害児･者福祉をめぐる現状と課題を総合的に理解させる。

授業の到達目標

知識･理解の観点: 1. 障害児･者福祉の概念、歴史、福祉施設サービスや行政サービス等を説明できる。

2. 地域生活の実現に向けた支援を説明できる。

思考･判断の観点: 1. 障害児･者福祉における歴史と現状をふまえつつ、今後の課題を指摘できる。

関心･意欲の観点: 1. 障害児の生涯を見通した支援のあり方への関心を高め、学校教育段階における望ましい福祉的支援並びに雇用に向けた支援との連携のあり方を探求する態度を身につける。

成績評価方法(総合)

(1) 授業の最初に「前時の講義の概略」、最後に「質問、意見」をシートに記入し、提出する。(2) 期末に試験を実施する。(3) パール･バック著「母よ嘆くなかれ」を読み、レポートする。(4) 特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525686
開設科目名	障害児の病理（生理を含む。）			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	平野　均			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525687
開設科目名	聴覚･言語障害児の指導			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	谷本　忠明			区分	

授業の概要

聞こえやことばの障害のある児童生徒に対する教育上の関わりは、主に特別支援学校(聴覚障害)や、特別支援学級･通級指導教室で行われている。そうした児童生徒の聞こえやことばの障害は、人とのコミュニケーションや学習面における課題として現れることが多い。

本授業では、聞こえやことばの障害はどのような障害なのかについて述べるとともに、学校教育場面における対応について、集中講義形式で解説する。

授業の一般目標

聞こえやことばの役割については、ふだん私たちが生活していく際に余り意識しない事が多いために、その障害の内容について適切に理解した上での対応が求められる。また、聞こえやことばの障害に関連する事項は多岐にわたることから、本授業ではことばを身に付けることの意味と、そこから生じる障害の状態像や教育的な対応についての基礎的な理解を図ることを目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:1)聴覚障害･言語障害教育の制度や教育方法の概要について理解する。

(2)構音器官や聴覚器官の基礎的な仕組みと障害の概要について理解する。

(3)ことばの習得過程の概要やことばの機能について理解する。

(4)聴覚障害･言語障害教育に関する歴史的事項について理解する。

(5)教育上の課題とそれに対する手だてについて理解する。

思考･判断の観点:聞こえやことばの障害のある児童生徒に接する場合に必要となる、コミュニケーション関係の在り方や、指導上求められる視点や手だてについて、課題解決のための視点を持つことができる。

成績評価方法(総合)

最終日の授業終了後に筆記試験を行い、その成績および集中講義中の出席についても評価の一部とする。出席の確認方法については、メッセージ欄を参照のこと。

なお、集中講義形式での開講となることから、原則として全時間出席をし、最終試験を受験した者のみを評価の対象とする。また、単位不要で聴講のみを希望する学生の受講は認めないこととする。

教科書

参考書

メッセージ

受講生の多くにとっては初めて学ぶ内容が多くなると思われるので、出席カードによって質問や感想を出してもらうこととする。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525693
開設科目名	聴覚障害教育総論			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	谷本　忠明			区分	

授業の概要

聞こえやことばの障害のある児童生徒に対する教育上の関わりは、主に特別支援学校(聴覚障害)や、特別支援学級･通級指導教室で行われている。そうした児童生徒の聞こえやことばの障害は、人とのコミュニケーションや学習面における課題として現れることが多い。

本授業では、聞こえやことばの障害はどのような障害なのかについて述べるとともに、学校教育場面における対応について、集中講義形式で解説する。

授業の一般目標

聞こえやことばの役割については、ふだん私たちが生活していく際に余り意識しない事が多いために、その障害の内容について適切に理解した上での対応が求められる。また、聞こえやことばの障害に関連する事項は多岐にわたることから、本授業ではことばを身に付けることの意味と、そこから生じる障害の状態像や教育的な対応についての基礎的な理解を図ることを目標とする。

授業の到達目標

知識･理解の観点:1)聴覚障害･言語障害教育の制度や教育方法の概要について理解する。

(2)構音器官や聴覚器官の基礎的な仕組みと障害の概要について理解する。

(3)ことばの習得過程の概要やことばの機能について理解する。

(4)聴覚障害･言語障害教育に関する歴史的事項について理解する。

(5)教育上の課題とそれに対する手だてについて理解する。

思考･判断の観点:聞こえやことばの障害のある児童生徒に接する場合に必要となる、コミュニケーション関係の在り方や、指導上求められる視点や手だてについて、課題解決のための視点を持つことができる。

成績評価方法(総合)

最終日の授業終了後に筆記試験を行い、その成績および集中講義中の出席についても評価の一部とする。出席の確認方法については、メッセージ欄を参照のこと。

なお、集中講義形式での開講となることから、原則として全時間出席をし、最終試験を受験した者のみを評価の対象とする。また、単位不要で聴講のみを希望する学生の受講は認めないこととする。

教科書

参考書

メッセージ

受講生の多くにとっては初めて学ぶ内容が多くなると思われるので、出席カードによって質問や感想を出してもらうこととする。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525702
開設科目名	特別支援教育心理学演習Ⅱ			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	松岡　勝彦			区分	

授業の概要

最近の学会機関誌に掲載された、障害のある人たちを対象とした実践的、事例的研究論文を題材に、障害のある人たちの行動の客観的な見方及び具体的支援のあり方について検討する。

授業の一般目標

発達障害をはじめ、障害のある人たちの心理的な特徴および具体的支援のあり方について習得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：(1)発達障害をはじめとする障害のある人たちの心理的特徴を理解する。(2)障害のある人たちを対象とした事例的、実践的研究の動向をつかむ。(3)障害のある人たちを支援するプログラム（支援法略）の基礎を理解する。

思考・判断の観点：障害のある人たちを対象とした実践的、事例的研究を行う上での基礎および留意点について述べることができる。

成績評価方法(総合)

教科書

参考書

メッセージ

毎回、受講生によるプレゼンテーション（質疑応答を含む）、ポイントの解説を行い、理解を深めます。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525703
開設科目名	特別支援教育演習			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	松田　信夫			区分	

授業の概要

山口大学教育学部附属特別支援学校（知的障害児童生徒が主に在籍）での教育実習期間中に関心をもち、取り組んだ実践事例、あるいは実習終了後に文献などをもとに調べた内容等について、1コマにつき原則として2名が発表し（発表者1名につき15分）、続いてその内容について全員で討論（10分）する。この学習活動を通し、特別支援学校並びに小学校・中学校の特別支援学級に在籍する知的障害児を中心とした児童生徒への指導の具体的あり方について検討する。発表については、受講生が関心を持つテーマを自主的に選択させる。過去、下記のようなテーマが選択されてきた。（1）知的障害児への指導：知的障害児への数量指導、金銭指導、言語指導（書く・読む指導）、言語指導（話す・聞く指導）、体育指導、造形指導、領域・教科を合わせた指導～生活単元学習、作業学習、日常生活の指導、遊びの指導等。（2）肢体不自由児への指導：肢体不自由児への歩行指導、摂食指導、言語指導、自立活動の指導（手指の巧緻性、環境の把握、言語の受容と表出）等。

授業の一般目標

教育実習生自らが実践した指導事例に基づきつつ、知的障害児、自閉症児、肢体不自由児を中心とした障害の実態とニーズに応じた教材・教具の開発と指導のあり方等を反省の上で検討し、より望ましい指導に発展させていくための視点を習得させる。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1. 障害児指導の基本原理である「個に応じた指導」の具体を説明できる。

思考・判断の観点：1. 自身による障害児指導の課題を指摘し、改善策を講じることができる。

関心・意欲の観点：1. 特別支援教育の指導事例に接することで指導法への関心を高め、知的障害児、自閉症児、肢体不自由児等への望ましい指導のあり方を探求する態度を身につける。

技能・表現の観点：1. 指導のために作成し使用した教具類を効果的に使用し、指導経過や今後の課題を具体的に表現できる。

成績評価方法(総合)

（1）レジュメをもとに発表する。（2）質疑応答をする。（3）発表者は発表後に示された課題についてのレポートを提出する。（4）発表者に対して紙面にてアドバイスする。（5）全員共通テーマのレポートを提出する。（6）特別な理由なく、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022525711
開設科目名	知的障害生理･病理学			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	平野　均			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022531504
開設科目名	欧米文化論Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	小粥　良			区分	

授業の概要

本年度の欧米言語文化入門Ⅰでは、主としてアメリカ合衆国を取り上げる。配布するテキストや授業内に見るビデオなどを通して、アメリカの歴史や、様々な文化的事象について考察していく。植民地時代、独立革命、西部開拓、フロンティアの消滅と外部への拡張、移民、20年代の繁栄、大恐慌時代、人種問題、公民権運動、女性の権利拡張、アジア系移民などのテーマを取り上げる。

授業の一般目標

文化を理解するために必要な歴史的背景についての知識を得る。歴史の中で、アメリカ合衆国という国がどのように形成され、今日の姿になったかを理解する。多くのエスニシティーを抱えるアメリカ社会の歴史的変遷を知ることで、多民族共生の道への洞察を得る。人種差別撤廃、女性差別撤廃が、人権の拡張という観点から類似した問題であることを理解する。

授業の到達目標

知識・理解の観点:アメリカの歴史的形成についての知識を得る。

思考・判断の観点:歴史的事象が今日のアメリカ社会の形成にどのように関わっているのか、繋がりを理解し、それについて整理して説明できる。

関心・意欲の観点:参考文献、インターネットなどを調査し、アメリカについて貪欲に知見を拡げていく姿勢をもつ。

態度の観点:与えられた課題に積極的に取り組むことができる。

技能・表現の観点:発表、レポートなどで、論理的・客観的な報告あるいは記述ができる。

成績評価方法(総合)

主として期末レポートによるが、普段の授業への参加度も考慮する。出席は欠格条件とし、80%以上出席しなければ、成績は出さないこととする。

教科書

アメリカ歴史の旅―イエスタデイ＆トゥデイ／猿谷　要:朝日新聞社, 1987

参考書

概説アメリカ文化史／笹田直人　他:ミネルヴァ書房, 2002

メッセージ

教科書の指定箇所はかならず事前に読んでおいてください。

連絡先

小粥研究室(200-4)

オフィスアワー

木曜日 16:30-17:30

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022531569
開設科目名	異文化学習演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	小粥　良			区分	

授業の概要

世界の各地で、文化の違いによって生じている葛藤や紛争の事例を知り、その文化的背景、歴史的経緯についてビデオや配布資料を通して理解する。授業で取り上げる事柄に関連する問題について調べ、整理し、発表する。調べた事柄について話し合い、問題解決には何が必要かを考える。

授業の一般目標

民族紛争や文化摩擦などの存在を知る。その文化的･歴史的背景を理解する。文化の違いを乗り越え平和を築くために必要な態度への洞察を得る。授業で扱った問題の関連事項をグループで調査し発表することで、事柄についての理解を深める。

授業の到達目標

知識･理解の観点:世界のさまざまな地域の民族問題の歴史的背景についての知識と理解を深める。「平和の文化」を育てることの大切さを理解する。

思考･判断の観点:論理的に発表できる。

関心･意欲の観点:世界で起きているさまざまな問題について、自分と無関係とは考えず、関心をもって調べることができる。

態度の観点:与えられた課題に積極的に取り組むことができる。

技能･表現の観点:調査したことを的確にまとめ、わかりやすく発表できる。

成績評価方法(総合)

授業内での発表と、期末レポートによる。出席は欠格条件とし、80%以上出席しなければ、成績は出さないこととする。

教科書

参考書

多文化社会／青木　保:岩波書店, 2003

新しい民族問題／梶田孝道:中央公論新社, 1993

メッセージ

連絡先

小粥研究室(200-4)

オフィスアワー

木曜日 16:30-17:30

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022531589
開設科目名	語学教授法演習			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	猫田　和明			区分	

授業の概要

平成 23 年度から全面実施される小学校外国語活動に関して、語学教授法（前期）の内容を踏まえ、実践的な技能を育成する。本授業では実際の指導場面の検討や受講生の模擬授業を通して小学校における外国語活動のあり方について議論をし、理解を深める。受講者は模擬授業の担当が必須である。

授業の一般目標

小学校外国語活動のあり方について理解を深め、実践的な技能を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：小学校外国語活動の目的と特徴を理解し、その留意点を説明できる。

思考・判断の観点：小学校外国語活動のあり方について論理的に意見を述べることができる。

関心・意欲の観点：様々な小学校外国語活動に関心をもつ。

態度の観点：他の受講者の意見を尊重し、協調的かつ建設的な議論が行える。

技能・表現の観点：模擬授業に際して、実践に必要な技術・方法を選択・適用できる。

成績評価方法(総合)

授業内における討議への参加度、模擬授業の内容によって評価する。受講者は模擬授業の担当が必須である。

教科書

小学校英語教育の進め方／岡秀夫・金森強：成美堂, 2007

参考書

メッセージ

英語科教育学概論、語学教授法を履修していることが望ましい。この授業は実際の校内研修会とほぼ同じ形式で進めます。模擬授業にきちんと取り組むことはもちろん、研究協議では積極的に発言するようにしてください。

連絡先

nekoda@yamagichi-u.ac.jp　933-5417　研究室（教育 A354）

オフィスアワー

特に設けていません。時間が空いていればいつでも相談にのります。まずはメールください。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022531642
開設科目名	異文化体験実習Ⅰ			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	SHALKOFF　ROBERT JOSEPH			区分	

授業の概要
授業の一般目標
授業の到達目標
成績評価方法(総合)
教科書
参考書
メッセージ
連絡先
オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022531691
開設科目名	異文化体験実習Ⅱ			単位	1 単位
対象学生				学年	～
担当教員	小粥　良			区分	

授業の概要

2 週間程度の海外研修旅行を実施し、異文化を直接体験する。現地の学校、国際機関、史跡などを見学したり、現地の若者と交流したりしながら、訪問国についてさまざまな角度から学ぶ。旅行の前に事前研修を行い、訪問国について学習し、調査し、発表する。また、旅行後に報告書を作成する。

授業の一般目標

外国の文化についての直接的な体験を得る。文化を超えたコミュニケーションの力を実地に身につける。訪問国について、さまざまな知見を得る。

授業の到達目標

知識・理解の観点:訪問国の歴史・文化について理解する。

思考・判断の観点:論理的な発表を行うができる。論理的な報告を書くことができる。

関心・意欲の観点:関心をもって、課題に積極的に取り組むことができる。

態度の観点:規律を守って、団体行動ができる。異文化に対し、敬意ある態度を取ることができる。

技能・表現の観点:発表・報告において、的確な言葉や表現を用いることができる。言葉や文化の違いを乗り越えて、ボディーランゲージやわずかの現地語の知識などを用いて、ある程度のコミュニケーションをとることができる。

成績評価方法(総合)

事前研修での発表と参加度、研修旅行での参加度、事後報告（報告書原稿）を総合的に評価する。事前研修、研修旅行に参加しなければ、受講したとは認められないが、理由次第では事前研修の欠席を認める場合もあるので、相談してください。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

小粥研究室（200-4）

オフィスアワー

木曜日 16:30-17:30

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022551394
開設科目名	教育情報処理論(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	野村　厚志			区分	

授業の概要

情報処理技術者試験の基本情報の問題を取り上げ、情報科学･計算機科学の特にハードウェアに関する基礎的事項について学ぶ。また、それにかかわる実習を行う。

授業の一般目標

情報処理技術者試験の基本情報 (午前) 問題が合格点に達するようになる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:基本情報に関する知識を蓄える。また、情報システムを教育現場に導入する際に必要な基礎的知識を身につける。

成績評価方法(総合)

試験により評価する。なお、情報処理技術者試験合格者は加点するので申し出ること。

教科書

基本情報技術者に向けての情報処理の基礎と演習(ハードウェア編)／小高知宏:近代科学社, 2005

参考書

基本情報技術者に向けての情報処理の基礎と演習(ソフトウェア編)／小高知宏:近代科学社, 2005

メッセージ

実習のために、ノートパソコンが必要です。ノートパソコンが必要な時は、前の回に連絡します。

連絡先

anomura@yamaguchi-u.ac.jp

オフィスアワー

水曜日 13 時～15 時

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555404
開設科目名	計算機アルゴリズム(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	葛　崎偉			区分	

授業の概要

探索やソーティングなどの実例を取り上げ、そのアルゴリズムとソフトウェアの設計について講義し、また計算量およびプログラムの実測時間によるアルゴリズムの能率確認の実習も行う。

授業の一般目標

計算機処理に必要なアルゴリズム、データ構造、計算量についての基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、レポート、試験などによる総合評価 = 100%

教科書

アルゴリズム論／浅野, 和田, 増澤: オーム社, 2003

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555419
開設科目名	音響構成概論(実習を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池上　敏			区分	

授業の概要

コンピュータソフトを用いての初歩的な作曲について様々な観点から講義します。リズム、旋律、和声、対位法、音楽形式などの学習と、音楽ソフトの操作が主な学習内容となります。様々な形式の楽曲、様々な手法の作曲を作品として定着すること。

授業の一般目標

初歩的なものから始めて、様々な形式、様々な手法の作曲がコンピュータ上で、音楽ソフトによって実現できる能力の獲得を目標とします。

授業の到達目標

知識・理解の観点: 作曲法の基本的な知識と理解、コンピュータ音楽ソフトの操作の知識の獲得。

思考・判断の観点: 音楽ソフトの操作に対する判断力、及び実現したい内容はどうすれば実現できるか、という思考力の育成。

関心・意欲の観点: 作曲に対する関心と、積極的に音楽ソフトで作曲してみよう、という意欲の持続。

態度の観点: 音楽ソフトで作曲をしてみよう、というと態度の保持、育成。

技能・表現の観点: 作曲についての様々な技能の育成、と音楽ソフトを用いての表現の練磨。

成績評価方法(総合)

音楽ソフトによって自分で作曲した楽曲（これをレポートとする、複数）と受講態度、授業への参加度などを総合的に評価。

教科書

参考書

メッセージ

音楽ソフトによって作曲は誰にでもできるものになったように思われます。音楽もこれからの時代、重要な発信情報の一つになるでしょう。この際、自分のオリジナルの楽曲を作れる能力を獲得しよう。作曲できることは素晴らしいことだろうし、これからの人生が豊かになるかもッ！です。

連絡先

音楽棟１０９研究室

オフィスアワー

新年度に時間割が決定後に通知します。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555422
開設科目名	情報電子回路			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	古賀　和利			区分	

授業の概要

コンピューターを構成する電子回路の中の組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計法や解析法を2値のブール代数を計算手段として解説する。カルノーマップやクワインマクラスキー法による回路の簡略化の方法についても説明する。

授業の一般目標

組み合わせ論理回路とよばれる回路の設計と解析法を理解するとともに、コンピューター内のハードウエアへの関心を高め、コンピューター動作への理解を深める。

授業の到達目標

知識・理解の観点:1. 2 値のブール代数演算を習得する

2. ブール関数と真理値表の関係を理解する

3. カルノーマップ、クワインマクラスキー法による簡略化法を理解する

4. ゲートによる回路図とブール関数の関係を理解する

思考・判断の観点:1. 与えられた問題から真理値表を作成する能力を習得する

2. 論理表現で解決可能な問題にブール代数的解法を利用する能力を習得する

成績評価方法(総合)

試験とレポートによる

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555464
開設科目名	データ検索･処理法			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	田邊　敏明			区分	

授業の概要

まずはパソコンの基本的な使い方に慣れ、次にデータの特徴を把握した上で、その入力の仕方を学び、さらには表計算ソフトや統計ソフトを使った統計分析の方法を学んでいく。特に Excel によるデータ入力と下位計算、そしてそのデータを応用した形での SPSS による多変量解析、さらには最近 Web 用になった ANOVA4 を用いての分散分析を、実際のデータを用いて演習する。さらにはそれらの結果のグラフでの表し方や、プレゼンテーションの方法、最後には Web 上での公開の仕方まで学んでいく。

授業の一般目標

パソコンの使い方に慣れ、そしてエクセルを使ったデータの扱い方、特に csv ファイルの扱い方に慣れること、そしてそれを基に SPSS の多変量解析や Web 上での ANOVA4 による分散分析の仕方を修得していく。後は、その結果の扱いを柔軟にこなせるまでになりたい。

授業の到達目標

知識･理解の観点: パソコンに対する基本的な知識、イメージを獲得し、ファイルの扱い方に慣れること。特にデータの種類、中でもテキストファイル(csv ファイル）の扱いになれるようにしたい。また統計ソフトを使いこなせるために、データ入力から統計解析、そして結果の考察という一連の流れをつかみたい。

思考･判断の観点: データを生かすためにどのような工夫が必要かを自ら判断していく。

関心･意欲の観点: パソコンを自ら触ることによって、新たな使い方を修得したい。

態度の観点: パソコンにたくさん触ることが基本であり、授業外でもどのくらいパソコンに向かうかを評価したい。

技能･表現の観点: 統計解析だけでなく、プレゼンテーションまで含めた総合的な評価をしたい。

成績評価方法(総合)

データを処理した結果は、提出を義務づける。その他、統計計算による結果の解釈、さらに研究成果のプレゼンテーション作成の課題がある。（結果はフロッピで提出するか、メールの添付機能で送付する）さらに授業態度や出席も加えて総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

現在あるいは将来、心理的なデータを処理する必要のある学生を対象とします。

連絡先

E-mail ttanabe@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372

オフィスアワー

火曜日 18:00～19:00

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555479
開設科目名	情報処理言語Ⅰ(実習を含む。)			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	中田　充			区分	

授業の概要

最も一般的なプログラミング言語であるC言語を学習する. 文法, 変数, 関数等の基礎知識を学習した後, 実際にプログラミングを行い, ソフトウェア作成の基本的技術を習得する.

授業の一般目標

プログラミングの基礎知識を習得し, 簡単なプログラムが作成できる.

授業の到達目標

知識・理解の観点: プログラミングに関する基礎知識が理解できているか？

関心・意欲の観点: 自ら, 新しい課題に取り組もうとしているか？

態度の観点: 出席し, レポートを提出しているか？

成績評価方法(総合)

出席1割, レポート1割, 試験8割

試験はペーパー試験と実技試験の2つを課す.

教科書

C言語スタートブック 改訂第3版／髙田美紀:技術評論社, 2008

参考書

メッセージ

質問がある場合は, メールにてアポイントを取ってから, 研究室まで来て下さい.

連絡先

オフィスアワー

無し.

開設学期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555533
開設科目名	教育情報システム論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	鷹岡　亮			区分	

授業の概要

本講義では、教育工学の授業設計(Instructional Design)の概念と方法論を学びます。
そして、その方法論を利用して ICT リテラシーを身につけるプログラムを設計･開発しま
す。その際、教育情報工学的な手法を利用して教材を開発します。

授業の一般目標

教育工学に関連する知識･概念や方法論を理解し、活用することができること。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

授業内レポートや課題、授業態度･授業への参加度、発表、出席等を総合的に評価する。

教科書

教材作成マニュアル／鈴木克明,:北大路書房, 2002

参考書

メッセージ

基本的に, 皆さんが主体的に作業し、頭を働かし、行動しなければならない
授業です。また、授業の連絡等は、下記の授業 HP に提示します。
http://www.cai.edu.yamaguchi-u.ac.jp/~ryo/Lecture/09ET2

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555570
開設科目名	グラフ・ネットワーク論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	葛　崎偉			区分	

授業の概要

グラフの基本定義、性質から、通信ネットワークにおける経路決定問題とそのアルゴリズムまで講義する。

授業の一般目標

グラフ・ネットワークの理論、またそれに基づいたネットワーク問題のモデル化とその解決のためのアルゴリズムの設計についての基礎的知識を習得することを目標とする。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

出席、レポートおよび試験で評価する

教科書

グラフ理論入門／R.J.Wilson,訳者:西関:近代科学社, 2001

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555578
開設科目名	情報法学概論			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	松原　幸恵			区分	

授業の概要

現代日本における法的問題を、特に情報化社会の観点から考察する。

授業の一般目標

今日の情報化社会における様々な問題を法学的思考によって捉える力を身につける。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

試験を主体に、授業中の小レポートや出席状況を加味して総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設学期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555634
開設科目名	視覚伝達デザイン			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	福田　隆眞			区分	

授業の概要

写真を利用したデザインを行う。

授業の一般目標

効果的な写真が撮影出来る。写真を使ったプレゼンテーションが出来る。

授業の到達目標

知識・理解の観点：視覚言語について説明出来る。

思考・判断の観点：視覚言語に基づいた写真表現が出来る。

関心・意欲の観点：たくさん写真を撮影する。

技能・表現の観点：効果的な写真、意図的な写真、個性的な写真を撮影出来る。

成績評価方法(総合)

予備作品と全体作品による評価

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022555699
開設科目名	情報化社会概論(情報倫理を含む。)			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	林　泰子			区分	

授業の概要

情報社会において情報の持つ特性を理解し、社会や教育上での情報に関する多様な問題を通して、情報倫理（情報モラル）の重要性を考える。また、情報倫理を法的、技術的観点に加えて、道徳的な観点からも捉えて考察し、情報社会での問題事象に対して活用し実践できる能力を培う。

授業の一般目標

情報が氾濫する社会で、情報の本質を見極める力を養う。そのうえで、情報社会人として必要な情報倫理の知識と実践する態度を習得し、社会で活用できる能力を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

知識・理解の観点:情報社会の仕組みや情報の特性を理解し、その中で情報倫理についての知識を習得し理解することができる。

思考・判断の観点:情報社会の中で、情報の本質を見極め、問題事象の対処について法的、技術的、道徳的観点から考察し判断することができる。

関心・意欲の観点:習得した知識や思考を、情報社会人として主体的に活用できる。

態度の観点:情報倫理（情報モラル）について主体的な考え方を提案し、実践することができる。

技能・表現の観点:問題事象や課題に対して、自らの考えや意見を積極的に述べることができる。

成績評価方法(総合)

出欠、授業内提出物、課題レポート、プレゼン、授業参加などを総合して評価する。

教科書

「コミュニケーション実践学」／林徳治・沖裕貴：ぎょうせい，2007

参考書

メッセージ

本講義は集中講義で実施します。講義のみではなくグループ活動による演習も取り入れ、情報社会における問題点をグループで考察・解決していきます。

連絡先

オフィスアワー

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022561712
開設科目名	子ども理解演習			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	田中　理絵			区分	

授業の概要

小学校教育における今日的課題（学習指導要領の読み方、国際理解教育、キャリア教育、安全学習等）の背景・現状などに関する知識を習得するとともに、小学校教員として必要な態度、子ども研究のために必要な方法・視点も理解する。

授業の一般目標

(1)小学校教育における今日的課題に関する知識・理解を深める。

(2)子ども研究に必要な方法・態度の習得。

授業の到達目標

知識・理解の観点：①小学校教育における今日的課題に関する知識・理解の取得。

思考・判断の観点：②これまで抱いていた「常識」から脱し、客観的に分析する視点の習得。

関心・意欲の観点：①小学校教育に対する関心・意欲の涵養。

態度の観点：①「教わる側」から「教える側」への態度のシフト。

成績評価方法(総合)

本演習では、複数の教員によって、多角的領域における問題を取り扱う。そのため各教員の出す課題について総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

小学校教育における今日的課題を学ぶことを通して、教員として必要な知識・態度を取得することを目的とした、大学 4 年間の学びの基礎となる演習の1つです。「自分が教員となったら」という視点から、問題を考えていきましょう。

連絡先

田中理絵、教育社会学研究室（ta-na@yamaguchi-u.ac.jp）。ただし、複数教員で行うので、失礼のないように各自で連絡を取ること。

オフィスアワー

各自で連絡を取りたい教員に対してアポイントを取ること。

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	1022561713
開設科目名	学習コミュニケーション演習			単位	
対象学生				学年	～
担当教員	源田　智子			区分	

授業の概要

授業を通して以下の4点について学ぶ。(1)コミュニケーションを基盤とした開かれた学校づくり、(2)コミュニケーションの活性化を図る学級つくり、(3)子どものコミュニケーション能力の向上を図る学習指導、(4)こどもたちのコミュニケーション能力を高める教育方法の理解・修得。このための実践活動としてフォーラムや学校参観を行なう。

授業の一般目標

・子ども理解、コミュニケーションの在り方、学習指導の在り方などについて学ぶ必要を知り、小学校教員として必要な資質、授業力を身につける出発点とする。

・小学校教員として子どもとのコミュニケーションを円滑に図り授業を価値あるものにするために、分析力や説明力などの能力を高め、学習指導技術を身につける。

授業の到達目標

知識・理解の観点：1.学習指導において,子ども理解やコミュニケーション能力の向上が重要であることを理解することができる。

2.コミュニケーションの活性化と円滑な学級・学校づくりを関係づけることができる。

3.学校評価と開かれた学校づくりの関連を理解することができる。

思考・判断の観点：1.フォーラムや協力校での授業参観を通して、子どもも含めた他者とのコミュニケーションの重要性に気づくことができる。

2.学校・学級における教員の学習指導の在り方や子ども支援の役割について深く観察し、小学校教員の資質や学習指導に必要な授業力について理解し、説明することができる。

関心・意欲の観点：1.授業参観において学習指導の在り方や子どもたちへの支援の仕方、学級や学校での教員の役割について積極的に学び、自らの教員としての資質向上に寄与できるようになる。

2.評価や学級・学校づくりの現状について積極的に学び、小学校教員としての役割を自ら見つけることができるようになる。

態度の観点：1.フォーラムや講義には課題意識（例えば子ども理解・コミュニケーションの在り方、学習指導の在り方など）をもって参加し、自ら課題解決に取り組む態度を持つことができる。

2.協力校で積極的に学級づくりや学校づくりに対する実践を学び、指導教員や学生間での意見交換に積極的に参加できる。

技能・表現の観点：1.学習指導を円滑に進められる子どもとのコミュニケーション能力を付けることができる。

2.子どもの現状と課題や、地域教育が抱える現状と課題について分析し、他者に説明する能力をつけることができる。

成績評価方法(総合)

1.フォーラムで話し合われたことの内容をまとめ、地域学習に臨むにあたっての課題点などをレポートにする。

2.授業参観は本時案を検討し、実践を観察した上で協力教員の助言を参考に指導案を作成する。

3.授業を通して理解できたことを学生間で意見交換するためにプレゼンテーションを行なう。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001714
開設科目名	事前･事後指導			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

幼稚園･小学校･中学校･高等学校での教育実習について、教育実習の目標の達成を確かなものとするために教育実習前、教育実習後に行う指導である。主な内容は次の通り。

事前指導:授業の参観、附属養護学校における障害児教育への参加、教育実習の意義･概要･　　指導方法についての講義、レポート作成

事後指導:教育実習に関する発表やレポート

授業の一般目標

1 教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につける。(事前指導)

2 教育実習を総括して、指導力の向上を図る。大学での学習と教育実習で得られた経験とを有機的に結合させ、新しい視点や課題を得る。(事後指導)

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

参加状況、態度　レポート等で総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001715
開設科目名	教育実習(初等) Ⅰ			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

幼稚園教諭免許･小学校教諭免許のための教育実習を幼稚園･小学校において行う。

幼稚園教諭免許･小学校教諭免許を主たる免許とする場合の教育実習である。

授業の一般目標

1教育の理論と実践との一体化をはかる。

2教育活動全般にわたる認識を深める。

3児童に対する理解を深める。

4教育技術を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001716
開設科目名	教育実習(初等)Ⅱ			単位	2 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

幼稚園教諭免許･小学校教諭免許のための教育実習を幼稚園･小学校において行う。

幼稚園教諭免許･小学校教諭免許以外の免許を主たる免許とする場合の教育実習、及び、幼稚園教諭免許を主たる免許とする場合の公立幼稚園における教育実習がこれに当たる。

授業の一般目標

1教育の理論と実践との一体化をはかる。

2教育活動全般にわたる認識を深める。

3児童に対する理解を深める。

4教育技術を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001717
開設科目名	教育実習(中)			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

中学校教諭免許･高等学校教諭免許のための教育実習を中学校において行う。中学校教諭免許を主たる免許とする場合の教育実習である。

授業の一般目標

1教育の理論と実践との一体化をはかる。

2教育活動全般にわたる認識を深める。

3生徒に対する理解を深める。

4教育技術を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001718
開設科目名	教育実習(高)			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

中学校教諭免許･高等学校教諭免許に必要な教育実習を、中学校･高等学校において行う。高等学校教諭免許のみを取得する場合、幼稚園教諭免許･小学校教諭免許を主たる免許とし、あわせて、中学校教諭免許･高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習である。

授業の一般目標

1教育の理論と実践との一体化をはかる。
2教育活動全般にわたる認識を深める。
3生徒に対する理解を深める。
4教育技術を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001719
開設科目名	介護等体験実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

養護学校及び社会福祉関係の諸施設において、合わせて7日間、介護等の体験を行う。

授業の一般目標

個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

優･良･可･不可による評価は行わず、所定の実習を完了した（レポートの提出も含む）ことをもって、単位の認定のみを行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001727
開設科目名	卒業研究			単位	5 単位
対象学生				学年	～
担当教員				区分	

授業の概要

各自の研究課題に応じた指導、支援を行う。

各自の設定したテーマについて、必要な調査や活動を行ない、その成果を論文、作品、教材、発表等の形でまとめる。論文執筆、作品制作、教材開発、発表等を通して、テーマについての理解を深めるとともに、問題解決の方法、調査結果のまとめ方、発表の仕方を修得する。

授業の一般目標

各自の研究課題を達成すること。設定されたテーマについて、必要な文献調査、問題点の把握、実験法の検討、実験の実施およびその結果の検討と考察、発表や制作の仕方、論文の書き方を修得する。

授業の到達目標

知識・理解の観点：各自の研究テーマについての社会的な意味やこれまでの先行研究の概要・問題点を指摘できる。

思考・判断の観点：各自の研究テーマについて、自らの考えを論理的に展開することができる。

関心・意欲の観点：研究テーマに関わる諸問題について、広く関心をもち、主体的に考えることができる。

態度の観点：ゼミに参加し、内容を理解し、積極的に討議を行うことができる。

技能・表現の観点：研究に必要な器具や道具を適切に扱うことができる。論述、制作、発表をとおして、その技能を高め、自分の考えを豊かに表現し、的確に他者に伝えることができる。

成績評価方法(総合)

研究課題に対する取り組みとその成果、さらにその表現の適切性、新奇性、独創性、技術的側面の的確性などを総合的に評価する。

教科書

参考書

メッセージ

研究テーマについては、事前に担当教員に相談すること

連絡先

各指導教員

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001732
開設科目名	教育実習(高)			単位	2 単位
対象学生	オプション			学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

中学校教諭免許･高等学校教諭免許に必要な教育実習を、中学校･高等学校において行う。高等学校教諭免許のみを取得する場合、幼稚園教諭免許･小学校教諭免許を主たる免許とし、あわせて、中学校教諭免許･高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習である。

授業の一般目標

1教育の理論と実践との一体化をはかる。

2教育活動全般にわたる認識を深める。

3生徒に対する理解を深める。

4教育技術を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001970
開設科目名	事前･事後指導			単位	1単位
対象学生	〔人･経･理･工･農〕			学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

3年次から始まる教育実習のための事前指導と、実習終了後にそれぞれが体験してきた教育実習について指導を行う。

授業の一般目標

教育実習を受けるための基礎的な留意事項や心構えを理解し、教員としての資質向上をはかる。

授業の到達目標

知識･理解の観点:教育実習の仕組み･技能･心構えを習得している

思考･判断の観点:教育実習で体験した課題を解決することができる

関心･意欲の観点:向上心を持って意欲的に実習に取り組む

態度の観点:自分勝手な行動をせずにまじめに実習に取り組む

技能･表現の観点:レポートや発表によって、教育実習の課題について説明できる

成績評価方法(総合)

与えられた課題についてのレポートや意欲や態度によって評価する

教科書

教育実習の手引き／山口大学教育学部:山口大学教育学部

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001971
開設科目名	教育実習(中)			単位	2単位
対象学生	〔人・理〕			学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための教育実習を中学校において行う。中学校教諭免許を主たる免許とする場合の教育実習である。

授業の一般目標

1教育の理論と実践との一体化をはかる。

2教育活動全般にわたる認識を深める。

3生徒に対する理解を深める。

4教育技術を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024001972
開設科目名	教育実習(高)			単位	2単位
対象学生	〔人･経･理･工･農〕			学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

中学校教諭免許･高等学校教諭免許に必要な教育実習を、中学校･高等学校において行う。高等学校教諭免許のみを取得する場合、幼稚園教諭免許･小学校教諭免許を主たる免許とし、あわせて、中学校教諭免許･高等学校教諭免許を取得する場合の教育実習である。

授業の一般目標

1教育の理論と実践との一体化をはかる。

2教育活動全般にわたる認識を深める。

3生徒に対する理解を深める。

4教育技術を修得する。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024521733
開設科目名	障害児教育実習			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

特別支援学校教員普通免許状（養護学校教員普通免許状）取得のための教育実習を、附属特別支援学校（県立総合支援学校）において行う。教育実習についての事前・事後指導も含む。

授業の一般目標

正しい教育観と障害観に立ち、児童生徒の障害の実態（行動特徴や心理特性など）に応じた教育の実践ができるようになる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績、及び事前・事後指導の出席状況・レポートの成績を合わせて評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	1024521734
開設科目名	障害児教育実習(副免)			単位	3 単位
対象学生				学年	～
担当教員	池田　幸夫			区分	

授業の概要

特別支援学校教員普通免許状（養護学校教員普通免許状）取得のための教育実習を、附属特別支援学校（県立総合支援学校）において行う。教育実習についての事前・事後指導も含む。

授業の一般目標

正しい教育観と障害観に立ち、児童生徒の障害の実態（行動特徴や心理特性など）に応じた教育の実践ができるようになる。

授業の到達目標

成績評価方法(総合)

育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績、及び事前・事後指導の出席状況・レポートの成績を合わせて評価を行う。

教科書

参考書

メッセージ

連絡先

オフィスアワー